

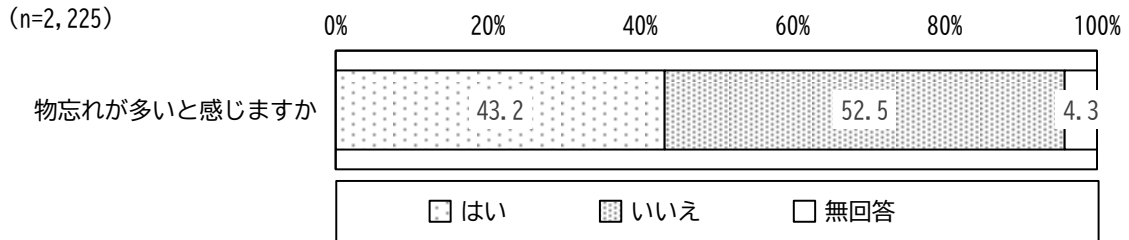
問4 毎日の生活について

1) 認知機能の状況

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか

【全体】 認知機能の低下_リスク判定設問

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が43.2%、「いいえ」が52.5%となっています。



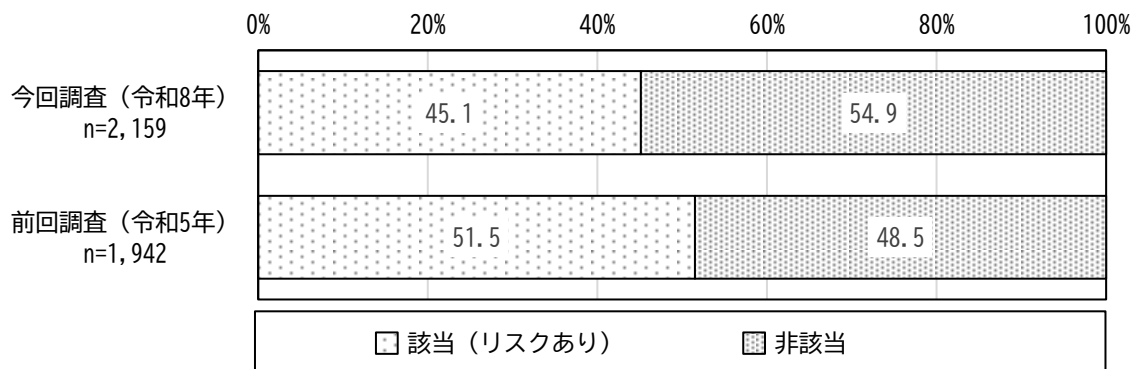
認知機能の低下_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

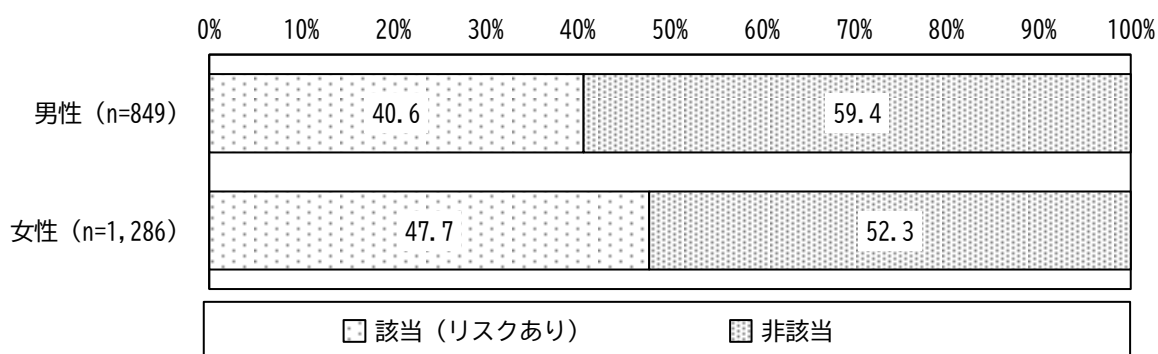
【全体】

『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は45.1%で、前回調査に比べて6.4ポイント減少しています。



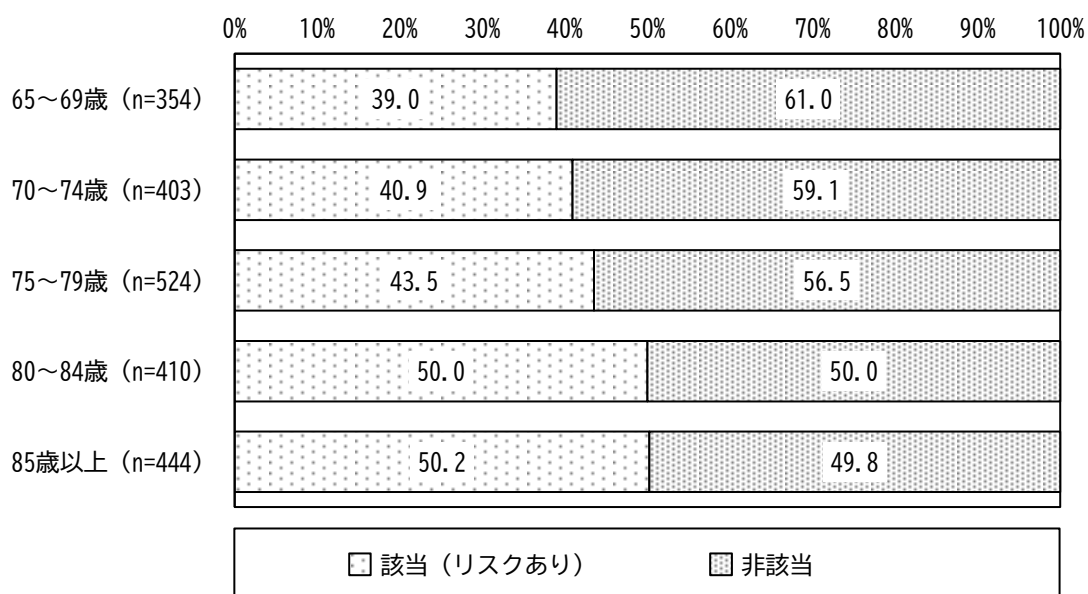
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で47.7%と、男性より7.1ポイント多くなっています。



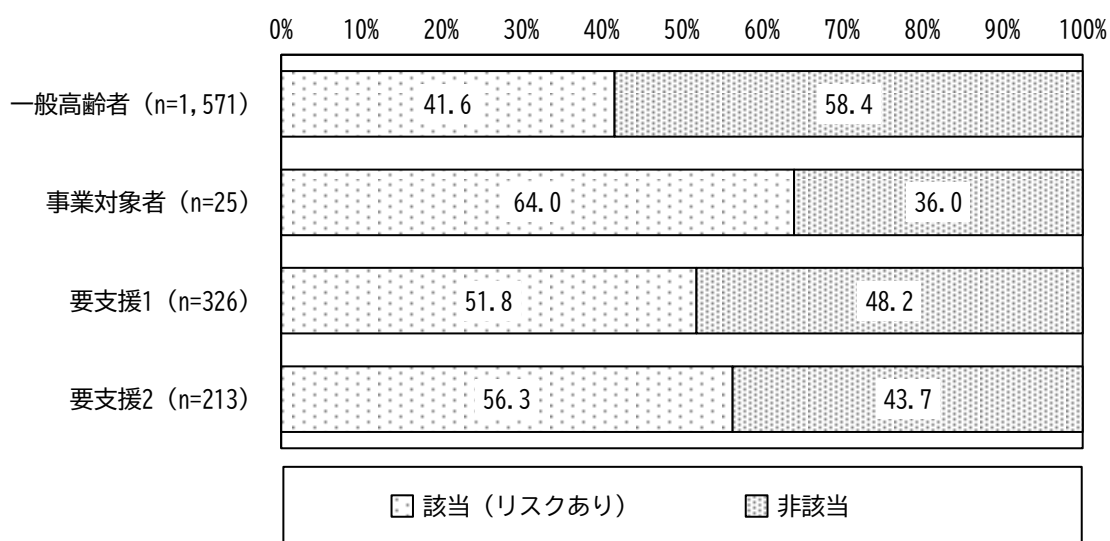
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は84歳までは年代が上がるほど多くなる傾向がみられ、80～84歳、85歳以上ではともに半数程度となっています。



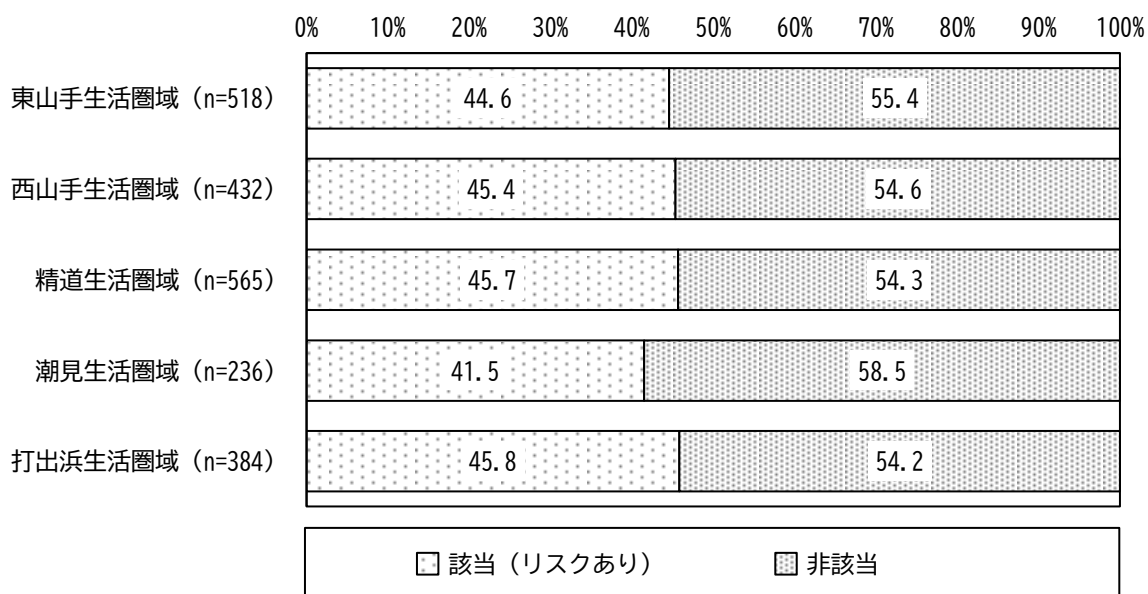
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援者と一般高齢者と10ポイント以上の差があります。また、事業対象者で該当者（リスクあり）が64.0%と多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、潮見生活圏域で41.5%とわずかに多くなっています。



2) 手段的日常生活動作の状況

問4 (2) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (1つに○)

問4 (3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (1つに○)

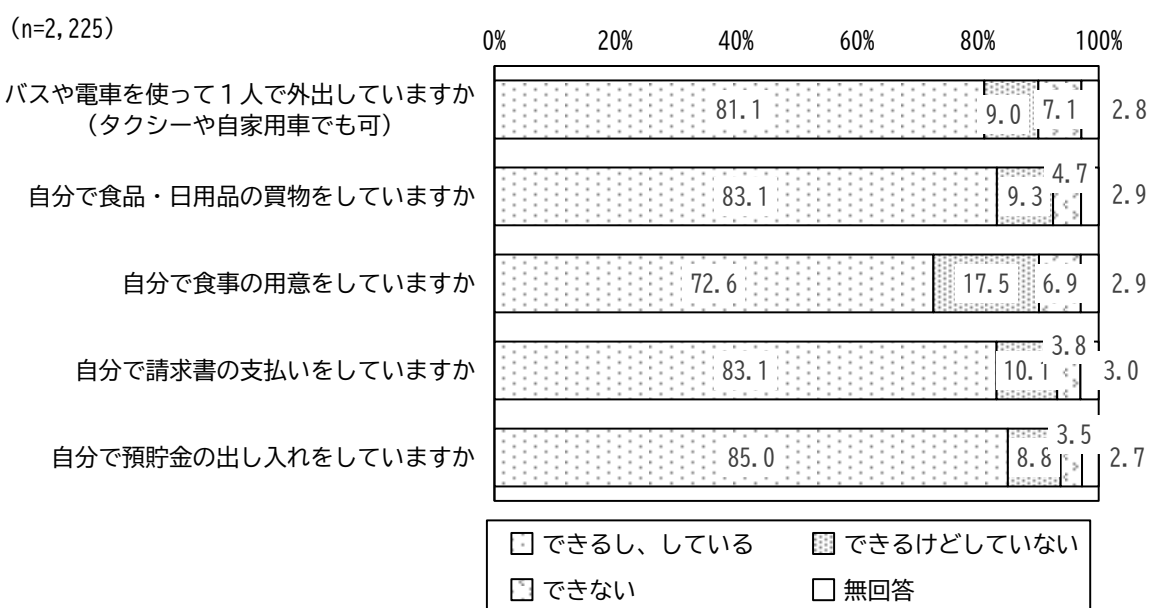
問4 (4) 自分で食事の用意をしていますか (1つに○)

問4 (5) 自分で請求書の支払いをしていますか (1つに○)

問4 (6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (1つに○)

【全体】手段的自立度 (IADL) 評価設問

「自分で食事の用意をしていますか」で、「できるけどしていない」「できない」の合計がやや多くなっています。



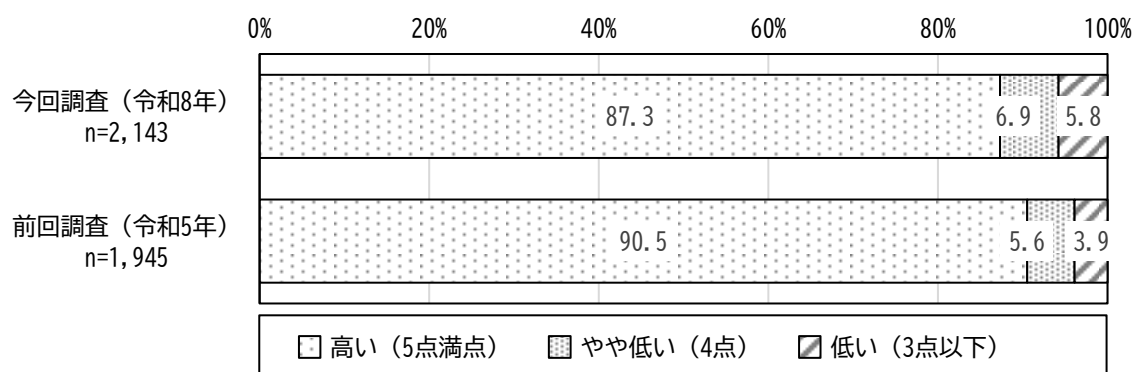
手段的自立度 (IADL) 評価結果

【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(2) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(4) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(5) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)
	(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している (1点) 2. できるけどしていない (1点)

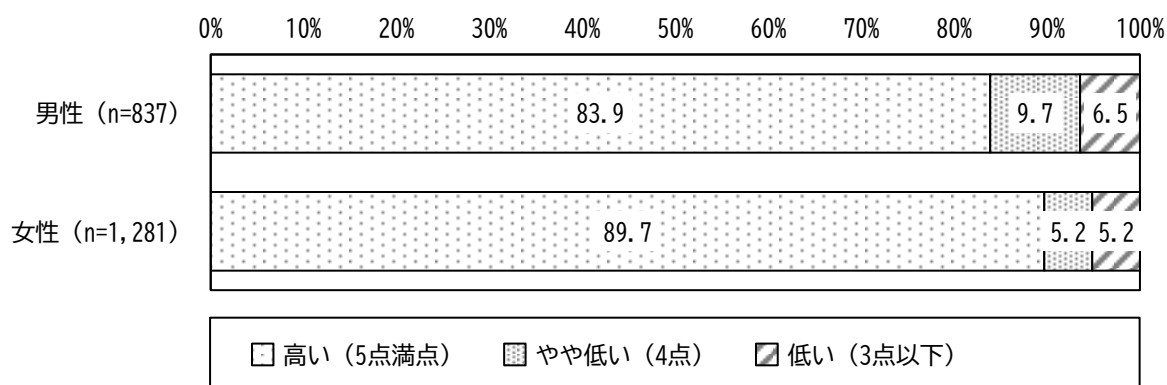
【全体】

『手段的自立度（IADL）』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は12.7%で、前回調査に比べて3.2ポイント多くなっています。



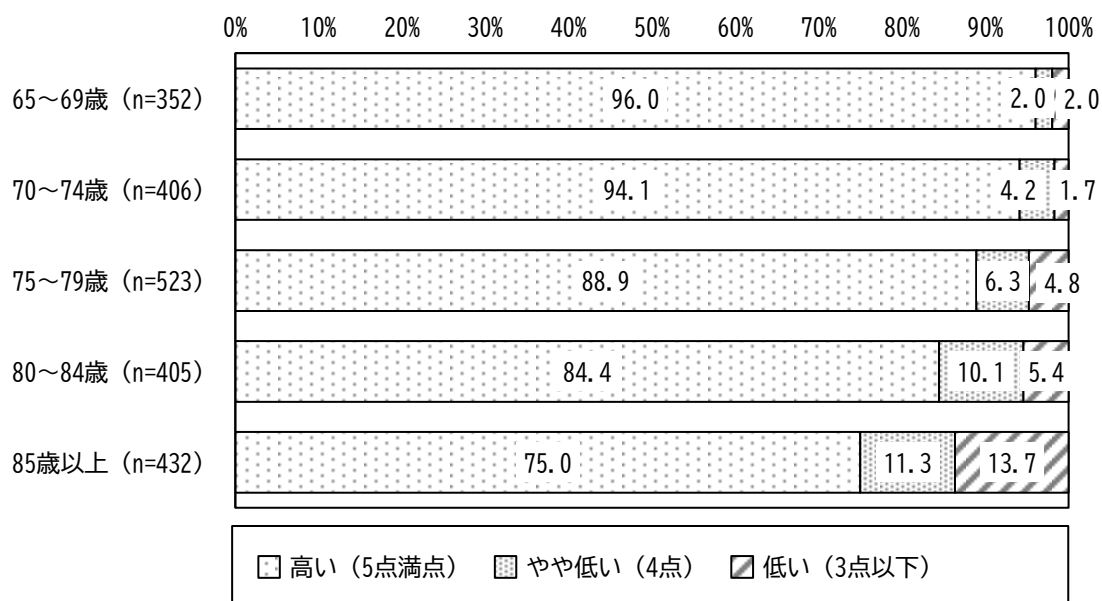
【性別】

性別にみると、低下者は女性で10.4%と、男性より5.8ポイント少なくなっています。



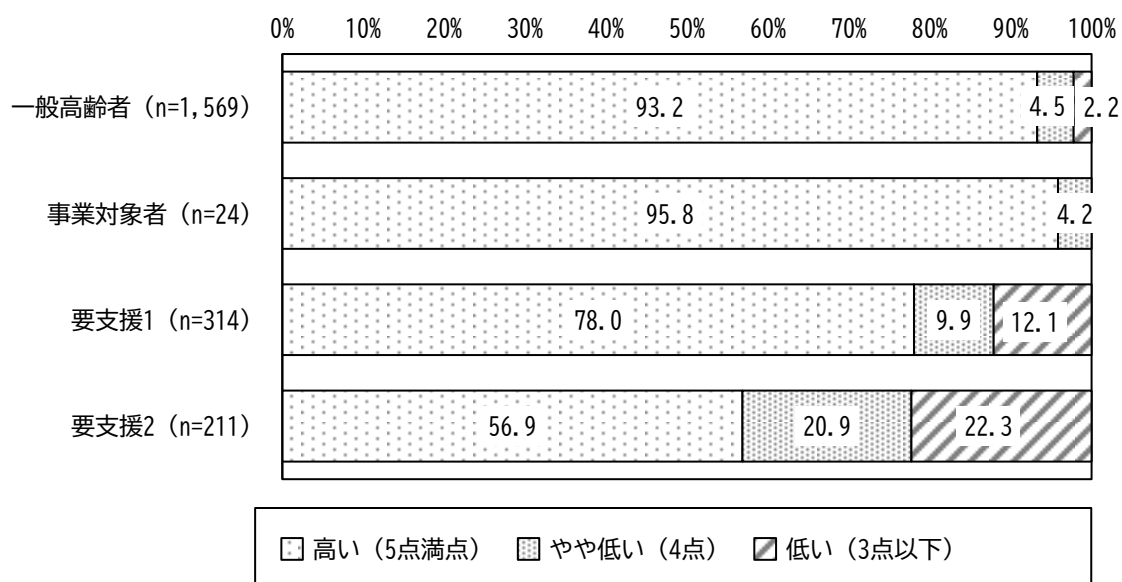
【年齢別】

年齢別にみると、低下者は年代が上がるほど多くなっており、85歳以上では25.0%となっています。



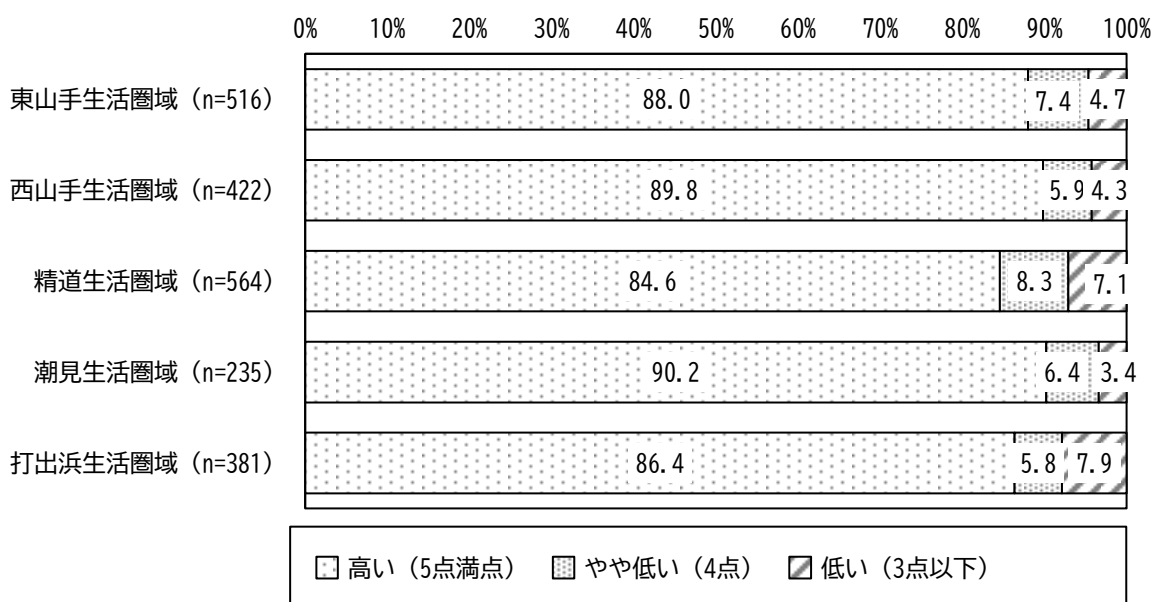
【認定状況別】

認定状況別にみると、低下者は要支援2で大きく増加し43.2%となっており、一般高齢者と36.5ポイントの差があります。



【居住地域別】

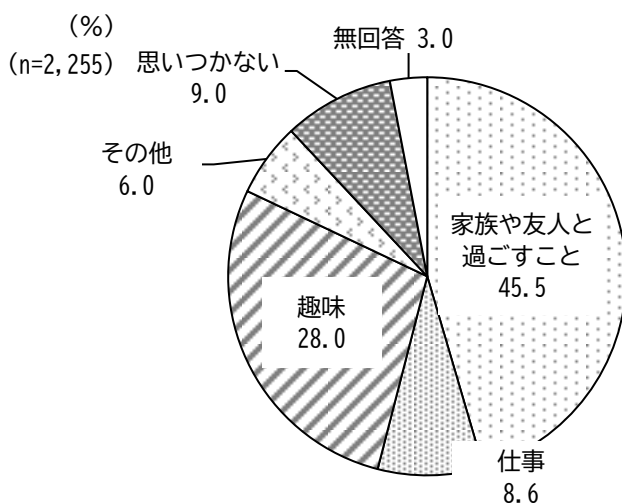
居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、精道生活圏域で 15.4%とわずかに多くなっています。



問4 (7) 生きがい (あるいは、日々の楽しみなど) はありますか (主なもの1つに○)

【全体】

生きがい (あるいは、日々の楽しみなど) があるかについては、「家族や友人と過ごすこと」が 45.5%と最も多く、次いで、「趣味」が 28.0%、「思いつかない」が 9.0%、「仕事」が 8.6%となっています。



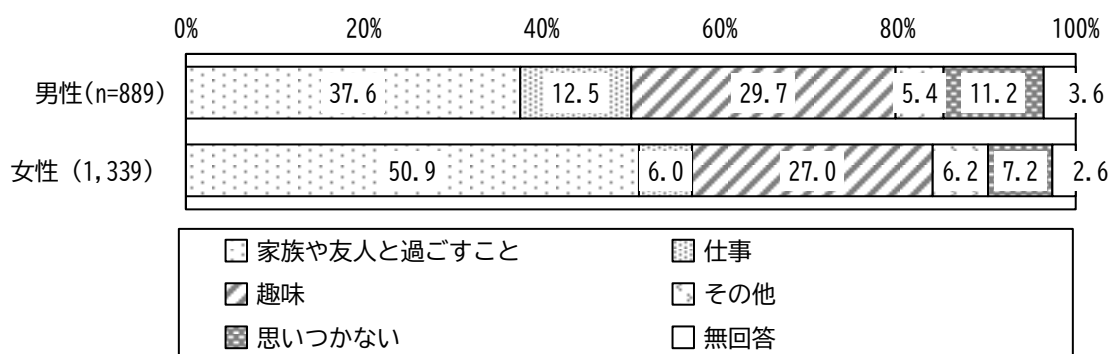
◇生きがい（あるいは、日々の楽しみなど） 「その他」の主な回答

内 容		
テレビ	ボランティア・地域活動など	散歩・運動
読書	家事・料理・買い物	旅行・外出・外食
ペットと過ごすこと	デイサービス・デイケア	

など

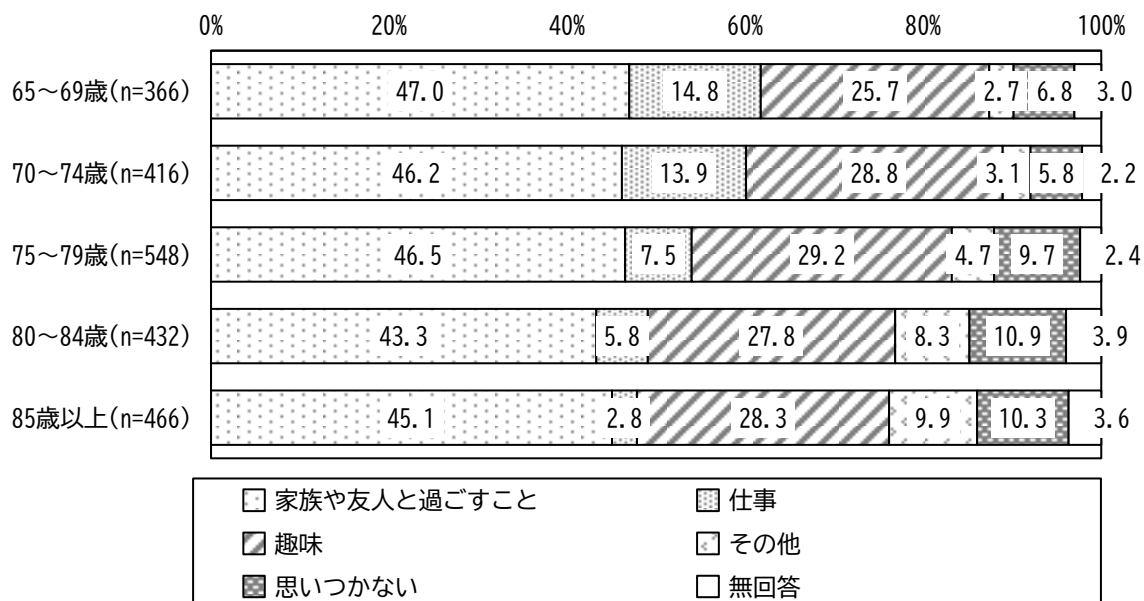
【性別】

性別にみると、女性の方が「家族や友人と過ごすこと」が13.3ポイント多くなっています。



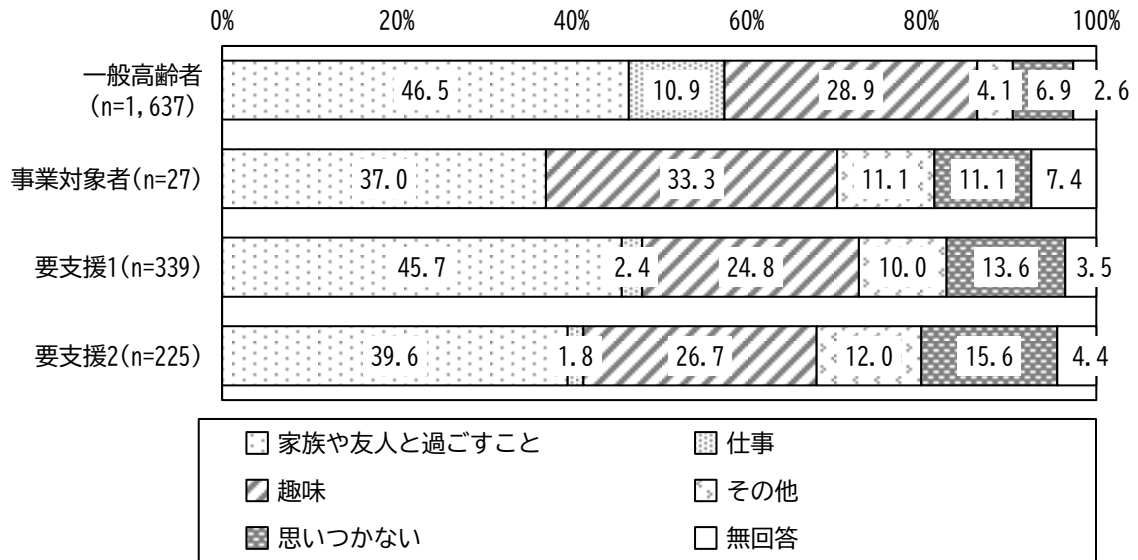
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「仕事」の割合が減少しています。また、75歳以上では「思いつかない」が1割前後となっています。



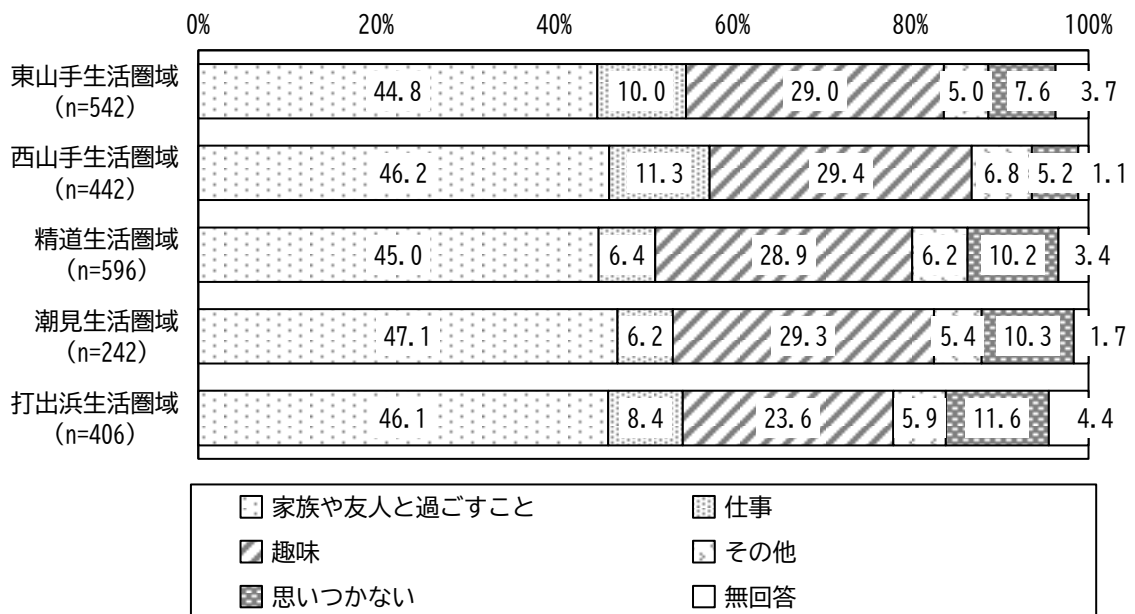
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では、「思いつかない」の割合が1割を超えています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、精道生活圏域、潮見生活圏域、打出浜生活圏域では、「思いつかない」の割合が1割を超えています。

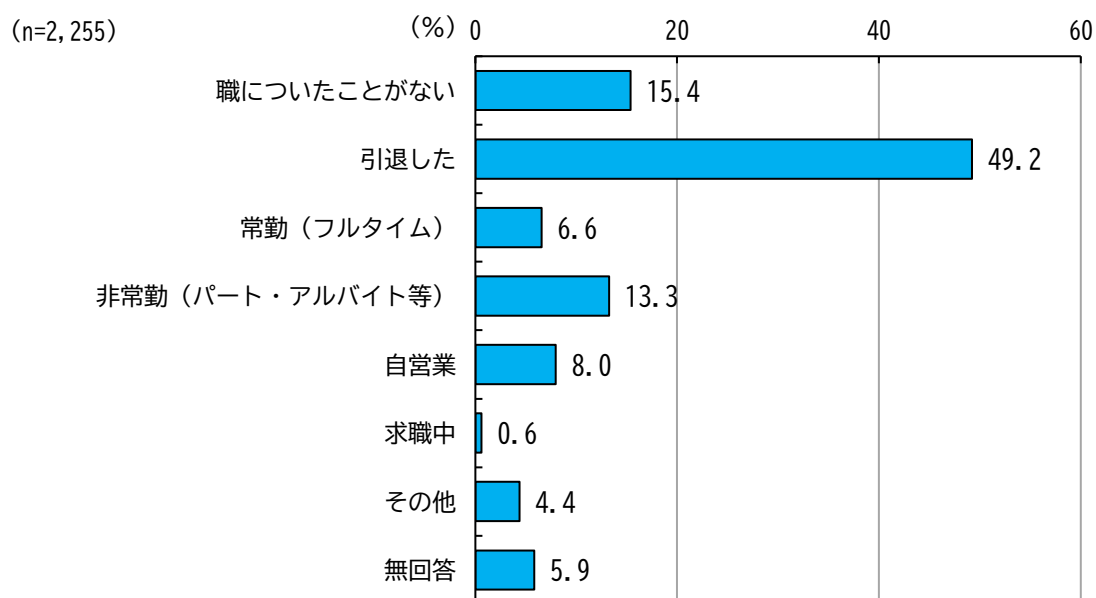


3) 就労状況

問4 (8) あなたの現在の就労状態はどれですか (〇はいくつでも)

【全体】

現在の就労状態については、「引退した」が49.2%と最も多く、次いで、「職についたことがない」が15.4%、「非常勤（パート・アルバイト等）」が13.3%となっています。



【性別】

性別にみると、男性では「常勤（フルタイム）」が10.2ポイント多くなっています。女性では「食についたことない」が19.4ポイント多くなっています。

		n	職についたことがない	引退した	常勤 (フルタイム)	非常勤 (パート・アルバイト等)	自営業	求職中	その他	無回答
全体		2255	15.4	49.2	6.6	13.3	8.0	0.6	4.4	5.9
性別	男性	889	3.7	54.3	12.7	14.3	10.9	0.8	2.8	3.9
	女性	1339	23.1	45.9	2.5	12.7	6.0	0.5	5.5	6.9

【年齢別】

年齢別にみると、75歳以上では「引退した」の割合が5割を超えています。一方、65～69歳では「常勤（フルタイム）」が19.9%、65～74歳では「非常勤（パート・アルバイト等）」が2割を超えています。また、年齢が上がるほど、「職についたことがない」が多くなっています。

		n	職についたことがない	引退した	常勤（フルタイム）	非常勤（パート・アルバイト等）	自営業	求職中	その他	無回答
全体		2255	15.4	49.2	6.6	13.3	8.0	0.6	4.4	5.9
年齢	65～69歳	366	4.4	34.2	19.9	26.2	9.8	1.4	4.6	3.6
	70～74歳	416	8.9	47.1	7.5	23.6	10.1	1.4	2.4	2.9
	75～79歳	548	14.6	52.4	4.4	12.4	9.5	0.2	5.1	4.2
	80～84歳	432	18.8	56.7	3.2	4.6	7.2	0.5	5.3	6.5
	85歳以上	466	27.5	52.4	1.1	3.2	3.6	0.0	4.3	11.2

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では、「職についたことがない」の割合が2割を超えています。また、一般高齢者では、「非常勤（パート・アルバイト等）」が16.9%となっています。

		n	職についたことがない	引退した	常勤（フルタイム）	非常勤（パート・アルバイト等）	自営業	求職中	その他	無回答
全体		2255	15.4	49.2	6.6	13.3	8.0	0.6	4.4	5.9
認定状況	一般高齢者	1637	12.3	47.4	8.4	16.9	9.8	0.7	3.8	4.2
	事業対象者	27	11.1	59.3	3.7	0.0	11.1	0.0	3.7	14.8
	要支援1	339	25.4	51.9	1.8	4.1	2.1	0.9	6.5	10.3
	要支援2	225	23.1	57.3	1.3	2.7	3.1	0.0	5.3	9.3

【居住地域別】

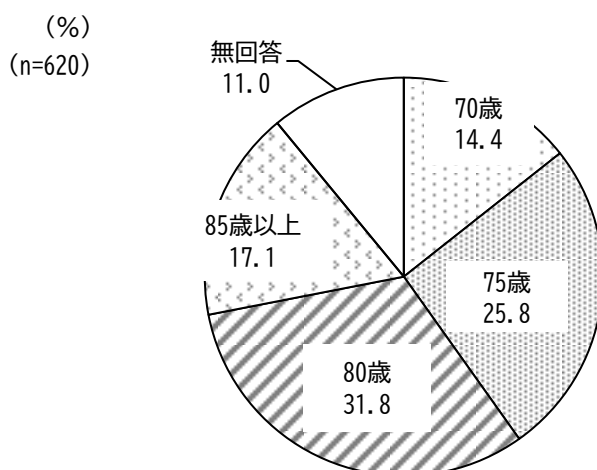
居住地域別にみると、西山手生活圏域では、「自営業」が12.7%で、他の生活圏域と比べてやや多くなっています。

		n	職についたことがない	引退した	常勤（フルタイム）	非常勤（パート・アルバイト等）	自営業	求職中	その他	無回答
全体		2255	15.4	49.2	6.6	13.3	8.0	0.6	4.4	5.9
圏域	東山手生活圏域	542	17.7	43.9	8.3	13.7	9.4	0.6	5.4	5.7
	西山手生活圏域	442	17.9	45.7	8.1	13.1	12.7	0.7	2.9	3.2
	精道生活圏域	596	14.6	51.7	5.4	11.9	6.7	0.7	5.7	6.0
	潮見生活圏域	242	12.0	57.4	4.5	12.8	3.3	0.4	3.7	6.6
	打出浜生活圏域	406	12.6	51.7	5.7	15.5	5.7	0.7	3.2	7.6

問4（8）で「1. 職についたことがない」または「2. 引退した」以外を選択した方
何歳まで働きたいですか（1つに○）

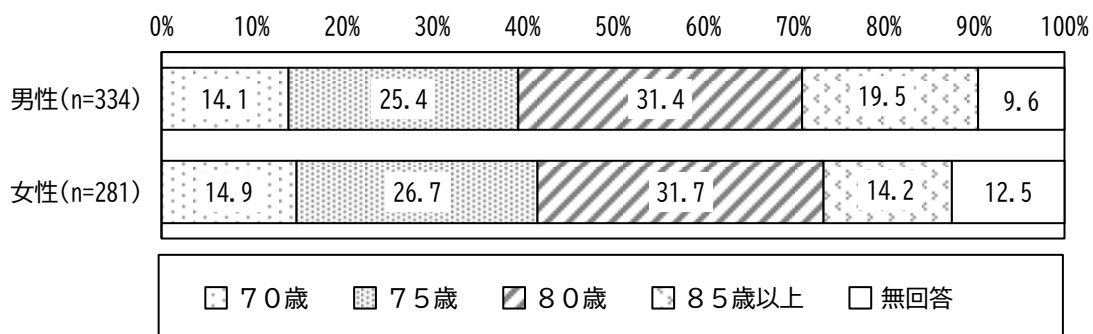
【全体】

何歳まで働きたいかについては、「80歳」が31.8%と最も多く、次いで、「75歳」が25.8%、「85歳以上」が17.1%、「70歳」が14.4%となっています。



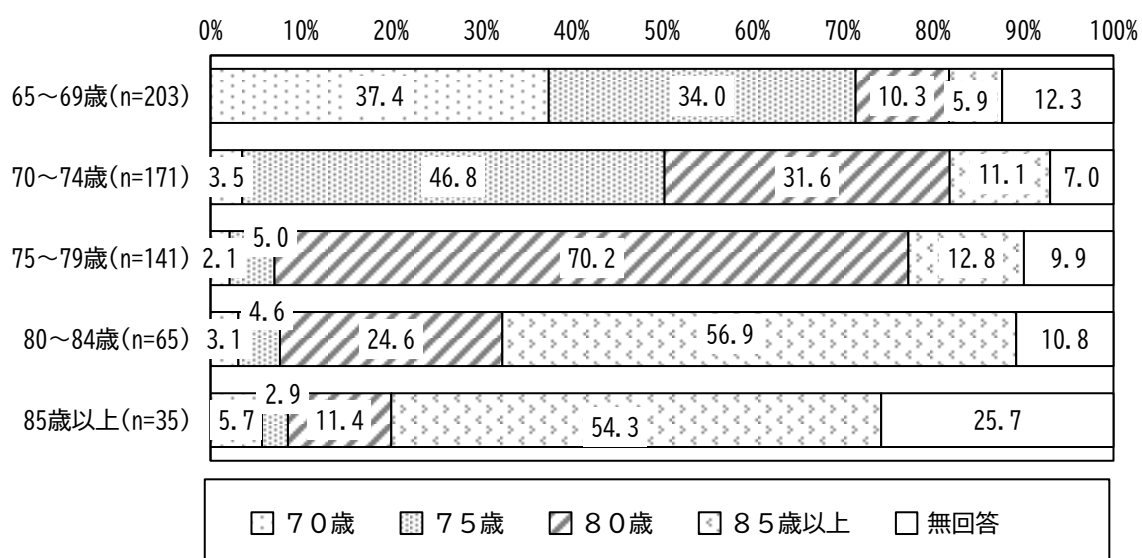
【性別】

性別にみると、男性の方が「85歳以上」が5.3ポイント多くなっています。



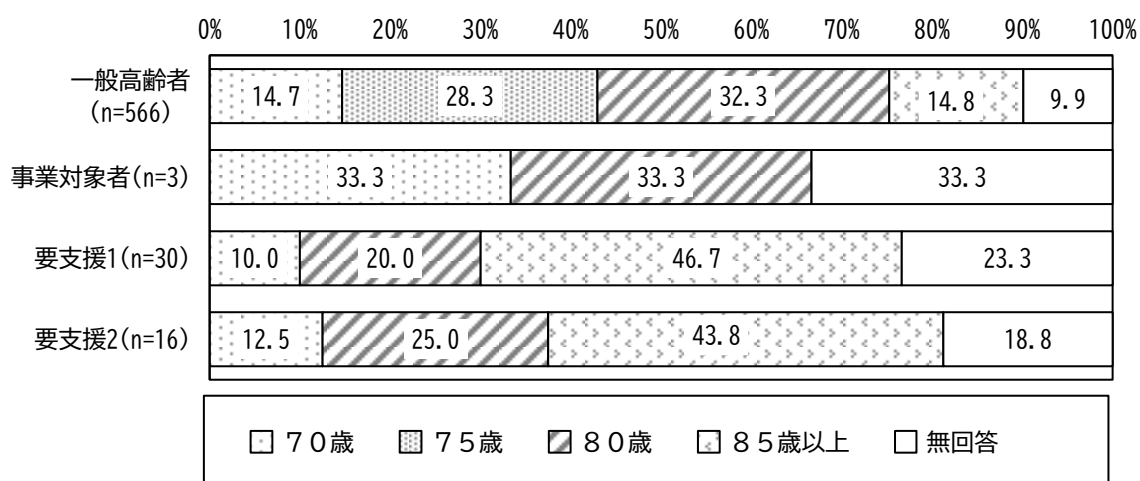
【年齢別】

年齢別にみると、85歳以上を除き、各年齢層の一つ上の年齢まで働きたいという割合が最も多くなっています。



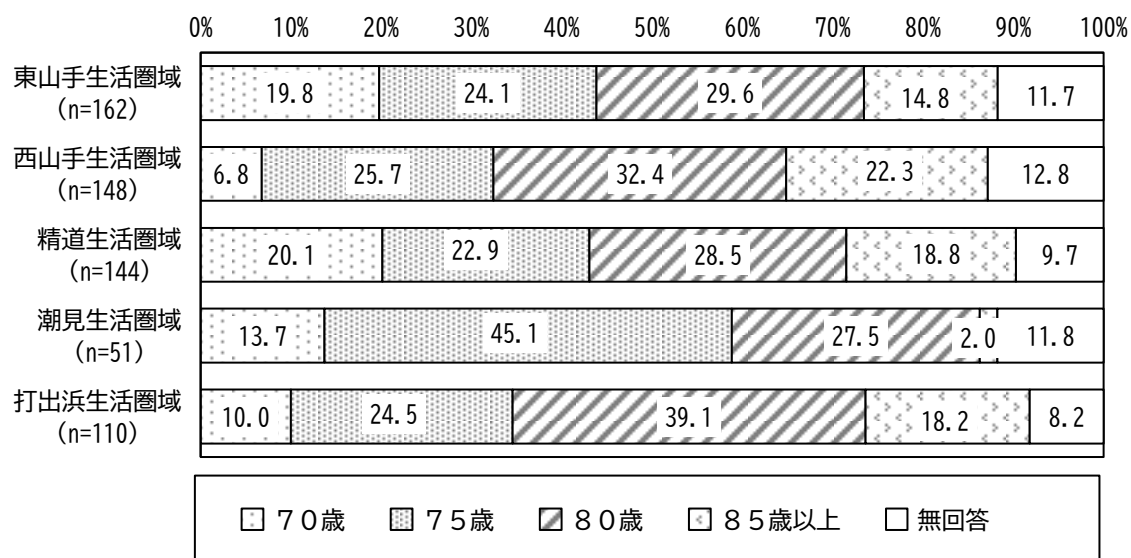
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者では「80歳」、要支援認定者では「85歳以上」の割合が最も多くなっています。



【居住地域別】

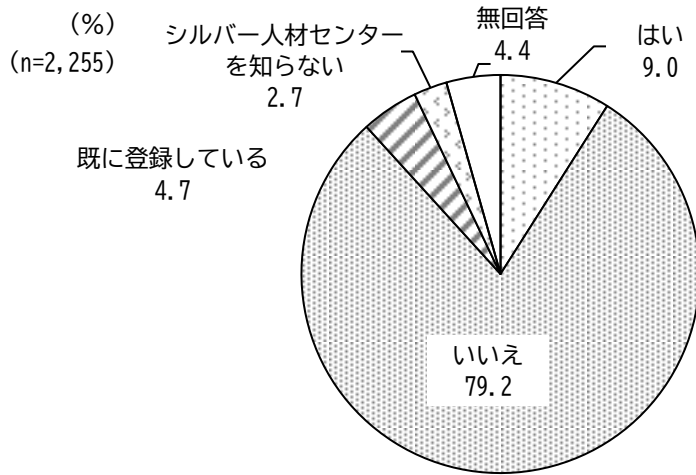
居住地域別にみると、潮見生活圏では、「75歳」まで、その他の生活圏では「80歳」以上まで働きたいという割合が5割を超えています。



問4（9）シルバー人材センターに登録して、活動してみたいと思いますか（1つに○）

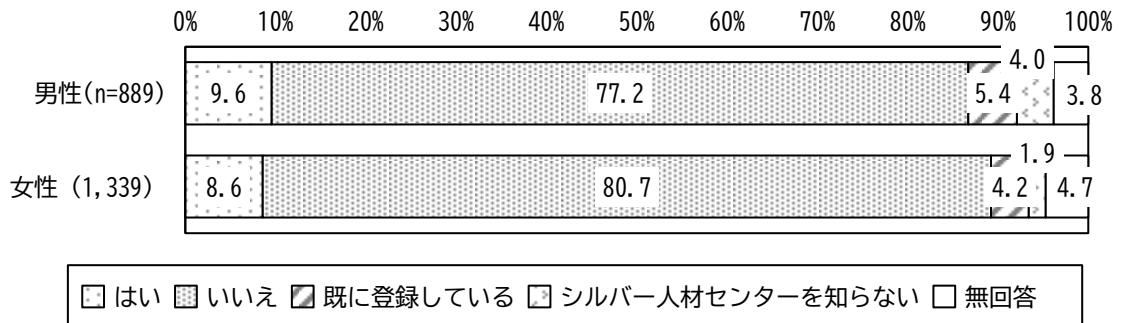
【全体】

シルバー人材センターへの登録、活動してみたいかについては、「はい」が9.0%、「いいえ」が79.2%で、「既に登録している」が4.7%となっています。



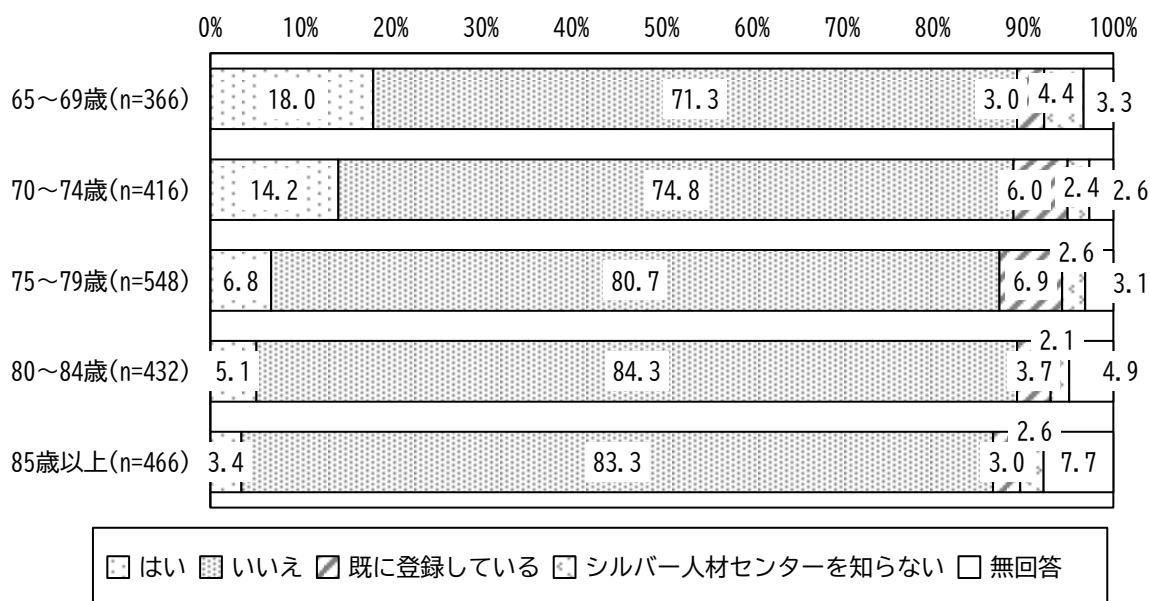
【性別】

性別にみると、以下の通り性別による大きな差はみられません。



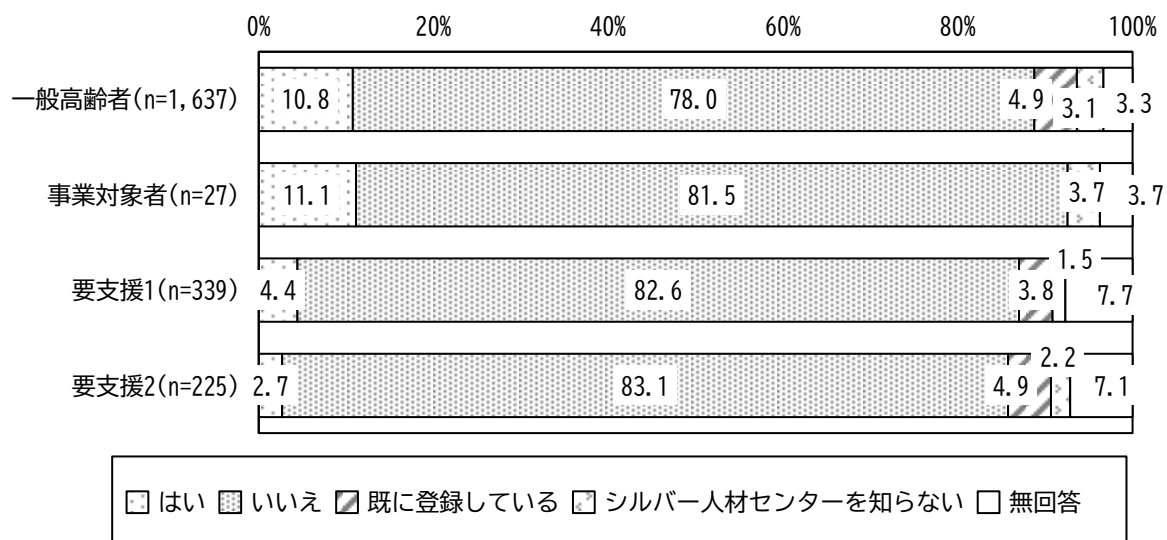
【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほどシルバー人材センターへの登録、活動希望は少なく、75歳以上では1割を下回っています。



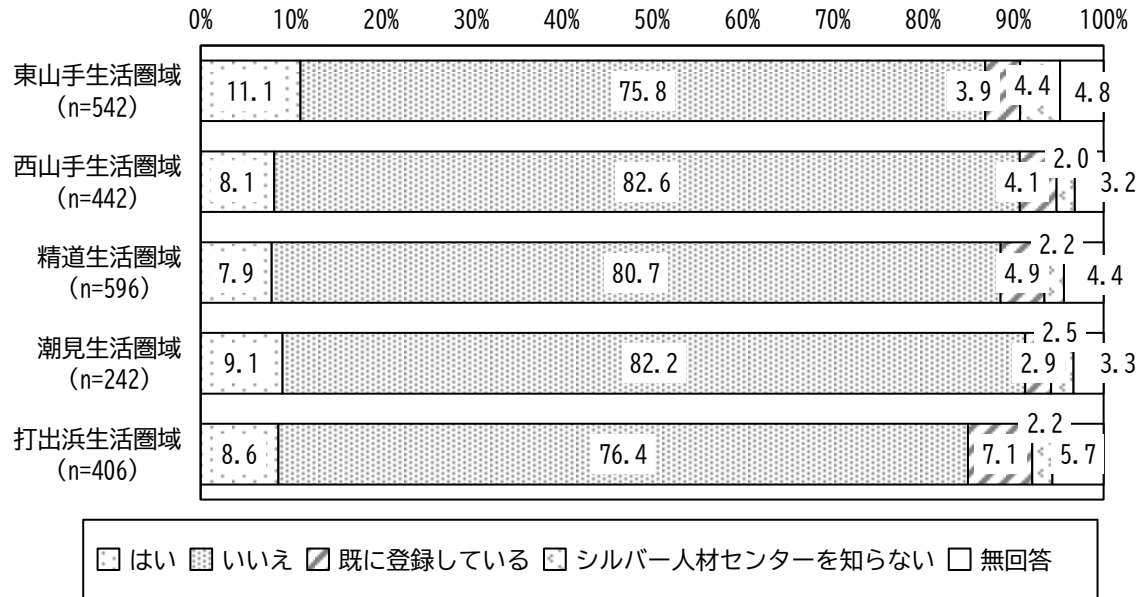
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者、事業対象者では約1割の方が「はい」と回答しています。



【居住地域別】

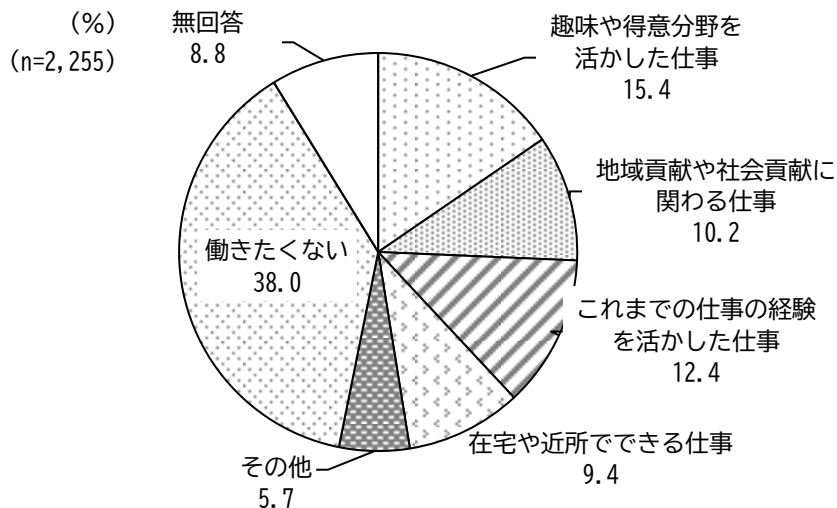
居住地域別にみると、打出浜生活圏域で「既に登録している」がやや多くなっています。



問4 (10) 現在の就労状況にかかわらず、これからどんな仕事がしてみたいですか (1つに○)

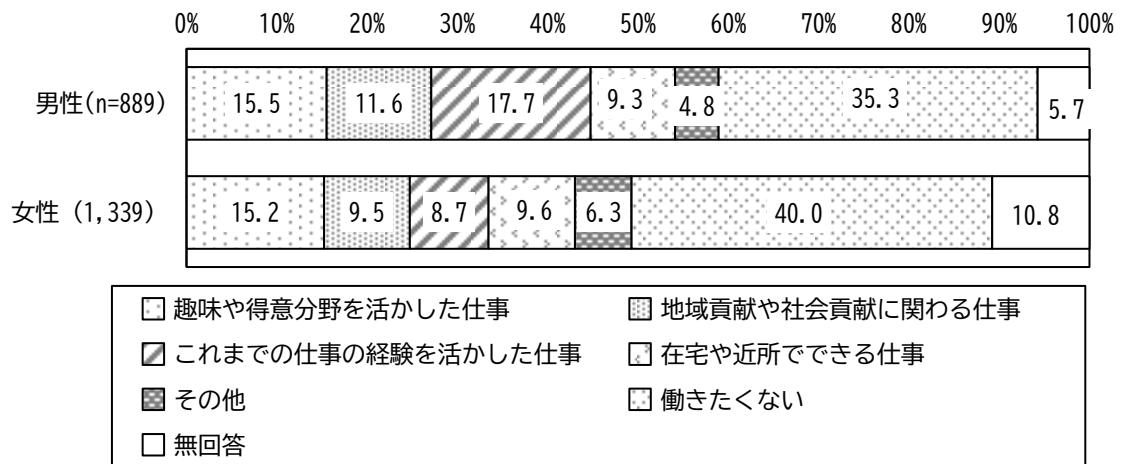
【全体】

これからどんな仕事がしてみたいかについては、「働きたくない」が38.0%と最も多くなっていますが、次いで、「趣味や特技を活かした仕事」が15.4%、「これまでの仕事の経験を活かした仕事」が12.4%、「地域貢献や社会貢献に関わる仕事」が10.2%、「在宅や近所でできる仕事」が9.4%となっています。



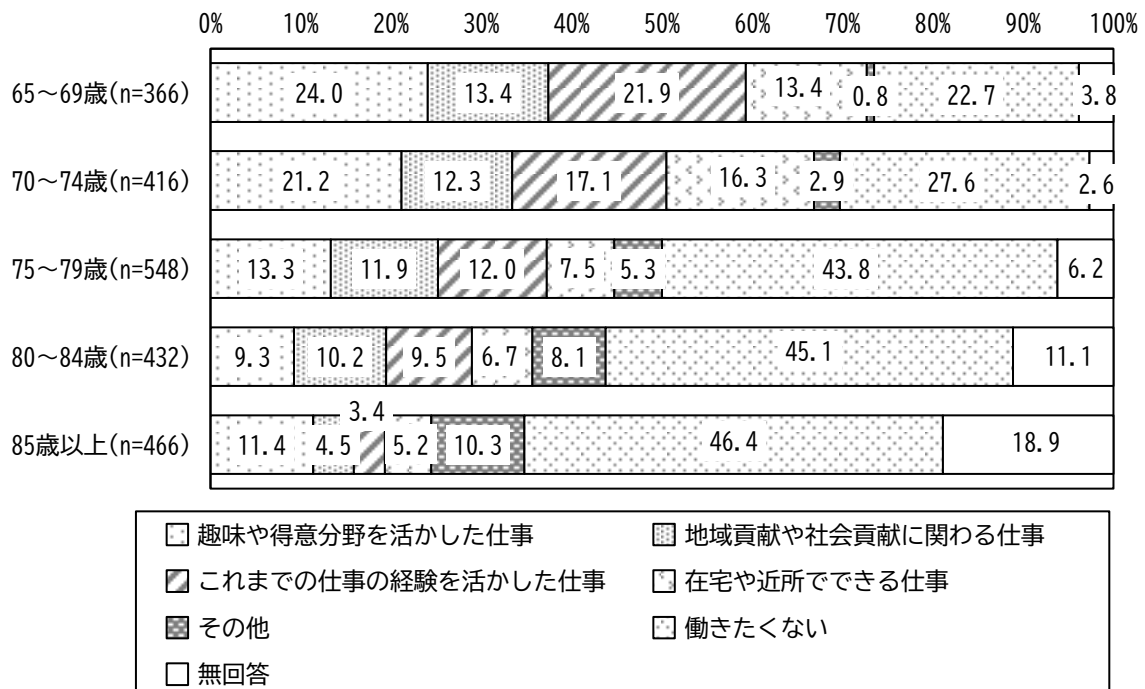
【性別】

性別にみると、女性の方が「働きたくない」が4.7ポイント多く、男性の方が「これまでの仕事の経験を活かした仕事」が9.0ポイント多くなっています。



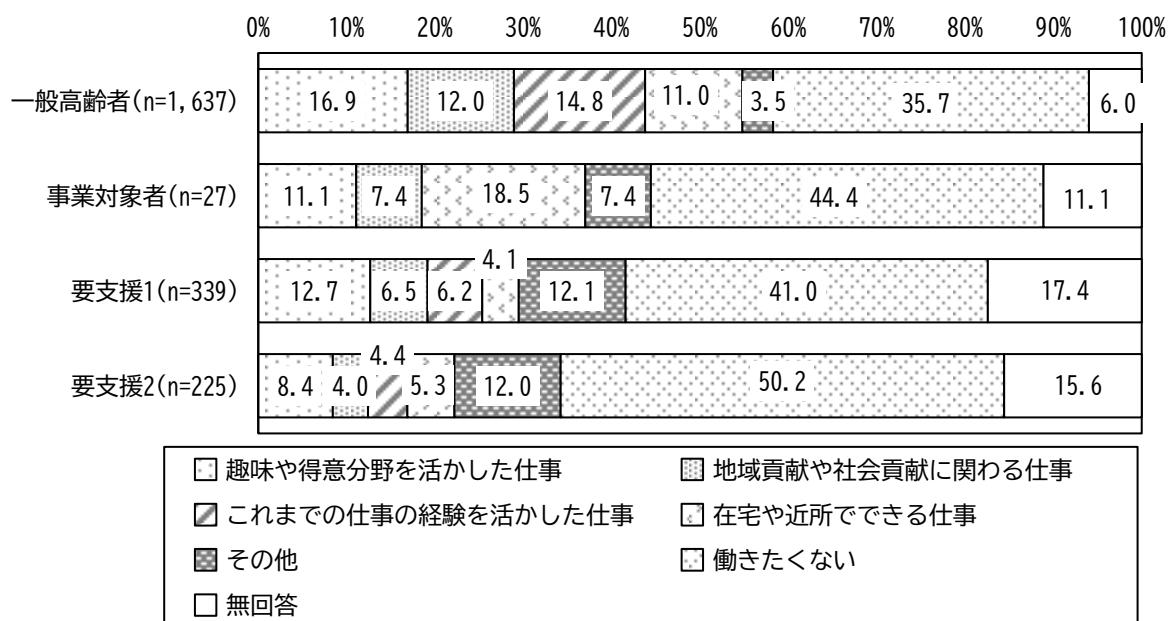
【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「働きたくない」の割合が多くなり、75歳以上では4割を超えています。シルバー人材センターへの登録、活動希望は少なく、75歳以上では1割を下回っています。



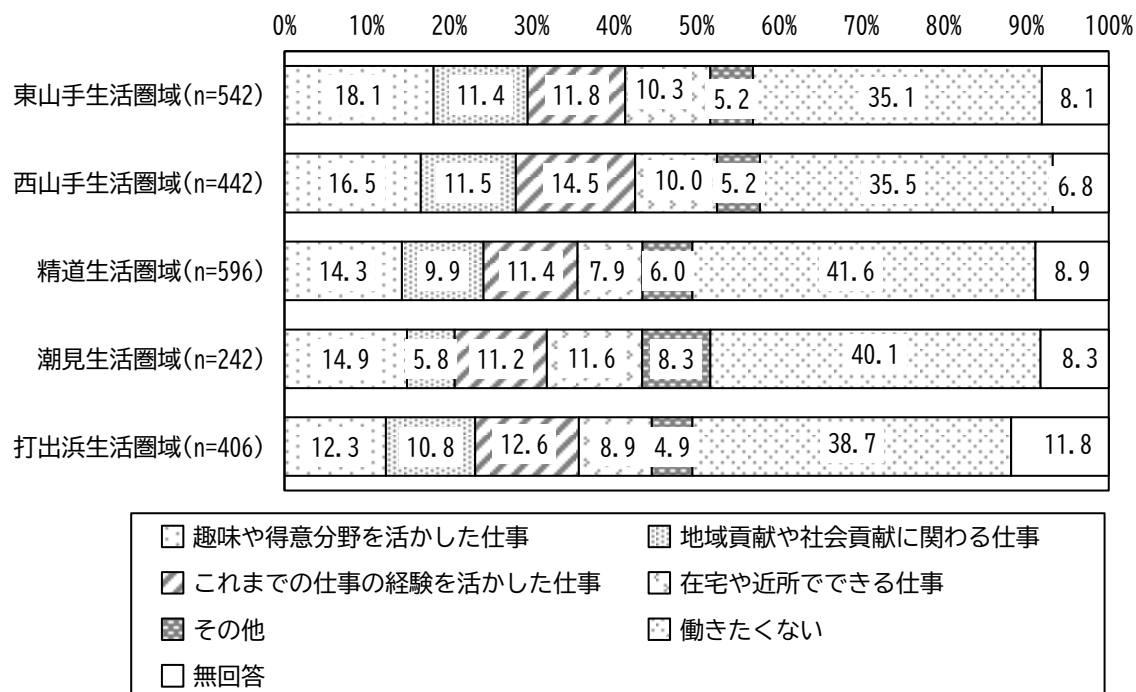
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では「働きたくない」が高く、要支援1では41.0%、要支援2では50.2%となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏では「地域貢献や社会貢献に関わる仕事」が他の生活圏に比べてやや少なくなっています。



問4（11）これから取り組んでみたいことや、挑戦してみたいことを教えてください
 （趣味や仕事、地域活動等、何でも自由にご記入ください）

【全体】

自由記述設問では、1,076人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「①ボランティアや地域活動など」（138件）で、現在行っている活動を今後も続けたいという声のほか、清掃、見守り、子ども食堂、読み聞かせ、傾聴など、自分にできる範囲で地域や社会に役立ちたいという内容のご意見が多くみられました。次いで、「②趣味全般について」（117件）では、今続けている趣味を長く続けたい、新しい趣味を始めたい、以前行っていた趣味を再開したいといった意見がみられました。また、「③健康・体力の維持」（115件）では、ウォーキングや体操、リハビリ等を通じて体力を維持し、自立した生活を続けたいという声が多くあしました。その他、「④音楽・美術・芸術」（97件）、「⑤旅行・外出・ハイキングなど」（94件）、「⑥スポーツ」（94件）などについて、多くの意見が寄せられています。

なお、「特になし」といった意見については省略し、一つの回答に複数のカテゴリーに属する意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見内容は、主なものを抜粋してまとめています。

※意見は主なものを抜粋しています。

分類	件数
①ボランティアや地域活動など	138件
ボランティアや地域活動を、無理のない範囲でこれからも続けたい。	
自治会、老人会、管理組合などで、地域の役割を担い続けたい。	
清掃やごみ拾い、公園・道路の掃除など、身近な地域美化に取り組みたい。	
読み聞かせ、点訳、傾聴、子ども食堂など、自分の経験や技能を活かした支援をしたい。	
防災、防犯、見守り、買物や通院の付き添いなど、地域での支え合いに関わりたい。	
高齢者や子ども、外国にルーツのある人など、身近な地域の人を支える活動に関わりたい。	
新たな活動に参加したいが、参加しやすい機会や情報がほしい。	
②趣味全般	117件
体力や健康状態に合わせて、今続けている趣味を、できるだけ長く続けたい。	
趣味の幅を広げたり、新しい趣味を始めたりしたい。	
以前やっていた趣味を再開したい、昔の趣味を復活させたい。	
趣味を通じて人と交流したり、教えたり、地域の中で活かしたりしたい。	
無理のない範囲で趣味を続けたい。	
趣味を通じて外出や交流の機会を増やしたい。	
何か趣味を持ちたいが、まだ具体的には決まっていない。	
③健康・体力の維持	115件
ウォーキングや散歩を、これからも毎日・継続的に続けたい。	

体操教室、健康体操、ジム、筋トレ、ストレッチなどを通じて、体力を維持したい。	
足腰を鍛え、転倒を予防し、自分の足で歩いて外出できる状態を保ちたい。	
健康で自立した生活を続け、できるだけ人の世話にならず暮らしたい。	
健康維持のため、食生活や生活リズムにも気をつけて過ごしたい。	
健康寿命を延ばし、最期までできるだけ自分のことは自分でできるようにしたい。	
④音楽・美術・芸術	97件
コーラス、カラオケなど、音楽や歌をこれからも楽しみたい。	
発表会や演奏活動、ボランティア演奏、慰問活動など、人前で趣味の音楽を活かす活動を続けたい。	
絵画、油絵、水彩画、墨絵、絵手紙、ぬり絵など、美術活動を続けたい、習いたい。	
陶芸、書道、書画、染色、折り紙など、ものづくりや創作活動を楽しみたい。	
コンサート、観劇、映画、美術館・博物館鑑賞など、芸術鑑賞を引き続き楽しみたい。	
健康維持のため、食生活や生活リズムにも気をつけて過ごしたい。	
音楽や芸術を通じて、人と交流したり、地域の中で役立てたりしたい。	
⑤旅行・外出・ハイキングなど	94件
体力のあるうちに、行ってみたかった場所やまだ見たことのない土地を訪れたい。	
一人旅、家族旅行、友人との旅行など、色々な形で旅をしたい。	
温泉、名所旧跡、寺社、世界遺産、美術館・博物館などを巡りたい。	
船旅やクルージング、鉄道の旅など、ゆったりした旅を楽しみたい。	
日帰りや一泊程度の小旅行、近場への外出を気軽に楽しみたい。	
ハイキング、山登り、登山、トレッキングなど、自然の中を歩きたい。	
歩けるうちに外出や旅行を楽しみたい、体力を維持して外出を続けたい。	
⑥スポーツ	94件
ゴルフやテニス、スイミングをこれからも続けたい、上達したい、できるだけ長く楽しみたい。	
卓球、ボウリング、スポンジボールテニス、グラウンドゴルフなど、無理のないスポーツを続けたい。	
社交ダンス、フォークダンス、ダンスなどを健康な限り続けたい。	
ジム、筋トレ、水中ウォーキング、スポーツクラブなどで体力づくりをしたい。	
今しているスポーツを、年齢や体力に合わせながら少しでも長く継続したい。	
スコア向上、記録更新、大会出場など、目標を持って取り組みたい。	
⑦語学・資格・習い事	73件
英会話や外国語を学びたい、学び直したい。	
TOEICや英語力向上、英語を活かした交流や活動につなげたい。	
漢字、歴史、日本史、哲学、経済、自然科学など、知識や教養を深めたい。	
芦屋川カレッジや市民大学、公開講座、市民センター講座などに参加して学びたい。	
新しい資格を取りたい、公的資格や検定に挑戦したい。	
ケアマネジャーなど、今後の生活や活動に役立つ資格を取得したい。	
習い事や学びを通じて、生きがいや新しい活動の場を広げたい。	

⑧仕事	72件
今の仕事を、健康や体力が続く限りできるだけ長く続けたい。	
年齢や体力に合わせて、週1~2回・短時間でも働ける仕事をしたい。	
年金だけでは不安があるため、生活の足しになる仕事を続けたい、始めたい。	
シルバー人材センターや地域の仕事などを通じて、社会とのつながりを持ちたい。	
これまでの経験や資格、得意分野を活かせる仕事をしたい。	
地域貢献や社会貢献につながる仕事、福祉や子育て支援に関わる仕事をしたい。	
新しい分野の仕事や、これまで未経験の仕事にも挑戦してみたい。	
⑨人や地域との交流	55件
同じ趣味を持つ人たちと気軽につながり、一緒に活動したい。	
地域の集会所やサークル、自治会など、身近な場で人と交流できる機会がほしい。	
家にこもらず、できるだけ多くの人と関わり、地域の中でつながりを持ちたい。	
近所の人や地域の高齢者、子どもたちと関わり、見守りや声かけなどで役に立ちたい。	
昔の友人や学生時代・仕事時代の仲間とのつながりを大切に、再び交流したい。	
新しい友人や仲間をつくり、気の合う人と楽しく時間を過ごしたい。	
友人との会話やおしゃべり、ランチ、会食など、日常の中の気軽な交流を楽しみたい。	
⑩読書	34件
今後も読書を続けたい。	
これまで時間がなく読めなかった本を、これからゆっくり読みたい。	
読書会を開いたり、読書を通じた活動を続けたい。	
図書館を利用しながら、今より読書の時間を増やしたい。	
絵本や小説の出版、著作、本の編集など、書くこと・本づくりに関わりたい。	
⑪デジタル活用	34件
パソコンやスマートフォンを、今より自由に使いこなせるようになりたい。	
Excel や PC ソフト、インターネット、LINE などの使い方を身につけたい。	
AI や生成 AI を使いこなして、生活や趣味に役立てたい。	
SNS やインスタを活用して、発信や交流につなげたい。	
コンピュータの知識や経験を活かして、他の高齢者や子どもに教えたい。	
ゲームやインターネットゲームなど、デジタルを楽しみとして活用したい。	
⑫書道・俳句など	31件
毛筆やペン習字を学びたい、もっときれいに書けるようになりたい。	
俳句を続けたい、俳句の会や吟行に参加したい。	
俳句や短歌で賞を目指したい、作品集や句集づくりにつなげたい。	
これまで続けてきた書道・俳句を、生きがいとして今後も大切にしたい。	
近くで参加できる教室や活動の場があれば続けやすい。	
⑬家庭菜園・園芸	28件
家庭菜園や畑で、野菜や果物を育てることを続けたい。	

花や草木を植えたり育てたりして、暮らしの中で楽しみたい。	
生花やフラワーアレンジメントを再開したり、教えたりしたい。	
畑や土地があれば野菜づくりや畑仕事に取り組みたい。	
園芸や花の趣味を活かして、人に教えたり地域で役立てたりしたい。	
⑭裁縫・手芸	28件
手芸教室や折り紙教室の活動などに通い続けたい。	
手仕事を通じて、人に喜ばれるものや感動を与えるものを作りたい。	
アクセサリや小物も含め、時間をかけてゆっくり制作したい。	
畑や土地があれば野菜づくりや畑仕事に取り組みたい。	
裁縫や手芸を趣味として楽しむだけでなく、さらに極めたい。	
⑮料理	13件
新しいレシピにも挑戦し、料理の幅を広げたい。	
料理を通じて、近くの人と会食したり交流したりしたい。	
認知症予防も意識しながら料理を続けたい。	
⑯その他	71件
今の生活や現在の状態を、できるだけそのまま維持していきたい。	
体力や健康状態に不安はあるが、できる範囲で何かに取り組みたい。	
無理はせず、マイペースに穏やかに日々を過ごしたい。	
新しいことに挑戦したい気持ちはあるが、体調や年齢の面で難しさも感じている。	
毎日を楽しく、好きなように、家族とともに過ごしたい。	
終活として、家の片付けや不要品整理、墓じまい、相続の準備などを進めたい。	
病気や介護、通院、老後の暮らしに不安を抱えながら過ごしている。	

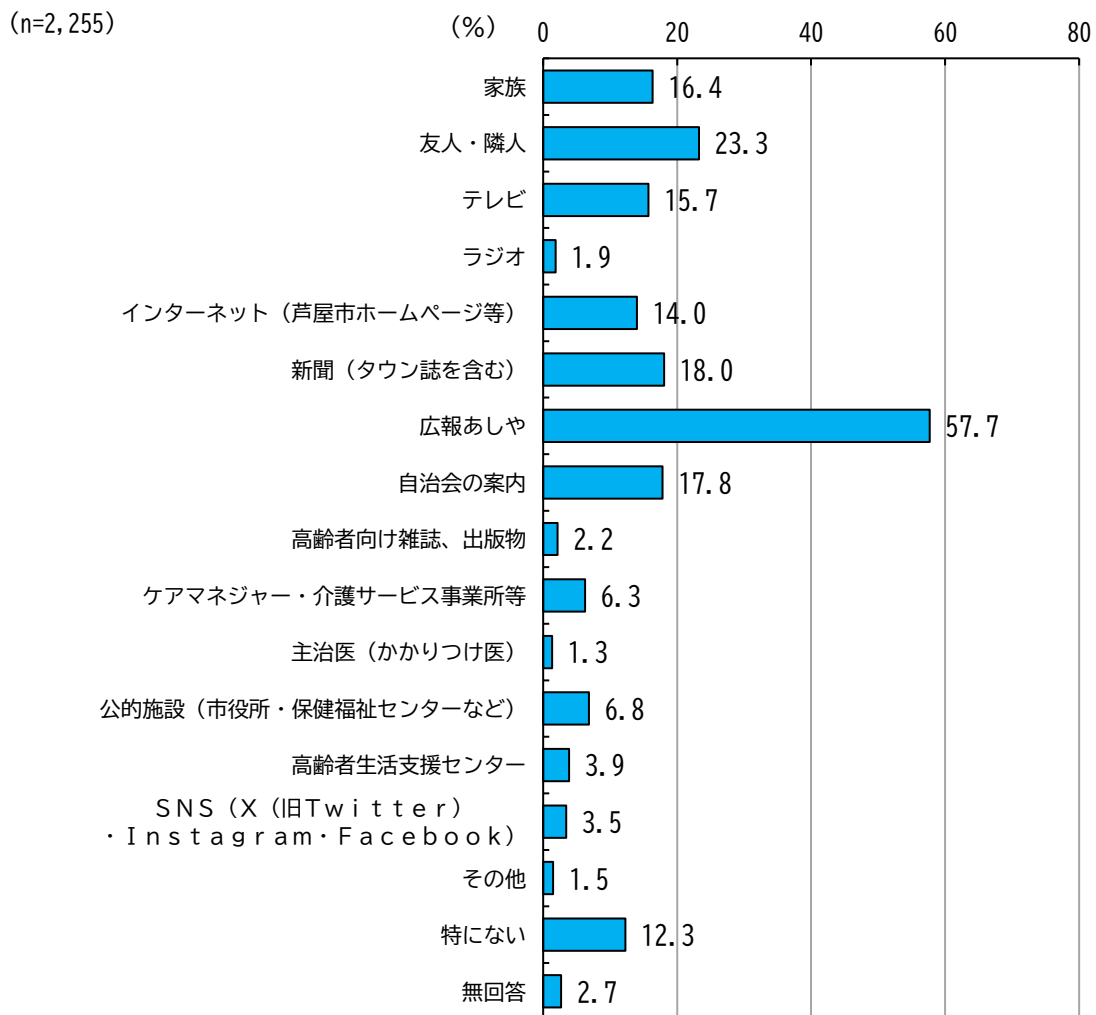
4) 情報入手の状況

問4 (12) 高齢者向けのイベントやサービスに関する情報を、どこから得ていますか

(○は主なもの3つまで)

【全体】

高齢者向け情報の入手先については、「広報あしや」が57.7%と最も多く、次いで、「友人・隣人」が23.3%、「新聞（タウン誌を含む）」が18.0%、「自治会の案内」が17.8%となっています。



【性別】

性別にみると、男性は女性に比べて「インターネット」が9.7ポイント、「特にない」が9.6ポイント多く、女性は男性に比べて「友人・隣人」が16.6ポイント、「広報あしや」が12.9ポイント多くなっています。

	n	家族	友人・隣人	テレビ	ラジオ	インターネット（芦屋市ホームページ等）	新聞（タウン誌を含む）	広報あしや	自治会の案内	高齢者向け雑誌、出版物	ケアマネジャー・介護サービス事業所等	主治医（かかりつけ医）	公的施設（市役所・保健福祉センターなど）	高齢者生活支援センター	SNS（X（旧Twitter）・Instagram・Facebook）	その他	特にない	無回答
全体	2255	16.4	23.3	15.7	1.9	14.0	18.0	57.7	17.8	2.2	6.3	1.3	6.8	3.9	3.5	1.5	12.3	2.7
性別 男性	889	21.4	13.3	16.3	1.6	19.9	20.4	49.9	14.8	2.2	4.4	1.5	7.3	3.1	4.4	1.7	18.1	2.2
性別 女性	1339	13.1	29.9	15.4	2.1	10.2	16.5	62.8	19.9	2.0	7.4	1.2	6.5	4.4	2.8	1.3	8.5	3.0

【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳では「インターネット」、70歳以上では「友人・知人」がともに2割を超えています。また、65～69歳では「特にない」、80歳以上では「自治会の案内」、85歳以上では「ケアマネジャー・介護サービス事業所等」が、それぞれ他の年齢層に比べて多くなっています。

	n	家族	友人・隣人	テレビ	ラジオ	インターネット（芦屋市ホームページ等）	新聞（タウン誌を含む）	広報あしや	自治会の案内	高齢者向け雑誌、出版物	ケアマネジャー・介護サービス事業所等	主治医（かかりつけ医）	公的施設（市役所・保健福祉センターなど）	高齢者生活支援センター	SNS（X（旧Twitter）・Instagram・Facebook）	その他	特にない	無回答	
全体	2255	16.4	23.3	15.7	1.9	14.0	18.0	57.7	17.8	2.2	6.3	1.3	6.8	3.9	3.5	1.5	12.3	2.7	
年齢	65～69歳	366	12.0	16.1	11.7	1.4	24.6	14.8	55.7	12.8	1.4	0.5	1.4	4.6	0.5	6.3	1.4	21.3	3.3
	70～74歳	416	14.2	22.8	13.7	1.0	20.9	17.1	63.0	17.1	1.7	2.4	1.2	6.5	2.4	7.0	1.2	13.0	1.0
	75～79歳	548	15.5	25.4	13.5	1.3	14.6	18.8	63.7	16.4	2.2	3.8	1.5	8.2	2.6	2.4	1.6	12.4	1.6
	80～84歳	432	18.3	26.9	19.2	3.2	7.9	19.2	54.9	20.8	2.5	8.3	0.9	7.6	5.1	2.1	1.4	10.0	3.7
	85歳以上	466	21.2	23.4	20.2	2.6	4.9	19.5	50.0	21.7	2.6	14.8	1.5	6.4	8.4	0.6	1.7	6.9	4.1

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者は「インターネット」「特にない」、事業対象者は「新聞（タウン誌を含む）」「自治会の案内」、要支援1は「友人・隣人」、要支援2は「ケアマネジャー・介護サービス事業所等」が比較的多くなっています。

	n	家族	友人・隣人	テレビ	ラジオ	インターネット（芦屋市ホームページ等）	新聞（タウン誌を含む）	広報あしや	自治会の案内	高齢者向け雑誌、出版物	ケアマネジャー・介護サービス事業所等	主治医（かかりつけ医）	公的施設（市役所・保健福祉センターなど）	高齢者生活支援センター	SNS（X（旧Twitter）・Instagram・Facebook）	その他	特にない	無回答	
全体	2255	16.4	23.3	15.7	1.9	14.0	18.0	57.7	17.8	2.2	6.3	1.3	6.8	3.9	3.5	1.5	12.3	2.7	
認定状況	一般高齢者	1637	15.5	23.2	15.3	1.6	16.9	19.2	59.9	17.3	2.1	0.8	1.2	6.9	1.6	4.2	1.4	14.7	2.3
	事業対象者	27	3.7	11.1	11.1	3.7	11.1	33.3	77.8	33.3	3.7	11.1	0.0	7.4	3.7	0.0	3.7	3.7	3.7
	要支援1	339	20.4	29.2	18.3	2.4	4.4	13.9	54.0	17.7	1.5	19.8	1.8	5.9	9.4	1.2	1.5	5.9	3.2
	要支援2	225	19.1	16.4	15.6	3.1	8.4	14.2	44.4	20.4	2.7	24.4	1.3	7.6	12.4	1.8	1.8	6.2	4.4

【居住地域別】

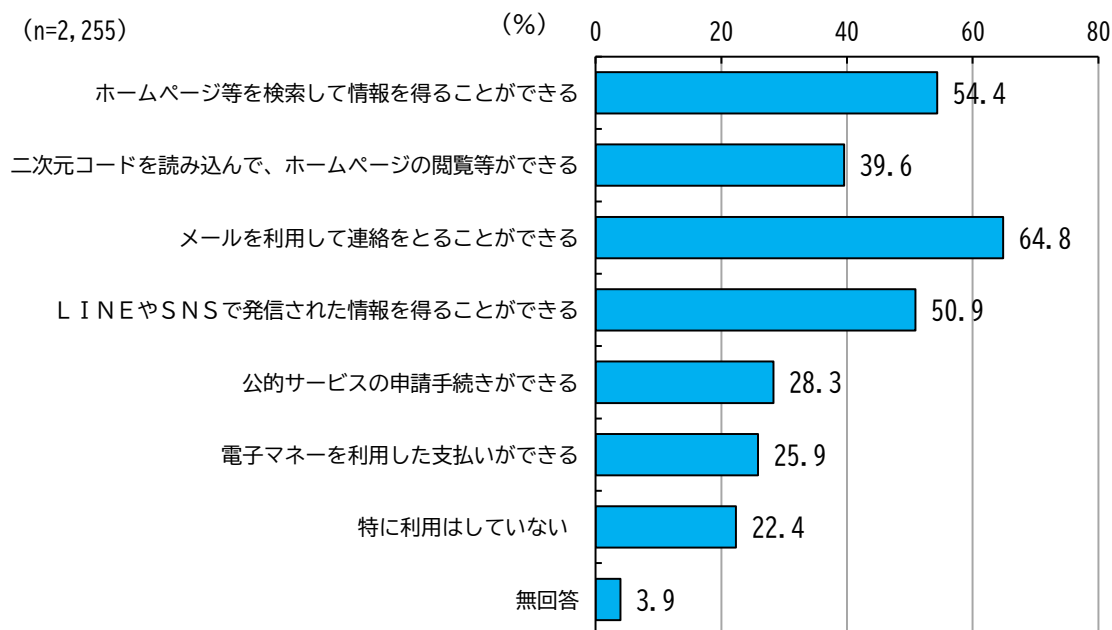
居住地域別にみると、東山手生活圏域、潮見生活圏域では「新聞（タウン誌を含む）」、精道生活圏域、打出浜生活圏域では「自治会の案内」が比較的多くなっています。

	n	家族	友人・隣人	テレビ	ラジオ	インターネット（芦屋市ホームページ等）	新聞（タウン誌を含む）	広報あしや	自治会の案内	高齢者向け雑誌、出版物	ケアマネジャー・介護サービス事業所等	主治医（かかりつけ医）	公的施設（市役所・保健福祉センターなど）	高齢者生活支援センター	SNS（X（旧Twitter）・Instagram・Facebook）	その他	特にない	無回答	
全体	2255	16.4	23.3	15.7	1.9	14.0	18.0	57.7	17.8	2.2	6.3	1.3	6.8	3.9	3.5	1.5	12.3	2.7	
圏域	東山手生活圏域	542	16.8	21.8	17.5	1.8	16.6	20.8	59.2	15.7	1.7	4.4	1.3	4.2	2.8	4.8	1.7	12.9	2.0
	西山手生活圏域	442	14.5	23.1	17.2	1.6	13.6	16.3	55.9	15.4	3.4	7.7	1.6	6.6	3.8	3.8	0.9	13.3	2.3
	精道生活圏域	596	17.6	23.3	14.6	2.0	14.1	16.9	58.2	21.1	1.7	5.9	1.5	8.1	4.7	3.7	1.3	10.9	3.4
	潮見生活圏域	242	13.2	24.0	14.0	2.5	16.5	18.6	55.8	14.9	2.1	5.8	0.8	7.4	3.7	3.7	2.5	12.8	3.7
	打出浜生活圏域	406	18.2	24.9	14.5	1.7	9.9	17.5	57.9	20.7	2.0	7.6	1.0	8.4	4.4	0.7	1.5	12.3	2.5

問4（13）パソコンやスマートフォン、タブレット等を使ってインターネットを利用することができますか（〇はいくつでも）

【全体】

インターネットを利用することができるかについては、「メールを利用して連絡をとることができる」が64.8%と最も多く、次いで「ホームページ等を検索して情報を得ることができる」が54.4%、「LINEやSNSで発信された情報を得ることができる」が50.9%となっています。



【性別】

性別にみると、女性の方が「特に利用はしていない」が5.3ポイント多く、その他の項目については男性の方が多くなっています。

	n	ホームページ等を検索して情報を得ることができる	二次元コードを読み込んで、ホームページの閲覧等ができる	メールを利用して連絡をとることができる	LINEやSNSで発信された情報を得ることができる	公的サービスの申請手続きができる	電子マネーを利用した支払いができる	特に利用はしていない	無回答
全体	2255	54.4	39.6	64.8	50.9	28.3	25.9	22.4	3.9
性別									
男性	889	67.4	46.1	65.8	52.1	35.5	29.7	19.1	3.1
女性	1339	46.1	35.6	64.3	50.4	23.7	23.6	24.4	4.4

【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「特に利用はしていない」が増加し、その他の項目については減少しています。

	n	ホームページ等を検索して情報を得ることができる	二次元コードを読み込んで、ホームページの閲覧等ができる	メールを利用して連絡をとることができる	LINEやSNSで発信された情報を得ることができる	公的サービスの申請手続きができる	電子マネーを利用した支払いができる	特に利用はしていない	無回答	
全体	2255	54.4	39.6	64.8	50.9	28.3	25.9	22.4	3.9	
年齢	65～69歳	366	87.7	75.7	80.1	75.4	55.5	54.6	3.8	3.3
	70～74歳	416	78.4	63.5	81.0	70.0	45.7	40.9	7.9	0.5
	75～79歳	548	56.6	39.4	68.6	53.3	24.3	24.5	19.5	2.9
	80～84歳	432	38.4	20.8	56.9	37.7	16.2	12.0	32.6	4.6
	85歳以上	466	20.0	8.6	41.6	24.9	8.2	5.2	43.3	7.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では「特に利用していない」が4割前後と多くなっています。

	n	ホームページ等を検索して情報を得ることができる	二次元ページの読み込み等ができる	メールを利用して連絡をとることができる	LINEやSNSで発信された情報を得ることができる	公的サービスの申請手続きができる	電子マネーを利用した支払いができる	特に利用はしていない	無回答	
全体	2255	54.4	39.6	64.8	50.9	28.3	25.9	22.4	3.9	
認定状況	一般高齢者	1637	64.1	48.8	71.5	58.6	35.0	31.8	16.1	2.7
	事業対象者	27	44.4	33.3	55.6	33.3	14.8	7.4	11.1	7.4
	要支援1	339	27.4	13.0	47.2	30.1	10.0	10.3	39.8	6.8
	要支援2	225	27.6	15.6	44.4	29.8	10.2	9.8	42.2	7.6

【居住地域別】

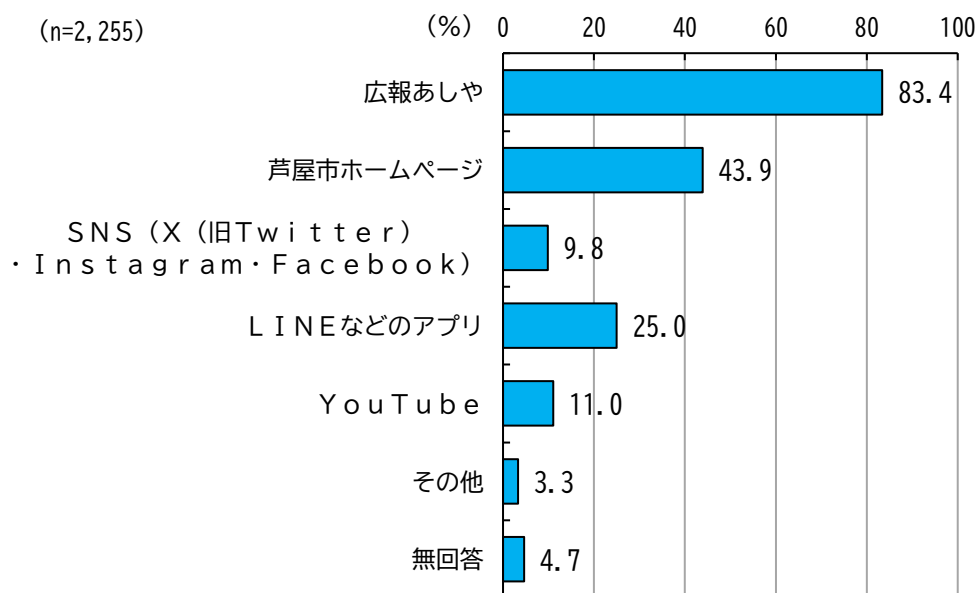
居住地域別にみると、以下の通り居住地域による大きな差はみられません。

	n	ホームページ等を検索して情報を得ることができる	二次元ページの読み込み等ができる	メールを利用して連絡をとることができる	LINEやSNSで発信された情報を得ることができる	公的サービスの申請手続きができる	電子マネーを利用した支払いができる	特に利用はしていない	無回答	
全体	2255	54.4	39.6	64.8	50.9	28.3	25.9	22.4	3.9	
圏域	東山手生活圏域	542	57.6	41.5	67.3	52.8	30.3	25.5	21.0	3.0
	西山手生活圏域	442	60.0	43.2	70.6	54.3	33.5	26.0	19.9	2.7
	精道生活圏域	596	52.3	38.1	62.4	50.3	26.0	26.2	23.3	4.4
	潮見生活圏域	242	52.5	45.0	64.5	55.0	33.1	33.5	23.6	4.5
	打出浜生活圏域	406	49.3	33.3	59.4	44.1	21.4	22.2	24.4	5.4

問4（14）今後、公的サービスの情報をどのような手段で得たいですか（〇はいくつでも）

【全体】

公的サービスの情報をどのような手段で得たいかについては、「広報あしや」が83.4%と最も多く、次いで「芦屋市ホームページ」が43.9%、「LINEなどのアプリ」が25.0%となっています。



【性別】

性別にみると、女性の方が「広報あしや」が5.7ポイント、男性の方が「芦屋市ホームページ」が10.2ポイント多くなっています。

		n	広報あしや	芦屋市ホームページ	・INS(X(旧Twitter・Facebook))	LINEなどのアプリ	YouTube	その他	無回答
全体		2255	83.4	43.9	9.8	25.0	11.0	3.3	4.7
性別	男性	889	80.0	50.2	11.7	24.3	13.9	2.9	4.6
	女性	1339	85.7	40.0	8.5	25.5	9.2	3.4	4.6

【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「広報あしや」が多くなる傾向がみられ、その他の項目については減少しています。

		n	広報あしや	芦屋市ホームページ	・INS(X(旧Twitter・Facebook))	LINEなどのアプリ	YouTube	その他	無回答
全体		2255	83.4	43.9	9.8	25.0	11.0	3.3	4.7
年齢	65～69歳	366	75.1	61.2	21.6	33.6	17.2	1.6	4.1
	70～74歳	416	82.7	54.8	15.9	33.4	15.9	1.7	2.2
	75～79歳	548	85.8	45.8	6.9	24.1	11.1	2.4	4.0
	80～84歳	432	86.3	33.6	5.3	23.1	8.8	3.5	4.6
	85歳以上	466	85.0	28.5	2.6	13.5	4.1	6.4	7.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、多くの項目で一般高齢者の方が多くなっていますが、「広報あしや」はすべて8割を超えて大きな差はみられません。

	n	広報あしや	芦屋市ホームページ	・SNS(X(旧Twitter)・Face book)	LINEなどのアプリ	YouTube	その他	無回答	
全体	2255	83.4	43.9	9.8	25.0	11.0	3.3	4.7	
認定状況	一般高齢者	1637	83.8	49.5	12.1	27.1	12.6	2.0	3.4
	事業対象者	27	85.2	40.7	3.7	22.2	3.7	7.4	7.4
	要支援1	339	82.9	28.6	2.9	20.1	7.7	7.4	7.7
	要支援2	225	81.3	27.6	4.0	17.3	6.2	4.9	8.4

【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通り居住地域による大きな差はみられません。

	n	広報あしや	芦屋市ホームページ	・SNS(X(旧Twitter)・Face book)	LINEなどのアプリ	YouTube	その他	無回答	
全体	2255	83.4	43.9	9.8	25.0	11.0	3.3	4.7	
圏域	東山手生活圏域	542	83.0	48.9	10.7	24.2	12.5	4.1	4.2
	西山手生活圏域	442	83.0	45.2	10.9	26.7	10.6	2.5	4.8
	精道生活圏域	596	84.2	42.3	9.7	24.7	10.7	3.4	4.4
	潮見生活圏域	242	79.3	42.1	10.7	30.2	14.5	2.5	6.2
	打出浜生活圏域	406	85.5	39.9	6.9	21.7	8.1	3.0	4.4

問5 地域での活動について

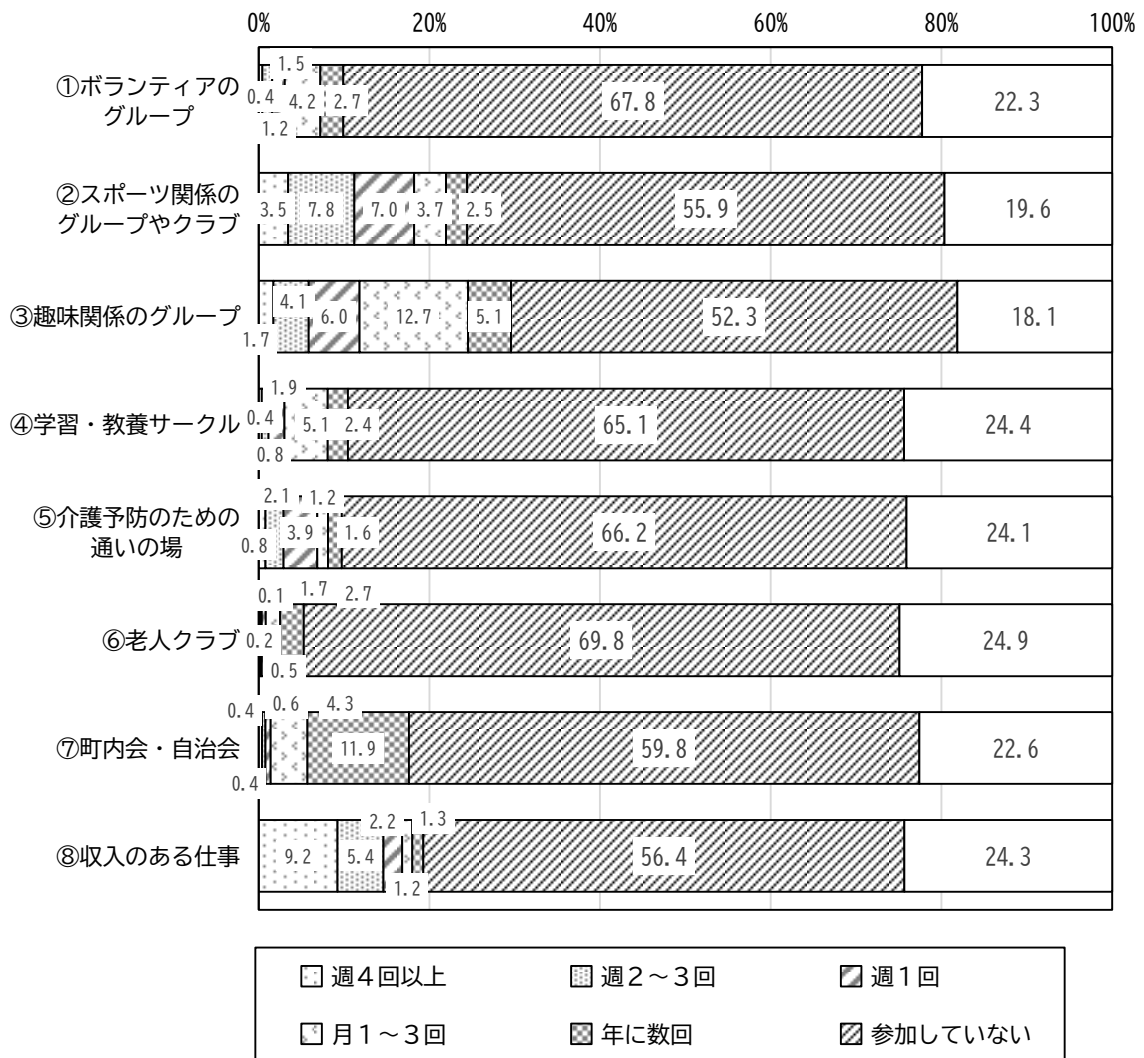
1) 地域の会・グループ等への参加について

問5（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（○は1つずつ）

※①～⑧それぞれについて、回答してください

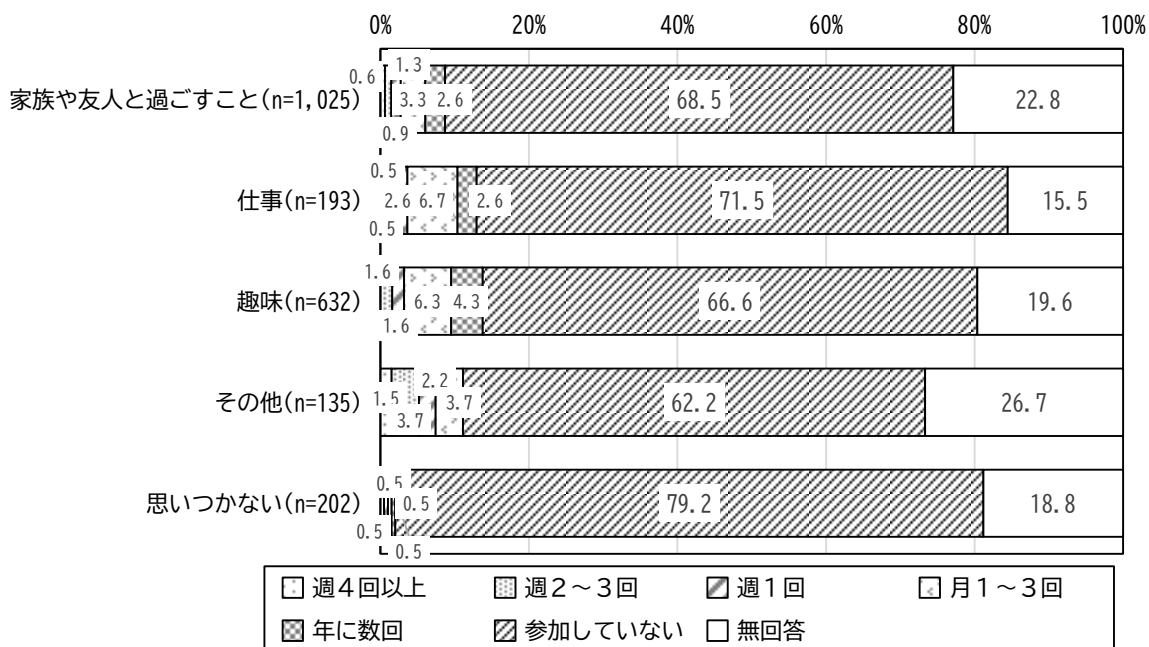
【全体】

地域の会・グループ活動等への参加について、「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた『参加している』は、「③趣味関係のグループ」が29.6%と最も多く、次いで、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が24.4%、「⑧収入のある仕事」が19.3%となっています。



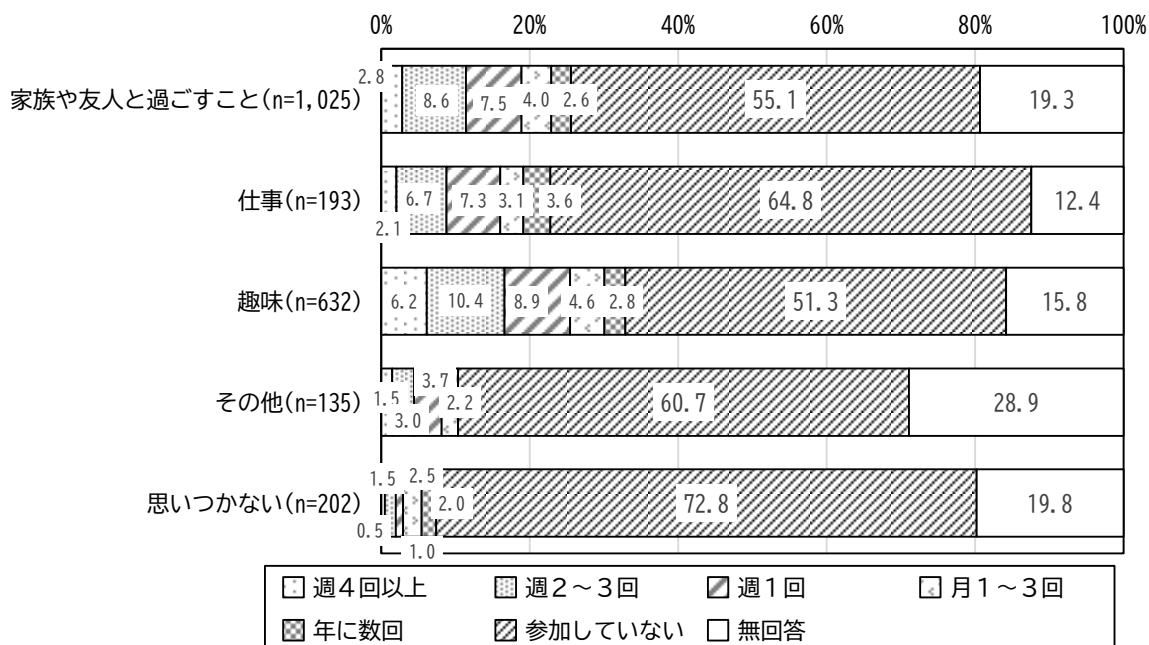
【生きがい別①ボランティアのグループ】

生きがいが「趣味」の人で、『参加している』が13.8%と最も多くなっています。



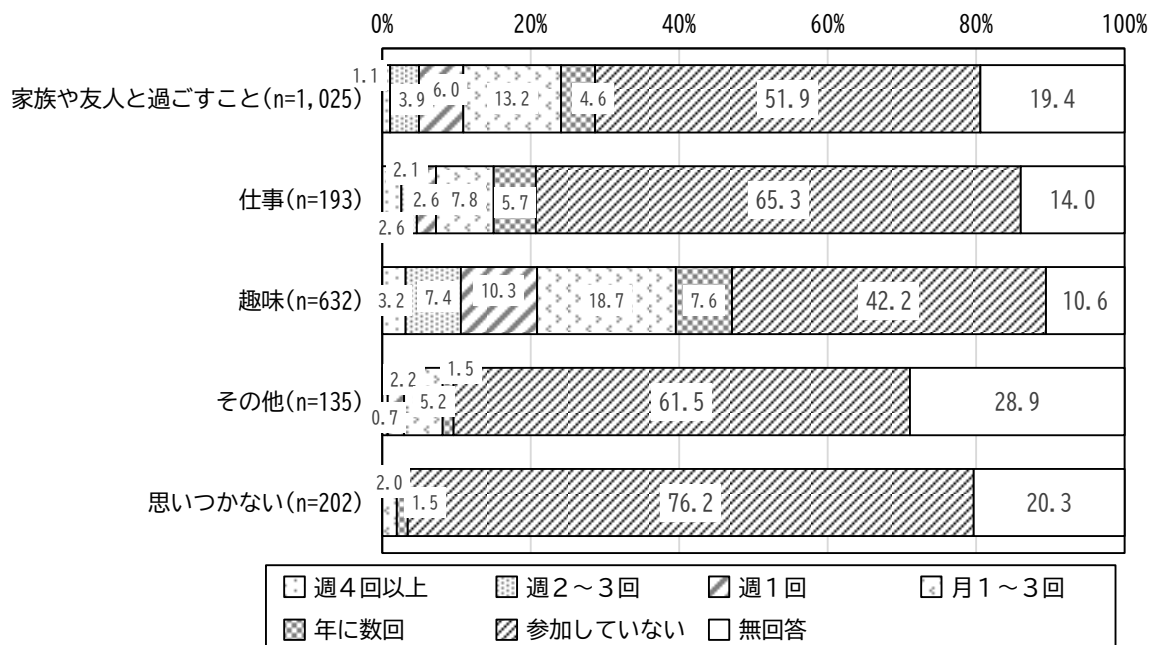
【生きがい別②スポーツ関係のグループやクラブ】

生きがいが「趣味」の人で、『参加している』が32.9%と最も多くなっています。



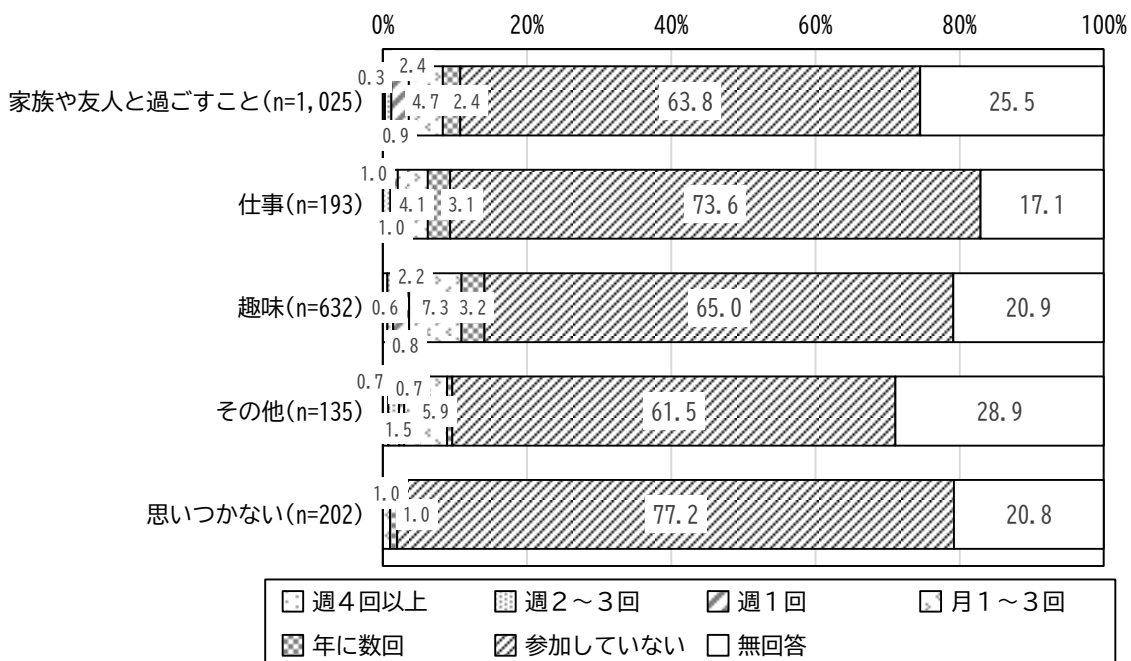
【生きがい別③趣味関係のグループ】

生きがいが「趣味」の人で、『参加している』が47.2%と最も多くなっています。



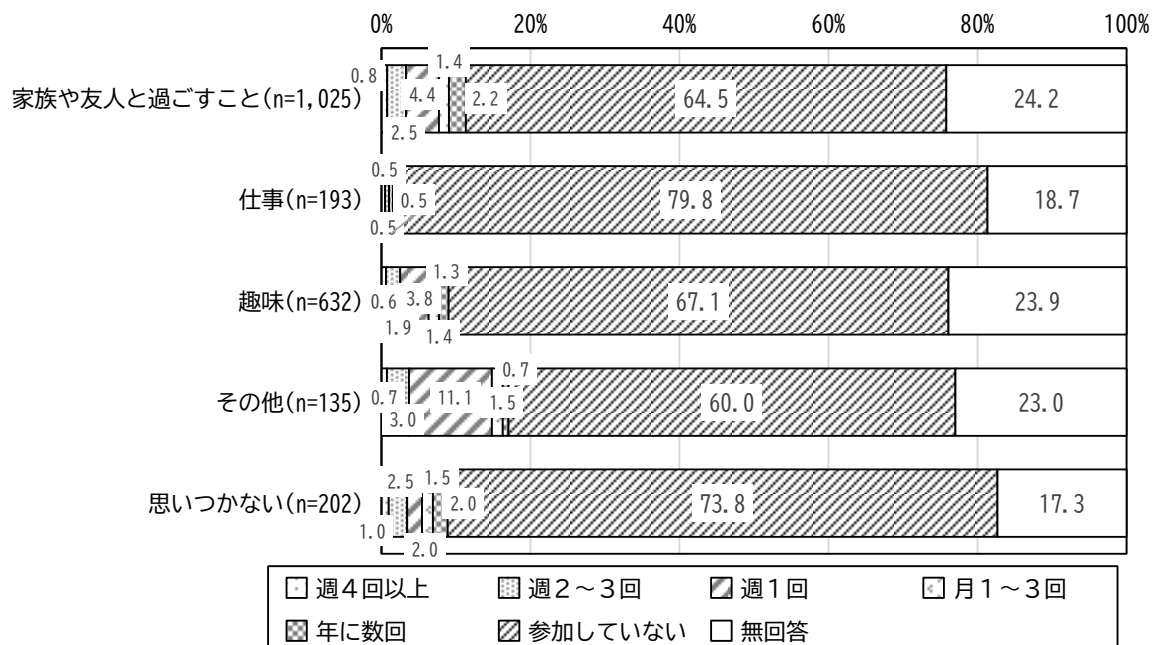
【生きがい別④学習・教養サークル】

生きがいが「趣味」の人で、『参加している』が14.1%と最も多くなっています。



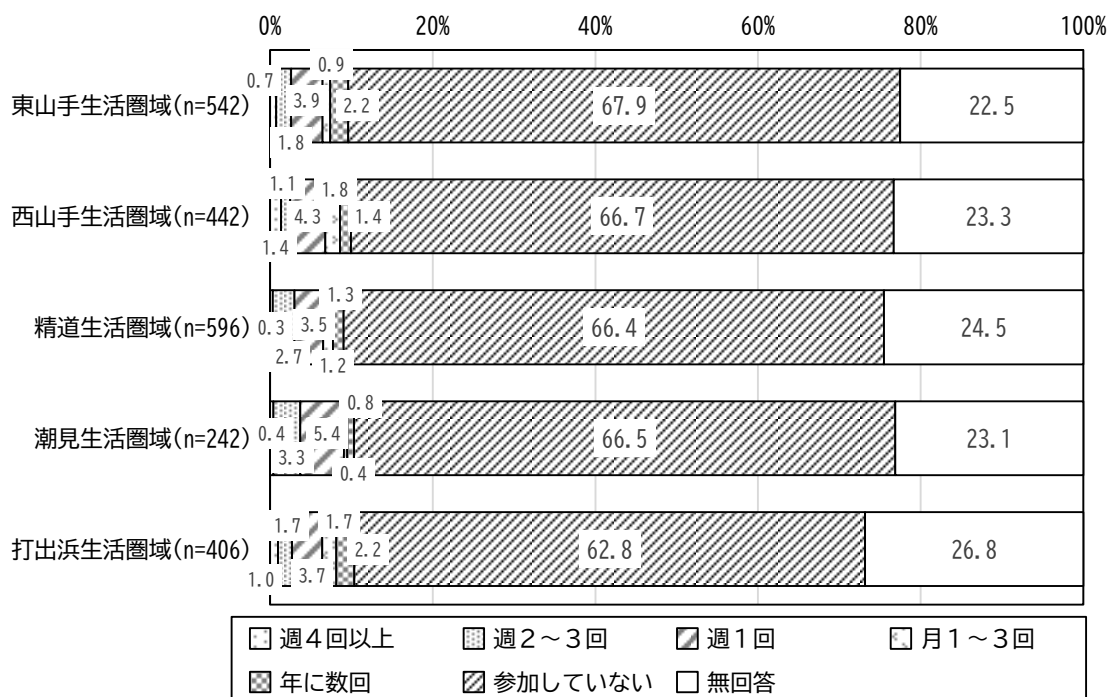
【生きがい別⑤介護予防のための通いの場】

生きがいが「その他」の人で、『参加している』が17.0%と最も多くなっています。



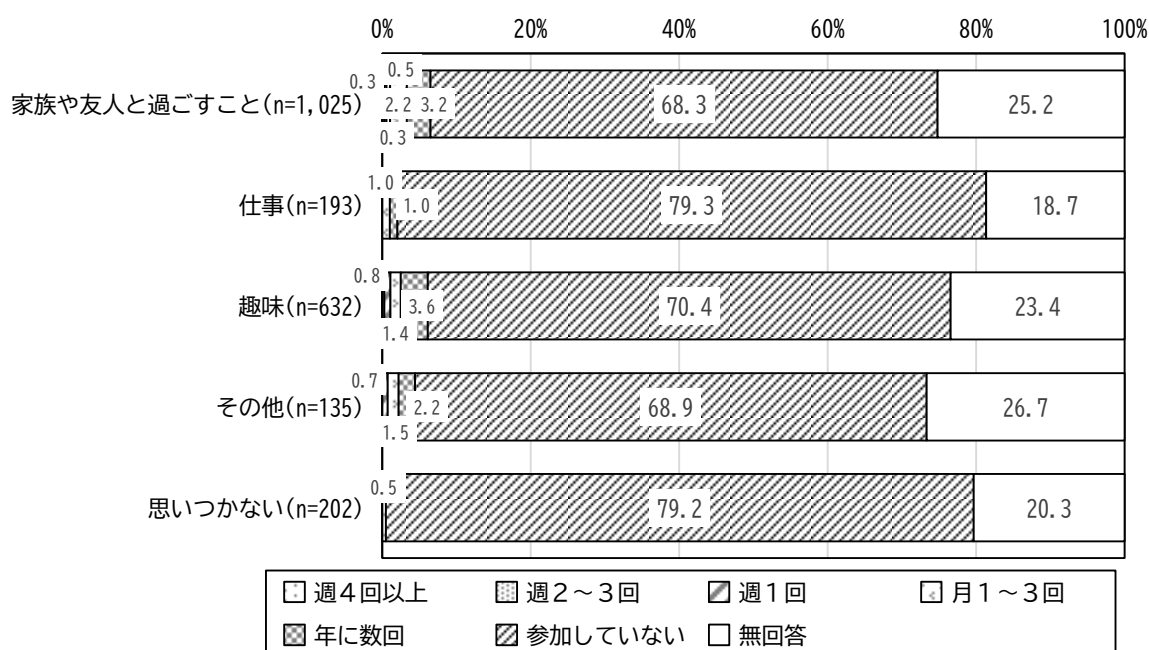
【居住地域別⑤介護予防のための通いの場】

居住地域別にみると、以下の通り大きさはみられません。



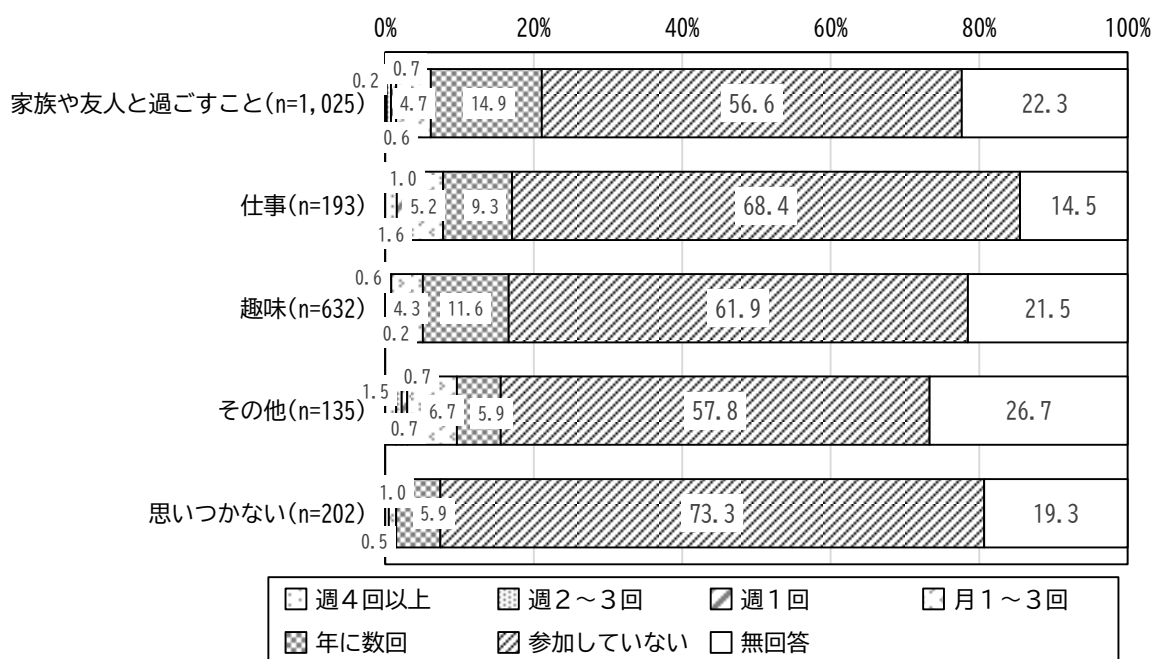
【生きがい別⑥老人クラブ】

生きがいが「家族や友人と過ごすこと」の人で、『参加している』が6.5%と最も多くなっています。



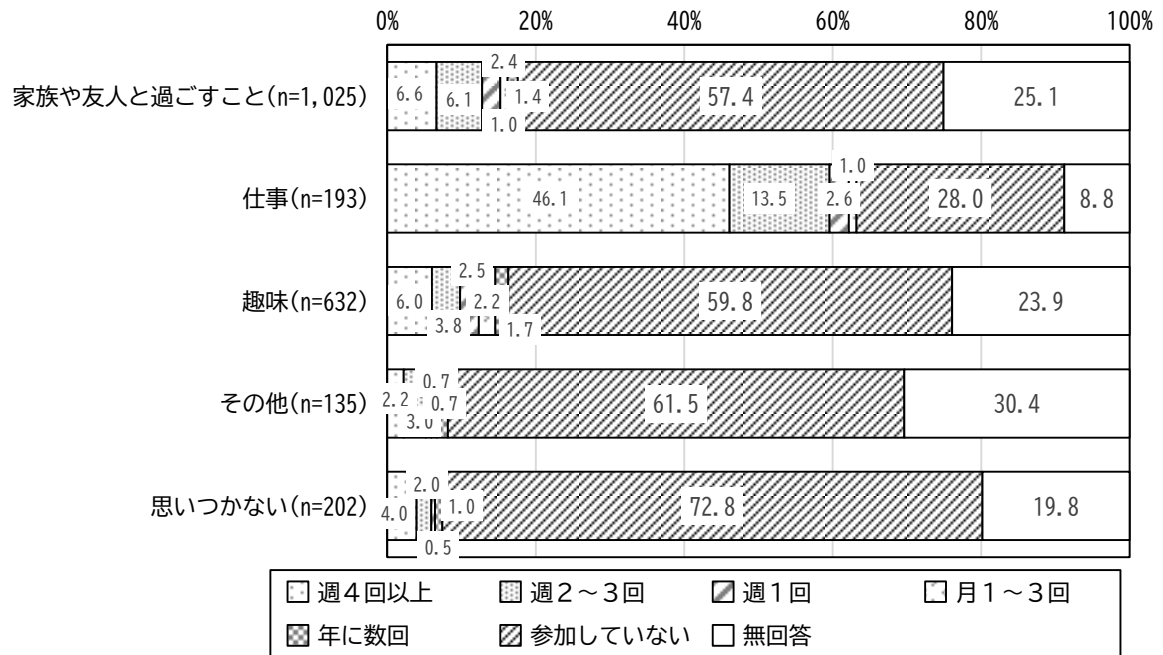
【生きがい別⑦町内会・自治会】

生きがいが「家族や友人と過ごすこと」の人で、『参加している』が21.1%と最も多くなっています。



【生きがい別⑧収入のある仕事】

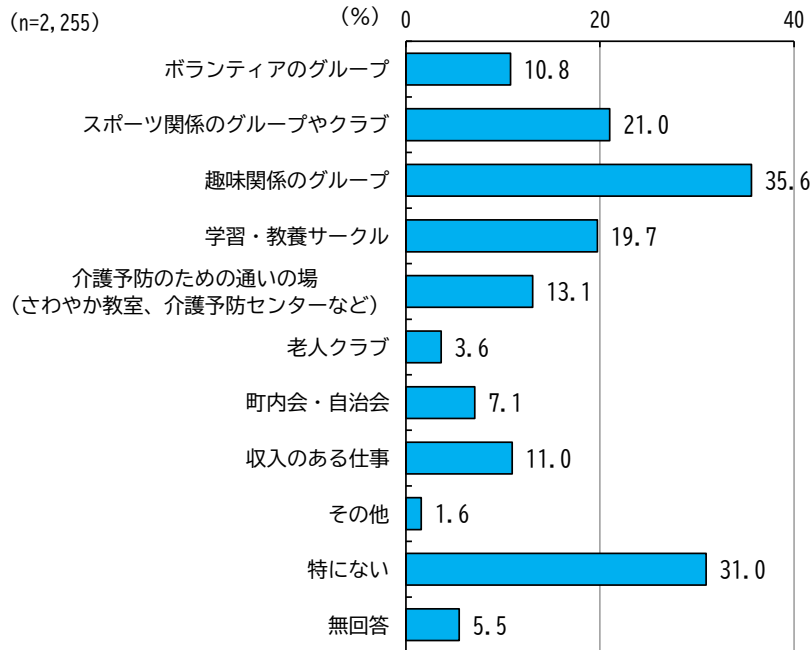
生きがいが「仕事」の人で、『参加している』が63.2%と最も多くなっています。



問5（2）参加してみたい活動は何ですか（すでに参加しているものを選択も可能です）（○は主なものの3つまで）

【全体】

今後参加したい活動については、「趣味関係のグループ」が 35.6%と最も多く、次いで、「特にない」が 31.0%、「スポーツ関係のグループ・クラブ」が 21.0%、「学習・教養サークル」が 19.7%となっています。



【性別】

性別にみると、女性では「趣味関係のグループ」「介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）」、男性では「スポーツ関係のグループ・クラブ」、「特にない」などが比較的多くなっています。

		n	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	その他	特にない	無回答
全体		2255	10.8	21.0	35.6	19.7	13.1	3.6	7.1	11.0	1.6	31.0	5.5
性別	男性	889	10.8	23.6	32.4	17.1	6.4	3.3	6.5	12.9	1.0	36.2	3.8
	女性	1339	10.7	19.5	37.9	21.4	17.4	4.0	7.6	9.6	1.9	27.6	6.6

【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「特にない」が多くなる傾向がみられますが、80～84歳では「介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）」が20.6%と他の年代に比べて多くなっています。

	n	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	その他	特にない	無回答	
全体	2255	10.8	21.0	35.6	19.7	13.1	3.6	7.1	11.0	1.6	31.0	5.5	
年齢	65～69歳	366	15.3	30.3	40.2	29.2	6.3	0.5	3.8	23.2	0.3	23.5	4.6
	70～74歳	416	13.9	28.8	39.7	27.4	5.8	1.2	6.0	19.7	1.4	27.6	1.9
	75～79歳	548	11.3	23.4	36.7	21.7	13.3	2.6	7.1	8.2	1.1	30.8	4.0
	80～84歳	432	9.5	14.4	36.1	14.4	20.6	6.3	9.5	5.1	1.6	29.6	7.2
	85歳以上	466	4.7	10.7	27.3	7.7	17.4	7.3	8.8	1.9	3.0	41.4	9.4

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では、「特にない」が3割を超えて最も多い一方、「介護予防の場（さわやか教室、介護予防センターなど）」が一般高齢者に比べて多くなっています。事業対象者では、「スポーツ関係のグループ・クラブ」が最も多くなっています。

	n	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	その他	特にない	無回答	
全体	2255	10.8	21.0	35.6	19.7	13.1	3.6	7.1	11.0	1.6	31.0	5.5	
認定状況	一般高齢者	1637	12.3	24.5	38.3	22.1	9.4	2.5	7.1	13.4	1.1	29.9	4.2
	事業対象者	27	3.7	37.0	25.9	25.9	33.3	11.1	3.7	11.1	0.0	14.8	7.4
	要支援1	339	6.2	13.9	28.0	11.5	21.8	6.8	8.0	3.5	2.4	33.9	9.4
	要支援2	225	7.1	5.8	29.8	13.3	23.6	6.7	6.7	4.0	3.6	36.9	8.9

【居住地域別】

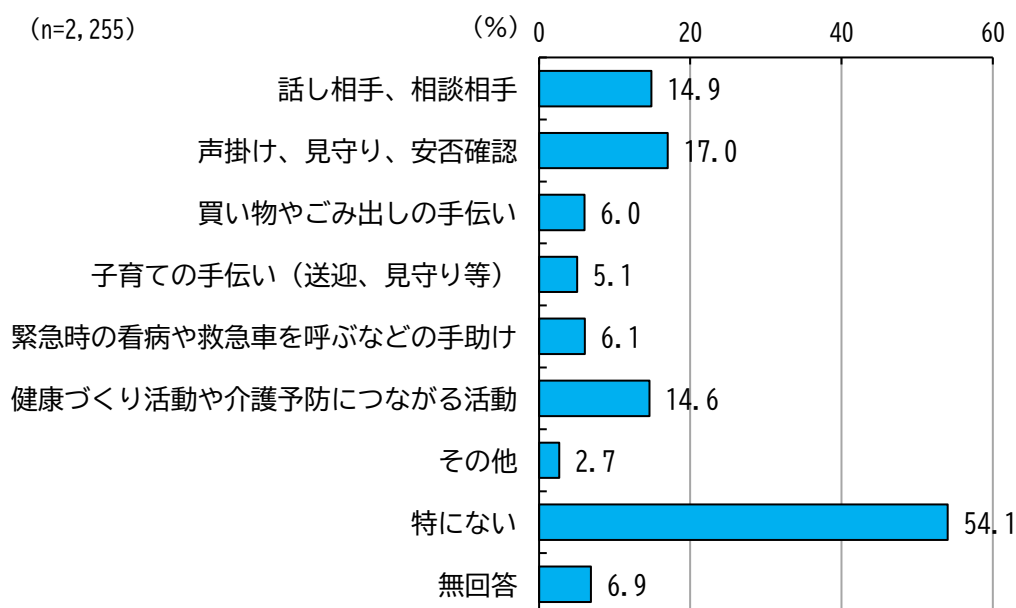
居住地域別にみると、東山手生活圏域で「趣味関係のグループ」が他の生活圏域に比べてやや多くなっています。

	n	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防のための通いの場（さわやか教室、介護予防センターなど）	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	その他	特にない	無回答	
全体	2255	10.8	21.0	35.6	19.7	13.1	3.6	7.1	11.0	1.6	31.0	5.5	
圏域	東山手生活圏域	542	11.4	22.1	41.9	19.9	12.5	2.8	6.1	11.8	1.7	28.6	4.2
	西山手生活圏域	442	9.3	19.9	33.9	21.9	11.8	2.7	6.8	11.3	1.8	31.2	5.7
	精道生活圏域	596	10.4	21.3	34.4	21.8	13.3	4.7	8.1	8.1	1.3	32.9	5.5
	潮見生活圏域	242	9.5	21.9	34.7	15.7	14.5	3.3	5.4	11.6	1.2	33.5	5.8
	打出浜生活圏域	406	12.6	20.4	32.0	16.0	13.8	4.7	8.9	13.1	1.5	29.8	6.7

問5（3）地域でお手伝いしてみたいことは何ですか（〇は主なもの3つまで）

【全体】

地域でお手伝いしてみたいことについては、「特にない」が54.1%と最も多く、次いで、「声掛け、見守り、安否確認」が17.0%、「話し相手、相談相手」が14.9%、「健康づくり活動や介護予防につながる活動」が14.6%となっています。



【性別】

性別にみると、男性では「特にない」、女性では「話し相手、相談相手」がやや多くなっています。

		n	話し相手、 相談相手	確認 声掛け、 見守り、 安否	伝 買 い 物 や ご み 出 し の 手	子 育 て の 手 伝 い (送 迎 、 見 守 り 等)	緊 急 時 の 看 病 や 救 急 車 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	予 健 康 づ く り 活 動 や 介 護 予 防 に つ な が る 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		2255	14.9	17.0	6.0	5.1	6.1	14.6	2.7	54.1	6.9
性別	男性	889	13.0	16.2	6.9	5.1	7.5	13.4	2.8	57.8	4.4
	女性	1339	16.1	17.7	5.5	5.0	5.2	15.5	2.6	51.5	8.4

【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳では「声掛け、見守り、安否確認」「健康づくり活動や介護予防につながる活動」が他の年代に比べてやや多くなっています。

		n	話し相手、 相談相手	確認 声掛け、 見守り、 安否	伝 買 い 物 や ご み 出 し の 手	子 育 て の 手 伝 い (送 迎 、 見 守 り 等)	緊 急 時 の 看 病 や 救 急 車 を 呼 ぶ な ど の 手 助 け	予 健 康 づ く り 活 動 や 介 護 予 防 に つ な が る 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		2255	14.9	17.0	6.0	5.1	6.1	14.6	2.7	54.1	6.9
年齢	65～69歳	366	15.6	21.9	9.0	11.2	7.7	18.6	2.7	48.4	3.8
	70～74歳	416	15.4	23.8	7.2	7.5	10.1	21.9	2.6	48.1	2.4
	75～79歳	548	15.0	18.4	6.0	5.1	4.7	14.6	2.4	54.7	4.9
	80～84歳	432	15.7	14.4	6.3	1.6	6.3	13.4	2.8	53.0	10.0
	85歳以上	466	13.1	8.4	2.6	1.1	2.8	6.4	3.0	63.9	12.2

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援2で「特にない」が66.2%で、一般高齢者より14.8ポイント多くなっています。

	n	話し相手、相談相手	確認 声掛け、見守り、安否	伝 買 い 物 や ご み 出 し の 手	(送迎、見守り等) 子育ての手伝い	を呼ぶなどの看病や救急車を呼ぶなどの手助け	予 健 防 に つ な が る 活 動 や 介 護	健康づくり活動や介護	その他	特にない	無回答
全体	2255	14.9	17.0	6.0	5.1	6.1	14.6	2.7	54.1	6.9	
認定状況	一般高齢者	1637	15.1	20.0	7.2	6.3	7.1	16.5	2.9	51.4	5.0
	事業対象者	27	18.5	22.2	7.4	3.7	3.7	14.8	0.0	59.3	7.4
	要支援1	339	13.9	9.1	2.9	1.5	3.8	10.0	2.7	58.4	13.6
	要支援2	225	14.7	7.1	2.2	1.3	2.7	8.4	1.8	66.2	9.3

【居住地域別】

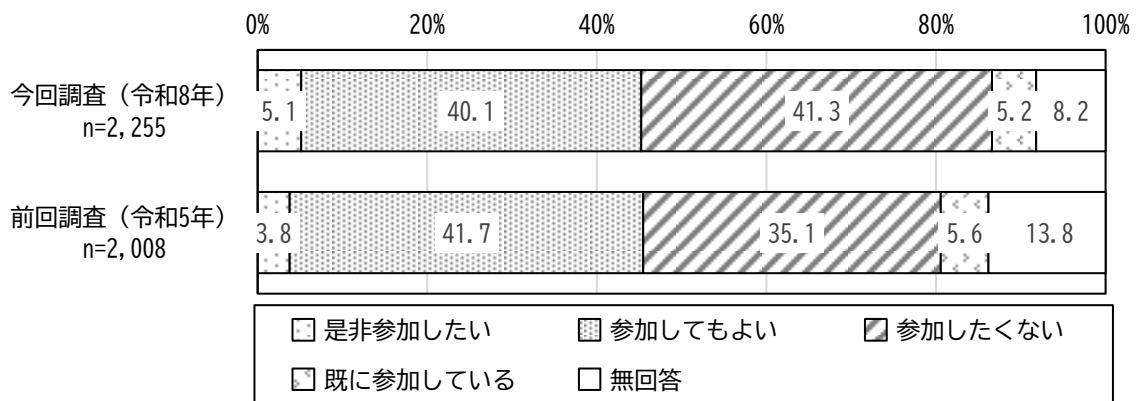
居住地域別にみると、以下の通りとなっています。

	n	話し相手、相談相手	確認 声掛け、見守り、安否	伝 買 い 物 や ご み 出 し の 手	(送迎、見守り等) 子育ての手伝い	を呼ぶなどの看病や救急車を呼ぶなどの手助け	予 健 防 に つ な が る 活 動 や 介 護	健康づくり活動や介護	その他	特にない	無回答
全体	2255	14.9	17.0	6.0	5.1	6.1	14.6	2.7	54.1	6.9	
圏域	東山手生活圏域	542	16.1	18.1	5.4	7.4	5.9	16.1	3.0	50.2	7.4
	西山手生活圏域	442	16.1	17.4	6.6	4.5	6.8	16.1	1.6	54.5	6.3
	精道生活圏域	596	13.4	16.4	5.5	4.5	7.6	14.9	3.0	55.2	6.7
	潮見生活圏域	242	16.1	15.3	6.6	5.0	5.8	13.2	3.7	55.0	3.7
	打出浜生活圏域	406	13.5	17.5	6.9	3.2	3.7	11.8	2.5	56.4	8.4

問5（4）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行(おこな)って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（1つに○）

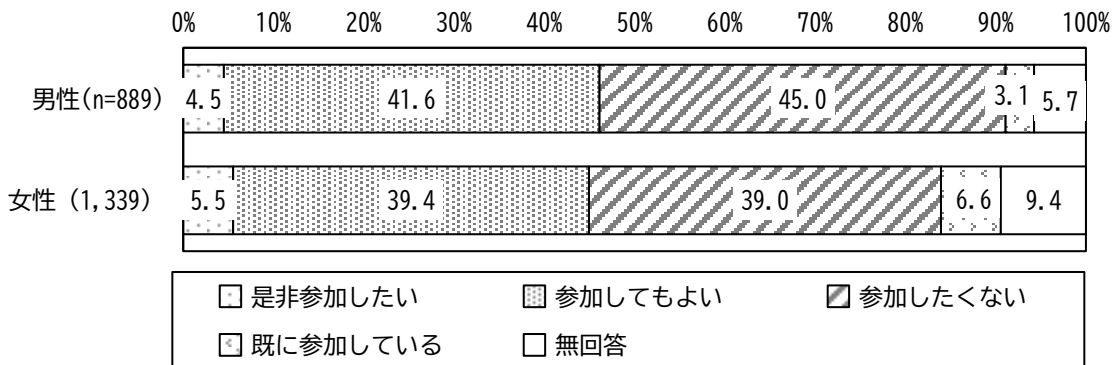
【全体】

地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」が5.1%、「参加してもよい」が40.1%で、「既に参加している」の5.2%も合わせて、『参加意向あり』は合計50.4%となっています。



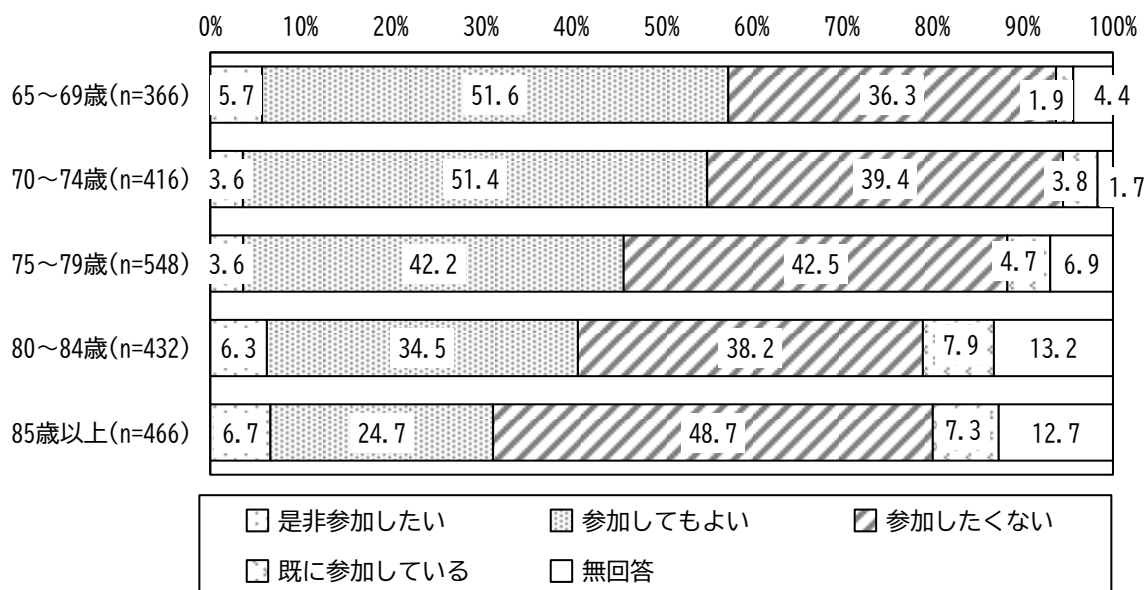
【性別】

性別にみると、男性の方が「参加したくない」が6.0ポイント多くなっています。



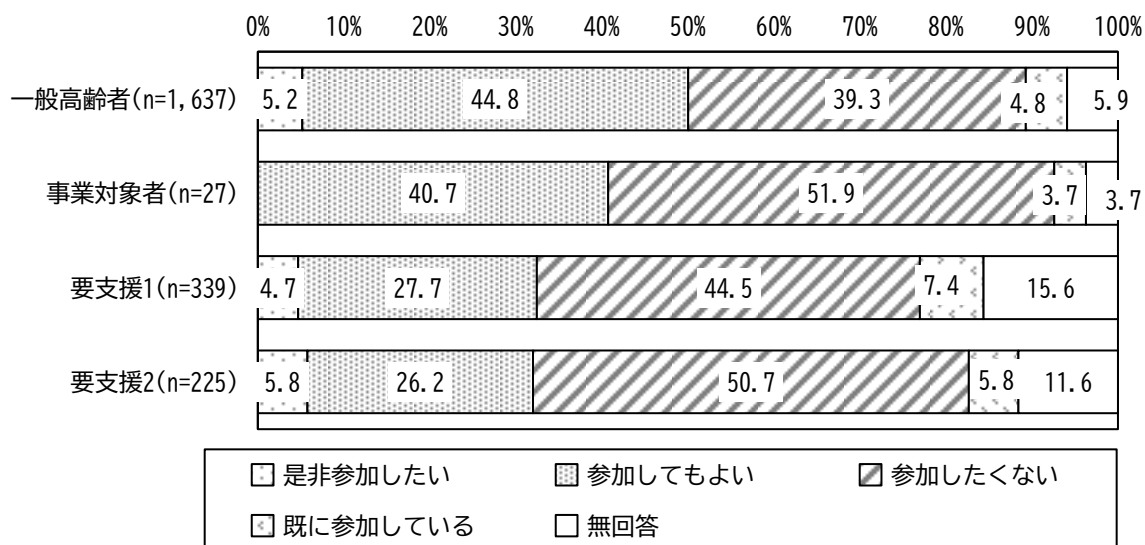
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど『参加意向あり』が減少する傾向がみられます。



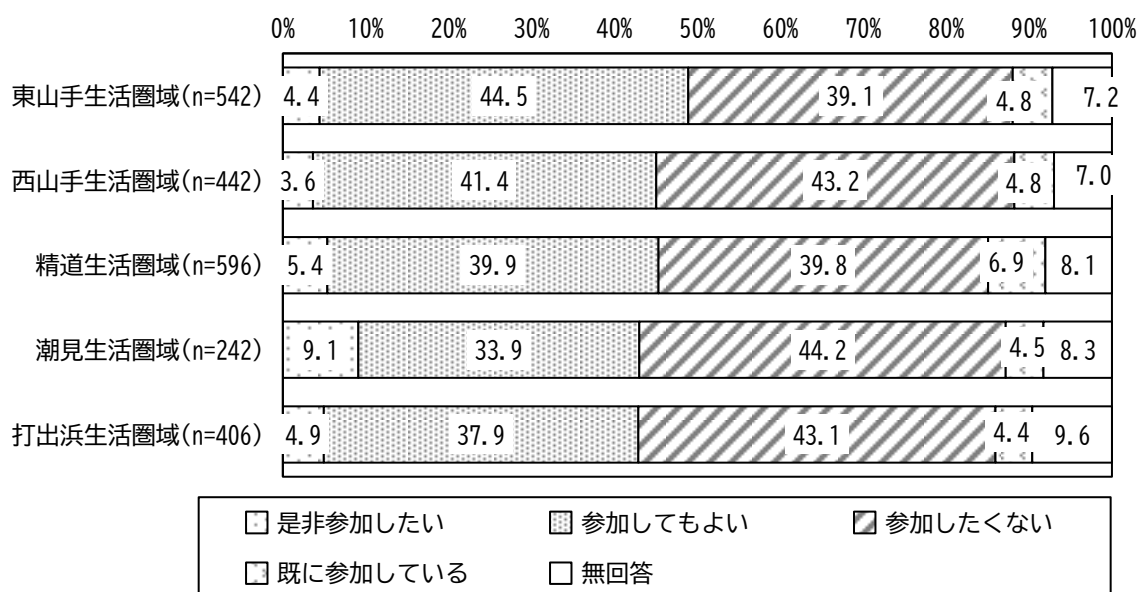
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者では『参加意向あり』が54.8%と多くなっています。



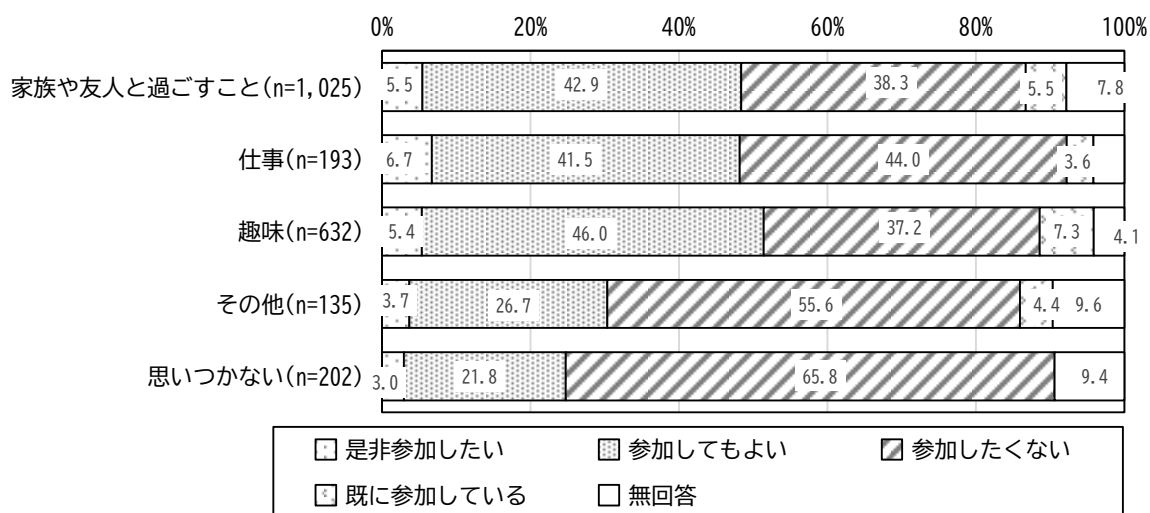
【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域で「是非参加したい」が9.1%と、他の生活圏域に比べてやや多くなっています。



【生きがい別】

生きがいが「趣味」の人で、『参加意向あり』が58.7%と最も多くなっています。

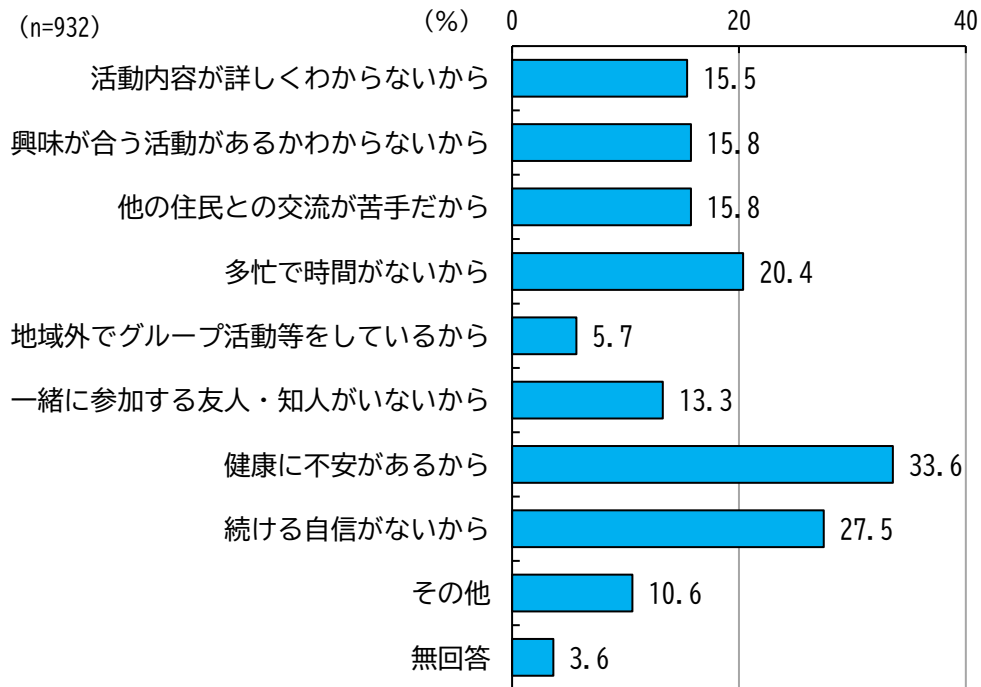


問5（4）で「3. 参加したくない」を選択した方

参加したくないと考えた理由は何ですか（○は主なもの3つまで）

【全体】

参加したくない理由については、「健康に不安があるから」が33.6%と最も多く、次いで「続ける自信がないから」が27.5%、「多忙で時間がないから」が20.4%となっています。



◇参加したくない理由「その他」の主な回答

内容		
高齢のため、体力的に難しい	病気や体調面に不安がある	歩行困難や足腰の不自由がある
家族の介護・看護がある	仕事や日常生活で忙しい	興味がない、集団活動が苦手

など

【性別】

性別にみると、男性では「多忙で時間がないから」が7.6ポイント、女性では「健康に不安があるから」が10.8ポイント多くなっています。

	n	活動内容が詳しくわからないから	興味が合う活動があるかわからないから	他の住民との交流が苦手だから	多忙で時間がないから	地域外でグループ活動等をしているから	一緒に参加する友人・知人がいないから	健康に不安があるから	続ける自信がないから	その他	無回答
全体	932	15.5	15.8	15.8	20.4	5.7	13.3	33.6	27.5	10.6	3.6
性別 男性	400	18.0	18.0	16.3	24.8	5.3	14.5	27.3	25.0	11.3	3.8
性別 女性	522	13.4	14.0	15.3	17.2	6.1	12.3	38.1	29.5	10.2	3.6

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「健康に不安があるから」「多忙で時間がないから」が増加しています。一方で、65～69歳では「他の住民との交流が苦手だから」が他の年代に比べて多くなっています。

	n	活動内容が詳しくわからないから	興味が合う活動があるかわからないから	他の住民との交流が苦手だから	多忙で時間がないから	地域外でグループ活動をしているから	一緒に参加する友人・知人がいないから	健康に不安があるから	続ける自信がないから	その他	無回答	
全体	932	15.5	15.8	15.8	20.4	5.7	13.3	33.6	27.5	10.6	3.6	
年齢	65～69歳	133	18.0	18.0	25.6	45.1	3.8	17.3	12.0	17.3	9.0	1.5
	70～74歳	164	17.1	18.9	16.5	30.5	9.1	12.2	20.1	21.3	11.0	3.0
	75～79歳	233	16.3	16.3	14.2	18.5	8.2	12.0	28.8	28.8	10.3	3.9
	80～84歳	165	15.2	16.4	15.8	15.2	4.2	15.8	46.7	32.7	10.3	3.6
	85歳以上	227	11.9	11.0	11.0	4.8	3.1	11.0	50.7	33.0	11.9	5.3

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者では「多忙で時間がないから」が27.4%と最も多くなっています。要支援認定者では「健康に不安があるから」が特に多くなっています。

	n	活動内容が詳しくわからないから	興味が合う活動があるかわからないから	他の住民との交流が苦手だから	多忙で時間がないから	地域外でグループ活動をしているから	一緒に参加する友人・知人がいないから	健康に不安があるから	続ける自信がないから	その他	無回答	
全体	932	15.5	15.8	15.8	20.4	5.7	13.3	33.6	27.5	10.6	3.6	
認定状況	一般高齢者	643	17.6	18.8	18.0	27.4	6.8	14.3	21.5	26.0	9.8	3.0
	事業対象者	14	7.1	28.6	21.4	7.1	0.0	28.6	42.9	21.4	28.6	7.1
	要支援1	151	12.6	6.6	10.6	6.6	5.3	11.3	58.3	33.8	12.6	4.6
	要支援2	114	7.9	8.8	8.8	1.8	0.9	7.9	66.7	28.9	10.5	6.1

【居住地域別】

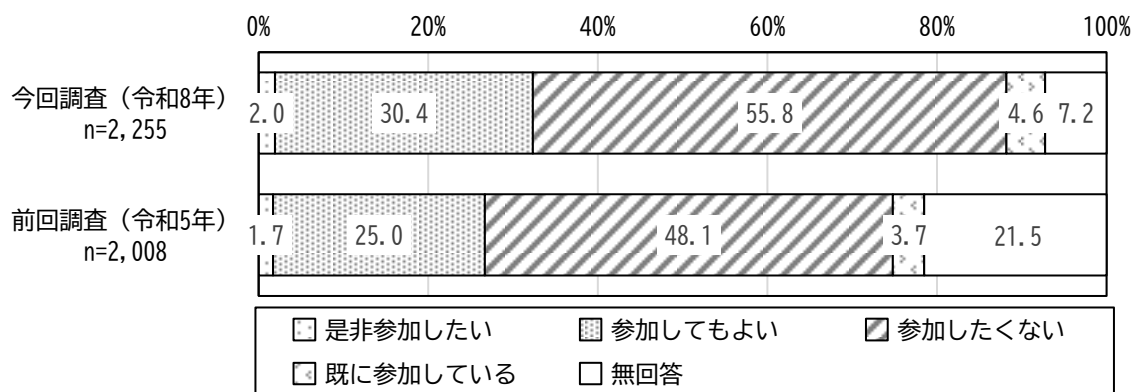
居住地域別にみると、西山手生活圏域では「続ける自信がないから」、その他の生活圏域では「健康に不安があるから」が最も多くなっています。

	n	活動内容が詳しくわからないから	興味が合う活動があるから	他の住民との交流が苦手だから	多忙で時間がないから	地域外でグループ活動をしていないから	知人がいないから	一緒に参加する友人・知人がいないから	健康に不安があるから	続ける自信がないから	その他	無回答
全体	932	15.5	15.8	15.8	20.4	5.7	13.3	33.6	27.5	10.6	3.6	
圏域	東山手生活圏域	212	19.3	16.0	15.6	23.1	7.5	10.8	25.5	32.1	12.3	1.9
	西山手生活圏域	191	13.6	16.2	12.0	23.0	6.3	13.6	29.3	23.0	10.5	4.2
	精道生活圏域	237	14.8	16.9	15.2	16.5	5.9	15.2	39.7	28.3	11.0	3.4
	潮見生活圏域	107	10.3	11.2	19.6	21.5	2.8	14.0	40.2	32.7	4.7	3.7
	打出浜生活圏域	175	16.6	16.0	18.3	19.4	4.6	12.6	34.9	22.9	12.0	5.7

問5 (5) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行(おこな)って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(1つに○)

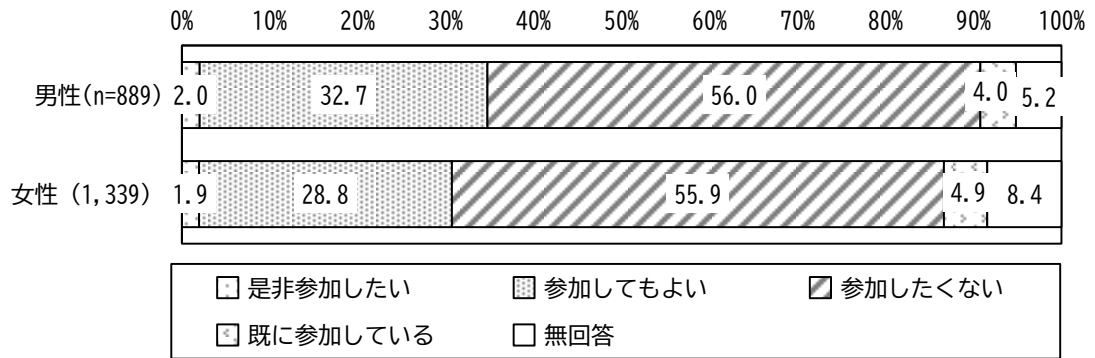
【全体】

地域の会・グループ活動等への企画・運営(お世話役)としての参加意向は、「是非参加したい」が2.0%、「参加してもよい」が30.4%で、「既に参加している」の4.6%も合わせて、『参加意向あり』は合計37.0%となっており、前回調査に比べて6.6ポイント増加しています。



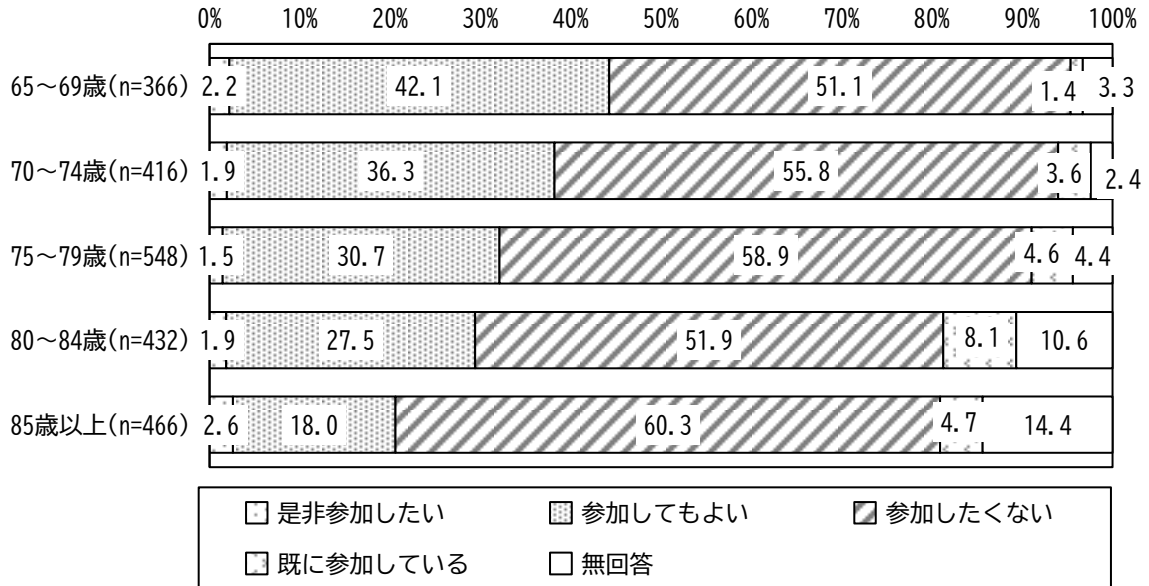
【性別】

性別にみると、男性の方が「参加してもよい」が3.9ポイント高くなっています。



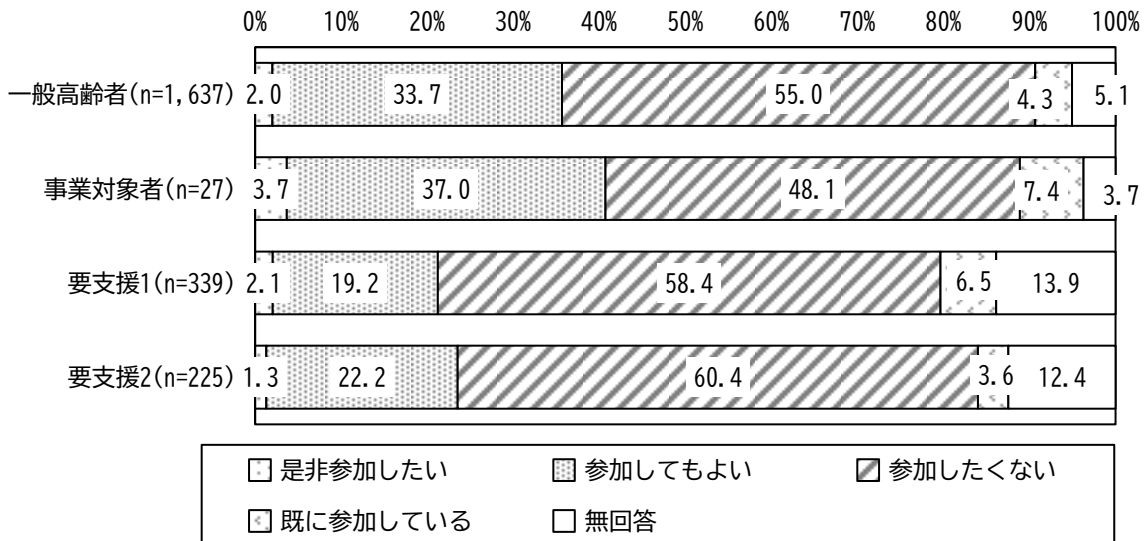
【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「参加してもよい」の割合が減少しています。



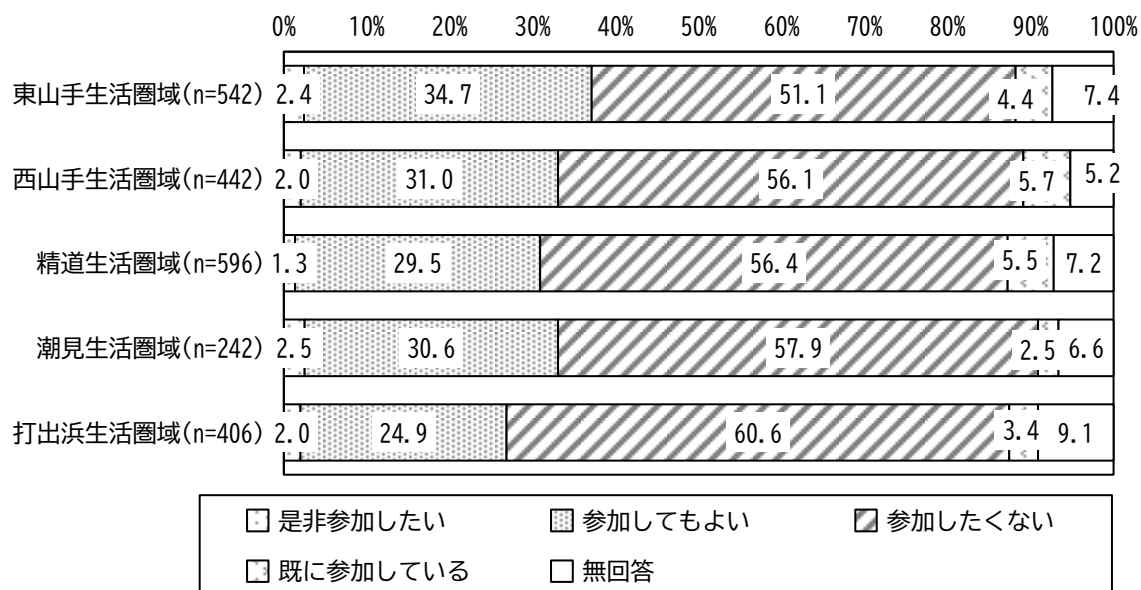
【認定状況別】

認定状況別にみると、『参加意向あり』は事業対象者で48.1%と最も多くなっています。



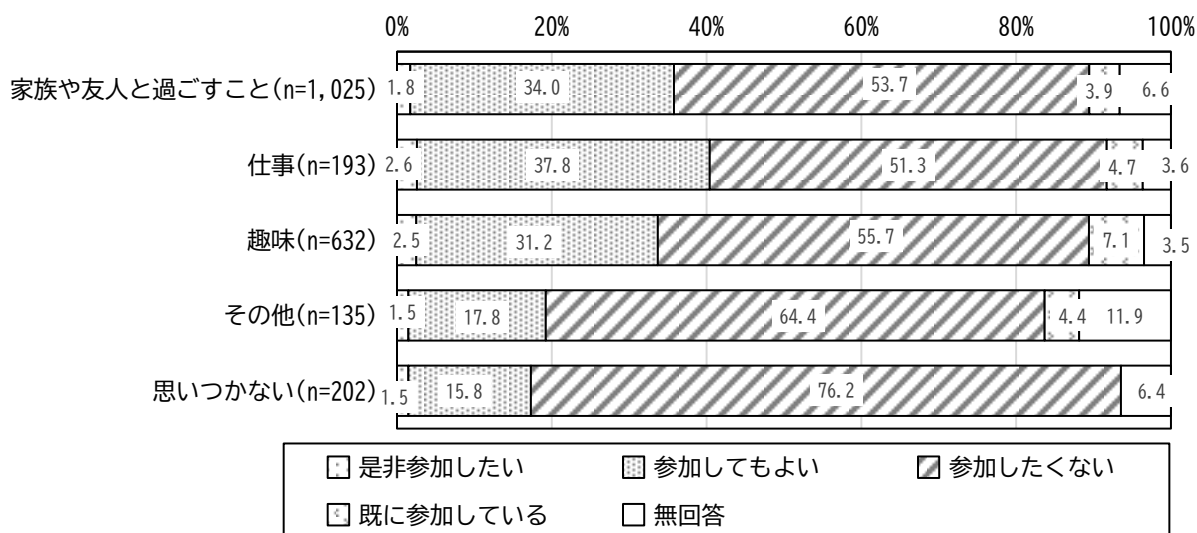
【居住地域別】

居住地域別にみると、『参加意向あり』は西山手生活圏域で38.7%と最も多くなっています。



【生きがい別】

生きがいが「仕事」の人で、『参加意向あり』が45.1%と最も多くなっています。



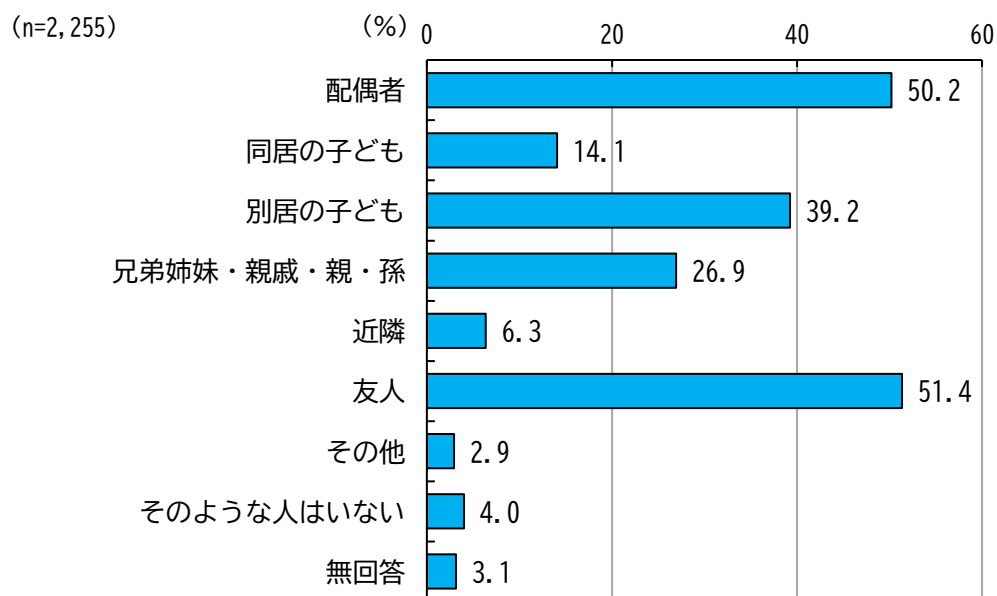
問6 たすけあいについて

1) たすけあいの状況

問6 (1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)

【全体】

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「友人」が51.4%と最も多く、次いで、「配偶者」が50.2%、「別居の子ども」が39.2%となっています。



【性別】

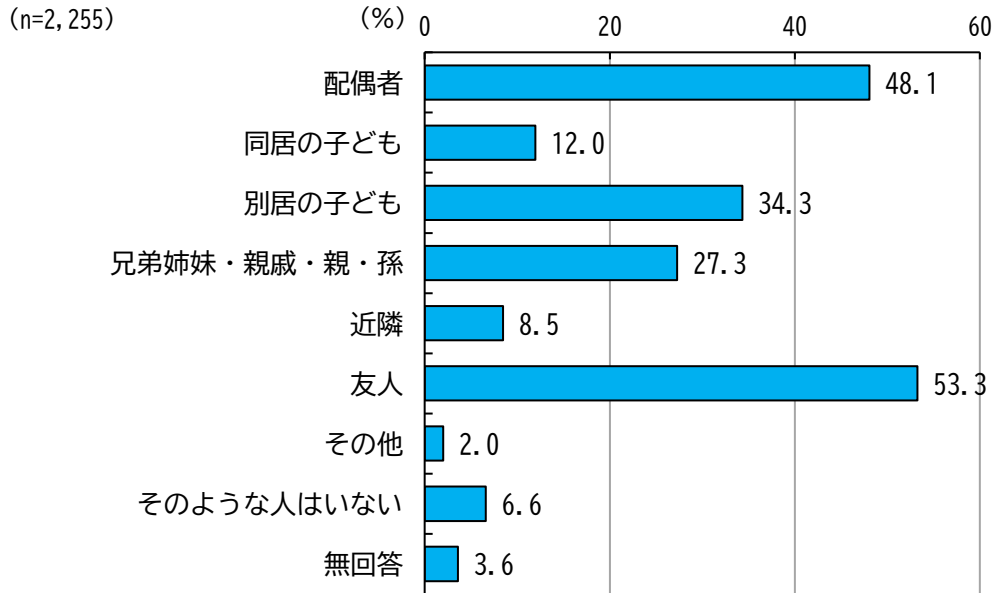
性別にみると、男性は「配偶者」が73.3%と最も多く、女性は「友人」が60.2%と最も多くなっています。また、「そのような人はいない」は、男性が女性に比べて2.6ポイント多くなっています。

	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2255	50.2	14.1	39.2	26.9	6.3	51.4	2.9	4.0	3.1
性別										
男性	889	73.3	10.3	30.8	16.6	2.5	38.4	2.0	5.6	3.0
女性	1339	35.0	16.6	45.1	33.7	8.9	60.2	3.3	3.0	3.1

問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（〇はいくつでも）

【全体】

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が 53.3%と最も多く、次いで、「配偶者」が 48.1%、「別居の子ども」が 34.3%となっています。



【性別】

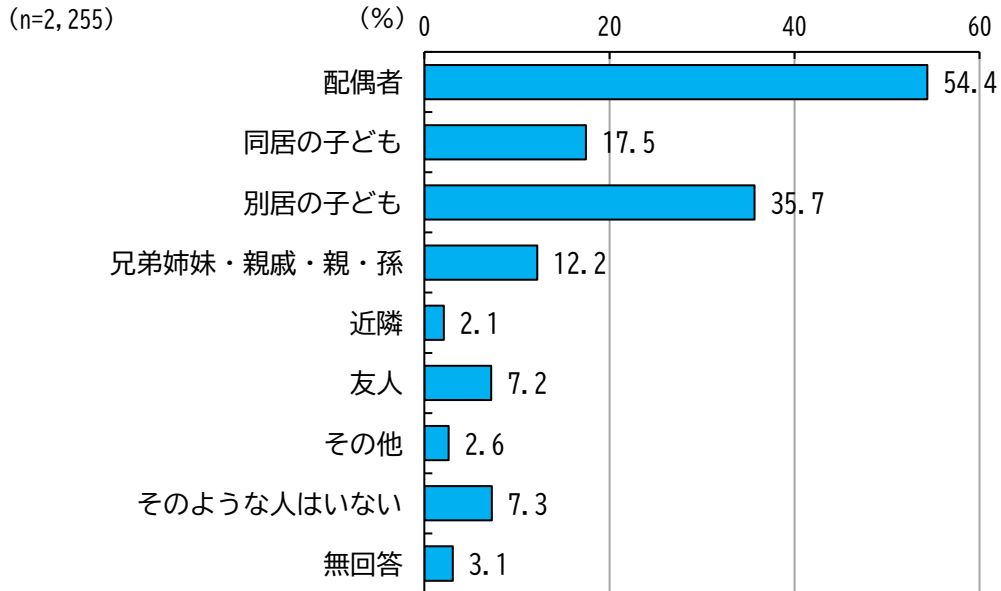
性別にみると、心配事や愚痴を聞いてくれる人同様、男性は「配偶者」が 71.9%と最も多く、女性は「友人」が 63.0%と最も多くなっており、「そのような人はいない」は、男性が女性に比べて 1.5 ポイント多くなっています。

	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2255	48.1	12.0	34.3	27.3	8.5	53.3	2.0	6.6	3.6
性別 男性	889	71.9	9.9	29.2	18.7	4.3	38.6	2.0	7.5	3.3
性別 女性	1339	32.5	13.4	37.9	32.9	11.2	63.0	2.0	6.0	3.7

問6（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）

【全体】

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が54.4%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が35.7%、「同居の子ども」が17.5%となっています。



【性別】

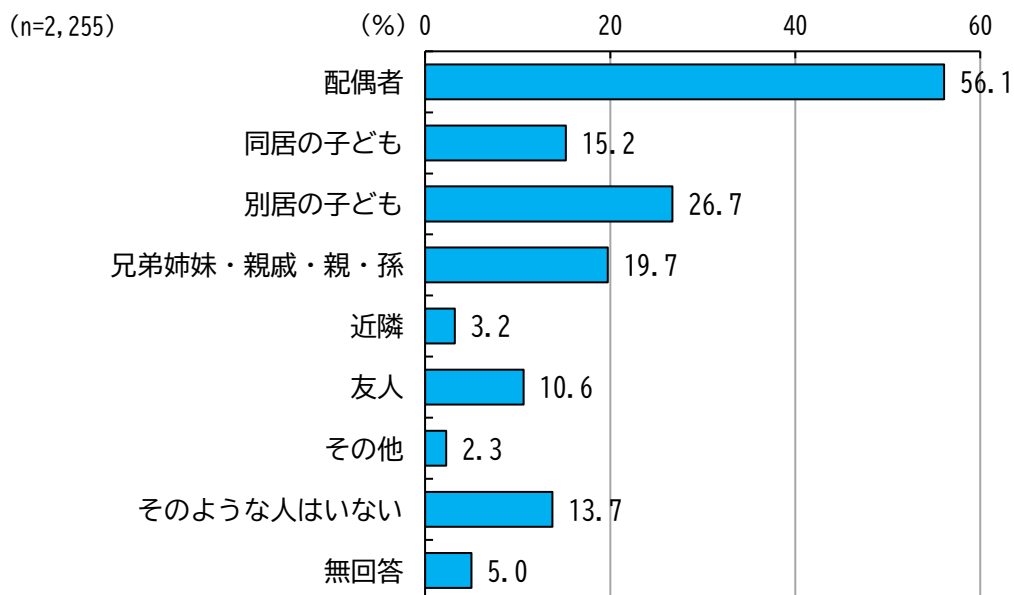
性別にみると、男性は「配偶者」が78.3%と最も多く、女性は「別居の子ども」が42.3%、「配偶者」が38.8%となっています。

	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2255	54.4	17.5	35.7	12.2	2.1	7.2	2.6	7.3	3.1
性別 男性	889	78.3	12.5	26.0	7.4	0.4	4.0	2.1	5.7	2.8
性別 女性	1339	38.8	20.7	42.3	15.4	3.1	9.3	2.9	8.4	3.1

問6（4）反対に、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）

【全体】

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が56.1%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が26.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が19.7%となっています。



【性別】

性別にみると、看護や世話をしてくれる人同様、男性は「配偶者」が76.0%と最も多く、女性は「配偶者」が43.2%、「別居の子ども」が31.0%となっています。

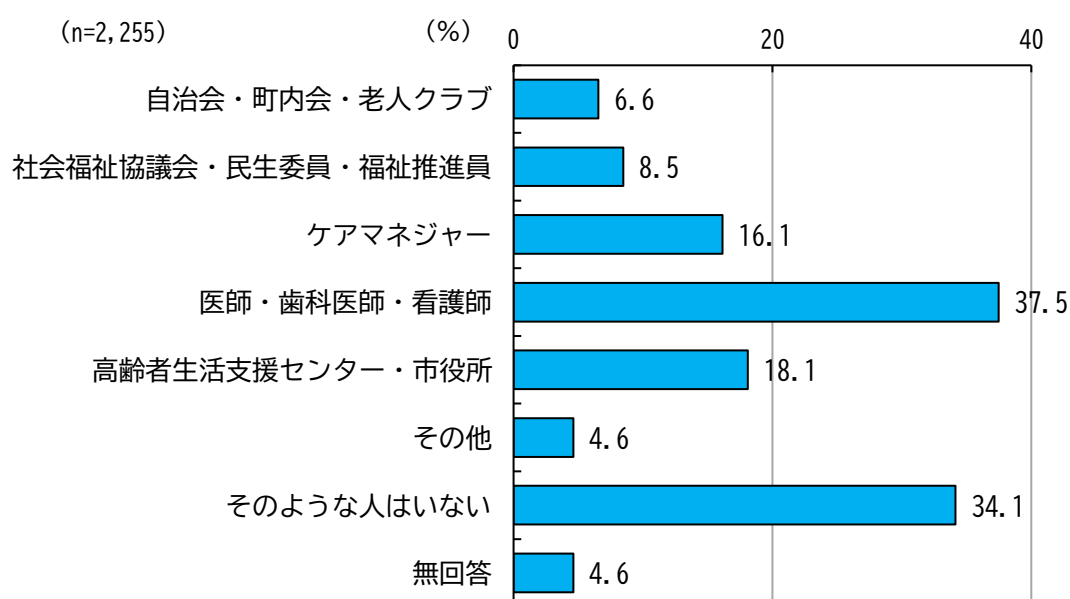
	n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2255	56.1	15.2	26.7	19.7	3.2	10.6	2.3	13.7	5.0
性別										
男性	889	76.0	12.5	20.8	14.1	0.8	5.2	1.9	11.2	3.6
女性	1339	43.2	17.0	31.0	23.6	4.8	14.1	2.5	15.4	5.9

2) 相談相手

問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(〇はいくつでも)

【全体】

家族や友人・知人以外の相談相手は、「医師・歯科医師・看護師」が37.5%と最も多く、次いで、「そのような人はいない」が34.1%、「高齢者生活支援センター・市役所」が18.1%、「ケアマネジャー」が16.1%となっています。



【性別】

性別にみると、男性は「医師・歯科医師・看護師」、女性は「ケアマネジャー」「高齢者生活支援センター・市役所」が比較的多くなっています。

	n	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員・福祉推進員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	高齢者生活支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2255	6.6	8.5	16.1	37.5	18.1	4.6	34.1	4.6
性別 男性	889	6.7	7.0	11.6	41.3	14.6	4.9	36.1	4.3
性別 女性	1339	6.6	9.6	18.9	35.1	20.2	4.3	33.0	4.6

【年齢別】

年齢別にみると、80～84歳では「医師・歯科医師・看護師」、85歳以上では「ケアマネジャー」、その他の年代では「そのような人はいない」が最も多くなっています。

	n	自治会・町内会・老人クラブ	・社会福祉協議会 ・民生委員・福祉推進員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	・高齢者生活支援センター ・市役所	その他	そのような人はいない	無回答	
全体	2255	6.6	8.5	16.1	37.5	18.1	4.6	34.1	4.6	
年齢	65～69歳	366	3.8	5.7	4.1	39.3	13.9	5.7	44.3	4.1
	70～74歳	416	6.5	7.5	6.3	40.1	14.9	5.0	41.8	1.9
	75～79歳	548	5.5	6.8	8.9	36.3	17.7	3.3	38.7	4.0
	80～84歳	432	8.8	9.3	22.0	38.4	19.7	4.2	27.1	6.7
	85歳以上	466	8.4	13.1	36.7	34.5	22.5	5.2	21.0	5.6

【認定状況別】

居住地域別にみると、事業対象者では「医師・歯科医師・看護師」、要支援認定者では「ケアマネジャー」、一般高齢者では「そのような人はいない」が最も多くなっています。

	n	自治会・町内会・老人クラブ	・社会福祉協議会 ・民生委員・福祉推進員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	・高齢者生活支援センター ・市役所	その他	そのような人はいない	無回答	
全体	2255	6.6	8.5	16.1	37.5	18.1	4.6	34.1	4.6	
認定状況	一般高齢者	1637	6.5	7.5	3.3	39.2	15.3	4.8	40.6	4.1
	事業対象者	27	7.4	7.4	37.0	48.1	25.9	11.1	22.2	7.4
	要支援1	339	8.6	13.3	50.1	33.0	29.5	3.2	17.1	4.7
	要支援2	225	4.9	8.9	54.2	31.6	18.7	4.4	15.1	6.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、打出浜生活圏域では「そのような人はいない」、その他の生活圏域では「医師・歯科医師・看護師」が最も多くなっています。

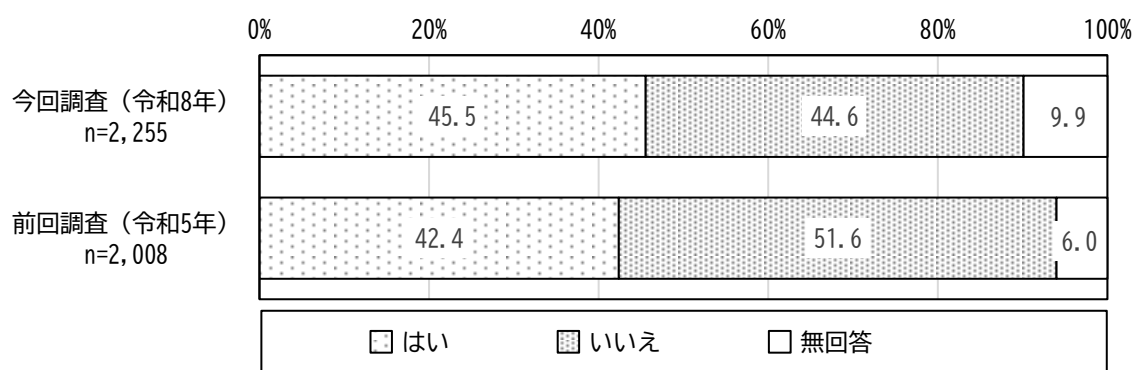
	n	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会 ・民生委員・福祉推進員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	高齢者生活支援センター ・市役所	その他	そのような人はいない	無回答	
全体	2255	6.6	8.5	16.1	37.5	18.1	4.6	34.1	4.6	
圏域	東山手生活圏域	542	4.1	6.5	15.5	41.0	17.3	4.6	33.9	5.5
	西山手生活圏域	442	7.0	9.3	16.7	39.8	17.6	5.0	33.5	2.0
	精道生活圏域	596	7.0	10.6	16.1	39.3	17.6	3.7	32.4	4.5
	潮見生活圏域	242	8.7	4.5	17.4	36.4	16.5	5.0	36.0	4.5
	打出浜生活圏域	406	7.9	9.9	14.8	28.8	20.4	5.2	37.2	5.7

3) 高齢者生活支援センターについて

問6 (6) お住いのエリアを担当する「高齢者生活支援センター」を知っていますか

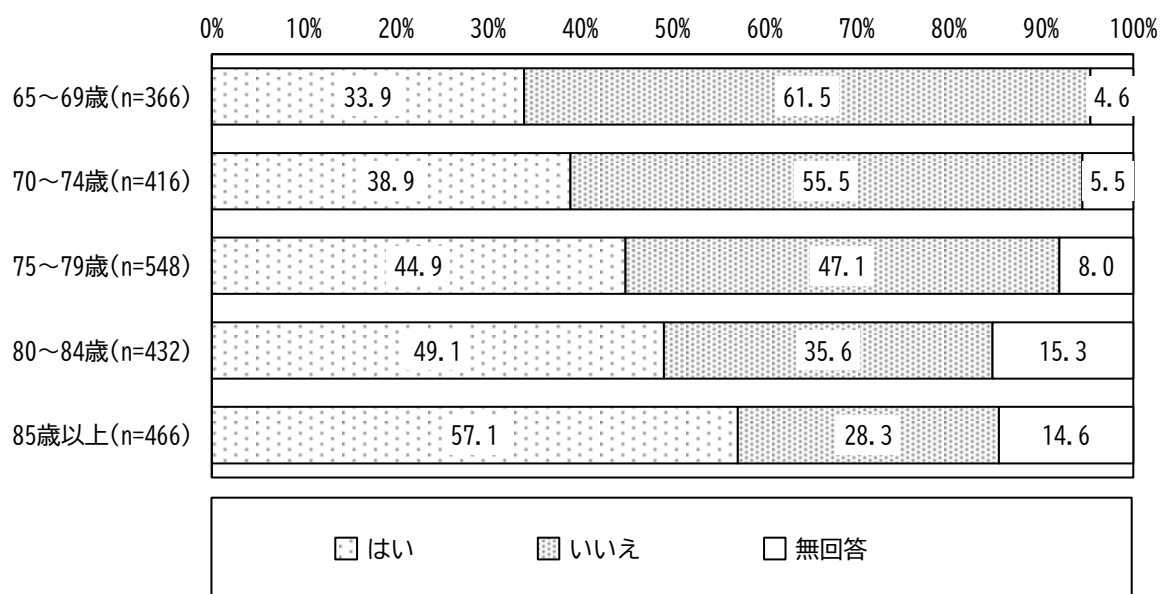
【全体】

「高齢者生活支援センター」の認知については、「はい」(知っている)が45.5%、「いいえ」(知らない)が44.6%となっています。前回調査に比べて、「はい」が3.1ポイント増加しています。



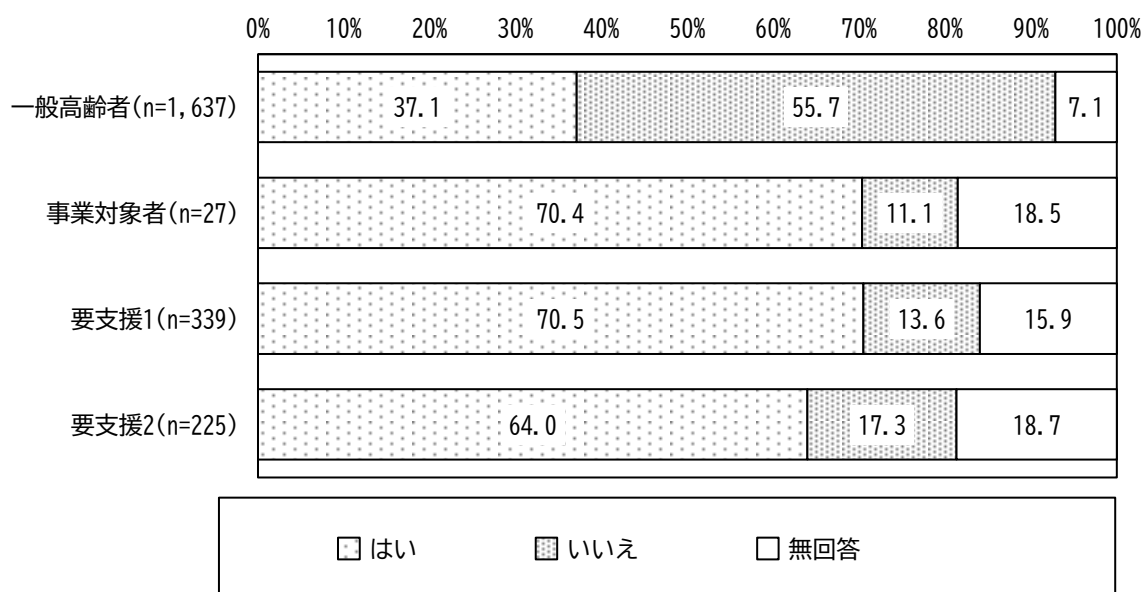
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて認知度も上がり、85歳以上では「はい」(知っている)が半数以上を占めています。



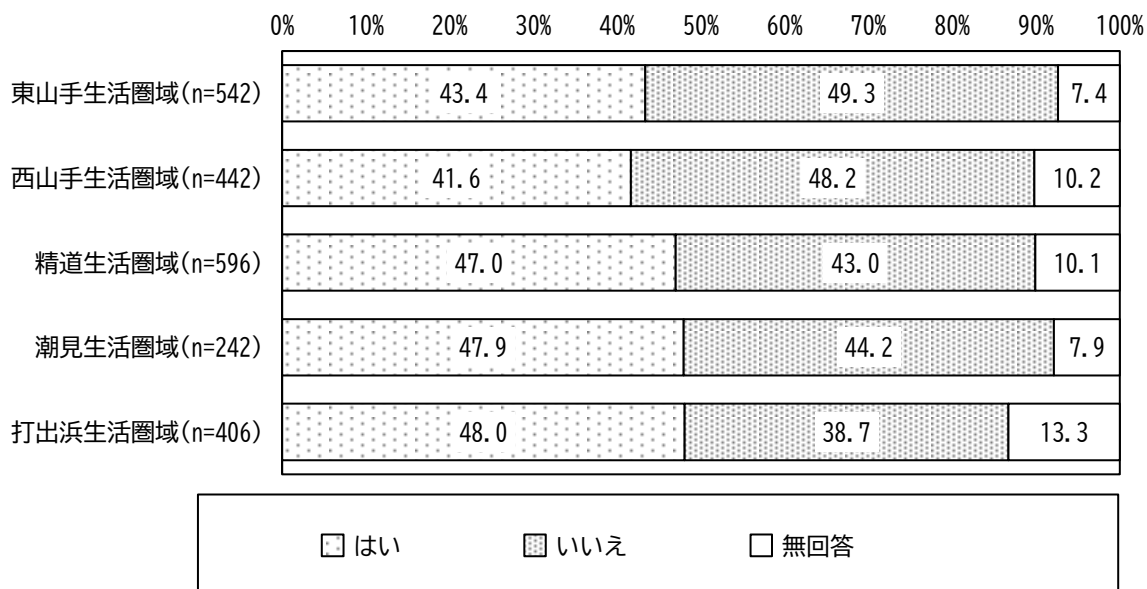
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1では「はい」（知っている）が事業対象者、要支援1で約7割と多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、「はい」（知っている）は、西山手生活圏域では 41.6%とやや少なくなっています。

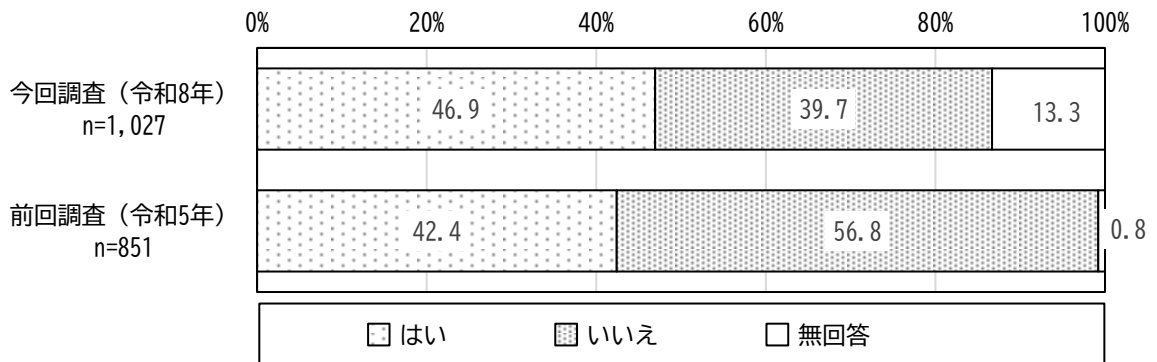


問6(6)で「1. はい」を選択した方

あなたやご家族は、高齢者生活支援センターを利用したことがありますか

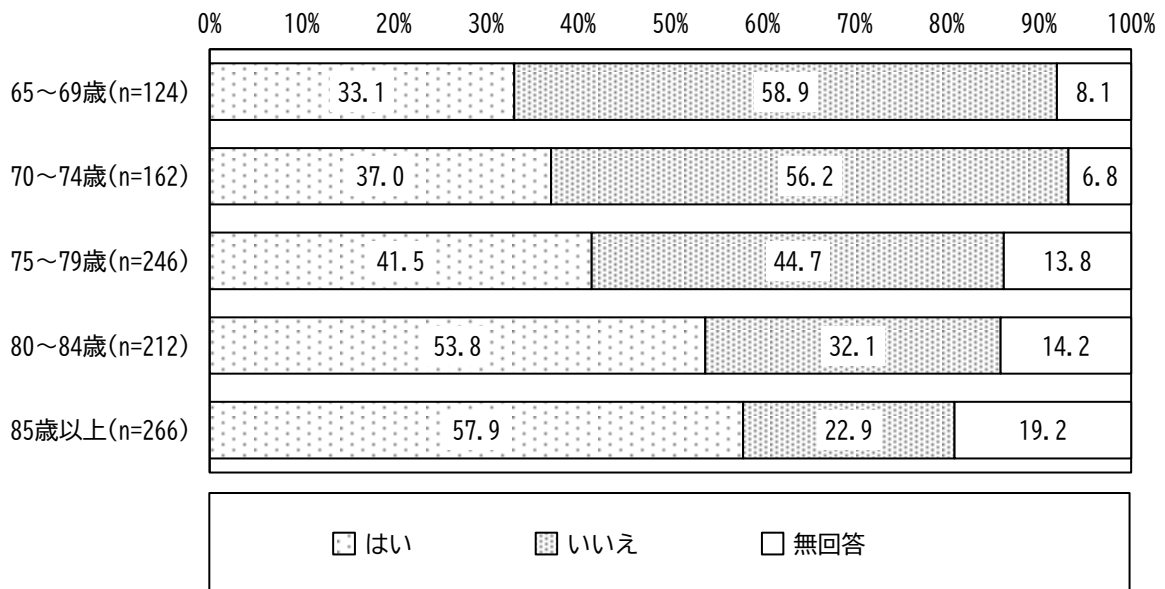
【全体】

「高齢者生活支援センター」の利用の有無については、「はい」(利用したことがある)が46.9%、「いいえ」(利用したことがない)が39.7%となっています。前回調査に比べて、「はい」が4.5ポイント増加しています。



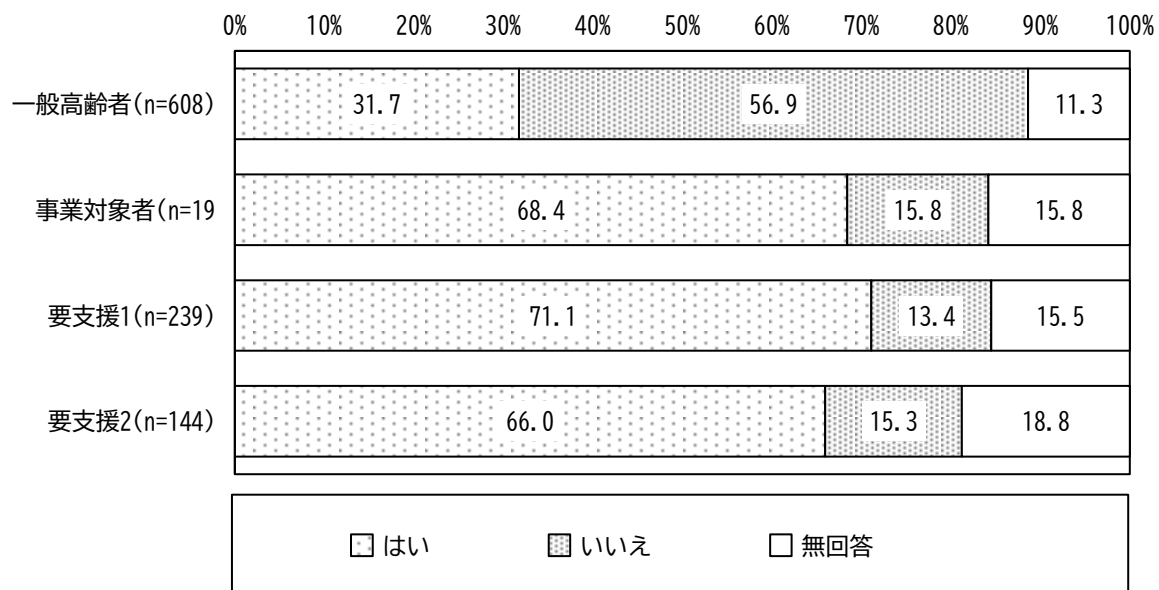
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」(利用したことがある)の割合も多くなり、80歳以上では半数以上の方が利用しています。



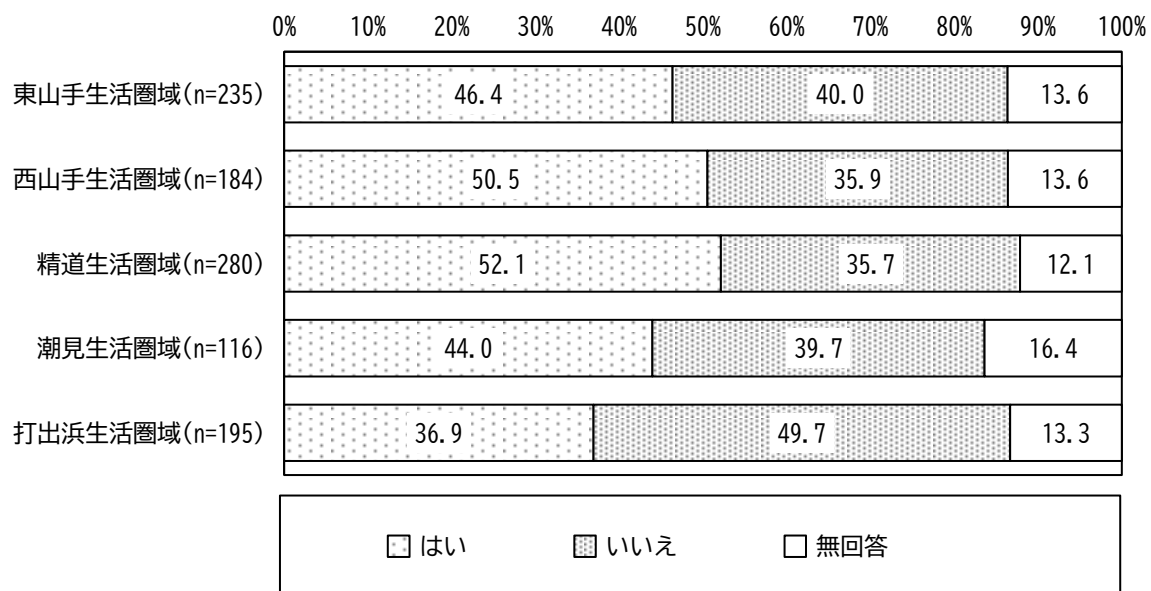
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1では「はい」（利用したことがある）が71.1%となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、「はい」（利用したことがある）は精道生活圏域で52.1%と最も多く、打出浜生活圏域では36.9%と少なくなっています。

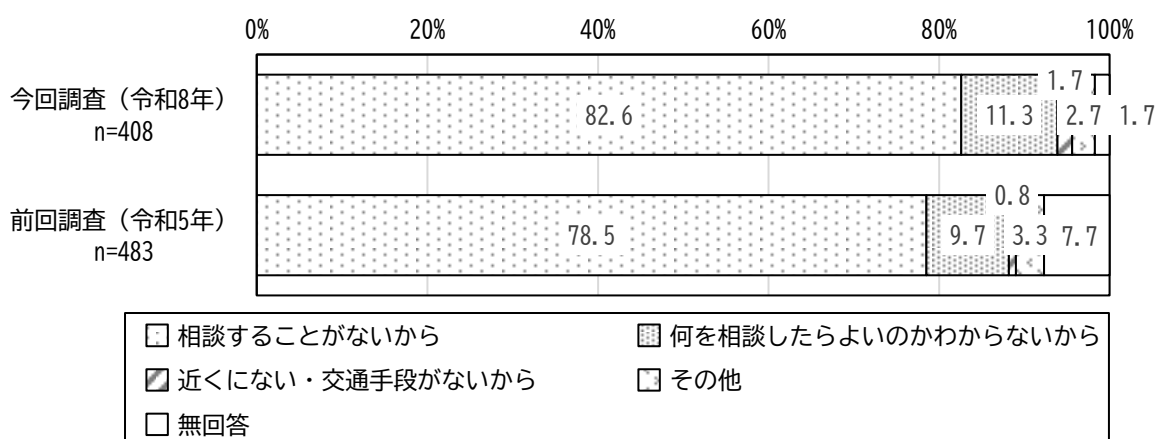


上の問で「2. いいえ」を選択した方

利用していない理由は何ですか（主なもの1つに○）

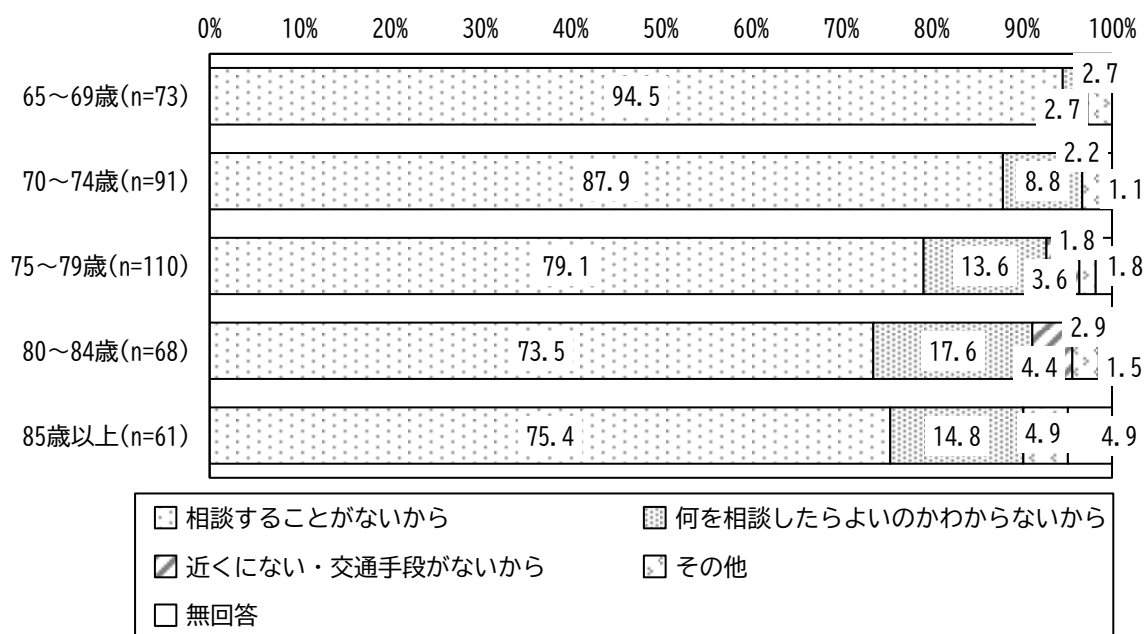
【全体】

高齢者生活支援センターを利用していない理由は、「相談することがないから」が82.6%と最も多く、次いで、「何を相談したらよいのかわからないから」が11.3%となっています。



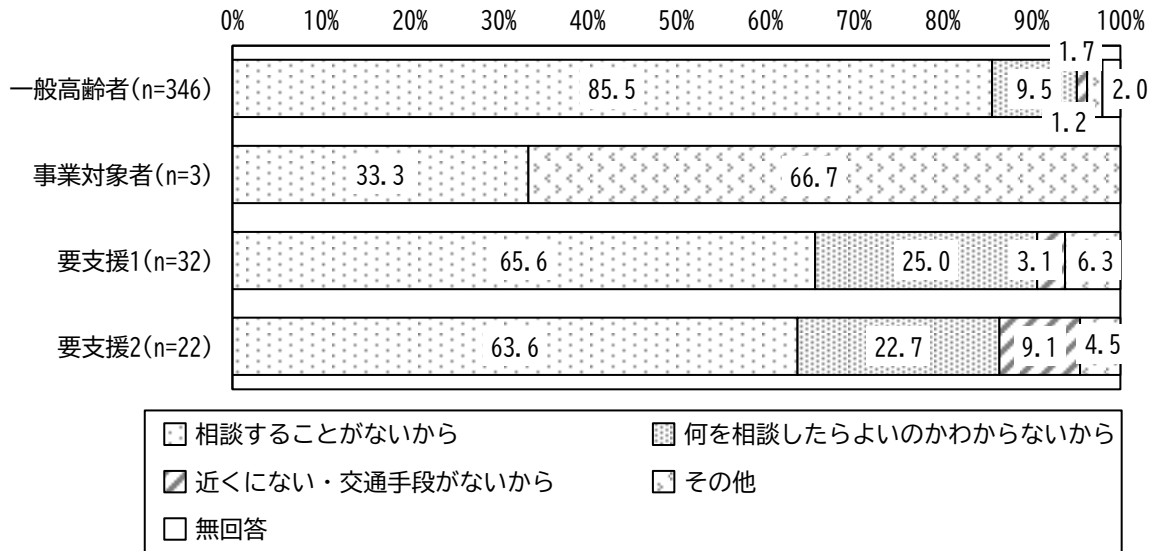
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「何を相談したらよいのかわからないから」の割合が多くなる傾向がみられ、80～84歳では17.6%、85歳以上では14.8%となっています。



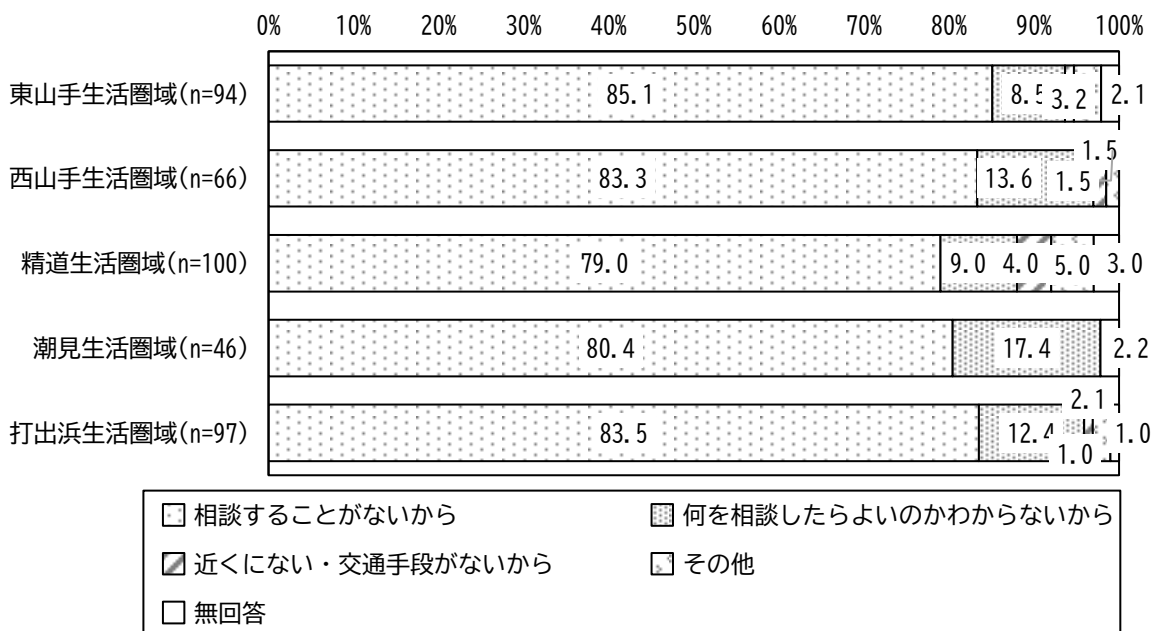
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では「何を相談したらよいのかわからないから」が2割を超えています。また、要支援2では「近くにない・交通手段がないから」が9.1%とやや多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域では、「何を相談したらよいのかわからないから」が17.4%と、他の生活圏域に比べて多くなっています。

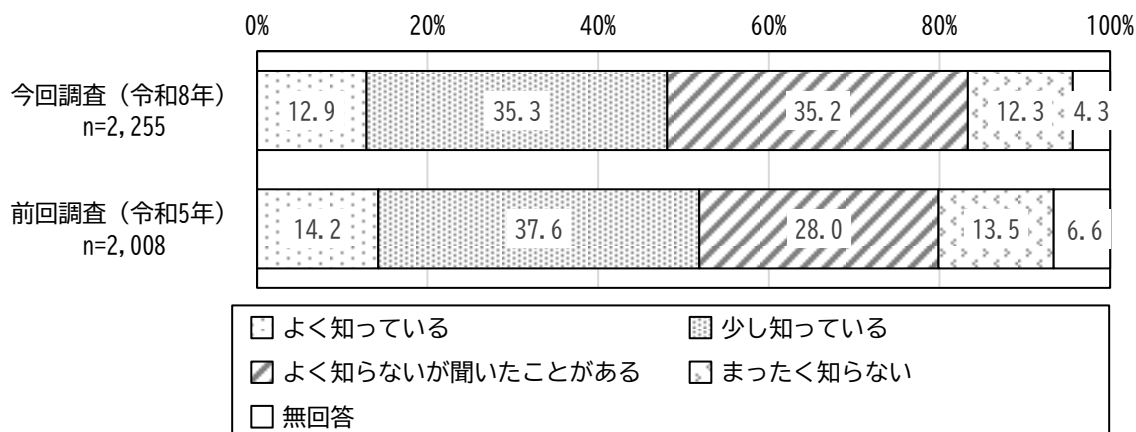


4) 成年後見制度について

(7) 「成年後見制度」について知っていますか（1つに○）

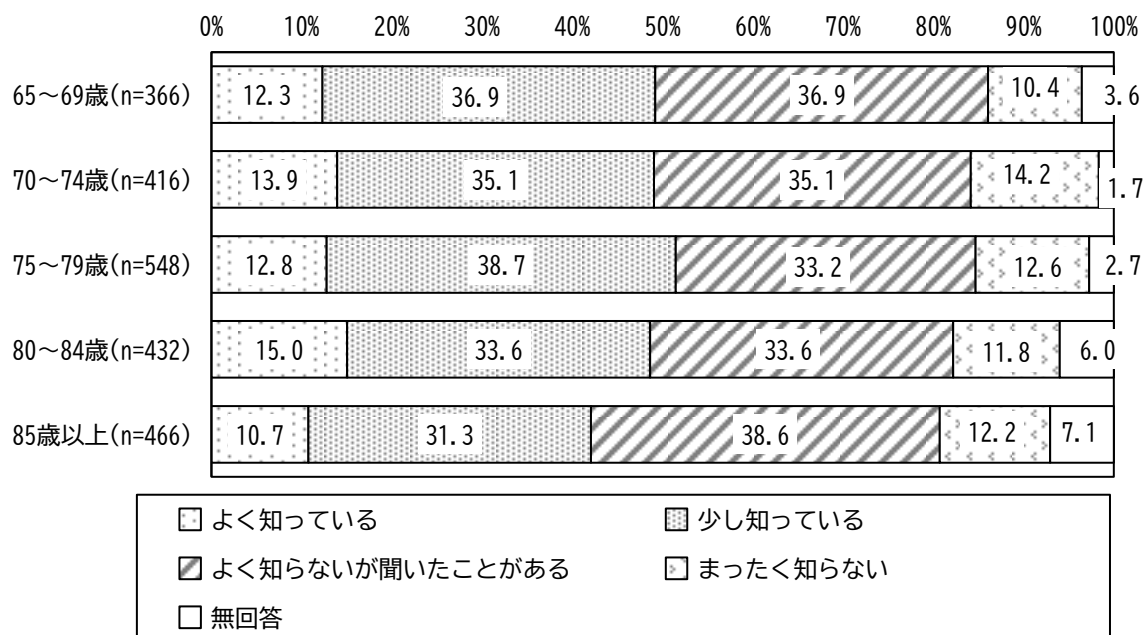
【全体】

成年後見制度の認知については、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』が合計48.2%、「まったく知らない」と「よく知らないが聞いたことがある」を合わせた『知らない』が47.5%となっています。前回調査に比べて、『知っている』は3.6ポイント減少しています。



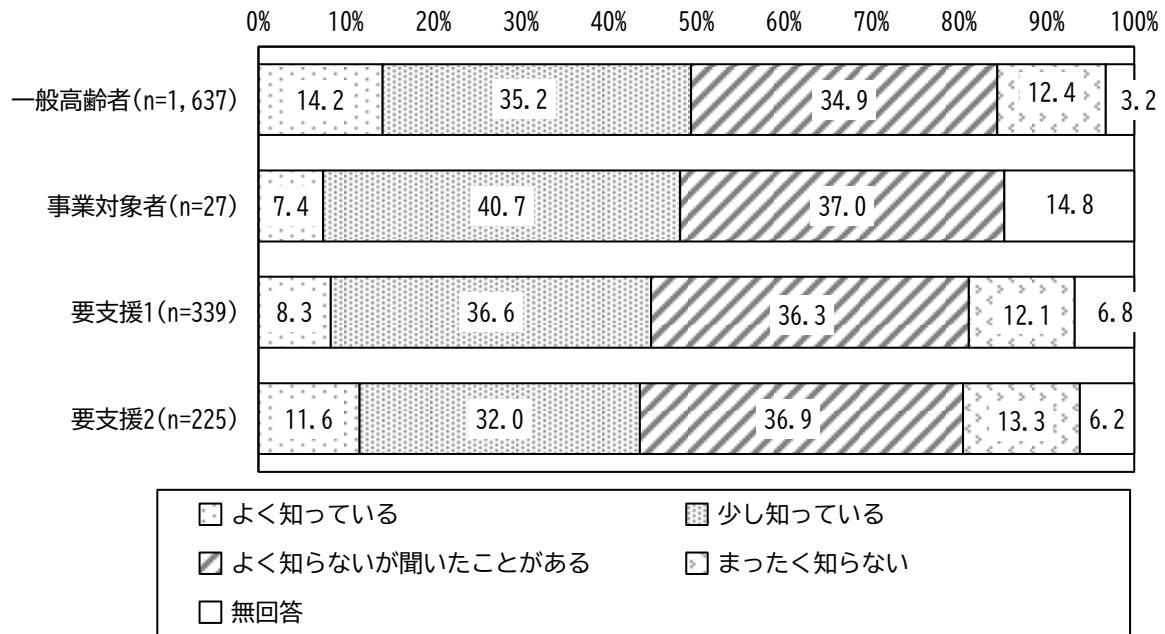
【年齢別】

年齢別にみると、『知っている』の割合は75～79歳で51.5%と最も多く、その後年代が上がるほど減少する傾向がみられ、85歳以上では42.0%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者では『知っている』が約半数となっていますが、要支援認定者でやや認知度が低く、要支援2では43.6%となっています。

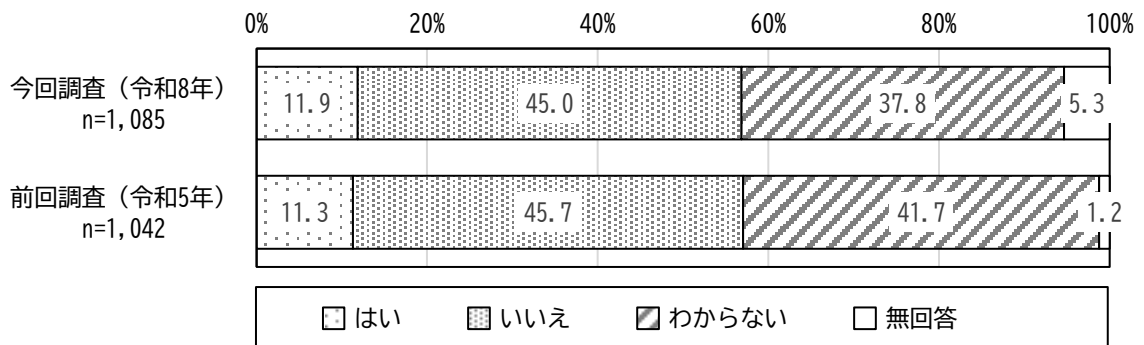


問6 (7) で「1. よく知っている」または「2. 少し知っている」を選択した方

今後、成年後見制度を利用したいですか (1つに○)

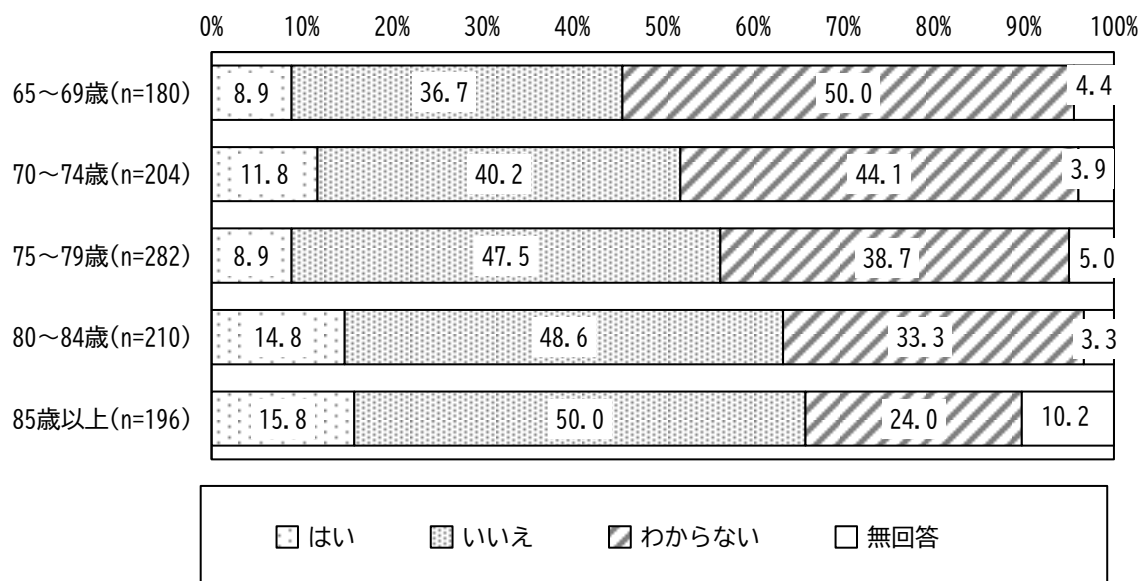
【全体】

成年後見制度の今後の利用意向については、「はい」(利用したい) が11.9%、「いいえ」(利用したくない) が45.0%、「わからない」が37.8%となっています。



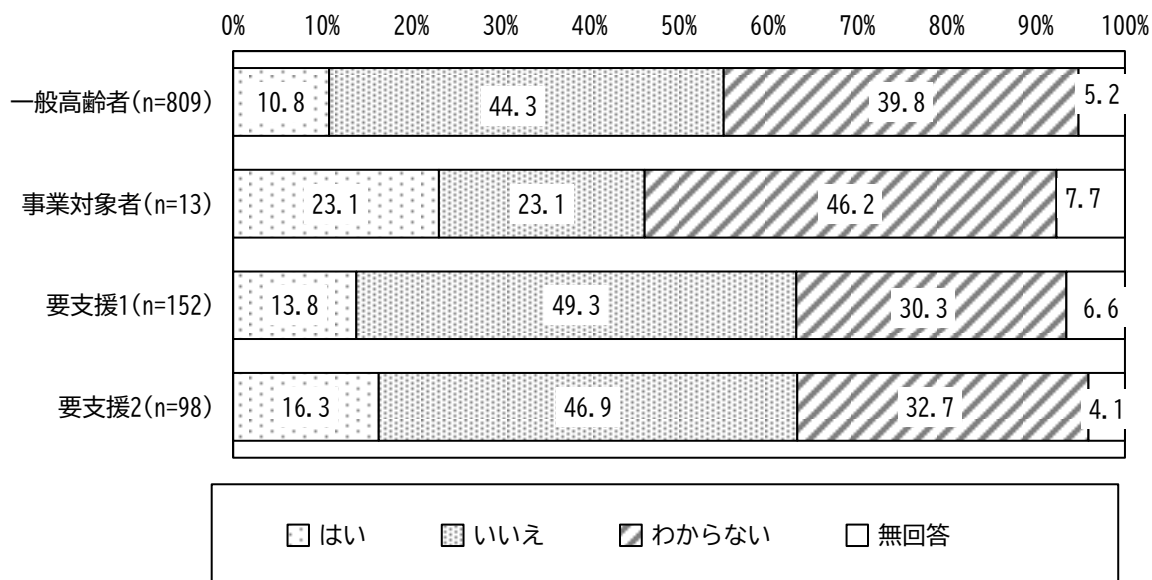
【年齢別】

年齢別にみると、「はい」（利用したい）は85歳以上で15.8%と最も多くなっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」（利用したい）は事業対象者で23.1%、要支援1で13.8%、要支援2で16.3%と、一般高齢者に比べてやや多くなっています。



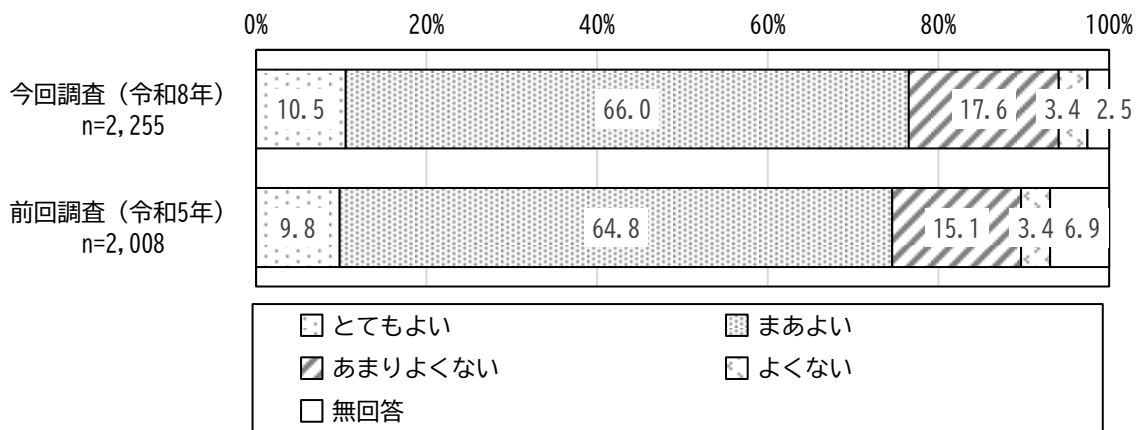
問7 健康について

1) 主観的健康感

問7 (1) 現在の健康状態はいかがですか (1つに○)

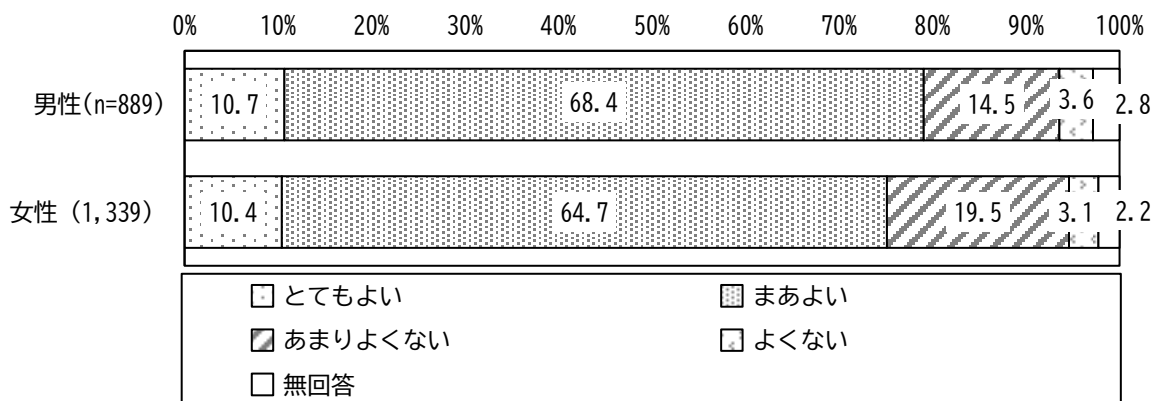
【全体】

現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が合計76.5%、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』が合計21.0%となっています。前回調査に比べて、『よい』が1.9ポイント増加しています。



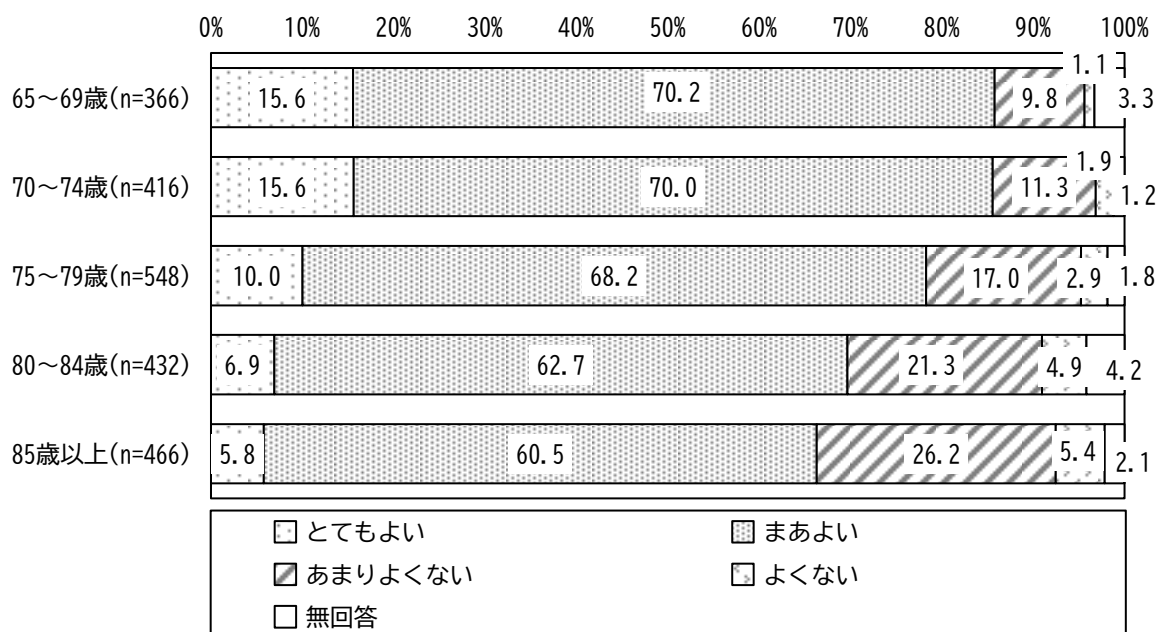
【性別】

性別にみると、『よい』は男性で79.1%と、女性に比べて4.0ポイント多くなっています。



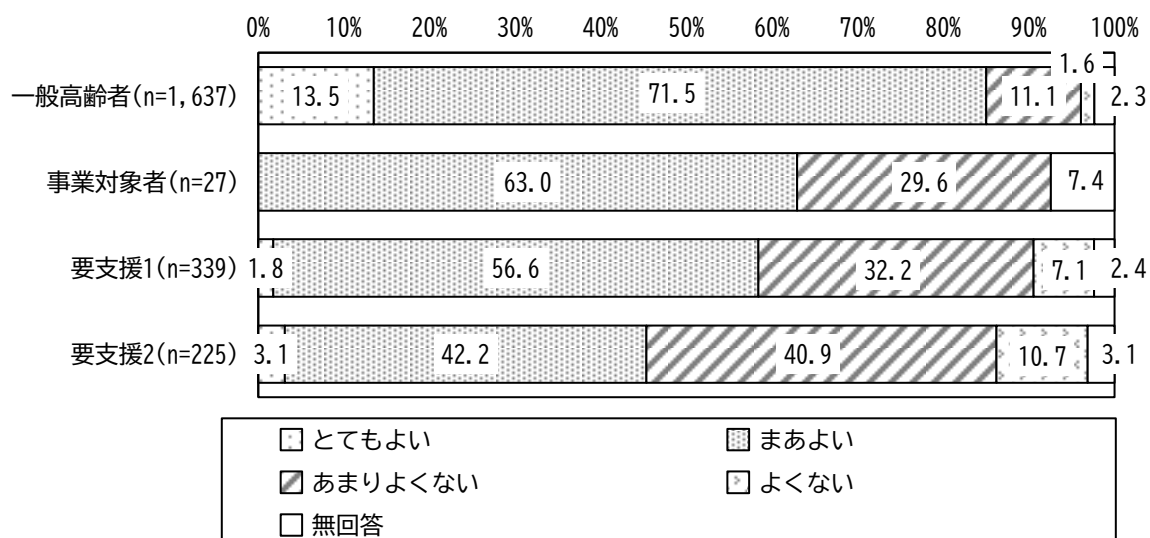
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『よい』の割合は少なくなっていますが、85歳以上でも66.3%の人が『よい』と回答しています。



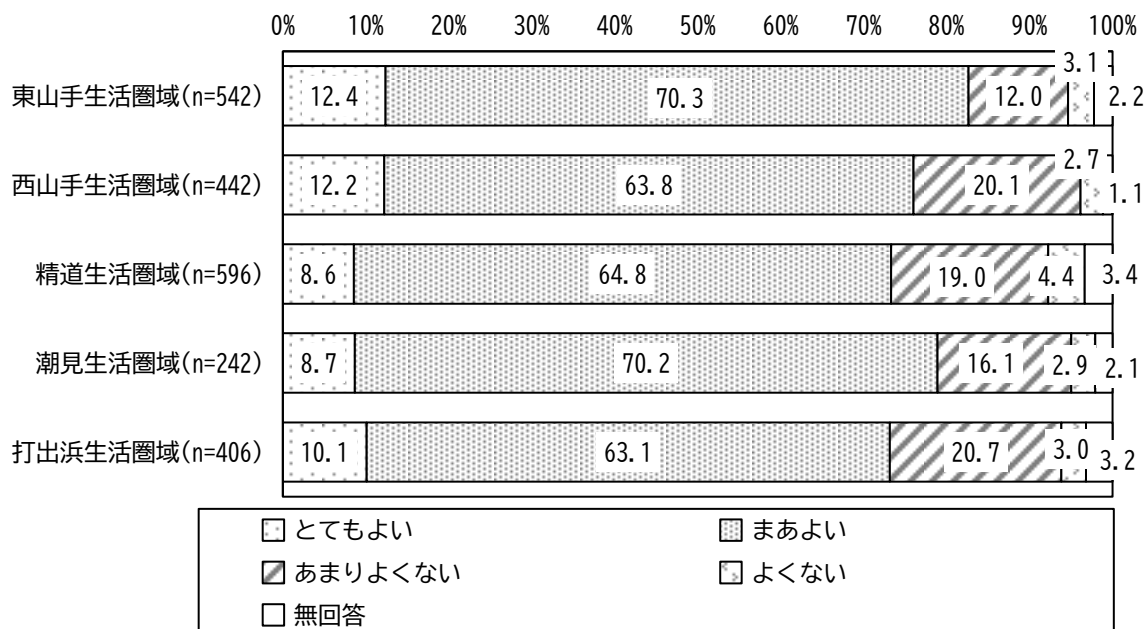
【認定状況別】

認定状況別にみると、『よい』は要支援2では45.3%と半数を下回り、一般高齢者に比べて39.7ポイント少なくなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域で『よい』が 82.7%と他の生活圏域と比べてやや多くなっています。一方、『よくない』は打出浜生活圏域で 23.7%と他の生活圏域と比べてやや多くなっています。



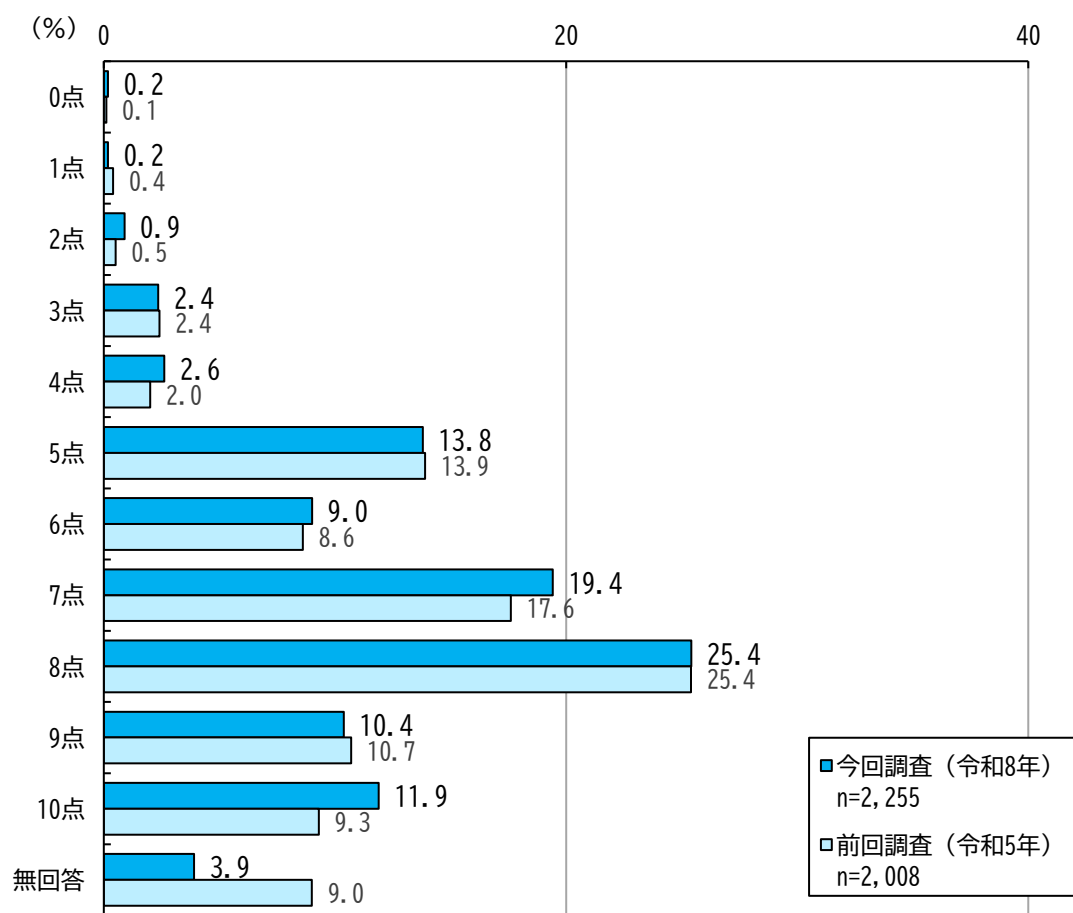
2) 主観的幸福感

問7 (2) 現在、どの程度幸せですか (1つに○)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

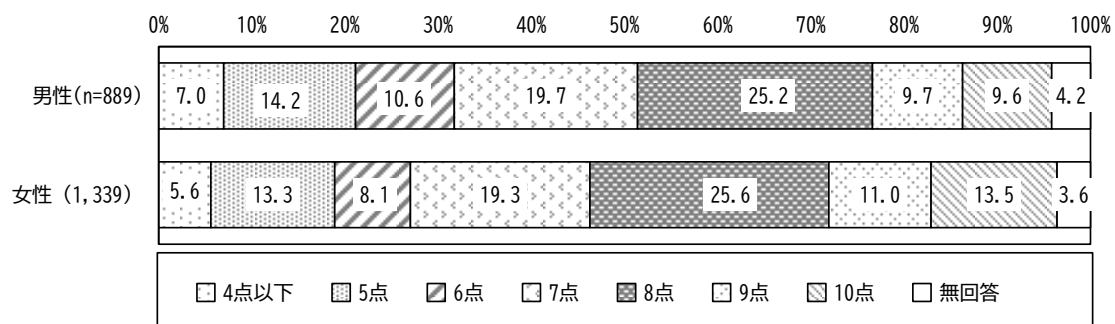
【全体】

現在の幸福度を10点満点で評価してもらったところ、「8点」が25.4%と最も多く、次いで、「7点」が19.4%、「5点」が13.8%で、平均7.22点となっています。前回調査と比べると、平均は0.04点増加しています。



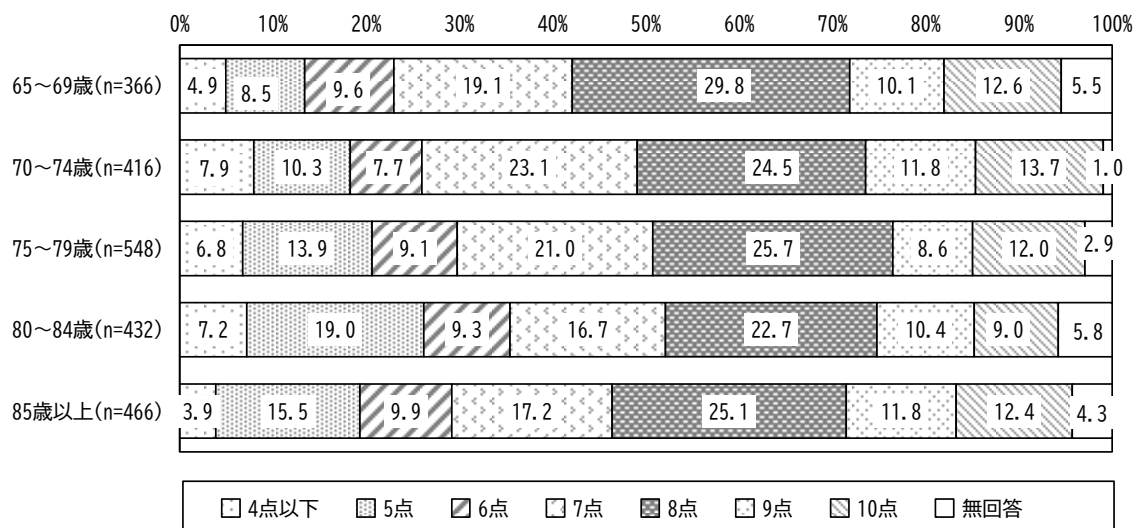
【性別】

性別にみると、男性は平均 7.08 点、女性は 7.33 点と、女性のほうが幸福度は高くなっています。



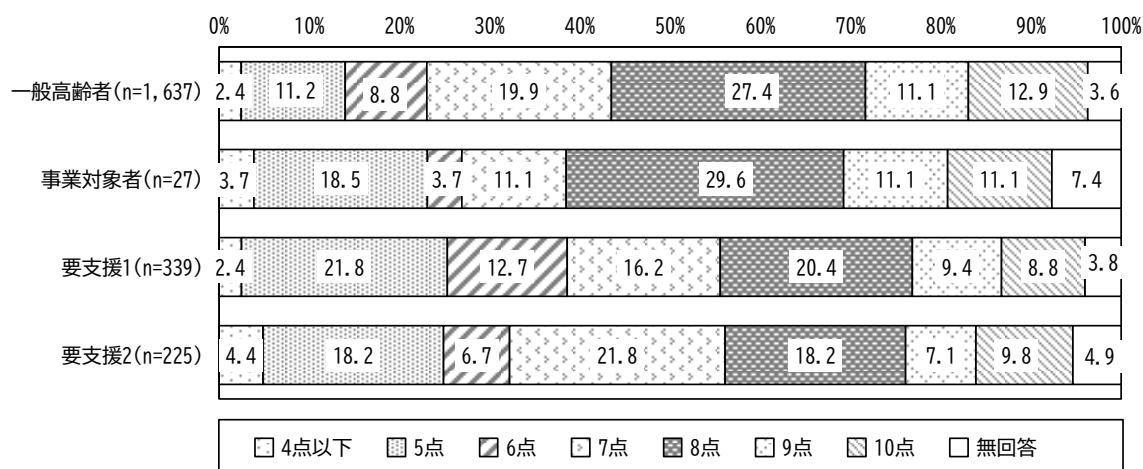
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳は平均 7.45 点、70～74歳は 7.30 点、75～80歳は 7.18 点、80～84歳は 6.96 点と、年齢が上がるにつれて幸福度が下がっている傾向がみられますが、85歳以上は 7.30 点とふたたび上昇しています。



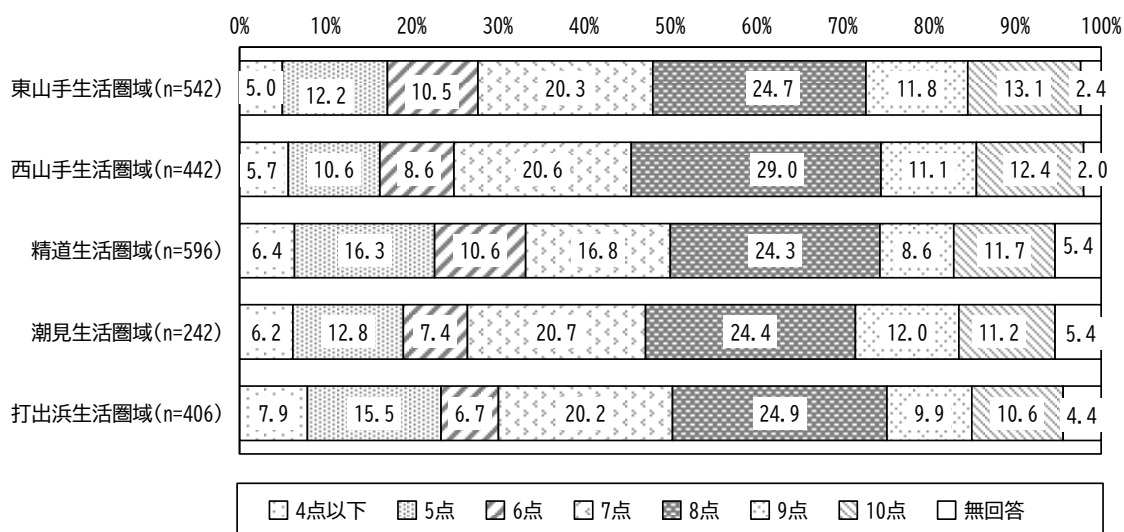
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者は平均 7.39 点、事業対象者は 7.20 点、要支援1は 6.83 点、要支援2は平均 6.62 点と、要支援認定者の幸福度が比較的低くなっています。



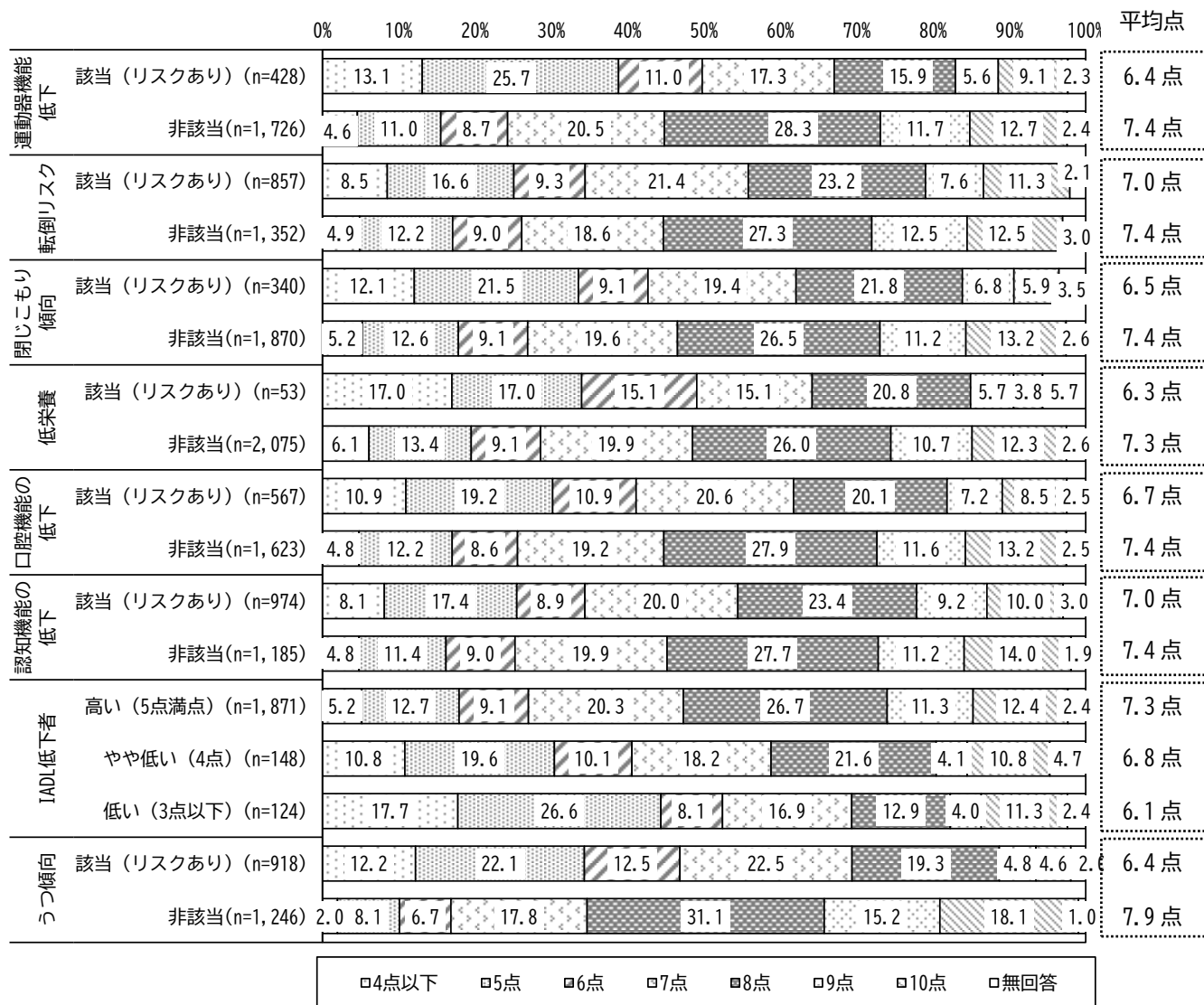
【居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域は平均 7.37 点と、幸福度が比較的高くなっています。



【リスク判定別】

各リスク判定別にみると以下の通りとなっています。平均点を比較すると、運動器機能低下、低栄養、うつ傾向でリスク該当・非該当者の平均点の差が1点以上と大きくなっています。また、IADL 低下者では「高い（5点満点）」と「低い（3点以下）」人の差が1.2点となっています。



3) うつ傾向の状況

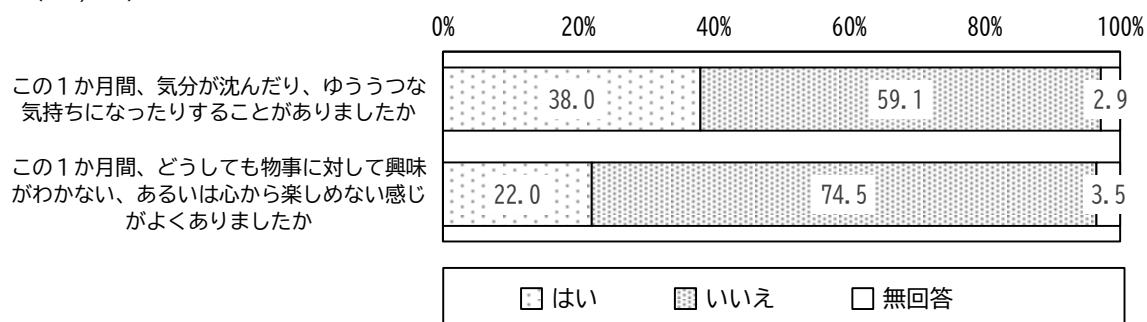
問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

問7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

【全体】うつ傾向_リスク判定設問

「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」で「はい」が38.0%と多くなっています。

(n=2,225)



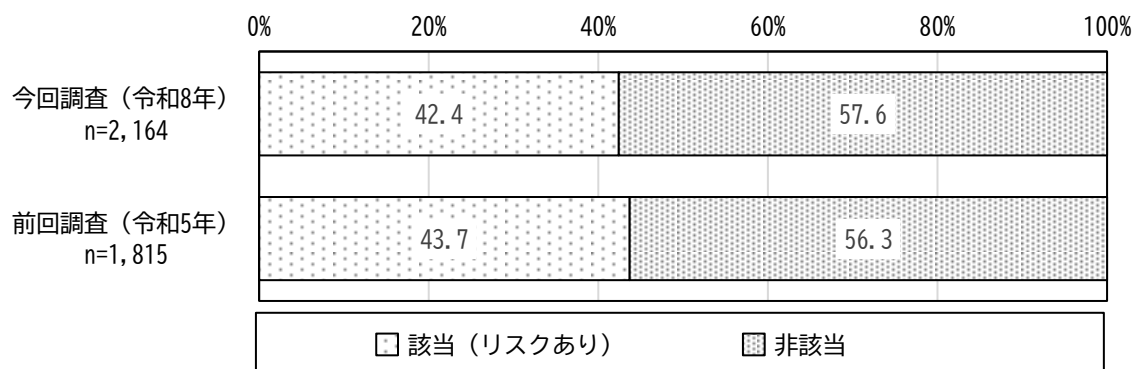
うつ傾向_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7	(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
	(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

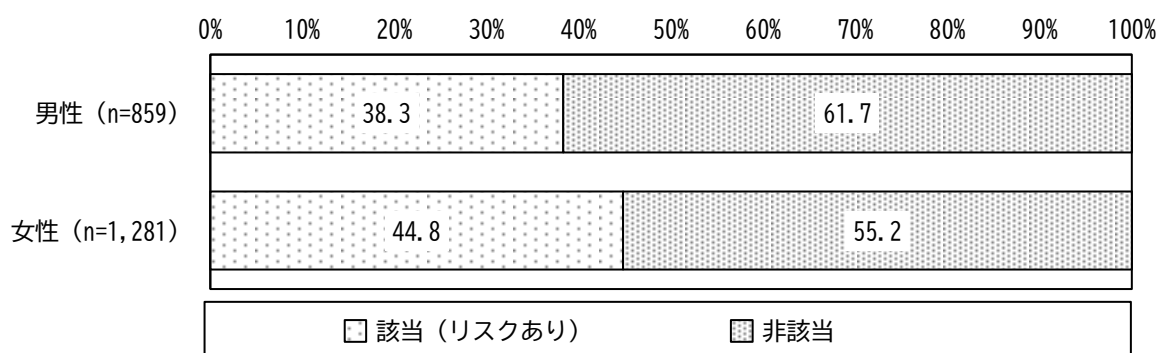
【全体】

『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は42.4%で、前回調査に比べて1.3ポイント減少しています。



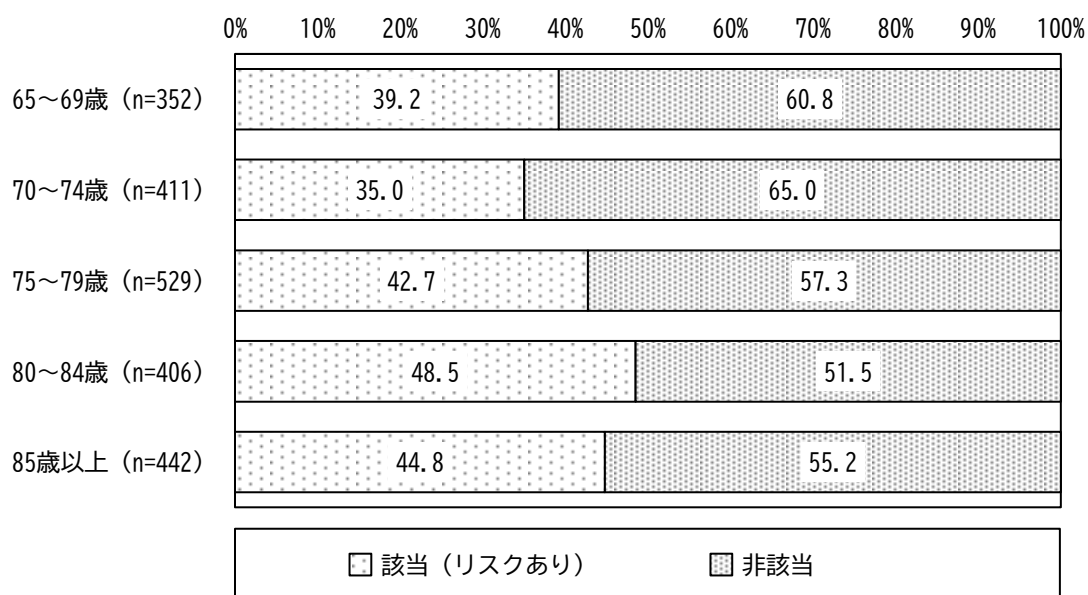
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で44.8%と、男性より6.5ポイント少なくなっています。



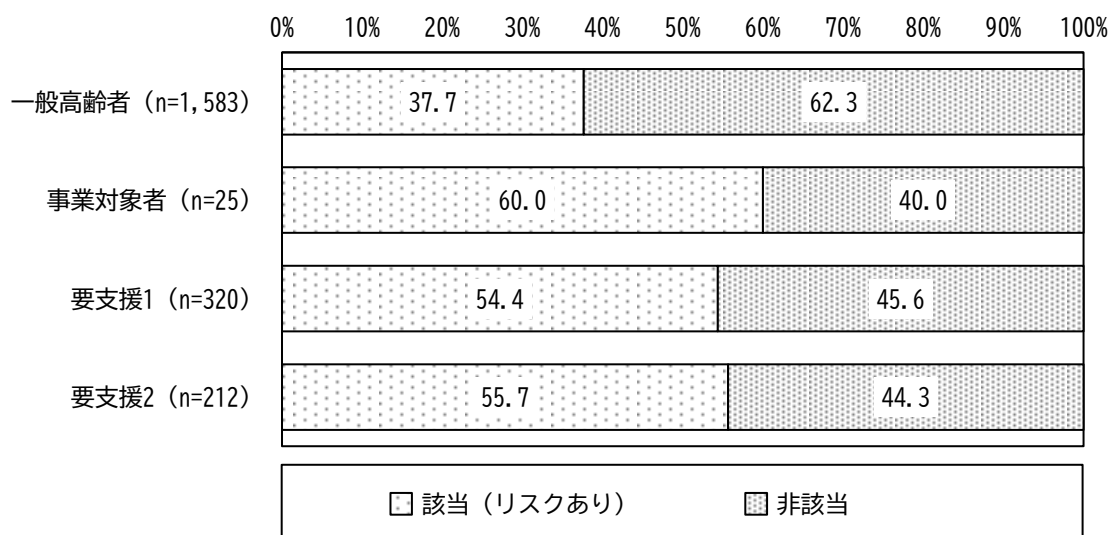
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は80～84歳が48.5%と最も多く、最も少ない70～74歳が35.0%となっています。



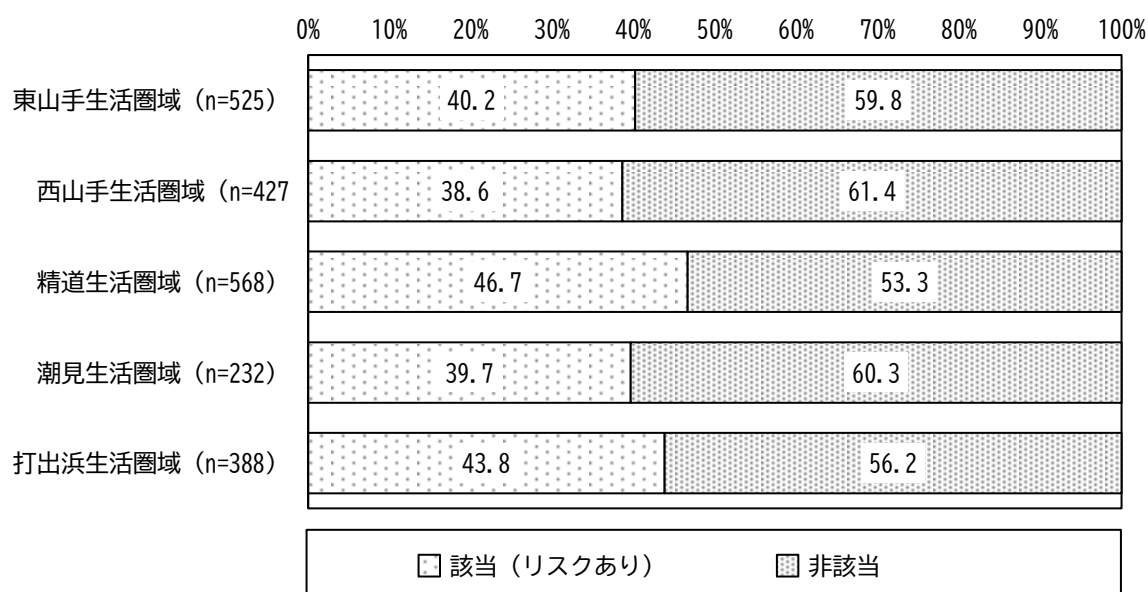
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援者で半数を超えて多く、一般高齢者と15ポイント以上の差があります。要支援1と要支援2では大きな差はみられません。また、事業対象者では60.0%と多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、精道生活圏域で46.7%とやや多くなっています。

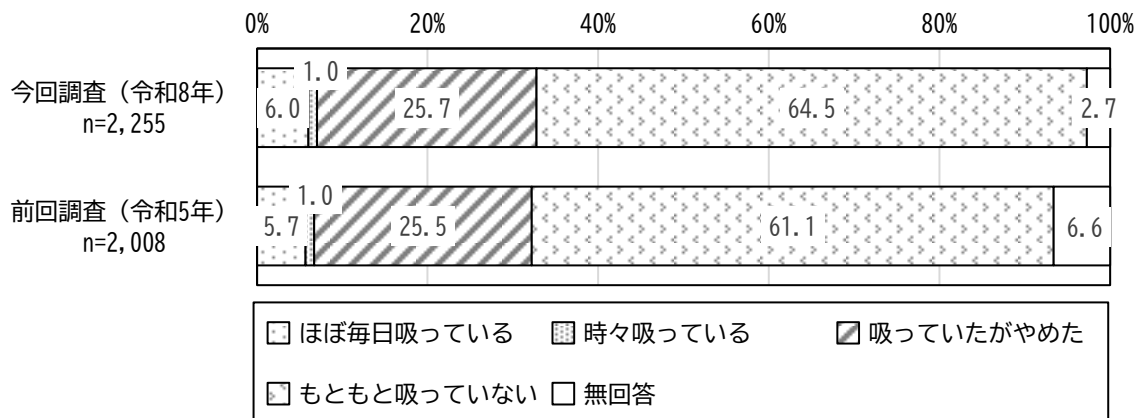


4) 喫煙習慣

問7 (5) タバコは吸っていますか (1つに○)

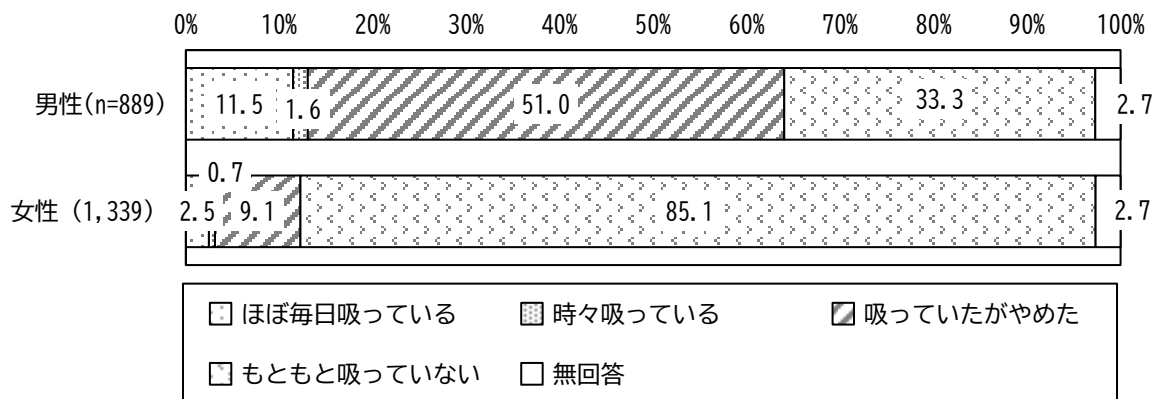
【全体】

喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が64.5%と最も多く、次いで、「吸っていたがやめた」が25.7%で、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』は合計7.0%となっています。



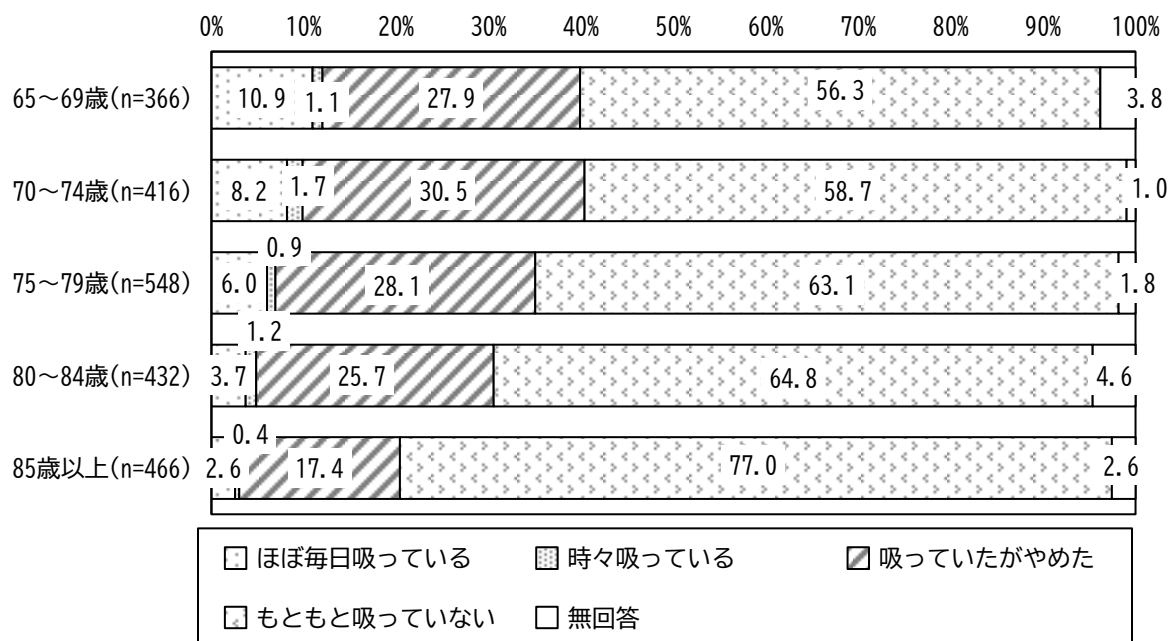
【性別】

性別にみると、男性では『吸っている』が13.1%、女性は3.2%となっています。



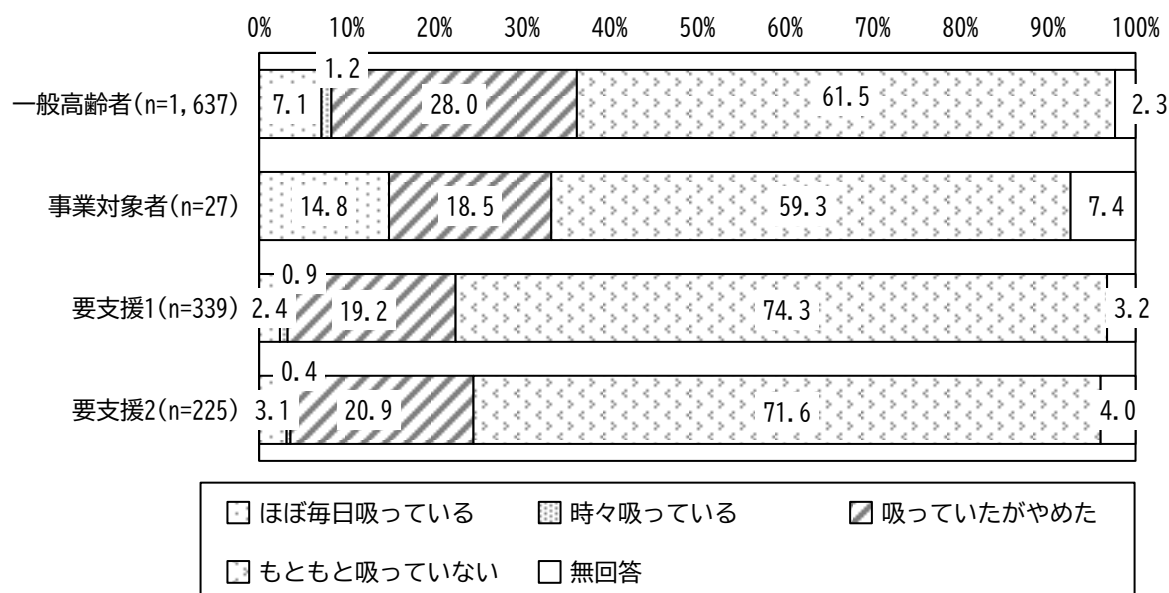
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて喫煙率は下がり、85歳以上では『吸っている』は3.0%となっています。



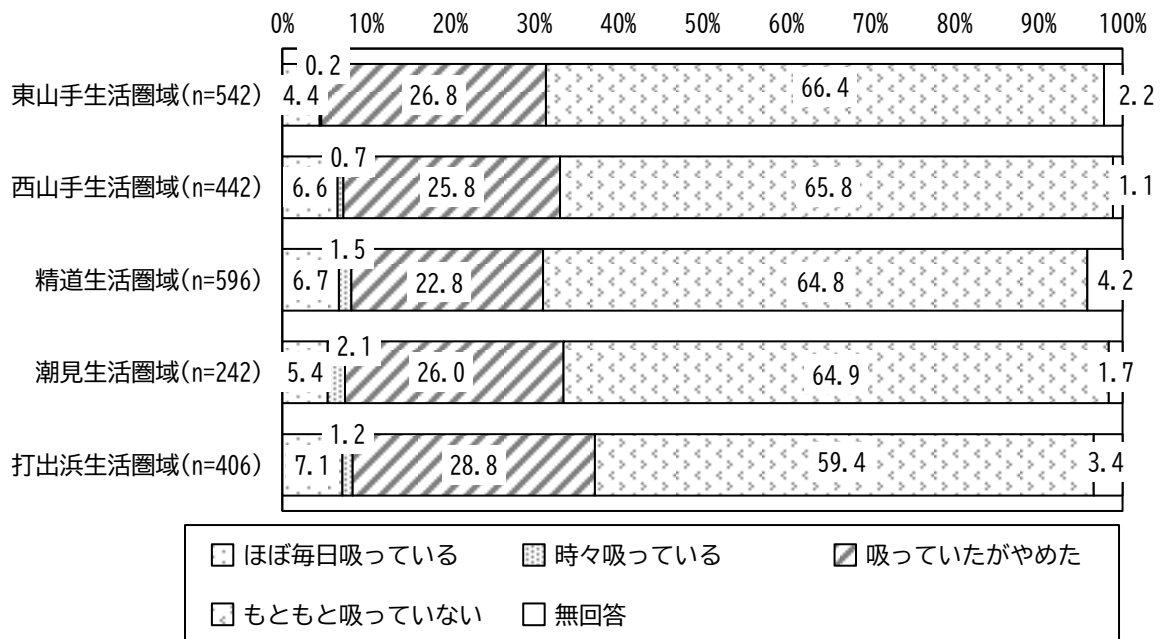
【認定状況別】

認定状況別にみると、『吸っている』は一般高齢者で8.3%と、要支援認定者と比べて喫煙率は高くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域で『吸っている』が4.6%と、他の生活圏域と比べて喫煙率が低くなっています。

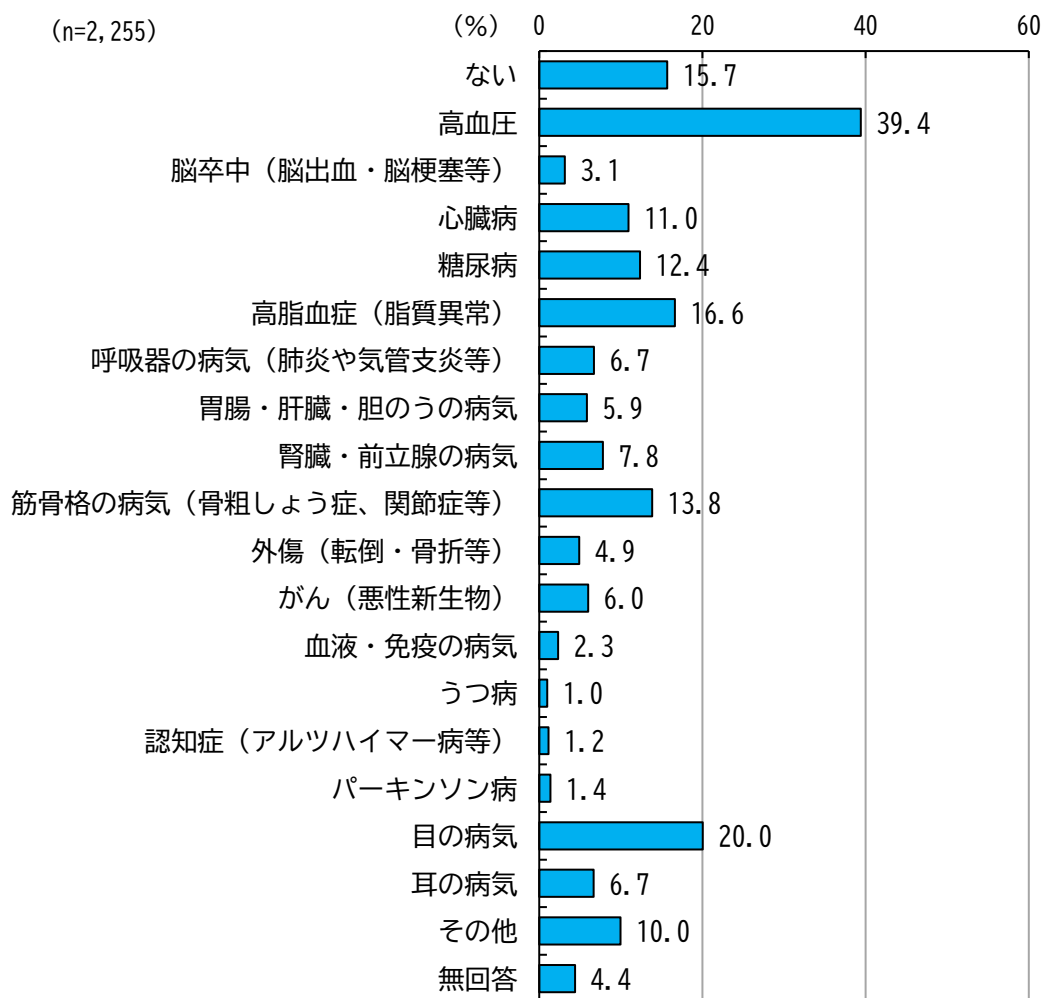


5) 治療中、後遺症のある病気

問7 (6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)

【全体】

治療中や後遺症のある病気については、「高血圧」が 39.4%と最も多く、次いで、「目の病気」が 20.0%、「高脂血症（脂質異常）」が 16.6%となっています。



◇治療中や後遺症のある病気「その他」の主な回答

内 容	
歯科・歯の治療	腰痛、膝痛、脊柱管狭窄症など整形外科系の症状
リウマチ・膠原病	甲状腺疾患（橋本病など）
めまい・メニエール病	皮膚疾患・アレルギー
前立腺肥大など泌尿器系の症状	がん手術後や経過観察中

など

【性別】

性別にみると、男女ともに「高血圧」が最も多くなっていますが、男性では「心臓病」や「糖尿病」などが女性に比べて多く、女性では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が男性に比べて14.7ポイント多くなっています。

		n	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
全体		2255	15.7	39.4	3.1	11.0	12.4	16.6	6.7	5.9	7.8	13.8
性別	男性	889	16.1	41.6	4.6	13.8	18.0	14.6	6.7	6.5	15.3	4.9
	女性	1339	15.6	38.0	2.2	9.0	8.6	17.9	6.5	5.5	2.9	19.6
		n	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		2255	4.9	6.0	2.3	1.0	1.2	1.4	20.0	6.7	10.0	4.4
性別	男性	889	2.6	7.3	1.8	0.9	1.0	1.7	20.4	6.3	7.8	3.9
	女性	1339	6.2	5.2	2.6	0.9	1.2	1.1	20.4	6.7	11.5	4.6

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて病気のある割合が多くなっていますが、「高脂血症（脂質異常症）」では65～79歳で比較的多くなっています。

		n	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
全体		2255	15.7	39.4	3.1	11.0	12.4	16.6	6.7	5.9	7.8	13.8
年齢	65～69歳	366	28.7	27.3	0.8	3.6	9.6	16.1	5.5	5.2	4.6	7.1
	70～74歳	416	20.2	37.0	2.6	6.5	9.4	19.7	4.8	4.3	4.3	13.7
	75～79歳	548	12.2	39.8	3.8	8.9	14.4	17.2	6.9	4.7	9.1	14.1
	80～84歳	432	10.6	43.1	4.9	15.7	16.7	14.4	7.4	5.6	10.6	15.0
	85歳以上	466	10.7	47.4	3.2	18.5	10.7	15.7	7.9	9.7	9.4	17.6
		n	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		2255	4.9	6.0	2.3	1.0	1.2	1.4	20.0	6.7	10.0	4.4
年齢	65～69歳	366	1.6	4.9	1.9	0.8	0.0	0.3	15.3	3.8	10.4	4.4
	70～74歳	416	1.9	7.5	1.9	0.5	0.2	0.7	16.1	3.8	10.1	3.1
	75～79歳	548	3.8	5.3	2.2	1.1	1.1	2.2	20.6	5.5	11.7	4.2
	80～84歳	432	7.4	7.6	3.0	0.7	1.9	2.1	19.9	8.1	7.9	6.3
	85歳以上	466	8.4	5.2	2.4	1.3	2.1	1.1	26.8	10.9	9.7	3.6

【認定状況別】

認定状況別にみると、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」「外傷（転倒・骨折等）」で一般高齢者と要支援認定者の差が大きくなっています。また、「高脂血症（脂質異常症）」では一般高齢者の方が要支援認定者よりわずかに多くなっています。

	n	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	
全体	2255	15.7	39.4	3.1	11.0	12.4	16.6	6.7	5.9	7.8	13.8	
認定状況	一般高齢者	1637	19.6	37.1	1.7	8.7	11.9	16.9	5.5	5.4	7.1	10.1
	事業対象者	27	7.4	33.3	3.7	14.8	18.5	22.2	7.4	11.1	7.4	22.2
	要支援1	339	4.1	47.8	6.5	18.9	13.6	16.2	9.4	7.7	10.9	22.4
	要支援2	225	6.7	44.4	8.9	14.7	13.3	14.7	10.2	6.2	8.4	26.2
	n	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	2255	4.9	6.0	2.3	1.0	1.2	1.4	20.0	6.7	10.0	4.4	
認定状況	一般高齢者	1637	2.6	4.9	1.6	0.5	0.5	0.4	18.3	5.0	9.5	4.3
	事業対象者	27	11.1	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	40.7	14.8	14.8	3.7
	要支援1	339	10.0	9.7	2.4	2.4	3.5	3.5	25.1	12.1	10.0	3.8
	要支援2	225	12.0	9.3	6.7	1.3	1.8	4.9	22.7	8.4	13.3	4.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域では「ない」が他の生活圏域に比べてやや多くなっています。

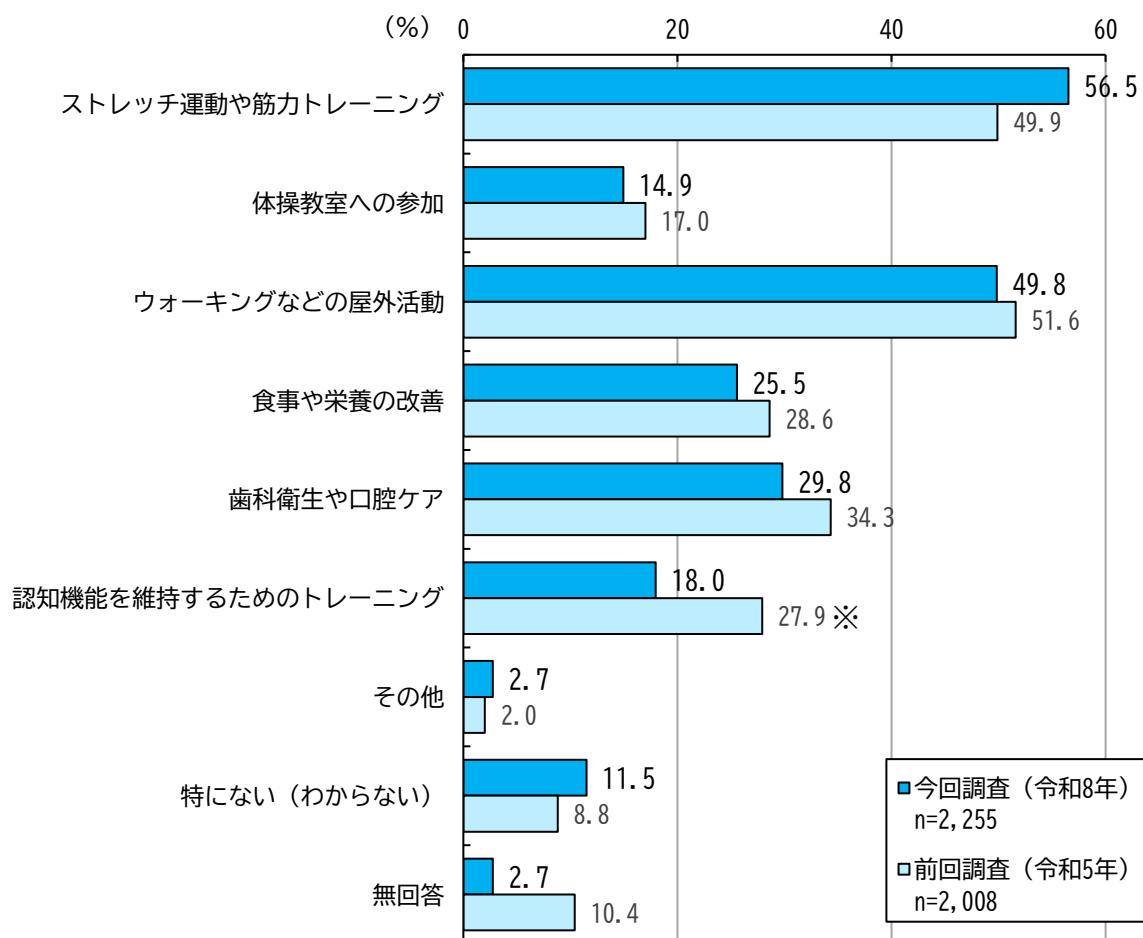
		n	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
全体		2255	15.7	39.4	3.1	11.0	12.4	16.6	6.7	5.9	7.8	13.8
圏域	東山手生活圏域	542	19.0	33.9	3.3	9.8	9.2	15.7	6.1	6.3	6.3	13.3
	西山手生活圏域	442	16.5	38.5	2.0	10.0	11.3	15.4	6.6	5.9	8.1	13.6
	精道生活圏域	596	15.6	37.6	3.0	10.7	12.9	19.5	8.2	5.9	8.2	14.8
	潮見生活圏域	242	14.9	45.5	3.3	12.4	15.3	16.9	5.0	5.8	10.7	15.3
	打出浜生活圏域	406	11.6	47.0	4.4	12.8	15.0	14.8	5.9	5.7	7.4	12.3
		n	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		2255	4.9	6.0	2.3	1.0	1.2	1.4	20.0	6.7	10.0	4.4
圏域	東山手生活圏域	542	4.1	5.7	1.3	1.3	1.1	1.5	22.3	6.8	11.1	4.1
	西山手生活圏域	442	5.0	6.3	3.4	1.1	0.5	1.6	17.4	5.7	9.0	3.6
	精道生活圏域	596	5.4	5.7	2.2	0.8	1.5	1.2	20.0	7.2	10.2	4.2
	潮見生活圏域	242	5.8	5.0	2.9	1.2	1.2	1.7	22.3	7.4	7.4	2.9
	打出浜生活圏域	406	3.9	7.4	2.2	0.0	1.2	1.0	18.7	5.7	10.8	6.4

6) 介護予防のために取り組みたいこと

問7 (7) 介護予防のために取り組みたいことは何ですか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

介護予防のために取り組みたいことについては、「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が56.5%と最も多く、次いで、「ウォーキングなどの屋外活動」が49.8%、「歯科衛生や口腔ケア」が29.8%となっています。



※前回調査時の選択肢は「認知症の予防」

【性別】

性別にみると、男性では「ウォーキングなどの屋外活動」、女性では「ストレッチ運動や筋力トレーニング」がそれぞれ最も多くなっています。また、女性では「体操教室への参加」が12.7ポイント、「認知機能を維持するためのトレーニング」が6.7ポイント、男性より多くなっています。

	n	ストレッチ運動や筋力	体操教室への参加	ウォーキングなどの屋外活動	食事や栄養の改善	歯科衛生や口腔ケア	認知機能を維持するためのトレーニング	その他	特にない（わからない）	無回答
全体	2255	56.5	14.9	49.8	25.5	29.8	18.0	2.7	11.5	2.7
性別										
男性	889	54.6	7.3	57.8	24.0	26.3	13.9	3.1	14.2	2.7
女性	1339	58.1	20.0	44.9	26.7	32.4	20.6	2.5	9.6	2.7

【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「体操教室への参加」「認知機能を維持するためのトレーニング」が増加する傾向がみられます。

	n	ストレッチ運動や筋力	体操教室への参加	ウォーキングなどの屋外活動	食事や栄養の改善	歯科衛生や口腔ケア	認知機能を維持するためのトレーニング	その他	特にない（わからない）	無回答	
全体	2255	56.5	14.9	49.8	25.5	29.8	18.0	2.7	11.5	2.7	
年齢	65～69歳	366	72.7	7.1	54.9	29.5	37.7	13.9	1.4	7.1	3.3
	70～74歳	416	65.4	13.7	59.1	31.5	35.3	16.8	2.6	7.0	0.7
	75～79歳	548	57.1	17.0	52.9	25.0	27.4	18.1	2.9	12.2	1.3
	80～84歳	432	51.4	18.3	49.1	21.5	25.9	21.1	2.5	13.7	3.9
	85歳以上	466	40.8	16.7	35.6	21.9	26.0	19.1	3.9	15.9	4.5

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者では「ウォーキングなどの屋外活動」、事業対象者では「体操教室への参加」、要支援認定者では「認知機能を維持するためのトレーニング」がそれぞれ比較的多くなっています。

	n	ストレッチ運動や筋力	体操教室への参加	ウォーキングなどの屋外活動	食事や栄養の改善	歯科衛生や口腔ケア	認知機能を維持するためのトレーニング	その他	特にない（わからない）	無回答	
全体	2255	56.5	14.9	49.8	25.5	29.8	18.0	2.7	11.5	2.7	
認定状況	一般高齢者	1637	58.5	13.0	54.5	27.2	32.5	16.6	2.6	10.7	2.3
	事業対象者	27	55.6	33.3	33.3	25.9	22.2	18.5	0.0	7.4	3.7
	要支援1	339	53.4	20.9	39.5	22.4	22.4	23.0	2.9	10.3	4.7
	要支援2	225	48.9	18.2	35.6	19.1	24.0	20.0	3.6	19.1	2.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通りとなっています。

	n	ストレッチ運動や筋力	体操教室への参加	ウォーキングなどの屋外活動	食事や栄養の改善	歯科衛生や口腔ケア	認知機能を維持するためのトレーニング	その他	特にない（わからない）	無回答	
全体	2255	56.5	14.9	49.8	25.5	29.8	18.0	2.7	11.5	2.7	
圏域	東山手生活圏域	542	61.4	14.9	50.6	25.6	32.3	18.3	1.3	10.3	2.6
	西山手生活圏域	442	60.0	12.7	52.3	28.7	33.0	17.0	3.6	10.4	1.8
	精道生活圏域	596	54.7	15.3	50.8	25.8	28.9	16.9	2.3	10.7	3.2
	潮見生活圏域	242	56.6	15.7	45.0	26.4	28.1	19.4	3.3	12.8	2.1
	打出浜生活圏域	406	49.8	16.5	48.8	21.4	26.4	19.2	3.9	14.3	3.4

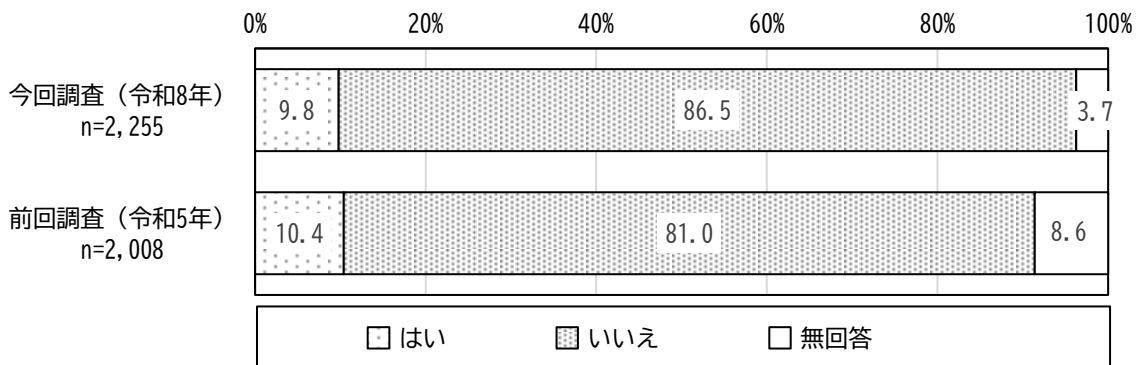
問8 認知症について

1) 認知症状の有無

問8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

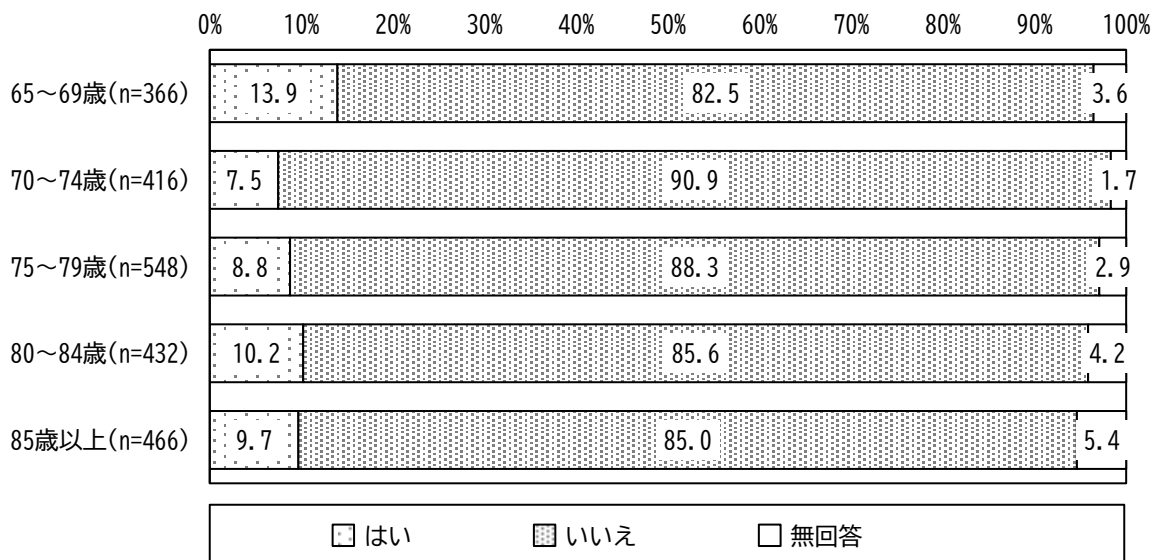
【全体】

自身や家族の認知症の症状の有無については、「はい」(ある)が9.8%、「いいえ」(ない)が86.5%となっています。



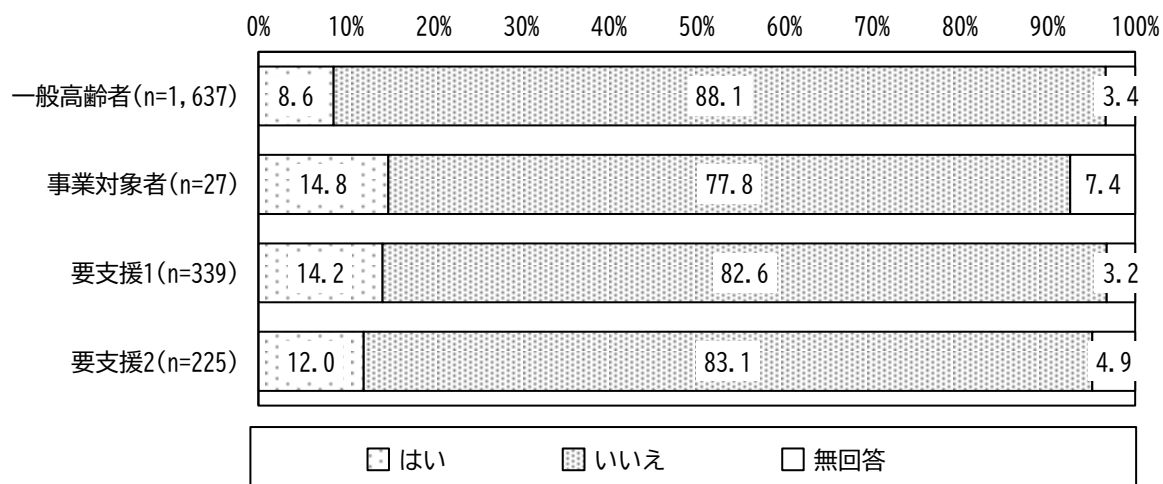
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳で「はい」(ある)が13.9%と、他の年代と比べてやや多くなっています。



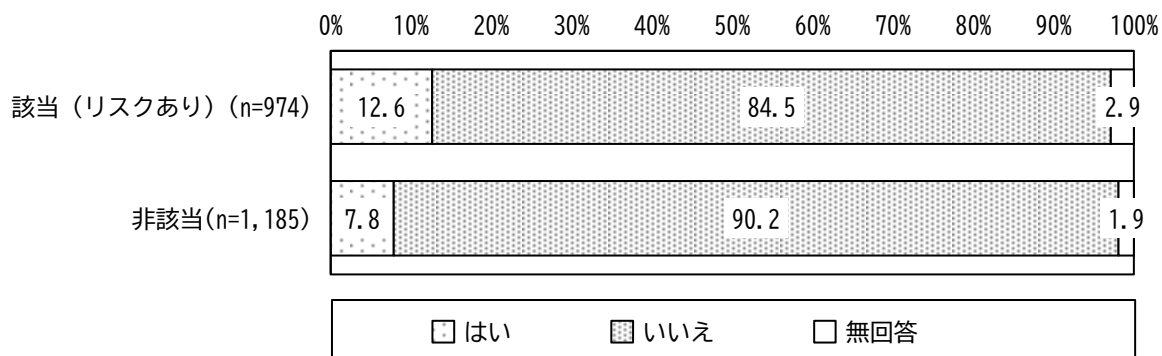
【認定状況別】

認定状況別にみると、事業対象者、要支援認定者では、「はい」（ある）が一般高齢者に比べてやや多くなっています。



【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、該当（リスクあり）の方が、「はい」（ある）が非該当に比べて4.8ポイント多くなっています。

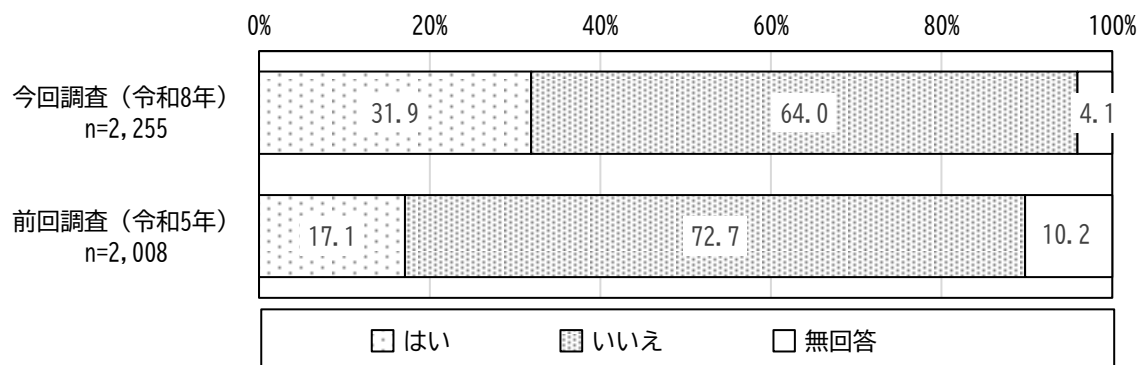


2) 相談窓口の認知

問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

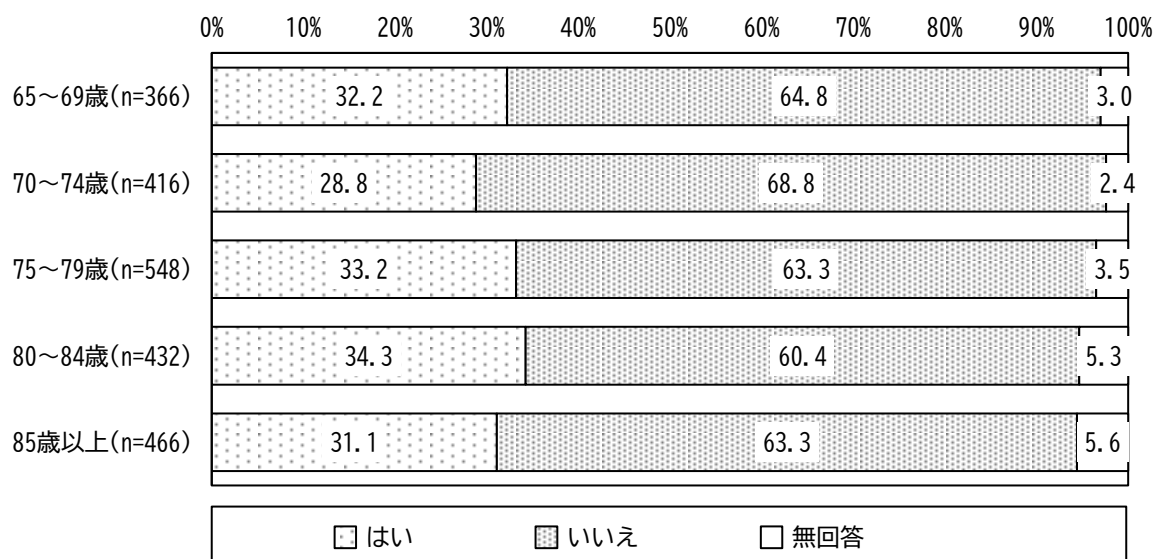
【全体】

認知症に関する相談窓口の認知については、「はい」(知っている)が31.9%、「いいえ」(知らない)が64.0%となっています。前回調査に比べて、「はい」(知っている)が14.8ポイント増加しています。



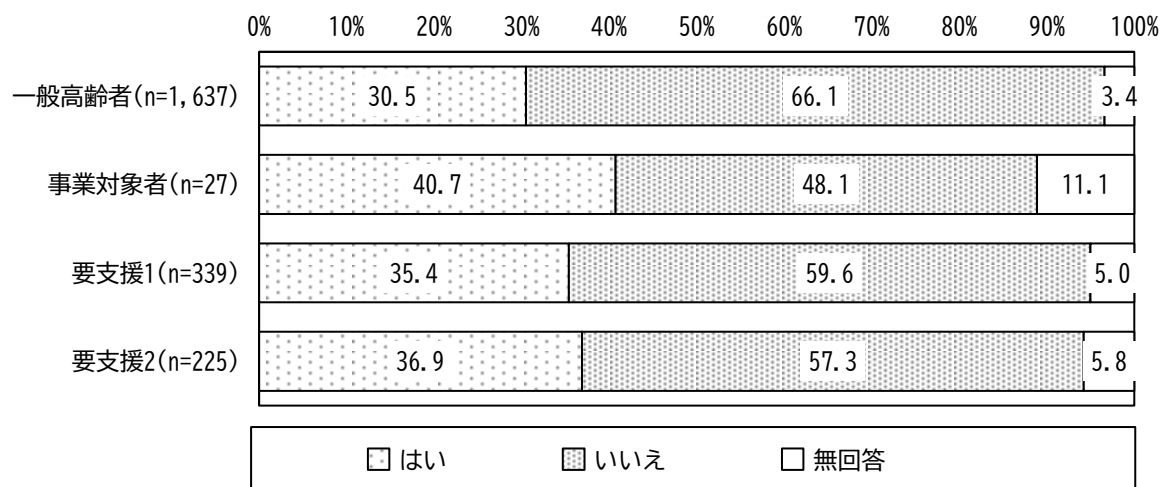
【年齢別】

年齢別にみると、以下の通り年代による傾向はみられず、各年代において3割前後の認知度となっています。



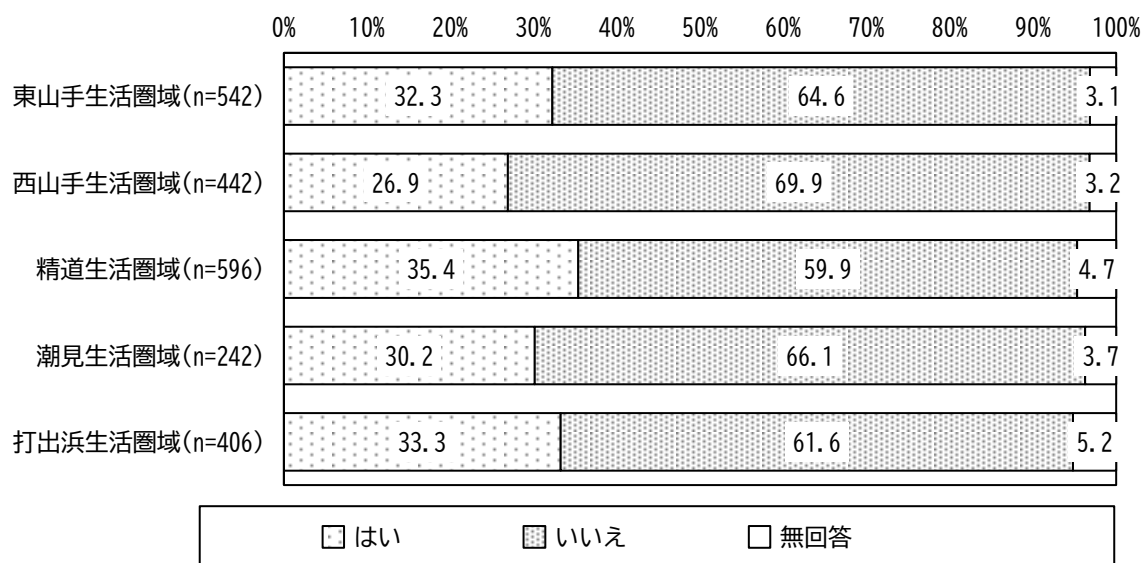
【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」（知っている）は事業対象者、要支援認定者で一般高齢者に比べて多くなっています。



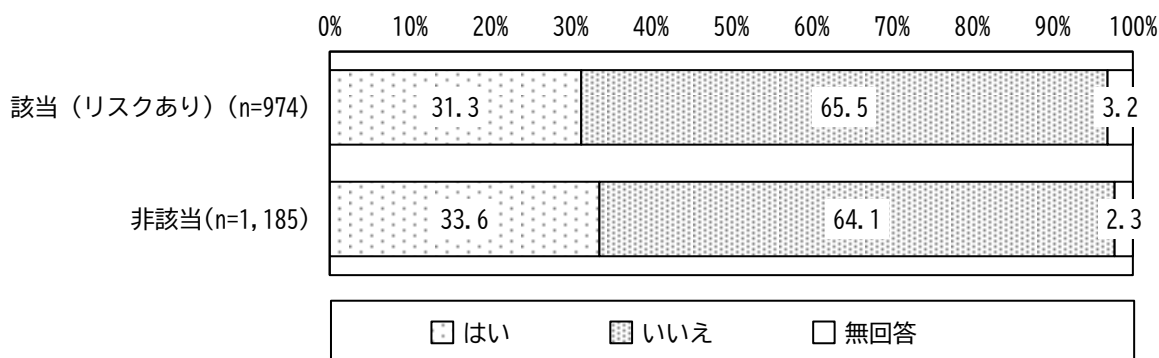
【居住地域別】

居住地域別にみると、「はい」（知っている）は西山手生活圏域で3割を下回り、やや少なくなっています。



【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、該当（リスクあり）の方が、「はい」（知っている）が非該当に比べて2.3ポイント少なくなっています。

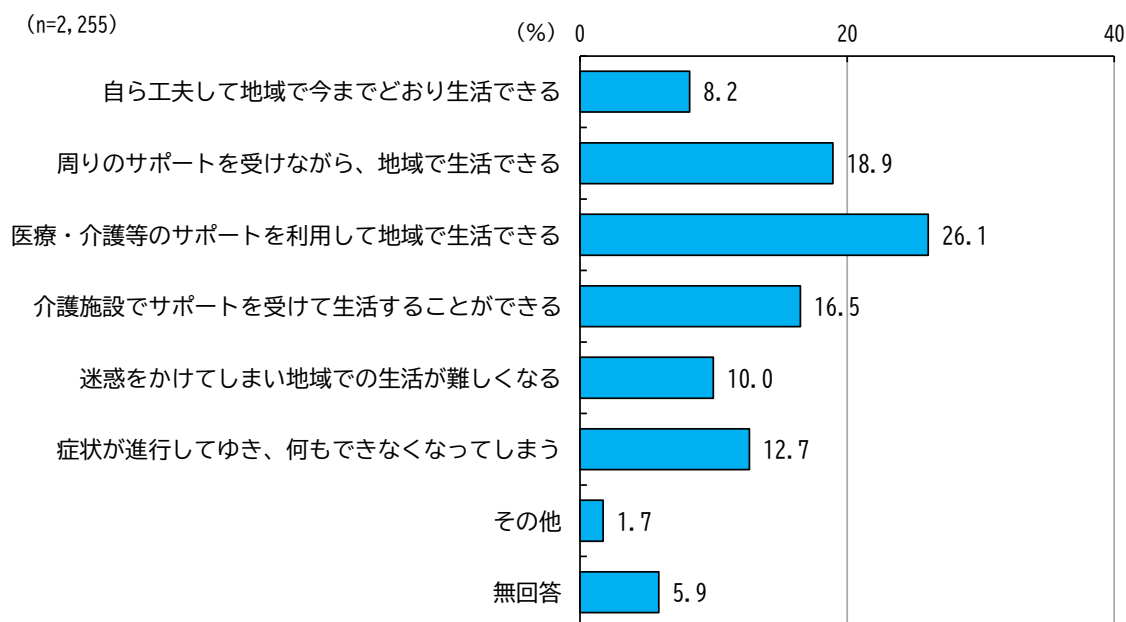


3) 認知症に関する理解

問8 (3) 認知症についてどのようなイメージをもっていますか (主なもの1つに○)

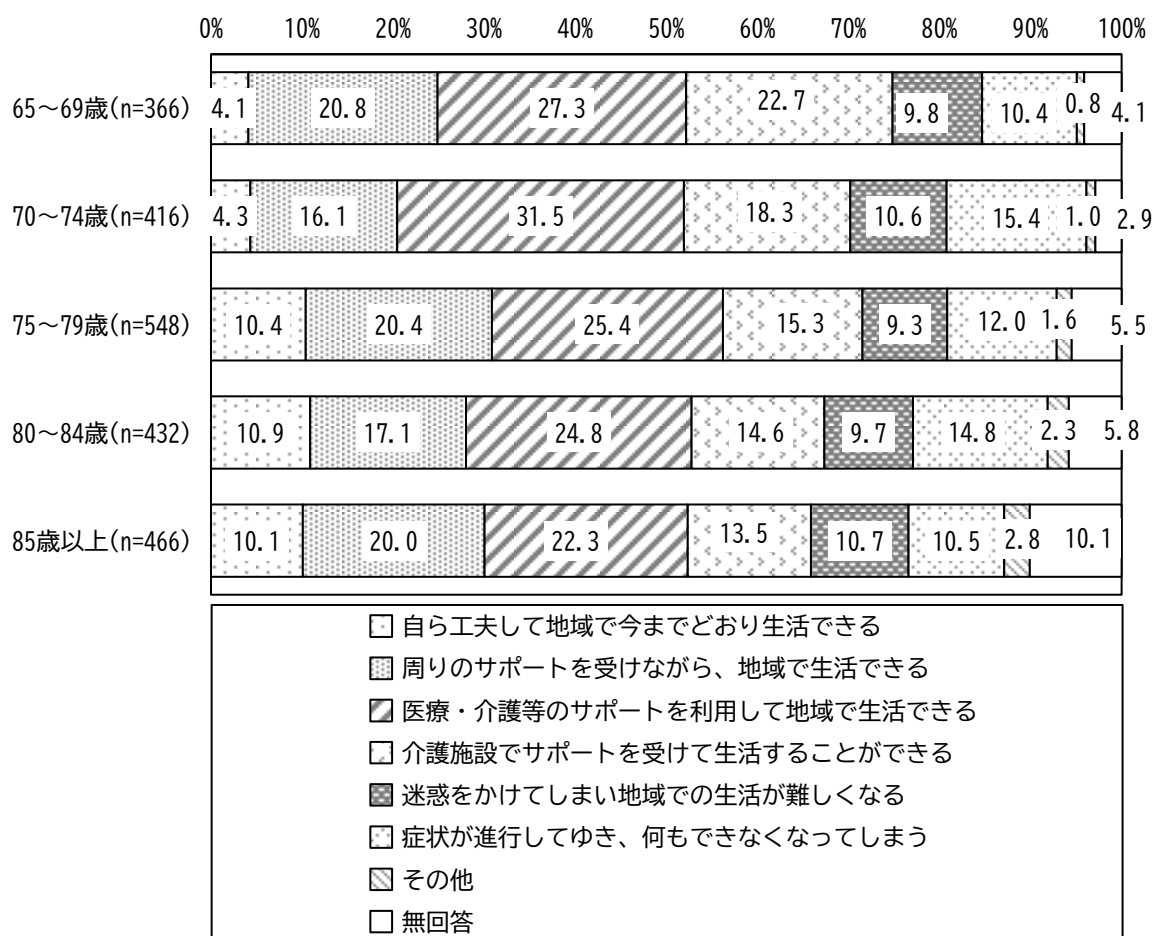
【全体】

認知症に対するイメージについては、「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活できる」が26.1%と最も多く、次いで、「周りのサポートを受けながら、地域で生活できる」が18.9、「介護施設でサポートを受けて生活することができる」が16.5%となっています。



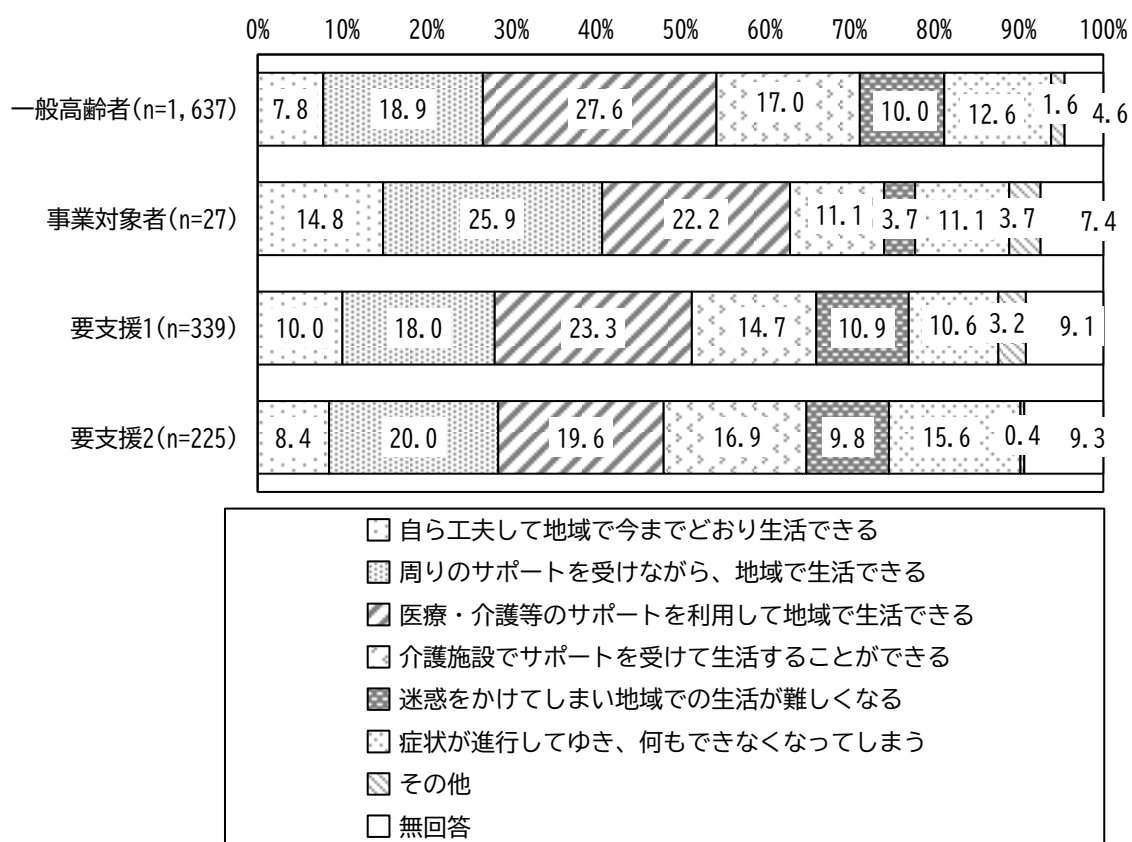
【年齢別】

年齢別にみると、「自ら工夫して地域で今までどおり生活できる」が75歳以上の後期高齢者では1割を超え、65～74歳の前期高齢者より約6ポイント高くなっています。



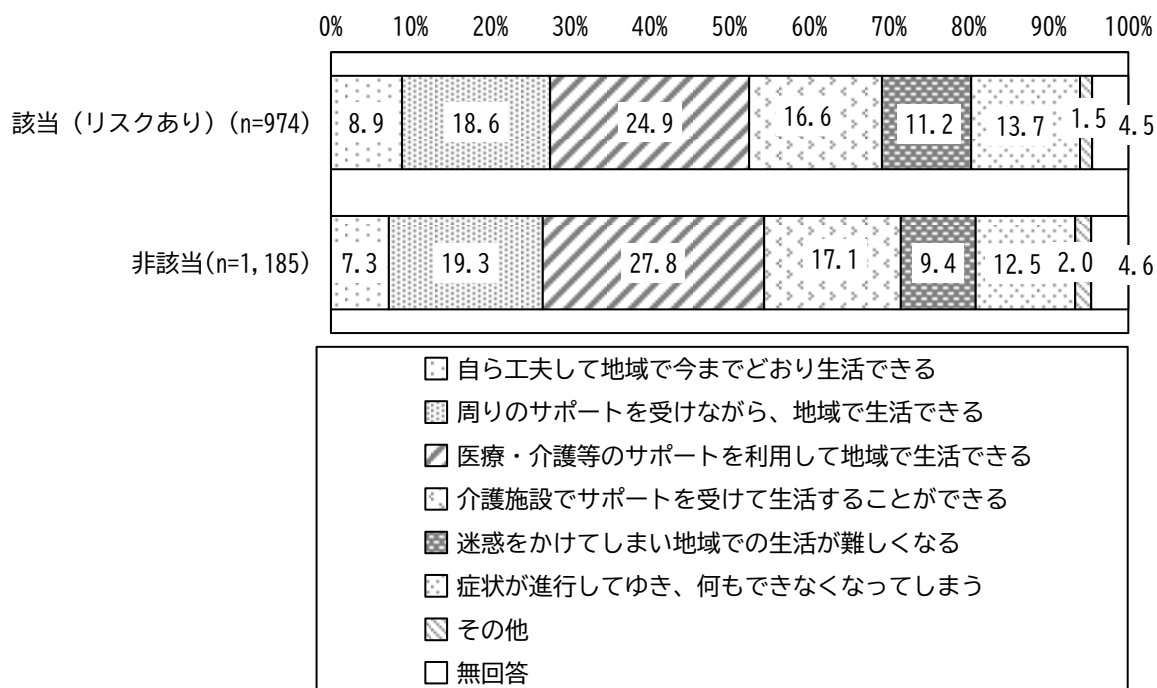
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者で「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活できる」、事業対象者で「周りのサポートを受けながら、地域で生活できる」がやや多くなっています。



【認知機能の低下リスク別】

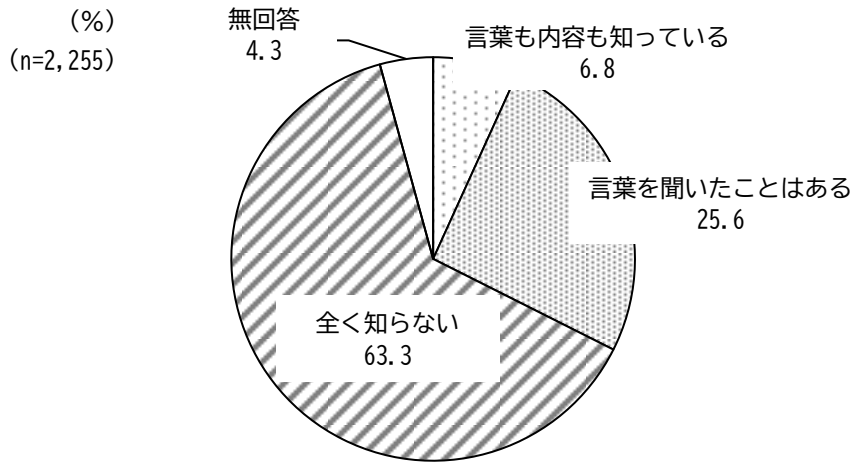
認知機能の低下リスク別にみると、該当（リスクあり）で、「迷惑をかけてしまい地域での生活が難しくなる」「症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう」が非該当に比べてわずかに多くなっています。



問8(4) 認知症基本法(2024年施行)で示された「新しい認知症観」という言葉を知っていますか(1つに○)

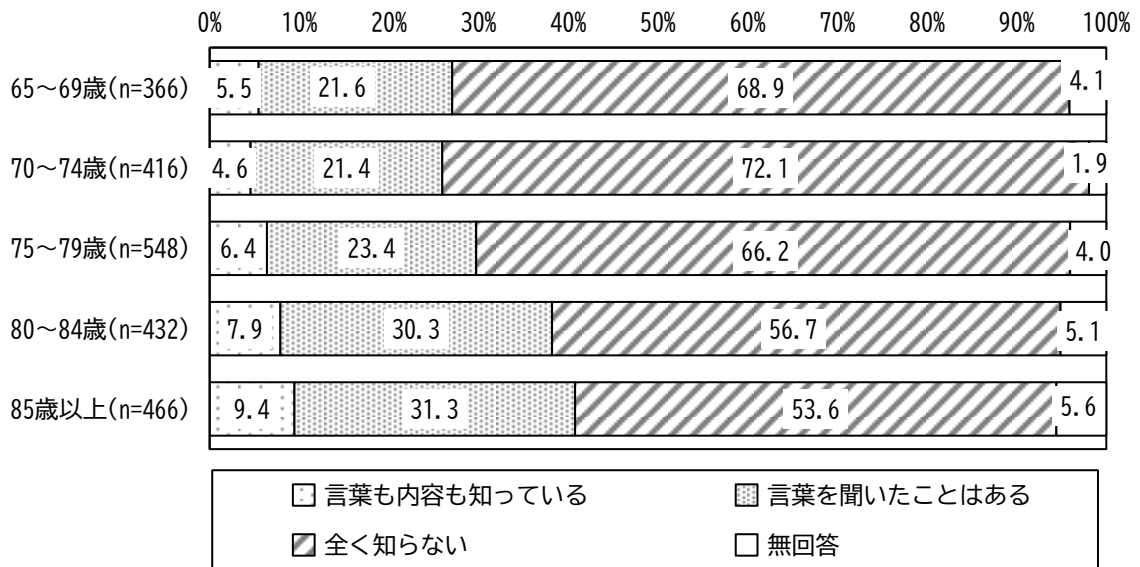
【全体】

「新しい認知症観」の認知度については、「言葉も内容も知っている」が6.8%、「言葉は聞いたことはある」が25.6%となっています。一方、「全く知らない」は63.3%となっています。



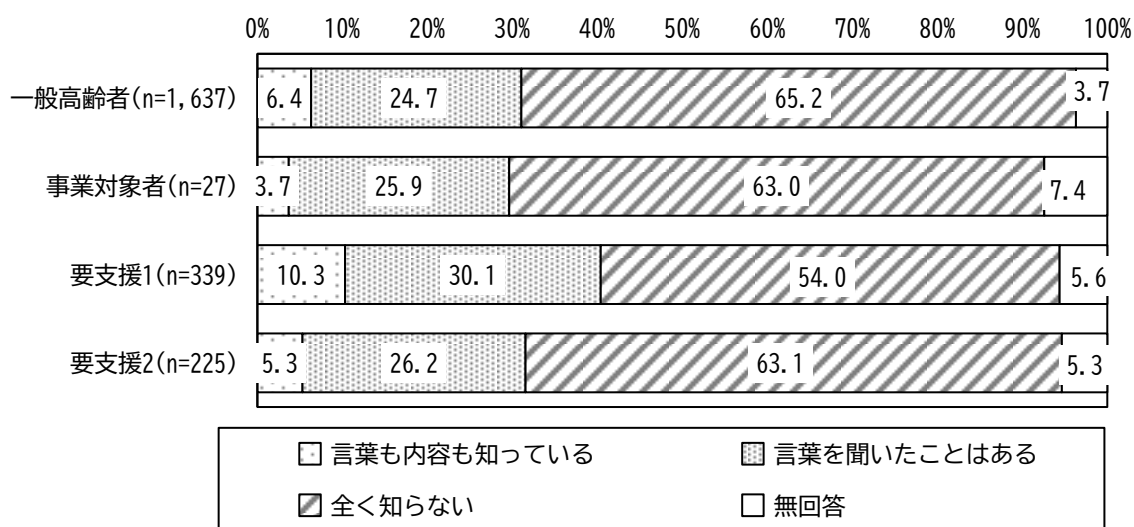
【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど認知度は増加する傾向がみられ、85歳以上では「言葉も内容も知っている」が9.4%、「言葉は聞いたことはある」が31.3%となっています。



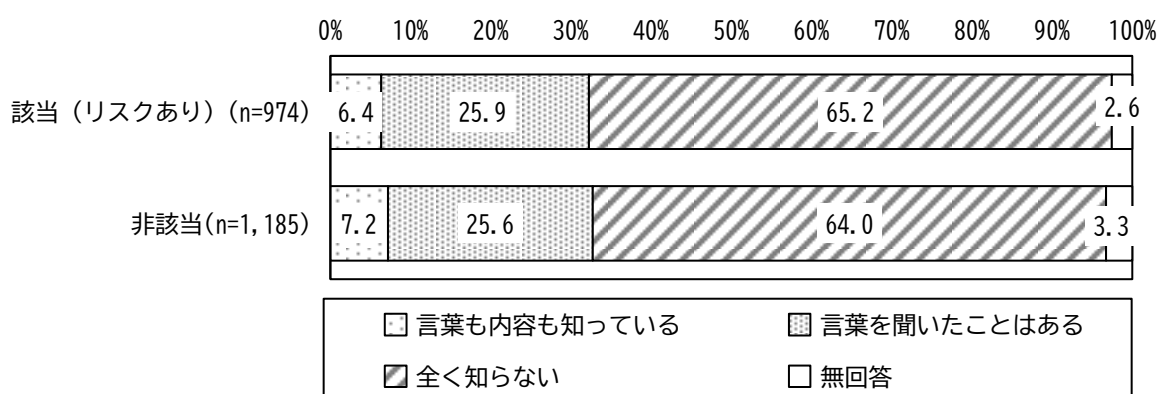
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1で認知度が高く、「言葉も内容も知っている」が10.1%、「言葉は聞いたことはある」が30.1%となっています。



【認知機能の低下リスク別】

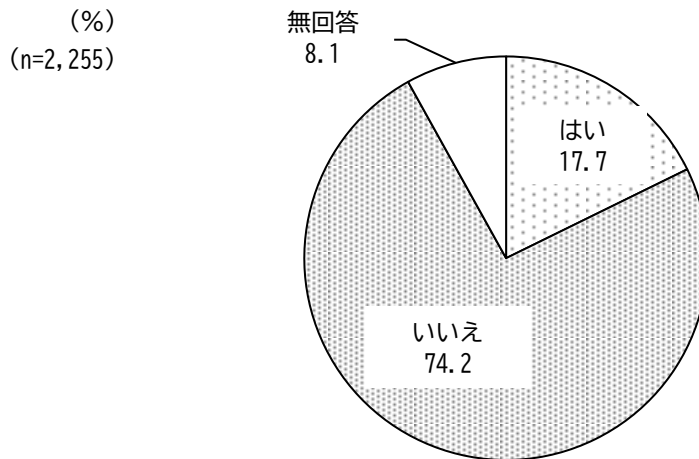
認知機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。



問8（5）芦屋市内で開催されている「認知症カフェ」を知っていますか

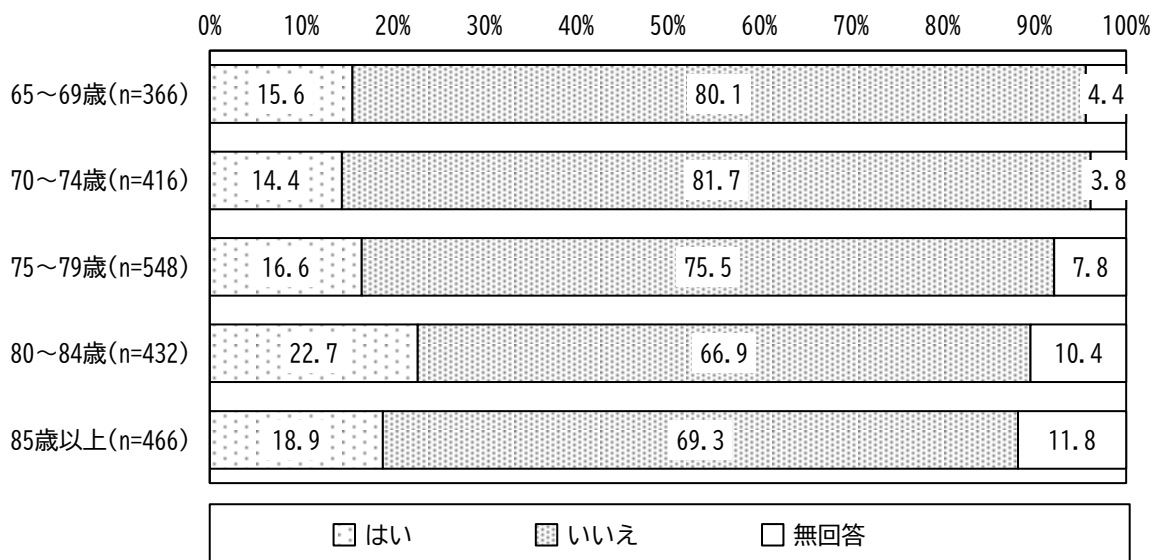
【全体】

認知症カフェの認知度については、「はい」（知っている）が17.7%、「いいえ」（知らない）が74.2%となっています。



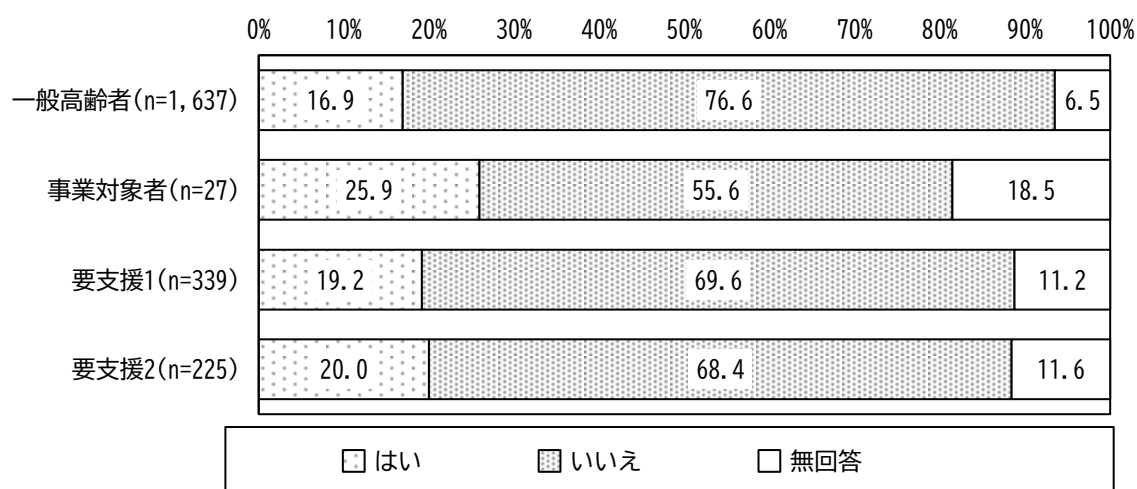
【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど認知度は増加する傾向がみられ、80～84歳では「はい」（知っている）が22.7%となっていますが、85歳以上では18.9%とやや減少しています。



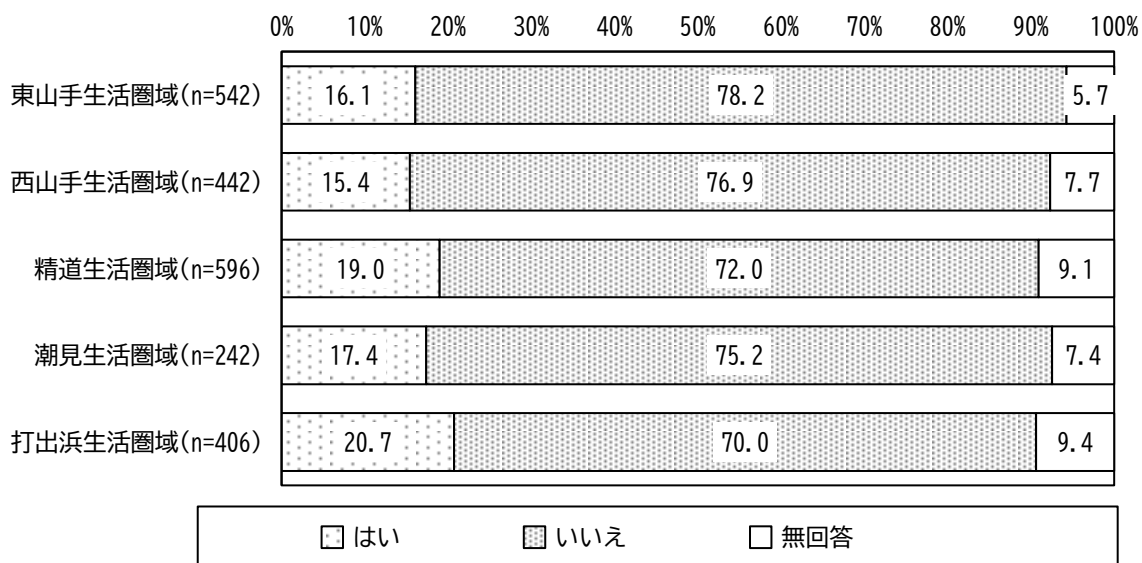
【認定状況別】

認定状況別にみると、事業対象者で「はい」（知っている）が25.9%、一般高齢者では「いいえ」（知らない）が74.6%と比較的多くなっています。



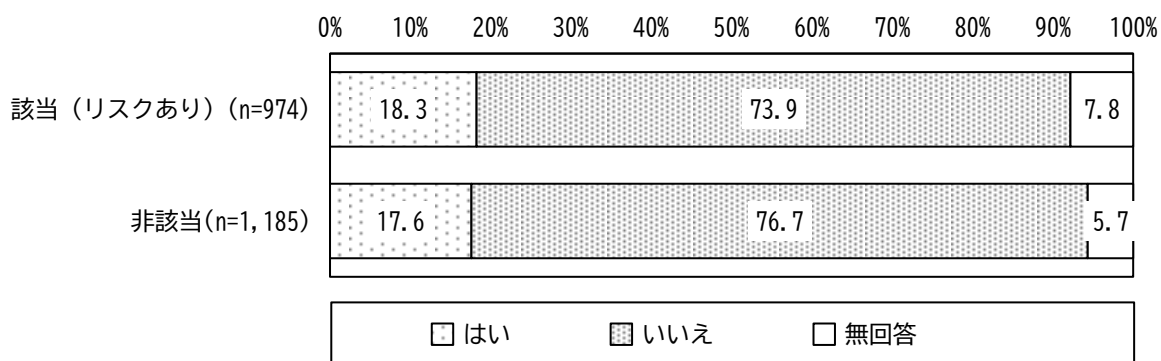
【居住地域別】

居住地域別にみると、打出浜生活圏域で「はい」（知っている）が20.7%と、他の生活圏域と比べてやや多くなっています。



【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。

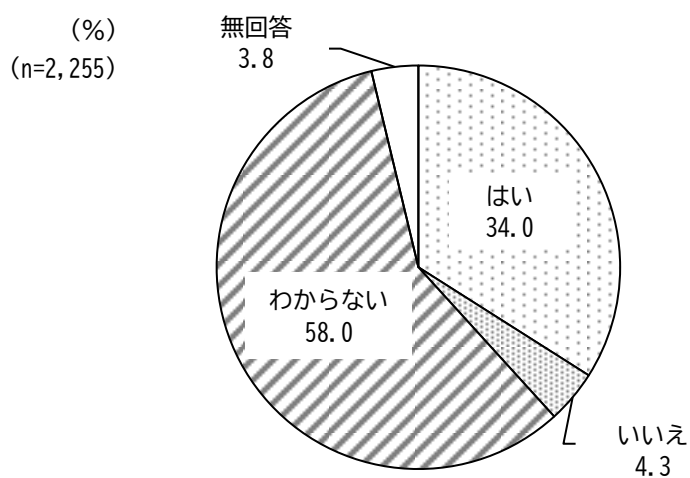


問8 (5) で「1. はい」を選択した方

自分が認知症になったとき、「認知症カフェ」を利用したいですか (1つに○)

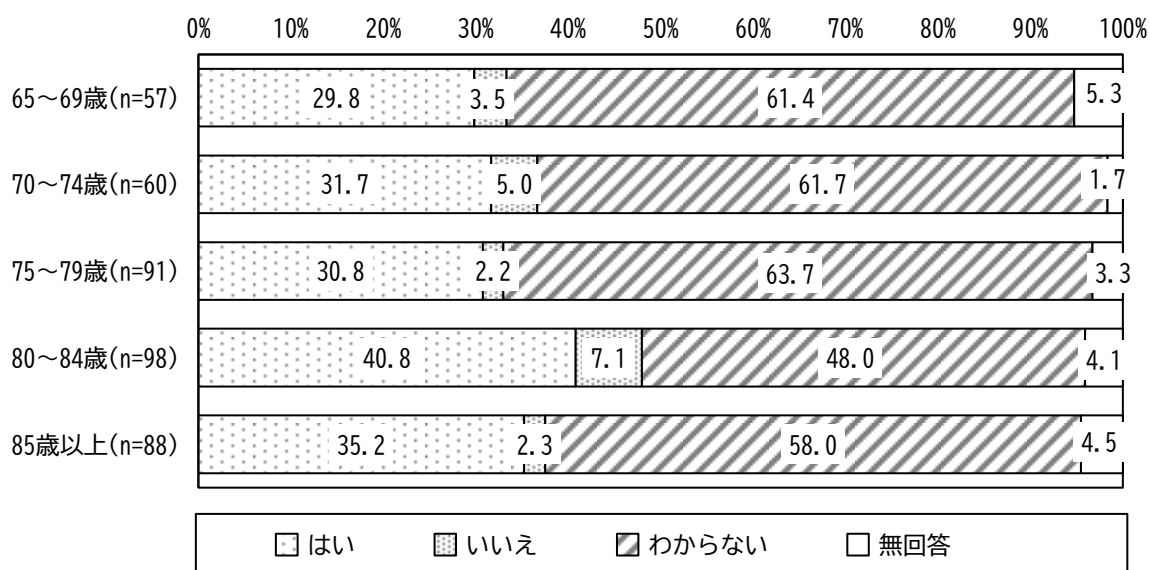
【全体】

「認知症カフェ」の利用意向については、「はい」(利用したい)が34.0%、「いいえ」(利用したくない)が4.3%、「わからない」が58.0%となっています。



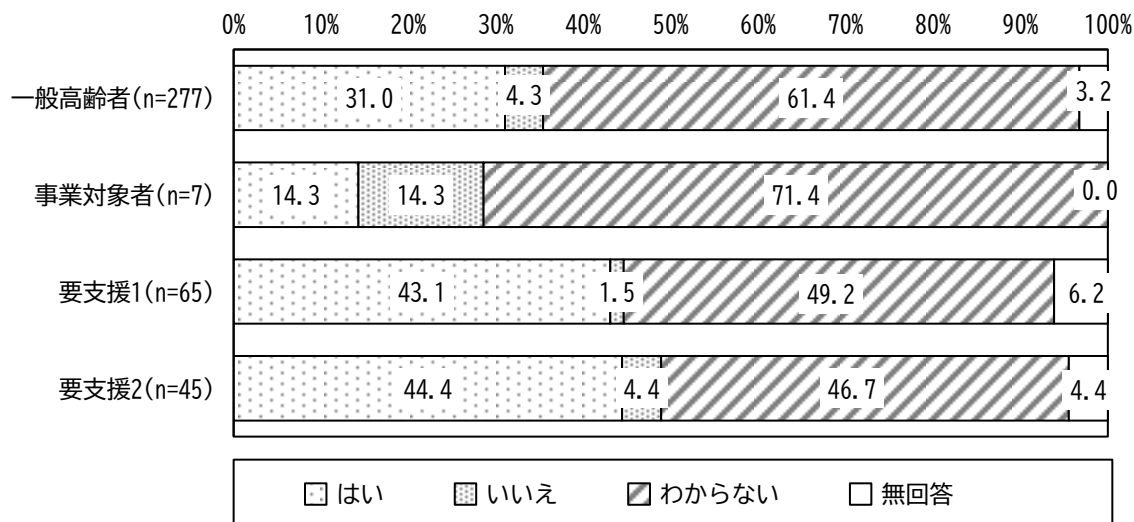
【年齢別】

年齢別にみると、80～84歳で「はい」（利用したい）が40.8%と、他の年代に比べて多くなっています。



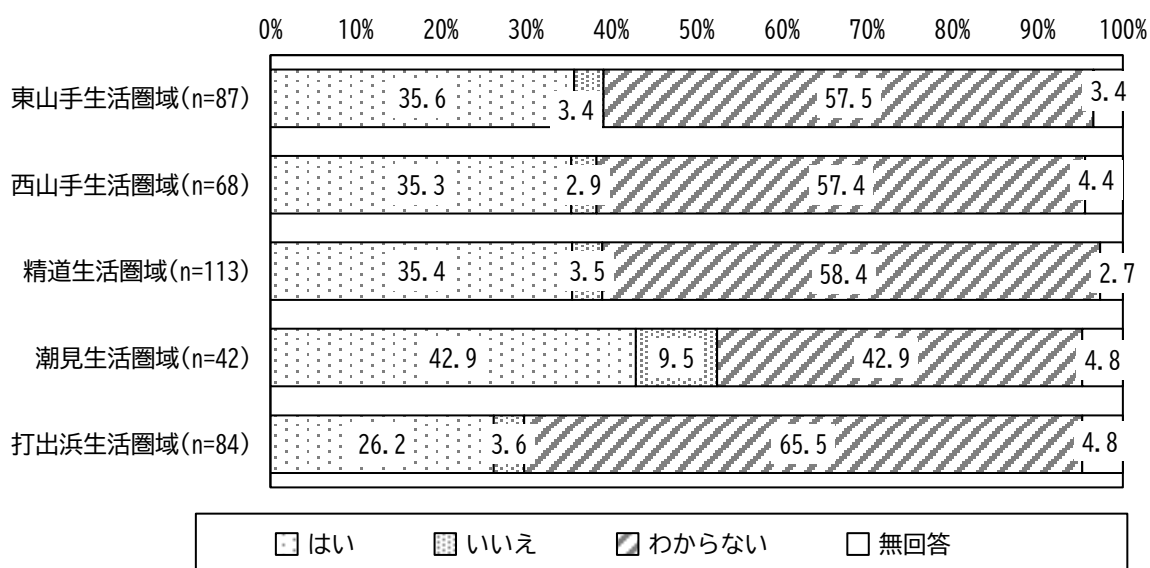
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者で「はい」（利用したい）が4割を超えて比較的多くなっています。



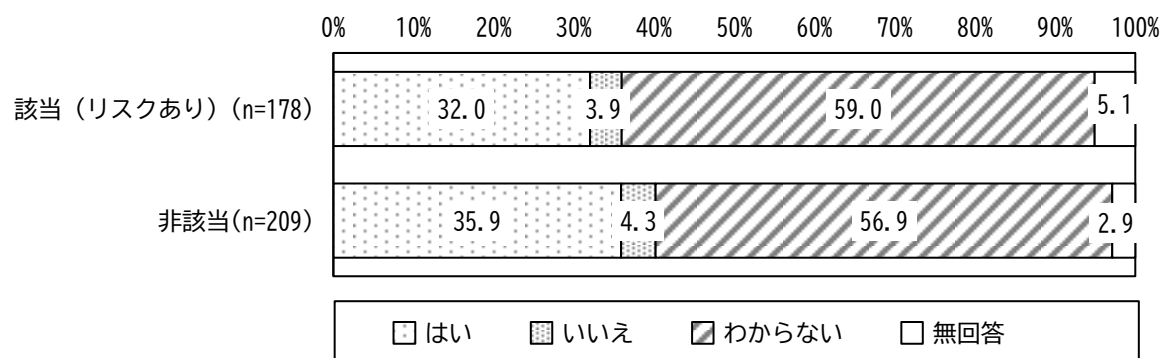
【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域で「はい」(利用したい)が42.9%、打出浜生活圏域で「わからない」が65.5%と、他の生活圏域と比べて多くなっています。



【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、非該当の方が、「はい」(利用したい)が3.9ポイント多くなっています。

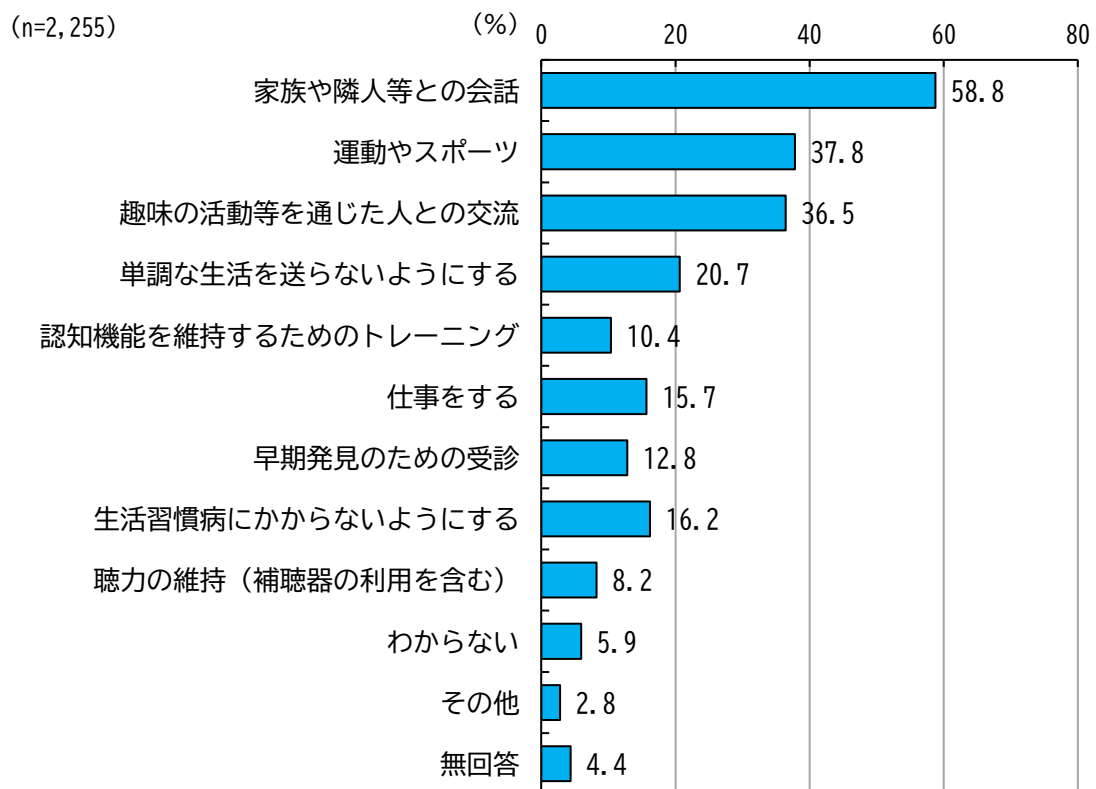


4) 認知機能の維持について

問8 (6) 認知機能を維持するために取り組みたい (取り組んでいる) ことは何ですか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

認知機能を維持するための取り組みについては、「家族や隣人等との会話」が 58.8%と最も多く、次いで、「運動やスポーツ」が 37.8%、「趣味の活動等を通じた人との交流」が 36.5%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど「運動やスポーツ」「仕事をする」が少なく、「認知機能を維持するためのトレーニング」「早期発見のための受診」「聴力の維持（補聴器の利用を含む）」が多くなる傾向がみられます。

	n	家族や隣人等との会話	運動やスポーツ	趣味の活動等を通じた人との交流	単調な生活を送らないようにする	認知機能を維持するためのトレーニング	仕事をする	早期発見のための受診	生活習慣病にかからないようにする	聴力の維持（補聴器の利用を含む）	わからない	その他	無回答	
全体	2255	58.8	37.8	36.5	20.7	10.4	15.7	12.8	16.2	8.2	5.9	2.8	4.4	
年齢	65～69歳	366	58.7	51.9	35.0	17.8	8.7	35.2	6.3	17.8	3.3	4.9	3.0	3.8
	70～74歳	416	61.1	47.6	38.7	24.3	7.2	24.0	10.8	16.3	3.6	5.8	2.9	2.6
	75～79歳	548	58.4	38.0	39.1	19.0	9.7	13.1	11.9	17.7	6.2	5.5	2.6	3.5
	80～84歳	432	57.4	30.8	35.9	21.8	14.4	8.6	17.6	15.0	10.4	6.3	3.2	4.2
	85歳以上	466	58.6	25.3	34.1	20.4	11.2	2.1	16.3	14.4	16.3	7.3	2.4	7.5

【認定状況別】

認定状況別にみると、事業対象者では「運動やスポーツ」、その他の区分では「家族や隣人等との会話」が最も多くなっています。

	n	家族や隣人等との会話	運動やスポーツ	趣味の活動等を通じた人との交流	単調な生活を送らないようにする	認知機能を維持するためのトレーニング	仕事をする	早期発見のための受診	生活習慣病にかからないようにする	聴力の維持（補聴器の利用を含む）	わからない	その他	無回答	
全体	2255	58.8	37.8	36.5	20.7	10.4	15.7	12.8	16.2	8.2	5.9	2.8	4.4	
認定状況	一般高齢者	1637	59.7	44.3	38.0	20.3	9.1	20.0	12.1	16.5	6.6	5.3	2.6	3.5
	事業対象者	27	33.3	44.4	40.7	22.2	14.8	3.7	11.1	25.9	18.5	3.7	3.7	3.7
	要支援1	339	59.6	20.9	35.1	21.8	13.0	3.8	17.4	14.7	11.5	8.6	3.2	6.2
	要支援2	225	54.2	17.3	28.9	20.9	14.2	3.1	11.1	15.6	13.3	7.1	3.1	8.0

【居住地域別】

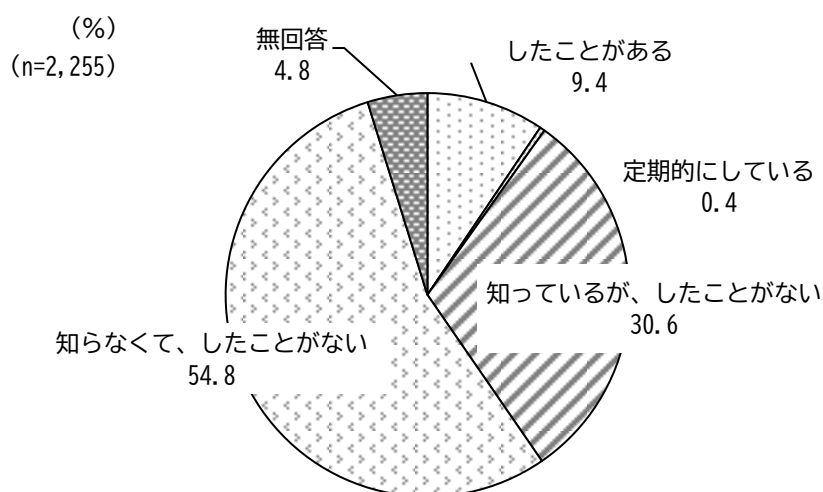
居住地域別にみると、潮見生活圏域では、「早期発見のための受診」が他の生活圏域に比べてやや多くなっています。

	n	家族や隣人等との会話	運動やスポーツ	趣味の活動等を通じた人との交流	単調な生活を送らないようにする	認知機能を維持するためのトレーニング	仕事をする	早期発見のための受診	生活習慣病にかからないようにする	聴力の維持（補聴器の利用を含む）	わからない	その他	無回答	
全体	2255	58.8	37.8	36.5	20.7	10.4	15.7	12.8	16.2	8.2	5.9	2.8	4.4	
圏域	東山手生活圏域	542	58.5	40.0	38.6	20.3	10.0	17.9	11.4	17.0	7.6	6.1	2.8	3.9
	西山手生活圏域	442	60.4	38.9	39.8	21.5	10.4	16.5	12.4	14.9	8.6	6.1	2.3	3.4
	精道生活圏域	596	59.6	37.1	36.7	21.3	11.2	13.6	12.9	15.3	8.9	5.2	2.3	4.9
	潮見生活圏域	242	54.5	41.3	35.1	21.5	12.4	12.0	17.4	14.5	7.9	5.4	4.1	5.0
	打出浜生活圏域	406	58.9	33.7	31.5	18.5	7.9	16.7	12.1	19.2	7.6	7.1	3.2	4.9

問8（7）認知症セルフチェックをしたことがありますか（1つに○）

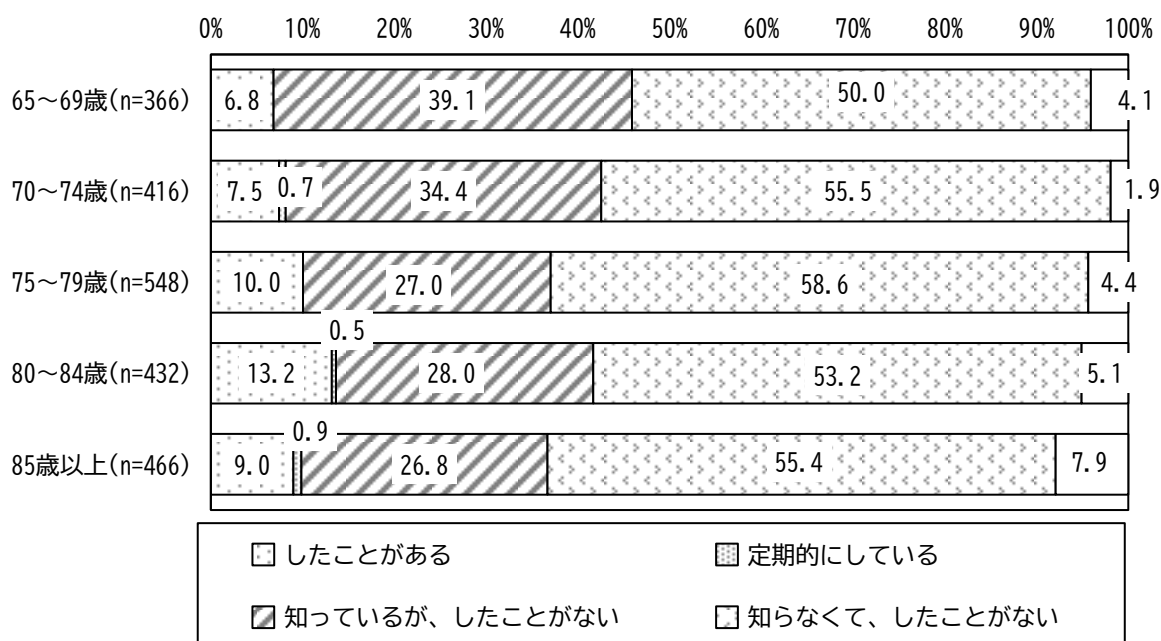
【全体】

認知症セルフチェックを「したことがある」は9.4%、「定期的に行っている」は0.4%で、「したことがある」と「定期的に行っている」を合わせた『したことがある』は合計9.8%となっています。



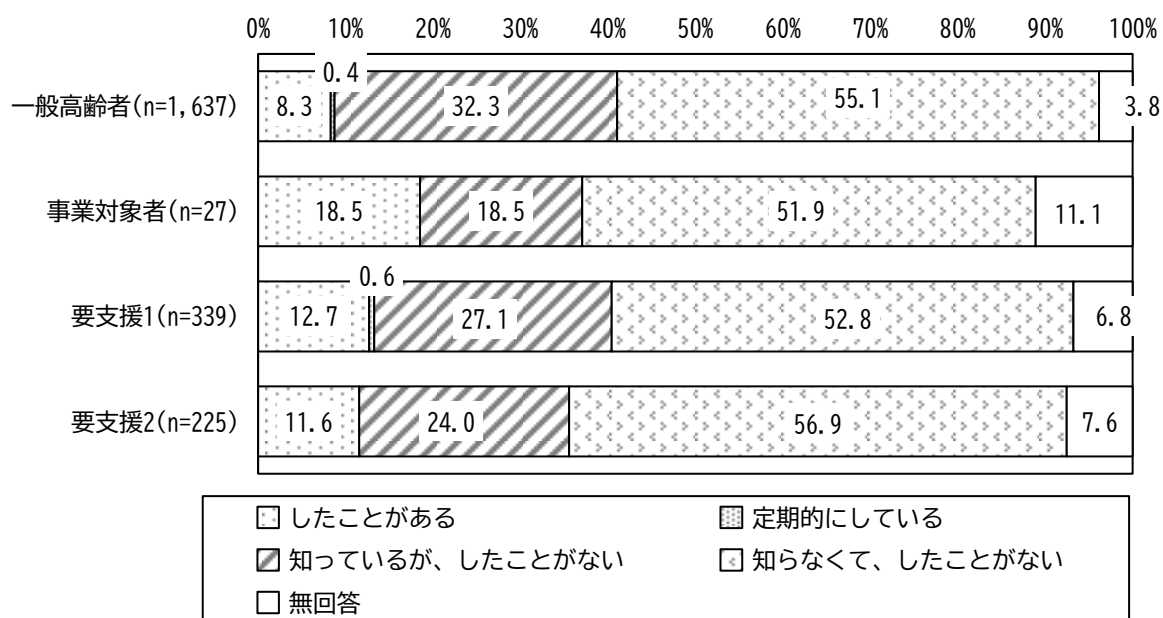
【年齢別】

年齢別にみると、『したことがある』は80～84歳で13.7%と最も多く、次いで、75～79歳が10.0%、85歳以上が9.9%となっています。



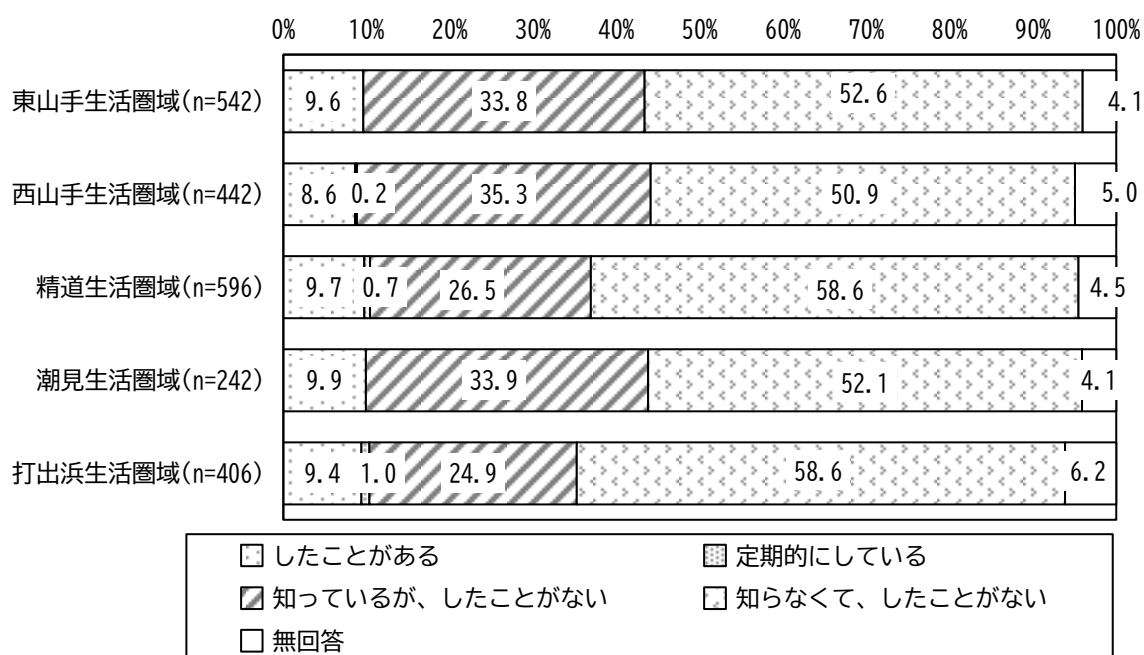
【認定状況別】

認定状況別にみると、『したことがある』は一般高齢者で8.7%、事業対象者で18.5%、要支援1で13.3%、要支援2で11.6%となっています。



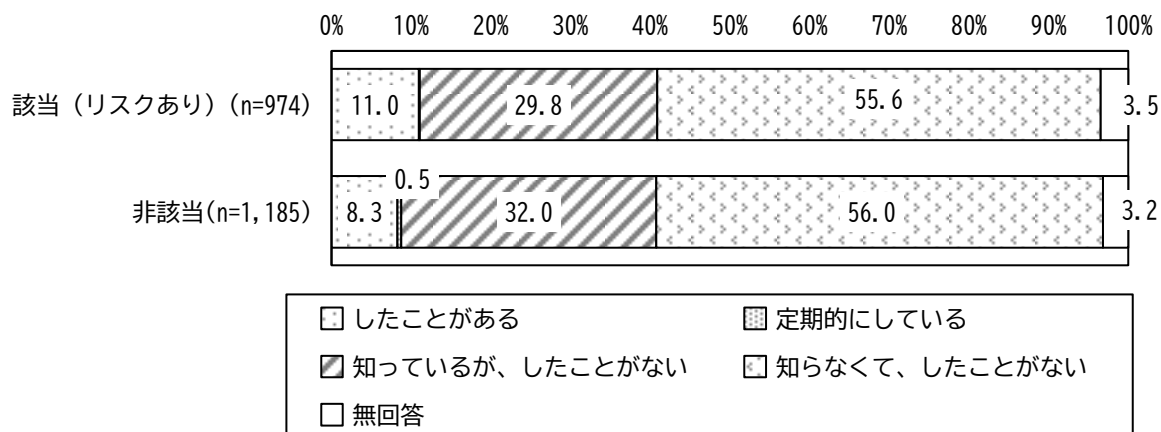
【居住地域別】

居住地域別にみると、『したことがある』は精道生活圏域、打出浜生活圏域でともに1割を超えて、10.4%となっています。



【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、該当（リスクあり）で、『したことがある』が非該当に比べて2.2ポイント少なくなっています。

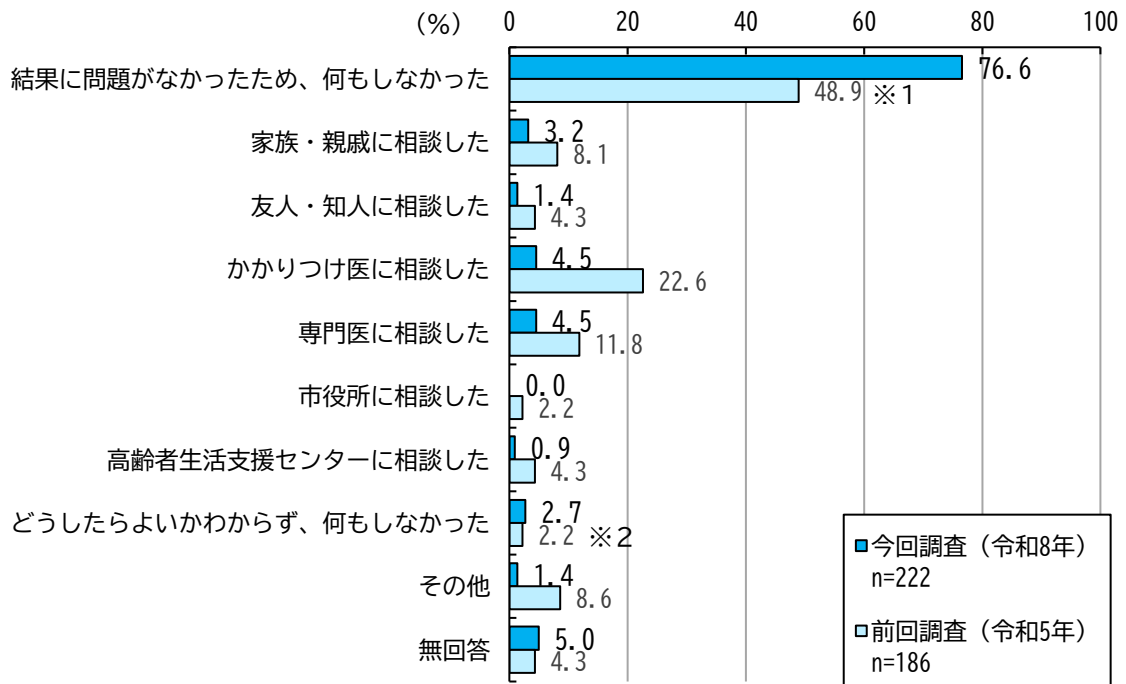


問8（7）で「1. したことがある」または「2. 定期的に行っている」を選択した方

認知症セルフチェックをした後、どのような行動をとりましたか（主なもの1つに○）

【全体】

認知症セルフチェック後の行動としては、「結果に問題がなかったため、何もしなかった」が76.6%と最も多くなっています。前回調査と比べて、「かかりつけ医に相談した」が18.1ポイント、「専門医に相談した」が6.5ポイント低くなっています。



※1 前回調査時の選択肢は「何もしなかった」

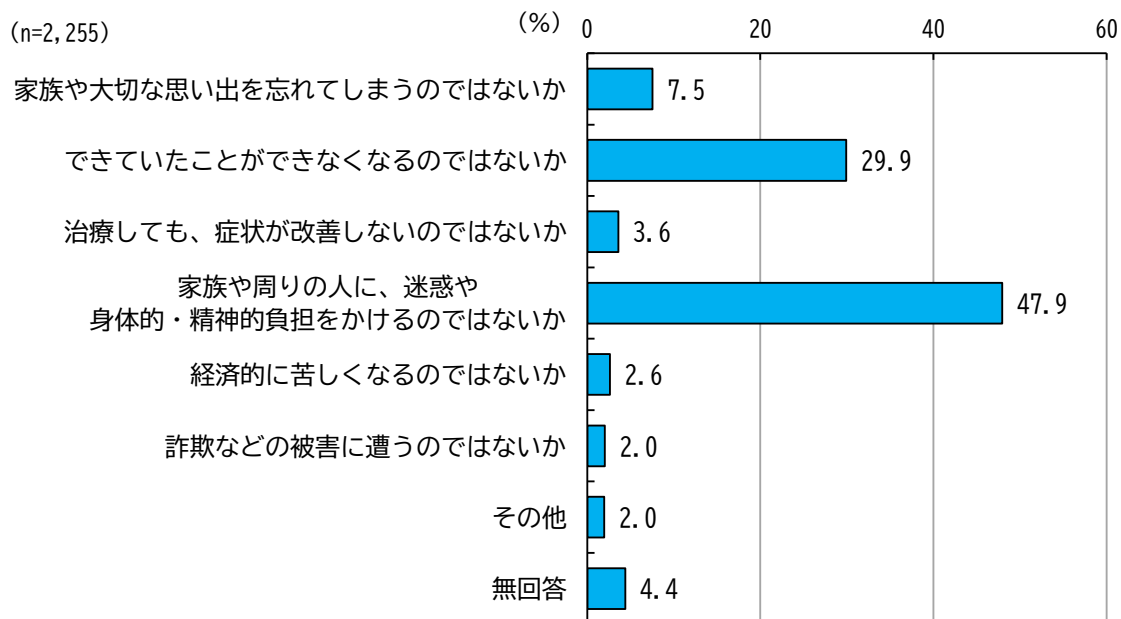
※2 前回調査時の選択肢は「どうしたらよいかわからなかった」

5) 不安に感じること

問8 (8) あなたが認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか (あるいは現在どのようなことに不安を感じていますか) (主なもの1つに○)

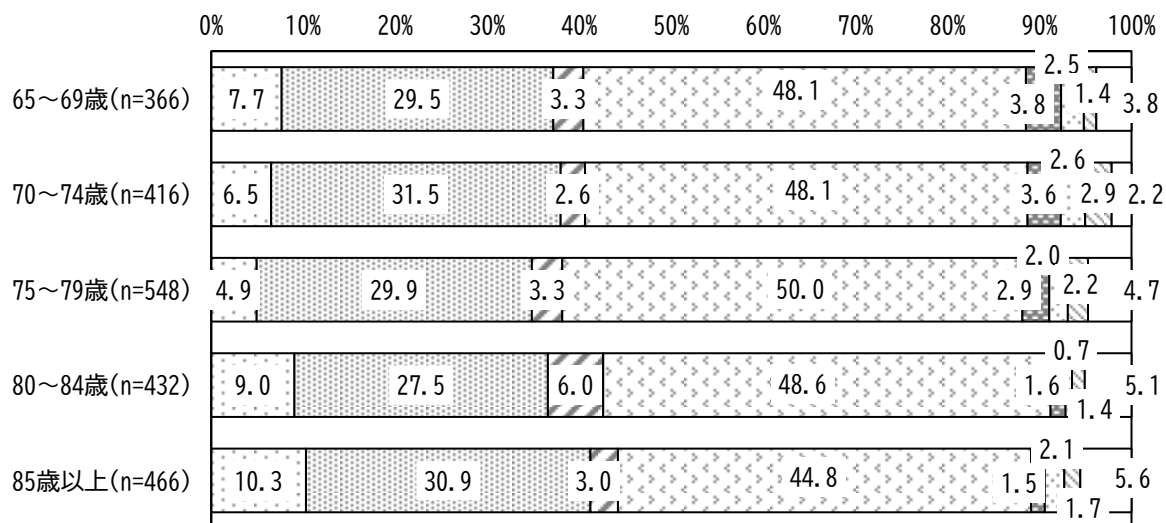
【全体】

認知症になったら不安を感じることは、「家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないかと」が47.9%と最も多く、次いで、「できていたことができなくなるのではないかと」が29.9%となっています。



【年齢別】

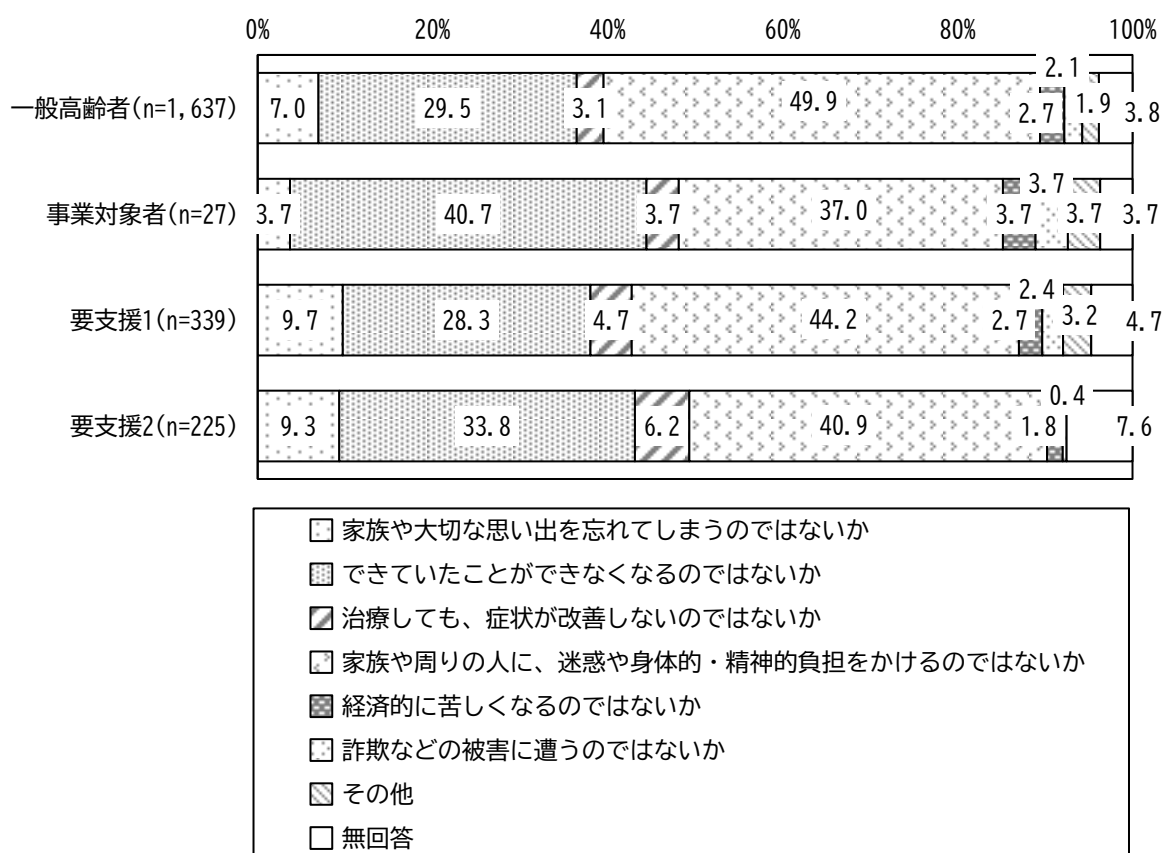
年齢別にみると、以下の通りとなっています。



- 家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないか
- できていたことができなくなるのではないか
- 治療しても、症状が改善しないのではないか
- 家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないか
- 経済的に苦しくなるのではないか
- 詐欺などの被害に遭うのではないか
- その他
- 無回答

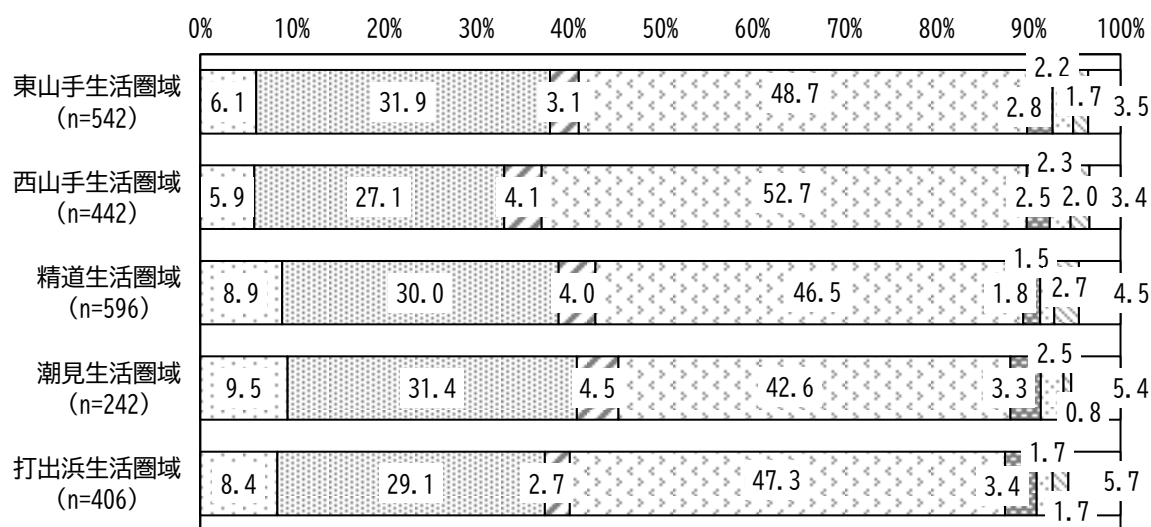
【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者で「家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないか」が半数に迫り、やや多くなっています。



【居住地域別】

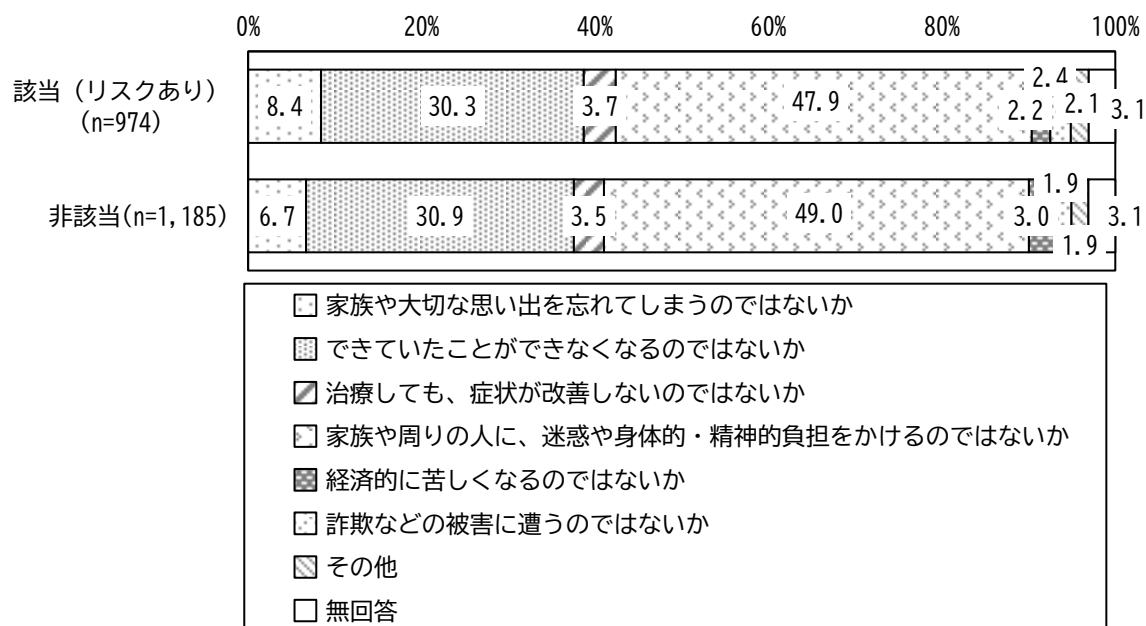
居住地域別にみると、西山手生活圏域で「家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないか」が52.7%と、他の生活圏域に比べて多くなっています。



- 家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないかと
- できていたことができなくなるのではないかと
- 治療しても、症状が改善しないのではないかと
- 家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないかと
- 経済的に苦しくなるのではないかと
- 詐欺などの被害に遭うのではないかと
- その他
- 無回答

【認知機能の低下リスク別】

認知機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。



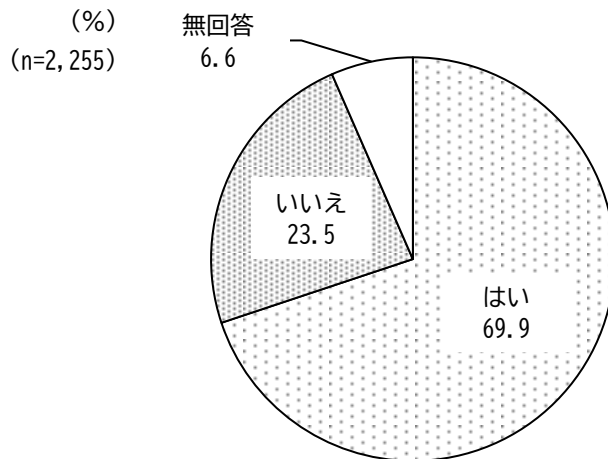
問9 終活について

1) 終活への興味・関心

問9 (1) 「終活」に興味や関心はありますか

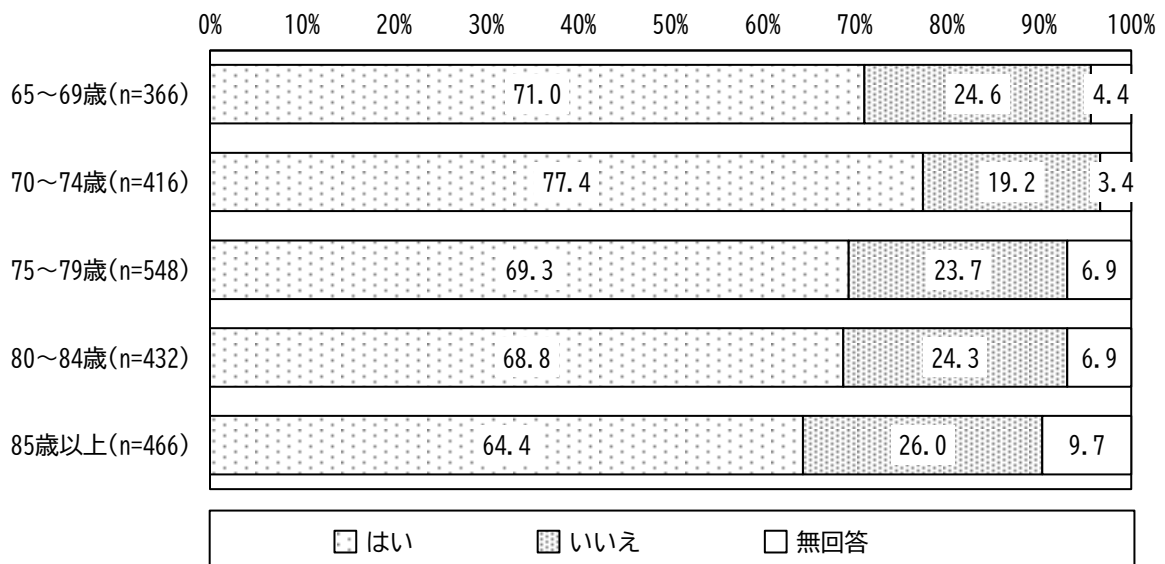
【全体】

「終活」への興味・関心については、「はい」(ある)が69.9%、「いいえ」(ない)が23.5%となっています。



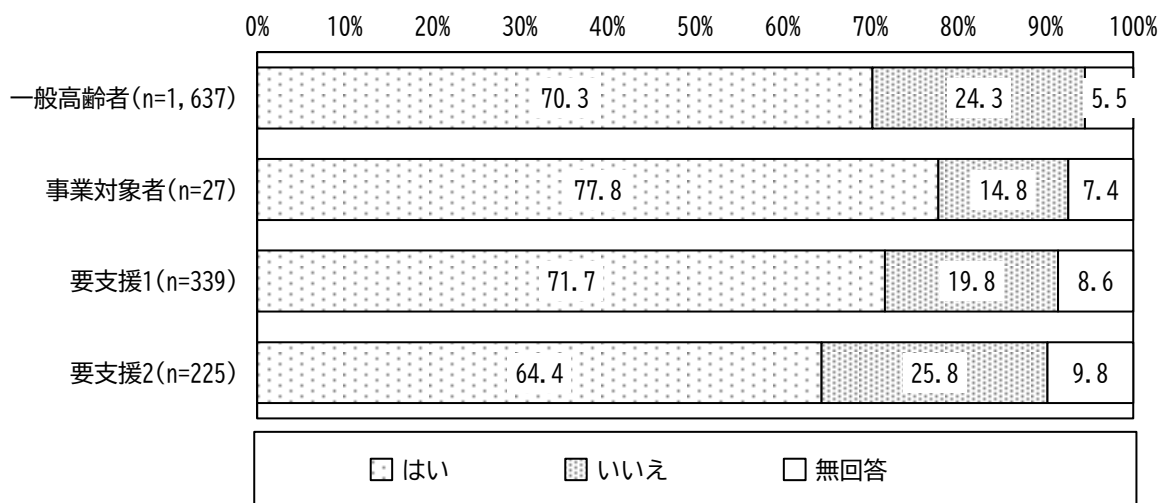
【年齢別】

年齢別にみると「はい」(ある)は70~74歳で77.4%と最も多くなっています。



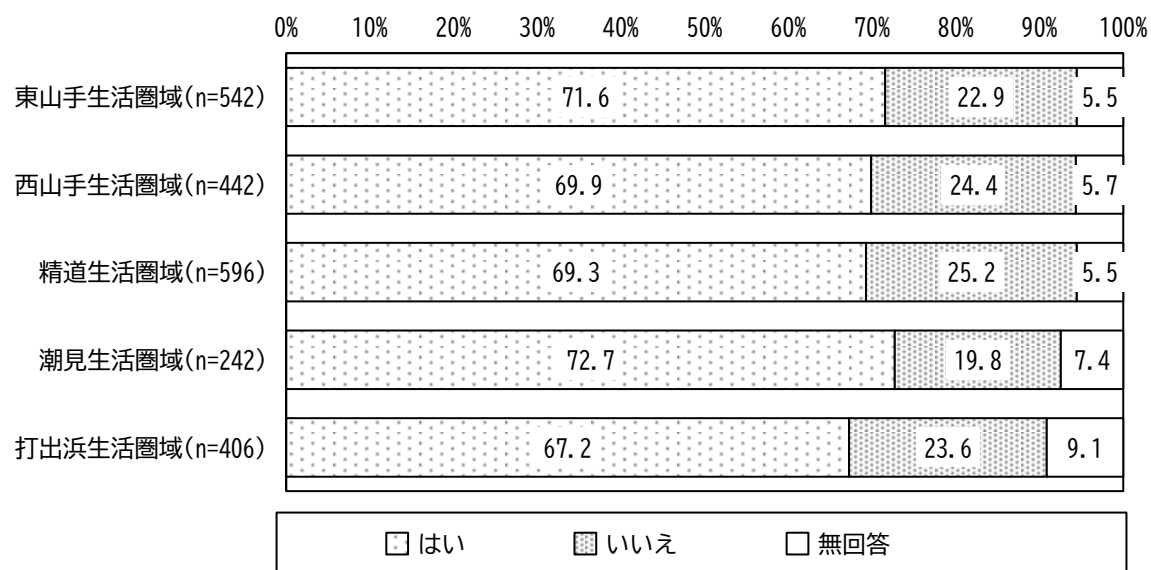
【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」（ある）は、要支援2で64.4%とやや少なくなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通りとなっています。

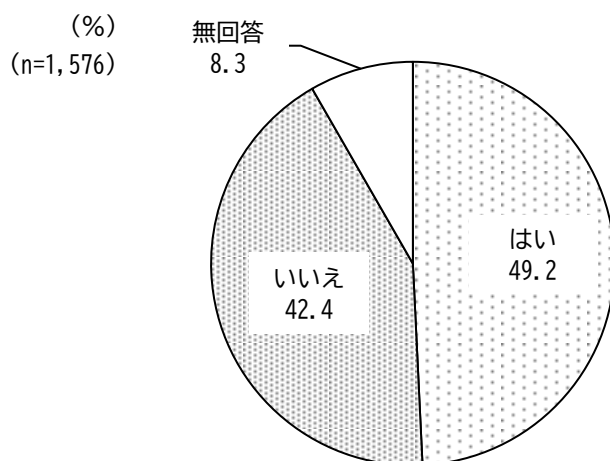


2) 終活の取り組み状況

問9 (2) 現在、「終活」に取り組んでいますか【(1)で「はい」を選んだ人は記入してください】

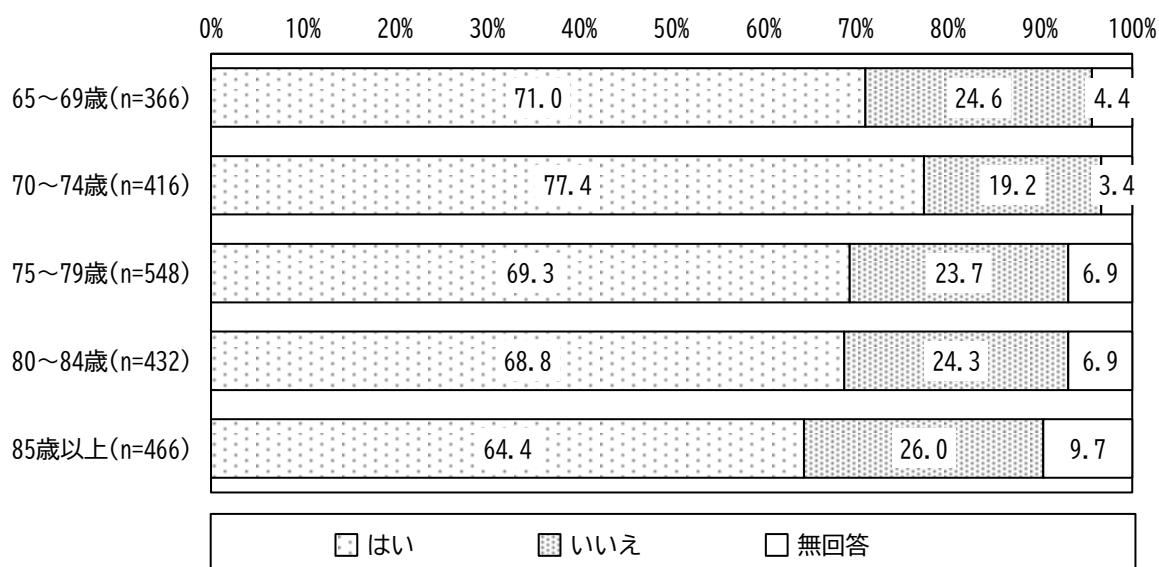
【全体】

「終活」への取り組み状況については、「はい」(取り組んでいる)が49.2%、「いいえ」(取り組んでいない)が42.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「はい」(取り組んでいる)が49.2%、「いいえ」(取り組んでいない)が42.4%となっています。

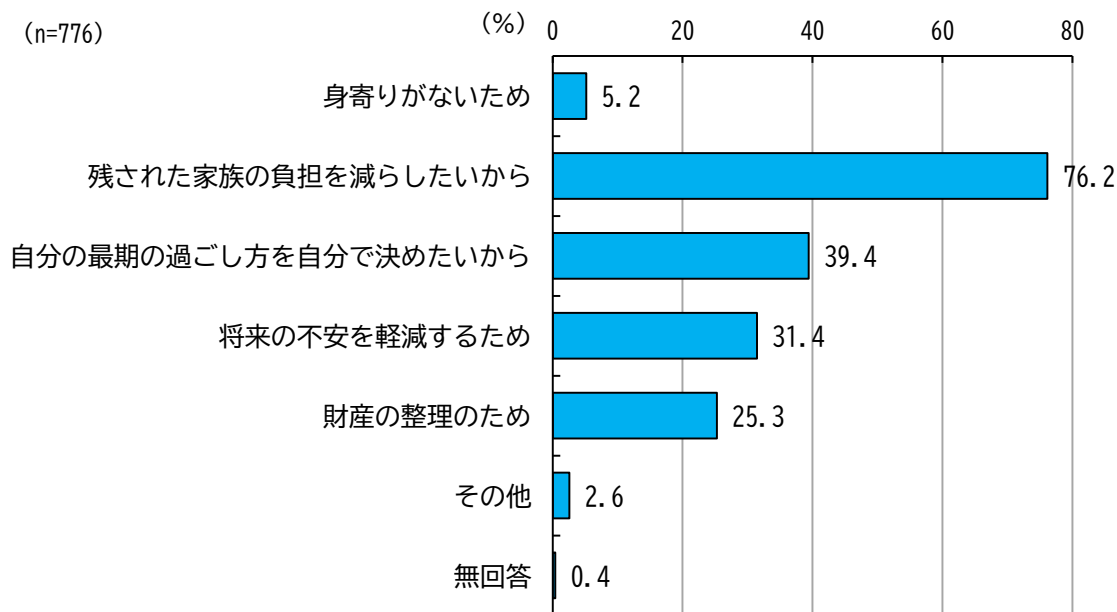


問9(2)で「1. はい」を選択した方

取り組んでいる理由は何ですか（〇は主なもの3つまで）

【全体】

終活に取り組んでいる理由としては、「残された家族の負担を減らしたいから」が76.2%と最も多く、次いで「自分の最期の過ごし方を自分で決めたいから」が39.4%、「将来の不安を軽減するため」が31.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、80歳以上で「自分の最期の過ごし方を自分で決めたいから」が4割を超えて多くなっています。また、75～79歳では「財産の整理のため」が3割強と比較的多くなっています。

		n	身寄りがないため	減らされた家族の負担を	自分で決めたいから	自分の最期の過ごし方を	将来の不安を軽減するため	財産の整理のため	その他	無回答
全体		776	5.2	76.2	39.4	31.4	25.3	2.6	0.4	
年齢	65～69歳	96	6.3	77.1	38.5	35.4	21.9	1.0	0.0	
	70～74歳	146	5.5	76.0	32.9	33.6	25.3	0.7	0.0	
	75～79歳	185	4.9	76.8	37.3	28.1	31.4	2.7	1.1	
	80～84歳	162	4.3	77.8	44.4	35.2	23.5	1.9	0.0	
	85歳以上	179	5.0	73.7	41.9	28.5	21.8	5.6	0.6	

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者、要支援1では「財産の整理のため」、要支援2では「将来の不安を軽減するため」が他の区分に比べて多くなっています。

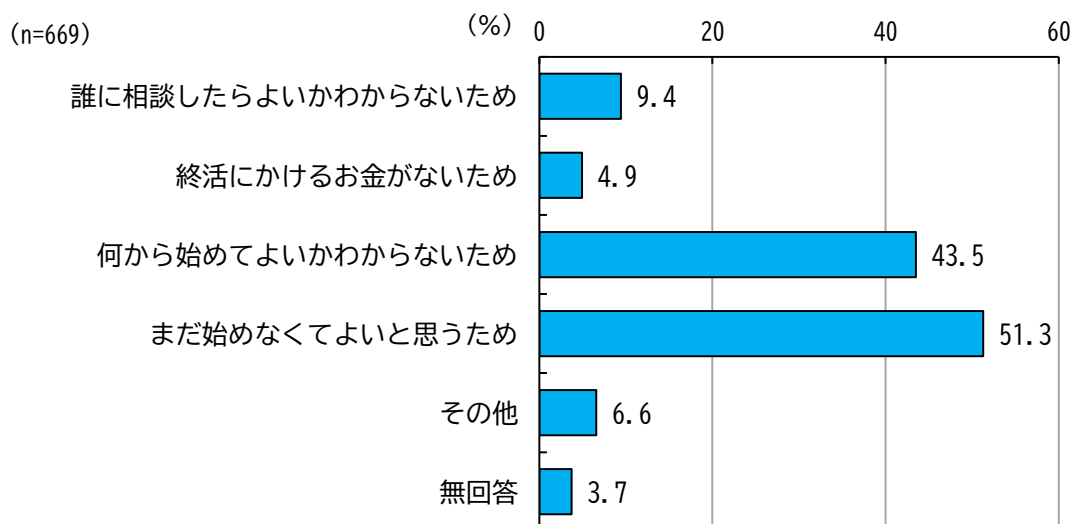
		n	身寄りがないため	減らされた家族の負担を	自分で決めたいから	自分の最期の過ごし方を	将来の不安を軽減するため	財産の整理のため	その他	無回答
全体		776	5.2	76.2	39.4	31.4	25.3	2.6	0.4	
認定状況	一般高齢者	535	4.5	77.0	37.0	29.9	26.7	1.9	0.0	
	事業対象者	13	23.1	61.5	30.8	30.8	15.4	7.7	0.0	
	要支援1	140	5.0	72.1	45.0	32.9	26.4	4.3	0.7	
	要支援2	80	6.3	80.0	45.0	41.3	13.8	3.8	2.5	

問9 (2) で「2. いいえ」を選択した方

取り組んでいない理由は何ですか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

終活に取り組んでいない理由としては、「まだ始めなくてよいと思うため」が 51.3%と最も多く、次いで「何から始めてよいかわからないため」が 43.5%となっています。



◇終活に取り組んでいない理由「その他」の主な回答

内 容	
そろそろ始めようと思っている	忙しくて時間がない
家族の介護や看病がある	死や終活のことを考えたくない
少しずつ整理しようと思っている	自分にはあまり必要ない

など

【年齢別】

年齢別にみると、85歳以上で「何から始めてよいかわからないため」、84歳以下では「まだ始めなくてよいと思うため」が最も多くなっています。

	n	誰から相談したためよいか	終活にかけられるお金がないため	何から始めてよいか	まだ始めなくてよいと思うため	その他	無回答	
全体	669	9.4	4.9	43.5	51.3	6.6	3.7	
年齢	65～69歳	158	7.0	5.7	36.1	63.9	6.3	0.0
	70～74歳	164	10.4	4.9	42.1	54.3	5.5	3.0
	75～79歳	166	7.8	3.0	47.6	49.4	5.4	1.2
	80～84歳	97	11.3	5.2	46.4	47.4	7.2	8.2
	85歳以上	79	12.7	5.1	48.1	30.4	10.1	11.4

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者で「何から始めてよいかわからないため」、一般高齢者では「まだ始めなくてよいと思うため」が最も多くなっています。

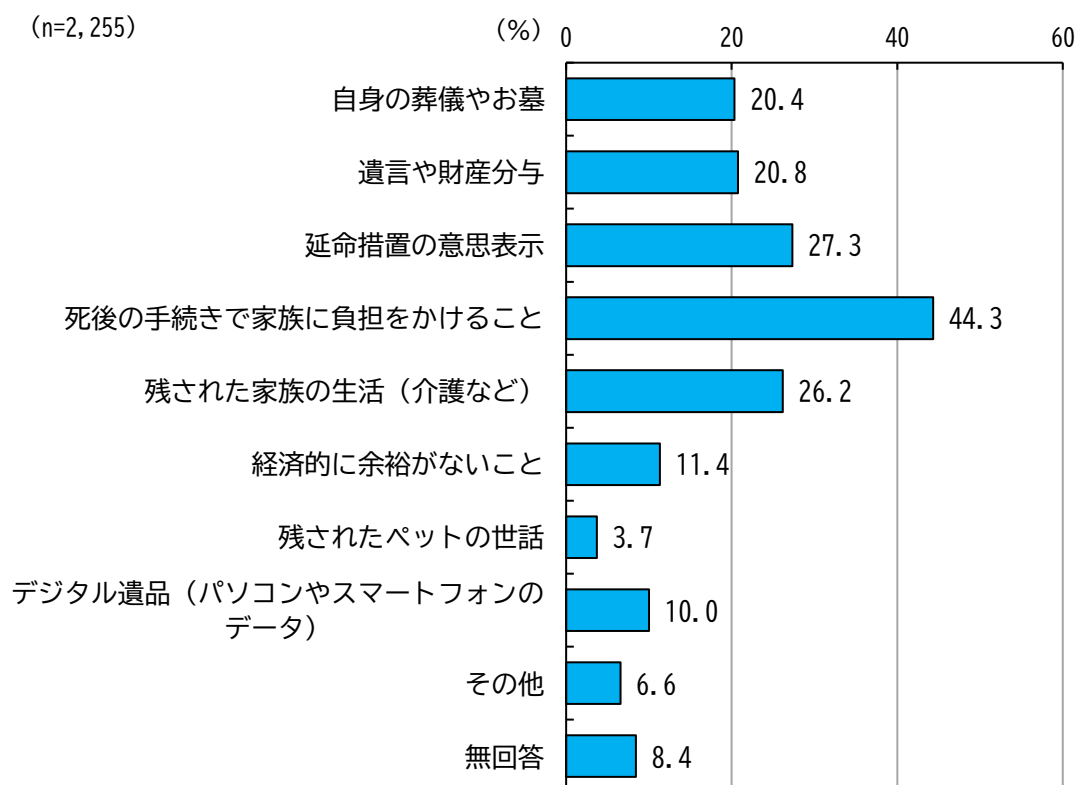
	n	誰から相談したためよいか	終活にかけられるお金がないため	何から始めてよいか	まだ始めなくてよいと思うため	その他	無回答	
全体	669	9.4	4.9	43.5	51.3	6.6	3.7	
認定状況	一般高齢者	546	7.5	4.4	40.1	55.5	6.8	3.3
	事業対象者	4	25.0	25.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	要支援1	65	18.5	4.6	53.8	33.8	7.7	7.7
	要支援2	49	16.3	6.1	61.2	34.7	2.0	2.0

3) もしもの時に気がかりなこと

問9 (3) もしもの時に備えて、気がかりなことは何ですか (○は主なもの3つまで)

【全体】

もしもの時に気がかりなことについては、「死後の手続きで家族に負担をかけること」が44.3%と最も多く、次いで、「延命措置の意思表示」が27.3%、「残された家族の生活 (介護など)」が26.2%となっています。



◇もしもの時に気がかりなこと「その他」の主な回答

内 容	
特に気がかりはない	まだ考えていない、わからない
一人暮らしや身寄りのなさが不安	病気や介護、施設入所等の費用面が不安
すでに手続きや家族への伝達を進めている	

など

【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者で「残された家族の生活（介護など）」が3割を超えて比較的多くなっています。

	n	自身の葬儀やお墓	遺言や財産分与	延命措置の意思表示	死後の手続きで家族に負担をかけること	残された家族の生活（介護など）	経済的に余裕がないこと	残されたペットの世話	デジタル遺品（パソコンやスマートフォン）のデータ	その他	無回答	
全体	2255	20.4	20.8	27.3	44.3	26.2	11.4	3.7	10.0	6.6	8.4	
年齢	65～69歳	366	23.2	24.3	24.9	46.7	30.1	12.6	6.8	15.8	3.3	5.2
	70～74歳	416	23.1	25.2	28.8	47.1	30.5	14.9	4.3	13.2	4.8	3.6
	75～79歳	548	19.2	22.6	27.6	41.6	26.6	10.9	4.0	10.4	6.9	8.9
	80～84歳	432	20.8	19.0	29.4	43.8	26.9	10.2	2.3	7.6	5.8	9.0
	85歳以上	466	16.7	14.2	26.0	44.4	18.0	8.6	1.5	4.1	10.9	12.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者で「残された家族の生活（介護など）」が27.9%と、比較的多くなっています。

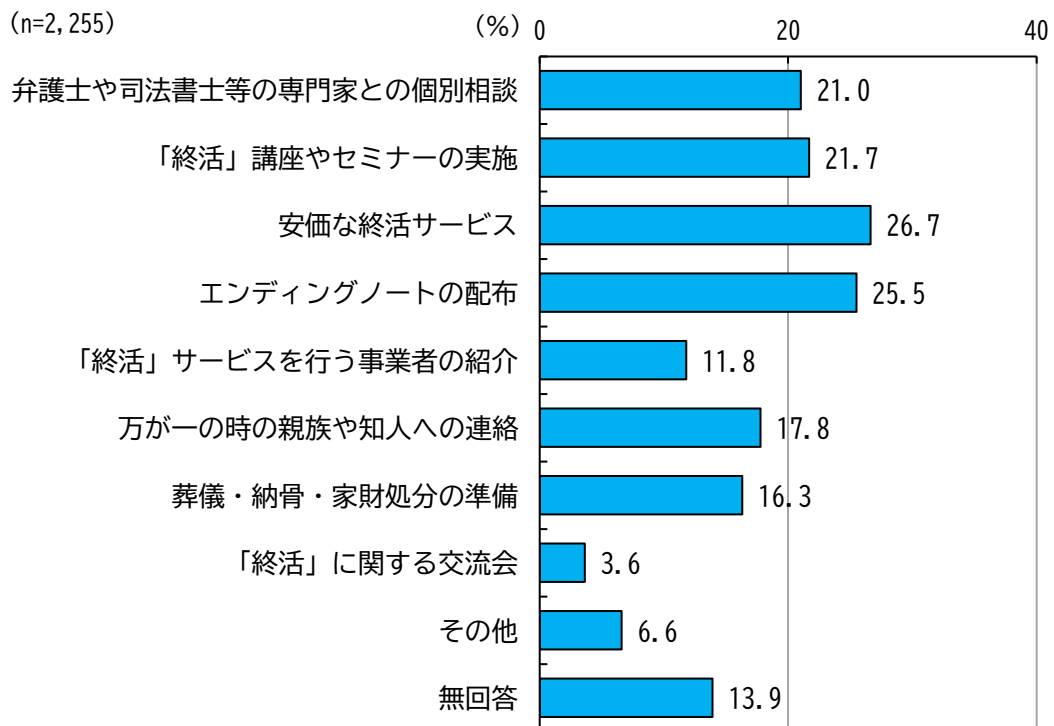
	n	自身の葬儀やお墓	遺言や財産分与	延命措置の意思表示	死後の手続きで家族に負担をかけること	残された家族の生活（介護など）	経済的に余裕がないこと	残されたペットの世話	デジタル遺品（パソコンやスマートフォン）のデータ	その他	無回答	
全体	2255	20.4	20.8	27.3	44.3	26.2	11.4	3.7	10.0	6.6	8.4	
認定状況	一般高齢者	1637	20.6	21.6	27.7	44.3	27.9	12.0	4.3	11.2	5.5	6.8
	事業対象者	27	14.8	22.2	11.1	44.4	11.1	11.1	3.7	22.2	14.8	11.1
	要支援1	339	18.3	18.6	28.9	47.2	22.7	8.6	2.1	5.6	9.7	11.5
	要支援2	225	22.7	19.1	24.9	41.8	20.4	10.2	1.8	6.2	8.4	12.9

4) 終活に必要な支援

問9 (4) 「終活」についてどのような支援があればよいと思いますか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

終活に必要な支援については、「安価な終活サービス」が 26.7%と最も多く、次いで、「エンディングノートの配布」が 25.5%、「終活」講座やセミナーの実施」が 21.7%、「弁護士や司法書士等の専門家との個別相談」が 21.0%となっています。



◇終活に必要な支援「その他」の主な回答

内 容	
特に支援は必要ない	まだ考えていない、よく分からない
すでに準備している	子どもや家族に任せる
家の片づけや家財処分の支援	遺言や後見など手続きの説明がほしい
市など公的機関の支援を望む	「終活」という言葉や考え方に抵抗がある

など

【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳では「エンディングノートの配布」が32.5%と最も多くなっています。また、「弁護士や司法書士等の専門家との個別相談」「終活」講座やセミナーの実施」では、年代が下がるほど多くなる傾向がみられ、65～74歳の前期高齢者では、ともに7割弱となっています。

	n	個別相談 弁護士や司法書士等の専門家との	「終活」講座やセミナーの実施	安価な終活サービス	エンディングノートの配布	「終活」サービスを行う事業者の紹介	万が一の時の親族や知人への連絡	葬儀・納骨・家財処分の準備	「終活」に関する交流会	その他	無回答	
全体	2255	21.0	21.7	26.7	25.5	11.8	17.8	16.3	3.6	6.6	13.9	
年齢	65～69歳	366	29.2	29.2	29.5	26.2	14.5	16.7	20.8	4.1	3.3	7.1
	70～74歳	416	27.4	29.8	27.2	32.5	13.2	19.7	16.6	4.8	4.6	6.5
	75～79歳	548	18.8	22.6	25.7	25.2	10.9	16.4	13.3	3.3	6.8	14.1
	80～84歳	432	18.1	17.6	27.8	25.5	12.0	18.1	17.4	3.0	6.7	16.9
	85歳以上	466	14.6	11.8	23.2	19.3	9.2	18.9	14.6	3.2	11.2	22.1

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者と事業対象者では「エンディングノートの配布」、要支援認定者では「安価な終活サービス」がそれぞれ最も多くなっています。

	n	個別相談 弁護士や司法書士等の専門家との	「終活」講座やセミナーの実施	安価な終活サービス	エンディングノートの配布	「終活」サービスを行う事業者の紹介	万が一の時の親族や知人への連絡	葬儀・納骨・家財処分の準備	「終活」に関する交流会	その他	無回答	
全体	2255	21.0	21.7	26.7	25.5	11.8	17.8	16.3	3.6	6.6	13.9	
認定状況	一般高齢者	1637	23.1	24.7	26.5	26.9	11.8	17.4	16.1	4.0	5.9	11.5
	事業対象者	27	11.1	11.1	33.3	40.7	14.8	11.1	14.8	3.7	11.1	14.8
	要支援1	339	15.3	14.5	25.1	21.5	11.2	20.6	18.0	2.4	7.4	20.9
	要支援2	225	16.4	12.9	27.6	19.6	12.4	18.2	14.2	3.1	10.7	19.1

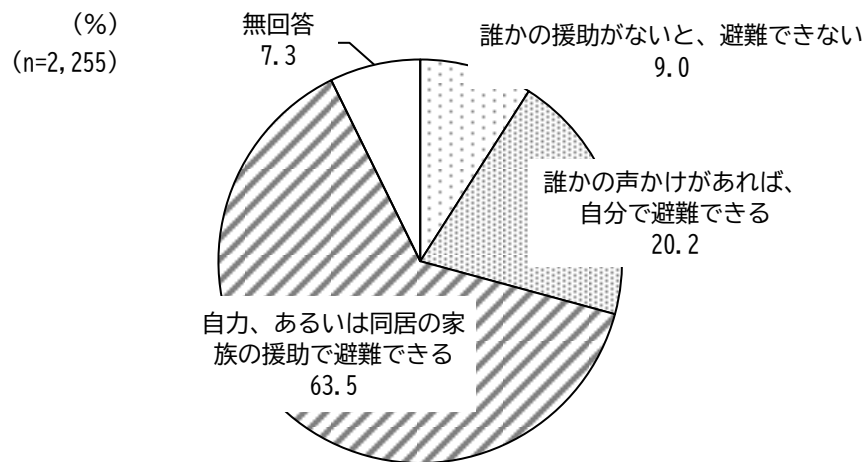
問10 災害時や緊急時の避難などについて

1) 緊急時・災害時の避難の可否

問10(1) 災害時(台風や地震など)や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか
(1つに○)

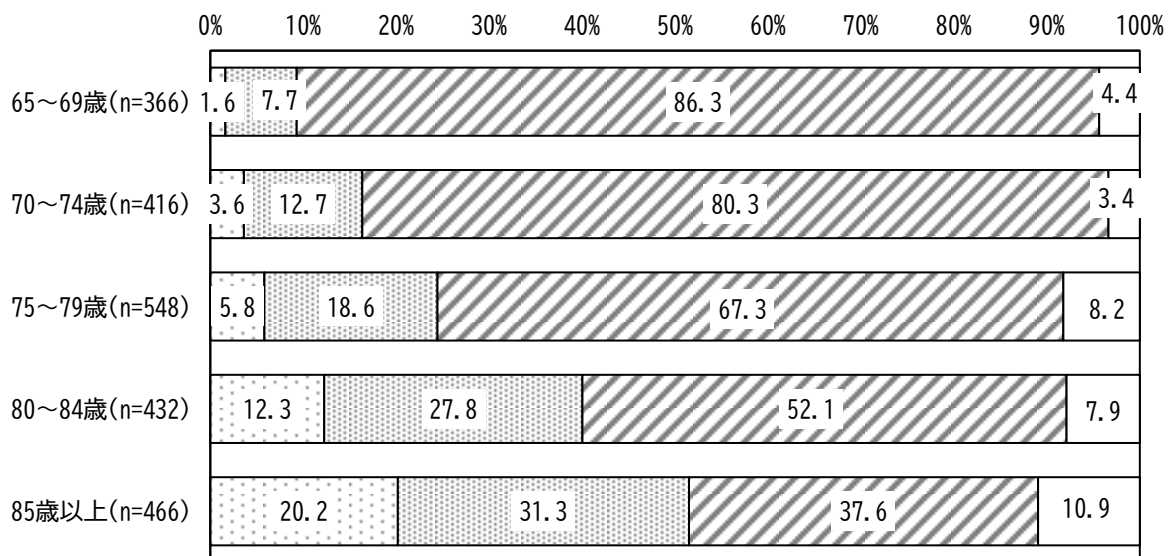
【全体】

災害時や緊急時に一人で避難することができるかについては、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が63.5%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が20.2%で、計8割以上の人が『避難できる』と回答しています。



【年齢別】

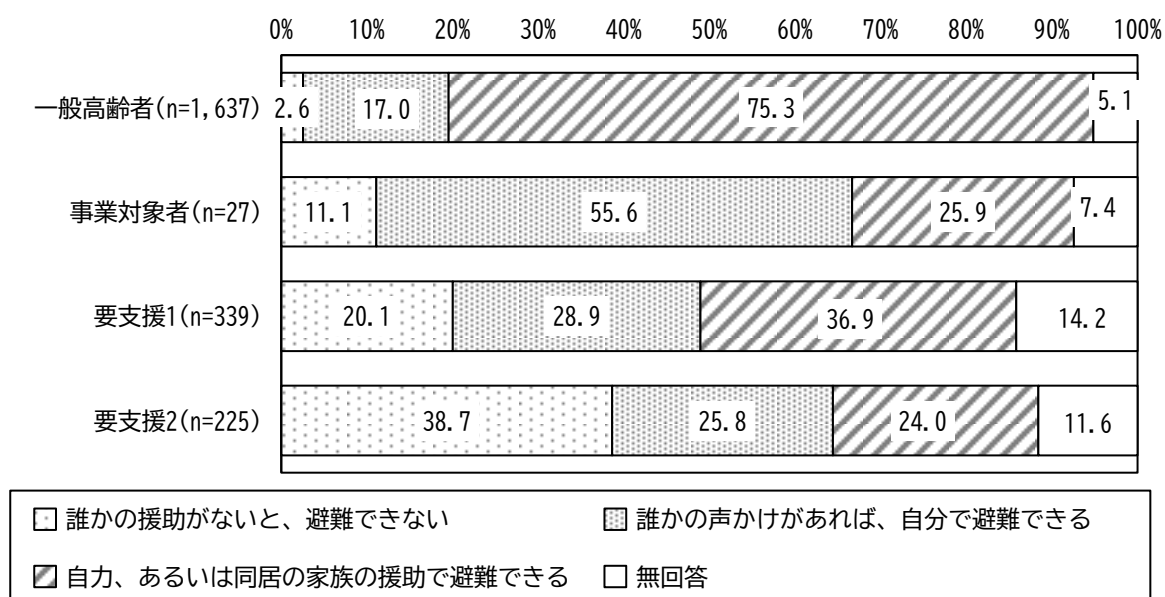
年齢別にみると、「誰かの援助がないと、避難できない」は年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上で20.2%となっています。



- 誰かの援助がないと、避難できない
- 誰かの声かけがあれば、自分で避難できる
- 自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる
- 無回答

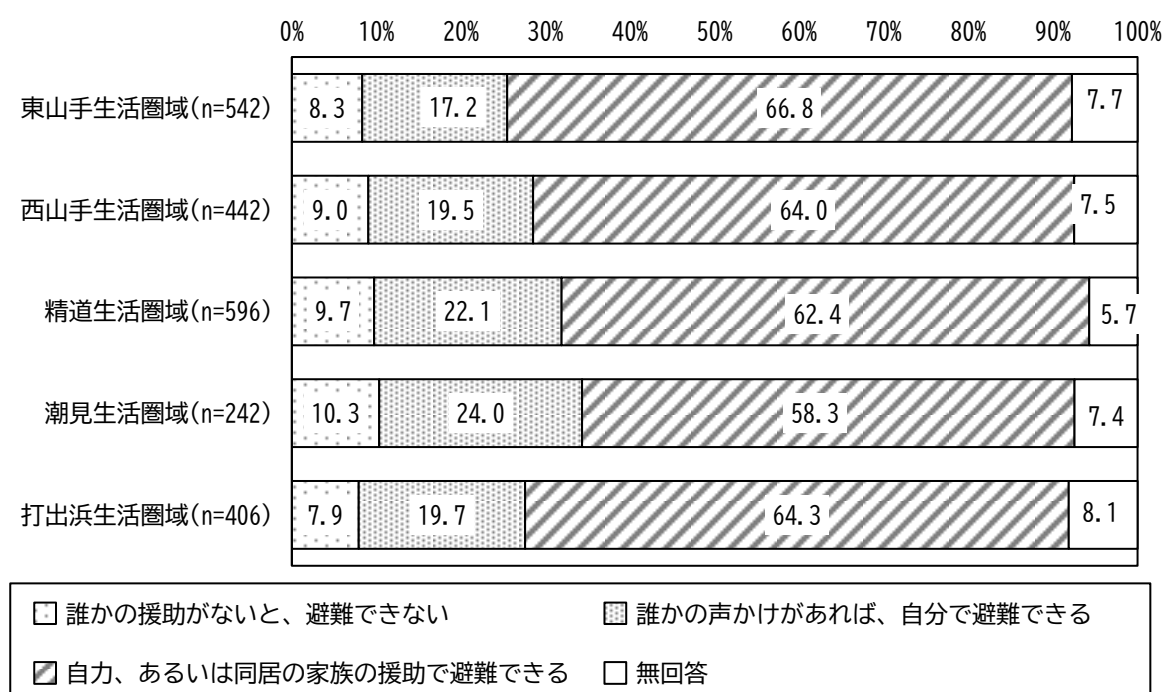
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援2では38.7%の方が「誰かの援助がないと、避難できない」と回答しています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域で、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が58.3%と他の生活圏域に比べて少なくなっています。

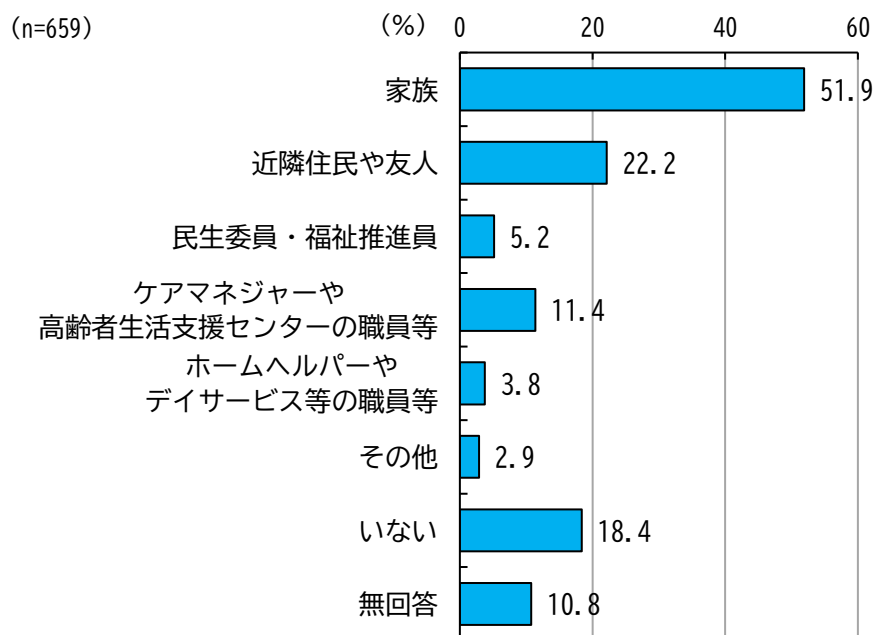


問10(1)で「1. 誰かの援助がないと、避難できない」または「2. 誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」を選択した方

災害時の避難の支援について相談している人はいますか（○は主なもの3つまで）

【全体】

災害時の避難の支援について相談している人は、「家族」が51.9%と最も多く、次いで「近隣住民や友人」が22.2%となっています。また、「いない」は18.4%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年代で「家族」が最も多くなっています。また、「ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等」は年代が上がるほど多くなる傾向がみられ、85歳以上では16.7%となっています。

		n	家族	近隣住民や友人	民生委員・福祉推進員	ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等	ホームヘルパーやデイサービス等の職員等	その他	いない	無回答
全体		659	51.9	22.2	5.2	11.4	3.8	2.9	18.4	10.8
年齢	65～69歳	34	58.8	17.6	2.9	5.9	0.0	2.9	23.5	5.9
	70～74歳	68	58.8	20.6	1.5	7.4	4.4	2.9	16.2	13.2
	75～79歳	134	49.3	17.9	1.5	4.5	1.5	1.5	27.6	9.0
	80～84歳	173	52.0	25.4	4.6	11.0	4.6	2.3	14.5	11.6
	85歳以上	240	50.4	23.3	9.2	16.7	4.6	4.2	15.4	11.3

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者で「ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等」が2割弱と多くなっています。

		n	家族	近隣住民や友人	民生委員・福祉推進員	ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等	ホームヘルパーやデイサービス等の職員等	その他	いない	無回答
全体		659	51.9	22.2	5.2	11.4	3.8	2.9	18.4	10.8
認定状況	一般高齢者	320	52.2	25.0	3.1	3.1	0.6	1.6	19.1	11.9
	事業対象者	18	33.3	11.1	11.1	5.6	5.6	11.1	27.8	22.2
	要支援1	166	53.6	25.3	7.8	19.9	6.0	3.6	13.3	8.4
	要支援2	145	51.7	13.8	6.2	19.3	7.6	4.1	20.7	9.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域で「家族」が6割を超え、他の生活圏域に比べて多くなっています。

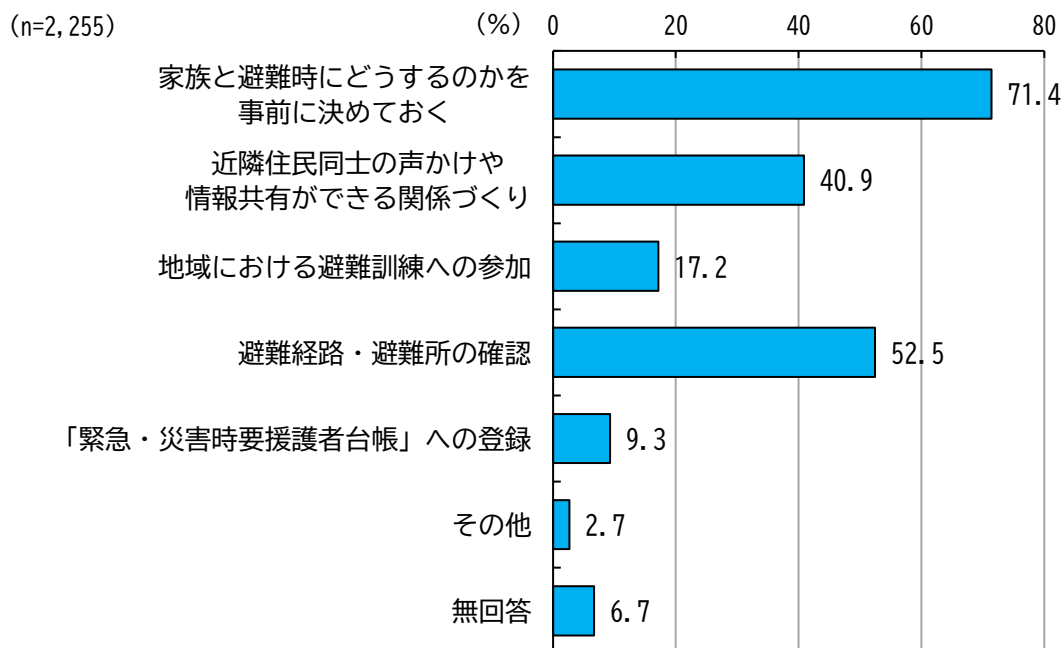
	n	家族	近隣住民や友人	民生委員・福祉推進員	ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等	ホームヘルパーやデイサービス等の職員等	その他	いない	無回答	
全体	659	51.9	22.2	5.2	11.4	3.8	2.9	18.4	10.8	
圏域	東山手生活圏域	138	60.9	24.6	2.2	7.2	4.3	0.0	19.6	6.5
	西山手生活圏域	126	49.2	18.3	8.7	15.1	4.0	3.2	15.9	13.5
	精道生活圏域	190	52.6	20.0	4.7	13.2	2.1	3.2	17.9	10.0
	潮見生活圏域	83	50.6	24.1	6.0	13.3	6.0	4.8	16.9	14.5
	打出浜生活圏域	112	43.8	25.9	5.4	6.3	3.6	4.5	20.5	11.6

2) 災害時に必要な備え

問10 (2) 災害時の避難について、事前に必要だと思う備えは何ですか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

災害時に必要な備えについては、「家族と避難時にどうするのかを事前に決めておく」が71.4%と最も多く、次いで、「避難経路・避難所の確認」が52.5%、「近隣住民同士の声かけや情報共有ができる関係づくり」が40.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年代が上がるほど、「緊急・災害時要援護者台帳」への登録が多くなる傾向がみられます。また、「避難経路・避難所の確認」は年代が下がるほど多くなる傾向がみられます。

		n	事前 家族 と決 め難 時 にど うす るの かを	情 報 共 有 が で き る 関 係 づ くり	近 隣 住 民 の 声 か け づ くり	地 域 に お け る 避 難 訓 練 へ の 参 加	避 難 経 路 ・ 避 難 所 の 確 認	「 急 急 ・ 災 害 時 要 援 護 者 台 帳 」 へ の 登 録	そ の 他	無 回 答
全体		2255	71.4	40.9	17.2	52.5	9.3	2.7	6.7	
年 齢	65～69歳	366	77.0	38.0	16.1	63.9	6.3	2.7	4.4	
	70～74歳	416	79.1	42.5	17.3	62.7	6.5	1.2	3.1	
	75～79歳	548	72.4	41.1	17.3	50.7	9.5	1.8	6.6	
	80～84歳	432	69.0	39.8	20.1	48.6	11.3	3.2	6.3	
	85歳以上	466	62.2	42.5	14.6	40.6	11.8	4.5	11.8	

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者で、「避難経路・避難所の確認」が48.1%と最も多くなっています。

		n	事前 家族 と決 め難 時 にど うす るの かを	情 報 共 有 が で き る 関 係 づ くり	近 隣 住 民 の 声 か け づ くり	地 域 に お け る 避 難 訓 練 へ の 参 加	避 難 経 路 ・ 避 難 所 の 確 認	「 急 急 ・ 災 害 時 要 援 護 者 台 帳 」 へ の 登 録	そ の 他	無 回 答
全体		2255	71.4	40.9	17.2	52.5	9.3	2.7	6.7	
認 定 状 況	一般高齢者	1637	74.8	41.1	17.9	57.2	6.8	2.2	5.6	
	事業対象者	27	37.0	37.0	7.4	48.1	25.9	3.7	7.4	
	要支援1	339	66.4	44.0	16.5	38.3	15.0	3.5	7.7	
	要支援2	225	60.9	35.6	13.3	40.9	16.0	4.9	12.0	

【居住地域別】

居住地域別にみると、精道生活圏域で、「避難経路・避難所の確認」がやや多くなっています。

	n	事前に家族と決めておく	家族と避難時における関係づくり	近隣住民の声をかけたり共有ができる関係づくり	地域における避難訓練への参加	避難経路・避難所の確認	「緊急・災害時要援護者台帳」への登録	その他	無回答
全体	2255	71.4	40.9	17.2	52.5	9.3	2.7	6.7	
圏域	東山手生活圏域	542	74.9	40.2	14.8	52.4	8.7	2.2	6.6
	西山手生活圏域	442	72.4	40.7	12.7	51.8	10.2	2.3	5.7
	精道生活圏域	596	72.7	41.9	19.8	56.2	10.7	2.5	6.4
	潮見生活圏域	242	64.0	41.3	16.1	52.1	9.5	5.0	7.4
	打出浜生活圏域	406	69.5	40.1	21.7	48.8	6.7	2.7	7.4

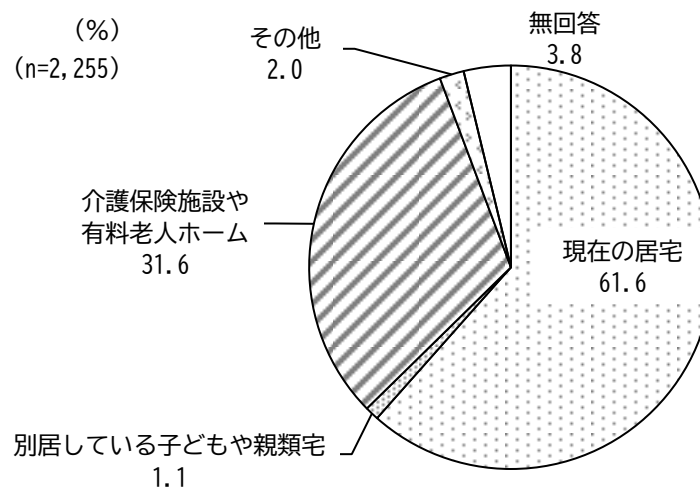
問11 今後のサービスの利用について

1) 介護を受けたい場所

問11(1) 今後、介護が必要になったときに、どのような場所で暮らしたいですか
(主なものを1つに○)

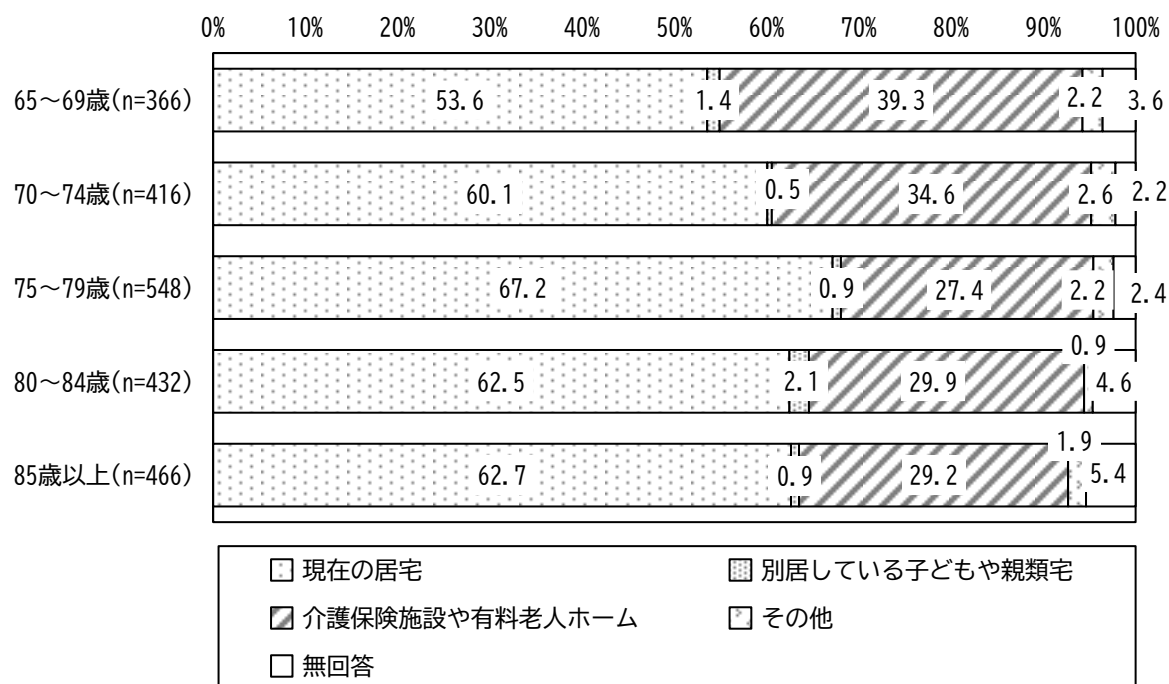
【全体】

介護を受けたい場所は、「現在の居宅」が61.6%と最も多く、次いで、「介護保険施設や有料老人ホーム」が31.6%となっています。



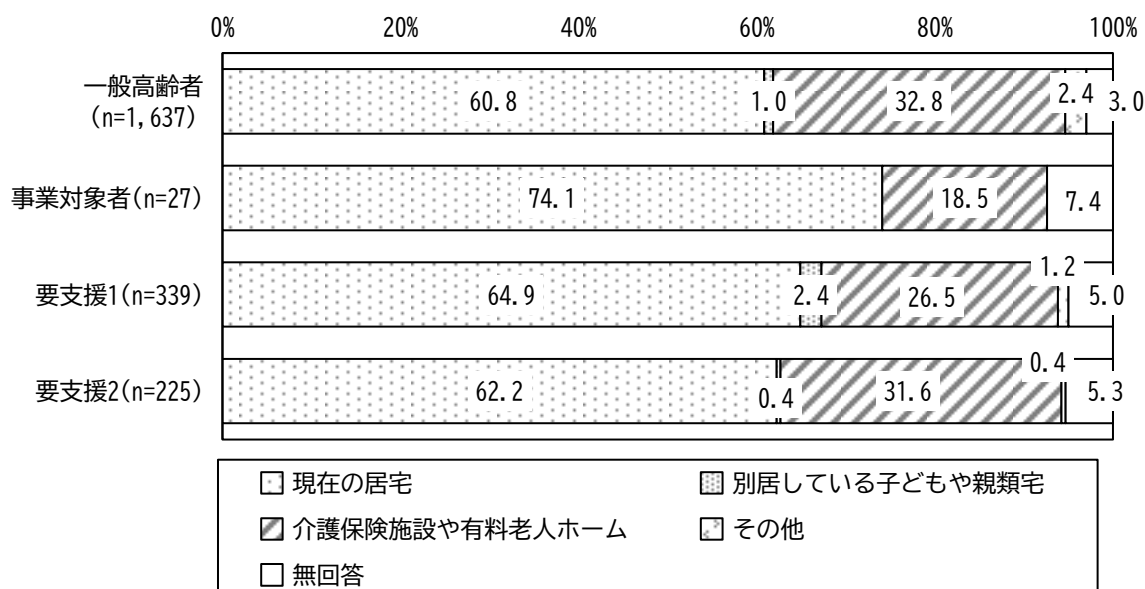
【年齢別】

年齢別にみると、「現在の居宅」は75～79歳で67.2%と最も多くなっています。また、65～74歳では、「介護保険施設や有料老人ホーム」が、他の年代に比べて多くなっています。



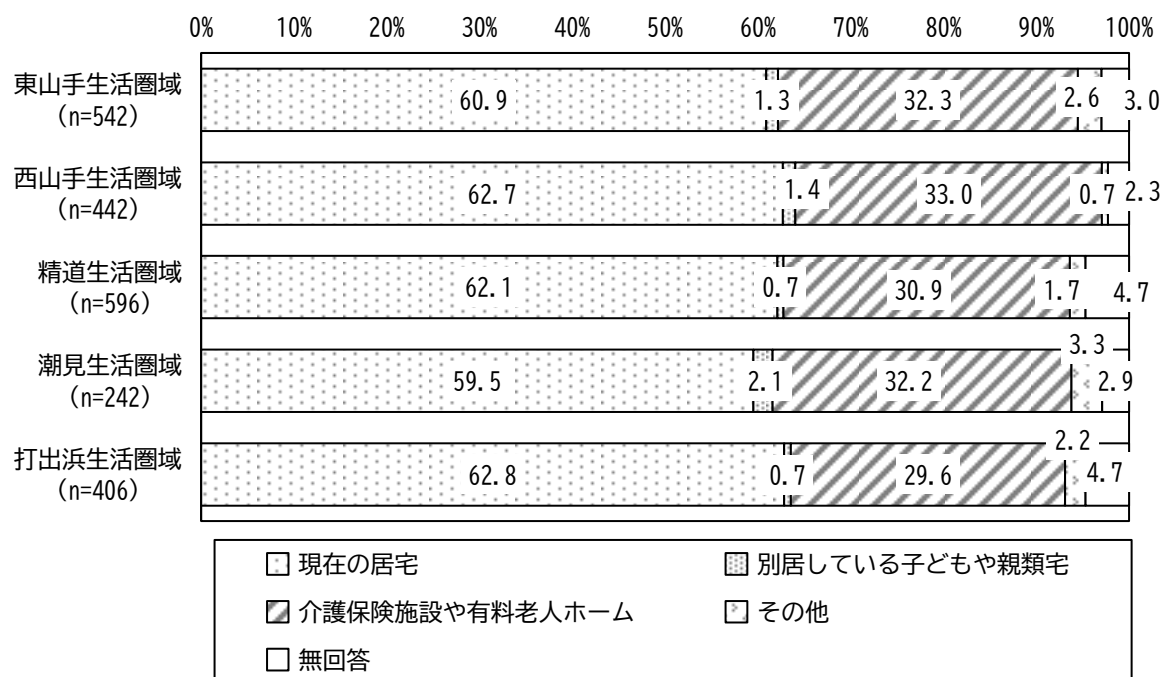
【認定状況別】

認定状況別にみると、「現在の居宅」は事業対象者で74.1%と最も多くなっています。また、「介護保険施設や有料老人ホーム」は一般高齢者で32.8%、要支援2で31.6%と比較的多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通り居住地域による大きな差はみられません。

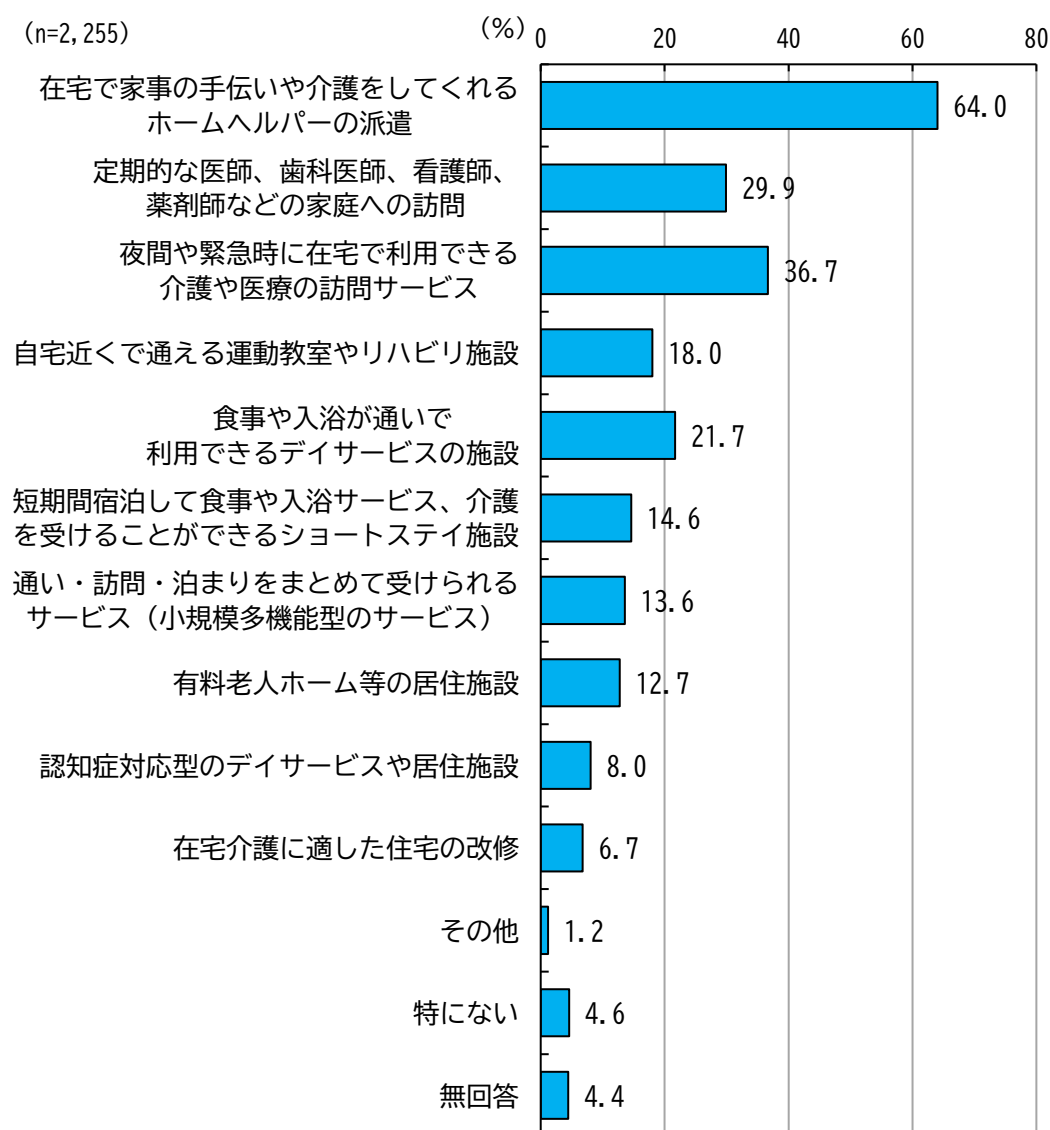


2) 住み慣れた地域で暮らし続けるために望まれる施設やサービス

問11(2) 住み慣れた地域で暮らし続けるために、介護や医療について、どのような施設やサービスを望みますか (○は主なもの3つまで)

【全体】

住み慣れた地域で暮らし続けるために望まれる施設やサービスについては、「在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣」が64.0%と最も多く、次いで、「夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス」が36.7%、「定期的な医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの家庭への訪問」が29.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年代で「在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣」が最も多くなっています。

	n	在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣	定期的な医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの家庭への訪問	夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス	自宅近くで通える運動教室やリハビリ施設	食事や入浴が通いで利用できるデイサービスの施設	短期間宿泊して食事や入浴サービス、介護を受けることができるショートステイ施設	通い・訪問・泊まりをまとめて受けられるサービス（小規模多機能型のサービス）	有料老人ホーム等の居住施設	認知症対応型のデイサービスや居住施設	在宅介護に適した住宅の改修	その他	特にない	無回答	
全体	2255	64.0	29.9	36.7	18.0	21.7	14.6	13.6	12.7	8.0	6.7	1.2	4.6	4.4	
年齢	65～69歳	366	61.2	29.8	38.8	20.8	23.2	12.0	19.4	15.3	12.6	4.6	1.9	5.2	3.3
	70～74歳	416	63.0	33.2	35.6	20.4	19.7	12.3	13.7	13.7	8.9	11.8	1.0	4.1	2.9
	75～79歳	548	65.9	30.3	35.0	19.3	21.7	15.1	12.2	11.9	6.9	7.5	1.3	4.9	4.0
	80～84歳	432	63.7	29.9	38.9	17.1	23.6	16.2	13.4	10.4	7.6	7.6	0.5	4.6	4.2
	85歳以上	466	65.7	26.8	35.4	13.3	20.8	15.7	10.3	13.1	5.2	2.4	1.3	4.3	6.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、すべての区分で「在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣」が最も多くなっています。また、要支援2では「短期間宿泊して食事や入浴サービス、介護を受けることができるショートステイ施設」が2割を超えてやや多くなっています。

	n	在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣	定期的な医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの家庭への訪問	夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス	自宅近くで通える運動教室やリハビリ施設	食事や入浴が通いで利用できるデイサービスの施設	短期間宿泊して食事や入浴サービス、介護を受けることができるショートステイ施設	通い・訪問・泊まりをまとめて受けられるサービス（小規模多機能型のサービス）	有料老人ホーム等の居住施設	認知症対応型のデイサービスや居住施設	在宅介護に適した住宅の改修	その他	特にない	無回答	
全体	2255	64.0	29.9	36.7	18.0	21.7	14.6	13.6	12.7	8.0	6.7	1.2	4.6	4.4	
認定状況	一般高齢者	1637	64.3	30.6	35.8	18.3	22.3	13.3	14.4	13.1	8.9	7.6	1.2	5.0	3.7
	事業対象者	27	77.8	25.9	40.7	18.5	18.5	14.8	18.5	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	7.4
	要支援1	339	67.0	26.8	39.8	16.8	18.6	15.6	10.3	10.9	6.8	4.7	1.5	3.8	6.2
	要支援2	225	56.4	30.2	36.9	18.7	23.1	20.4	11.6	13.8	3.6	4.4	0.9	3.6	5.8

【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通りとなっています。

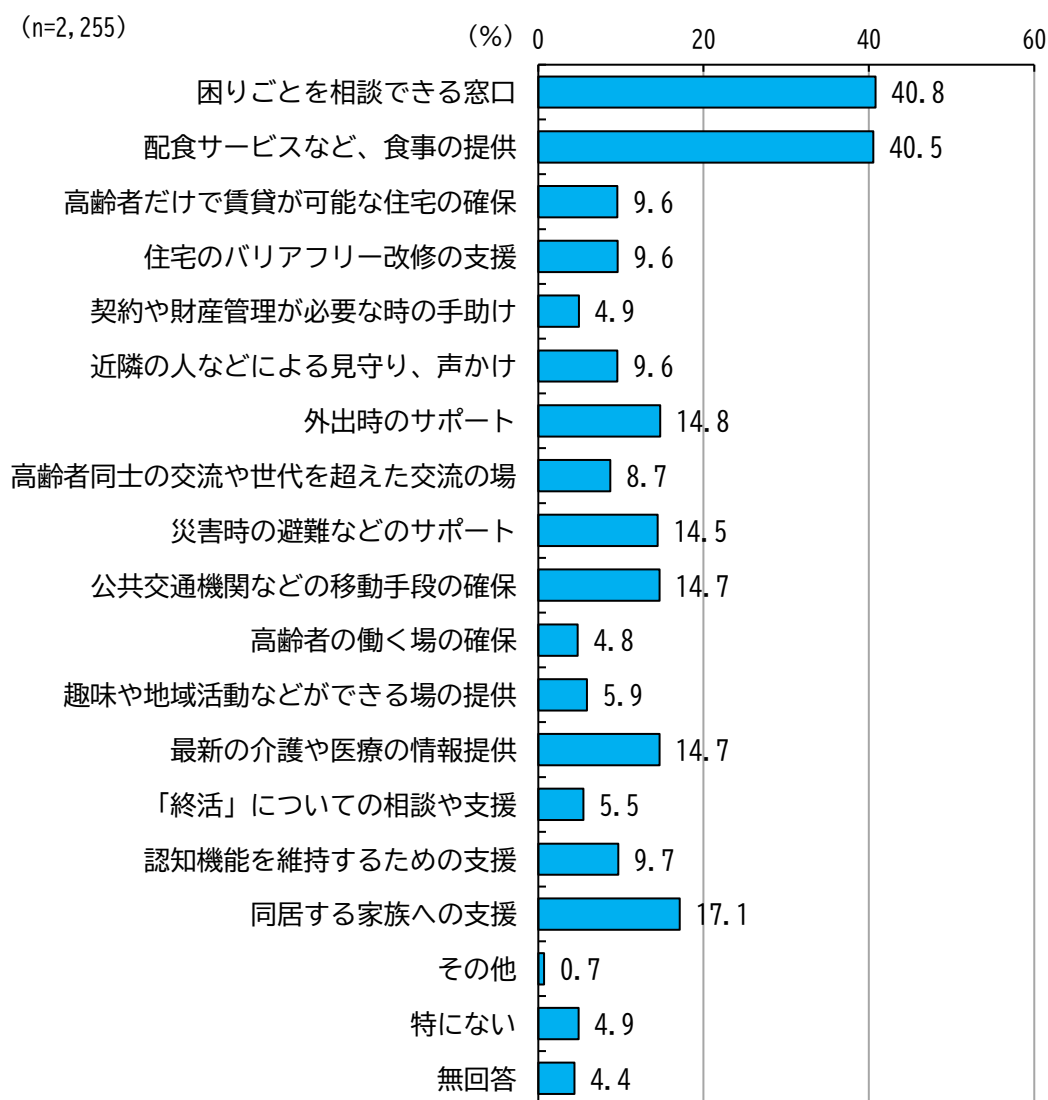
	n	在宅で家事の手伝いや介護をしてくれる ホームヘルパーの派遣	定期的な医師、歯科医師、看護師、 薬剤師などの家庭への訪問	夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療 の訪問サービス	自宅近くで通える運動教室やリハビリ施設	食事や入浴が通いで利用できるデイサービスの 施設	短期間宿泊して食事や入浴サービス、介護を 受けることができるショートステイ施設	通い・訪問・泊まりをまとめて受けられる サービス（小規模多機能型のサービス）	有料老人ホーム等の居住施設	認知症対応型のデイサービスや居住施設	在宅介護に適した住宅の改修	その他	特になし	無回答	
全体	2255	64.0	29.9	36.7	18.0	21.7	14.6	13.6	12.7	8.0	6.7	1.2	4.6	4.4	
圏域	東山手生活圏域	542	64.0	29.0	36.0	20.5	19.9	13.7	15.3	14.4	7.9	5.2	1.7	5.0	3.9
	西山手生活圏域	442	68.3	33.9	40.5	15.2	17.4	13.6	14.3	13.6	5.4	6.6	0.5	4.1	3.2
	精道生活圏域	596	63.1	30.4	37.2	15.3	23.8	15.6	14.1	10.9	9.1	8.4	0.8	5.0	5.0
	潮見生活圏域	242	67.8	25.6	35.5	16.9	24.8	10.7	8.3	14.9	10.3	6.6	1.7	5.0	5.0
	打出浜生活圏域	406	58.9	28.8	32.8	22.9	24.1	16.7	12.6	11.1	7.9	6.9	1.5	3.9	4.7

3) 在宅生活に望ましい支援

問11(3) 在宅で安心して暮らすために、あると助かる支援はどれですか(〇は主なもの3つまで)

【全体】

在宅生活に望ましい支援については、「困りごとを相談できる窓口」が40.8%と最も多く、次いで、「配食サービスなど、食事の提供」が40.5%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、65～79歳では「困りごとを相談できる窓口」、80歳以上では「配食サービスなど、食事の提供」がそれぞれ最も多くなっています。また、年代が上がるほど、「近隣の人などによる見守り、声かけ」「災害時の避難などのサポート」が多くなる傾向がみられます。

		n	困りごとを相談できる窓口	配食サービスなど、食事の提供	高齢者だけで賃貸が可能な住宅の確保	住宅のバリアフリー改修の支援	契約や財産管理が必要な時の手助け	近隣の人などによる見守り、声かけ	外出時のサポート	高齢者同士の交流や世代を超えた交流の場	災害時の避難などのサポート	公共交通機関などの移動手段の確保
全体		2255	40.8	40.5	9.6	9.6	4.9	9.6	14.8	8.7	14.5	14.7
年齢	65～69歳	366	46.7	42.6	14.2	9.3	7.1	4.6	15.3	6.6	10.7	17.8
	70～74歳	416	42.5	35.6	11.8	12.3	6.7	7.5	11.8	7.7	11.8	15.4
	75～79歳	548	42.5	40.5	8.2	9.5	4.9	9.3	13.3	8.4	10.8	16.6
	80～84歳	432	39.4	45.1	8.1	10.4	4.2	10.0	16.2	9.3	15.7	13.7
	85歳以上	466	35.0	39.5	5.8	6.9	2.6	15.7	16.7	11.4	22.5	9.7
		n	高齢者の働く場の確保	趣味や地域活動などができる場の提供	最新の介護や医療の情報提供	「終活」についての相談や支援	認知機能を維持するための支援	同居する家族への支援	その他	特になし	無回答	
全体		2255	4.8	5.9	14.7	5.5	9.7	17.1	0.7	4.9	4.4	
年齢	65～69歳	366	9.3	6.8	13.9	6.6	9.3	19.1	0.5	3.6	3.3	
	70～74歳	416	8.9	7.2	17.8	5.3	10.8	18.5	0.5	4.6	2.6	
	75～79歳	548	3.3	6.8	15.3	4.9	8.8	18.8	0.4	5.3	3.8	
	80～84歳	432	3.5	5.1	13.0	6.0	10.4	15.5	0.9	3.9	4.6	
	85歳以上	466	0.6	3.6	13.9	4.7	9.2	14.4	1.3	6.7	6.7	

【認定状況別】

認定状況別にみると、一般高齢者、要支援1では「困りごとを相談できる窓口」、事業対象者、要支援2では「配食サービスなど、食事の提供」がそれぞれ最も多くなっています。また、要支援認定者では2割強の人が「災害時の避難などのサポート」を回答しています。

		n	困りごとを相談できる窓口	配食サービスなど、食事の提供	高齢者だけで賃貸が可能な住宅の確保	住宅のバリアフリー改修の支援	契約や財産管理が必要な時の手助け	近隣の人などによる見守り、声かけ	外出時のサポート	高齢者同士の交流や世代を超えた交流の場	災害時の避難などのサポート	公共交通機関などの移動手段の確保
全体		2255	40.8	40.5	9.6	9.6	4.9	9.6	14.8	8.7	14.5	14.7
認定状況	一般高齢者	1637	42.8	40.6	10.4	10.4	5.7	9.0	12.8	8.5	11.7	15.2
	事業対象者	27	11.1	40.7	11.1	3.7	0.0	11.1	29.6	14.8	11.1	29.6
	要支援1	339	40.4	39.2	4.4	7.4	2.7	13.0	17.4	8.3	22.7	12.1
	要支援2	225	32.4	43.1	8.4	7.6	4.0	9.3	21.8	10.7	21.3	11.6
		n	高齢者の働く場の確保	趣味や地域活動などができる場の提供	最新の介護や医療の情報提供	「終活」についての相談や支援	認知機能を維持するための支援	同居する家族への支援	その他	特にない	無回答	
全体		2255	4.8	5.9	14.7	5.5	9.7	17.1	0.7	4.9	4.4	
認定状況	一般高齢者	1637	6.0	6.4	15.1	5.5	9.2	18.7	0.7	4.3	3.4	
	事業対象者	27	0.0	3.7	29.6	11.1	14.8	7.4	0.0	0.0	11.1	
	要支援1	339	1.8	4.1	16.8	4.4	11.5	14.5	1.2	6.2	6.8	
	要支援2	225	1.3	4.9	7.6	5.8	9.8	12.0	0.0	7.6	5.8	

【居住地域別】

居住地域別にみると、いずれの生活圏域においても、「困りごとを相談できる窓口」「配食サービスなど、食事の提供」が上位2項目となっています。

		n	困りごとを相談できる窓口	配食サービスなど、食事の提供	高齢者だけで賃貸が可能な住宅の確保	住宅のバリアフリー改修の支援	契約や財産管理が必要な時の手助け	近隣の人などによる見守り、声かけ	外出時のサポート	高齢者同士の交流や世代を超えた交流の場	災害時の避難などのサポート	公共交通機関などの移動手段の確保
全体		2255	40.8	40.5	9.6	9.6	4.9	9.6	14.8	8.7	14.5	14.7
圏域	東山手生活圏域	542	40.2	40.4	9.6	9.6	6.3	10.0	14.0	9.6	13.5	12.9
	西山手生活圏域	442	39.4	39.8	10.9	8.4	4.5	10.0	16.5	7.2	14.0	15.8
	精道生活圏域	596	41.9	41.8	7.6	9.6	5.7	9.9	14.8	9.2	15.9	12.8
	潮見生活圏域	242	42.6	38.8	7.9	10.7	5.8	5.8	14.0	8.7	14.0	14.9
	打出浜生活圏域	406	41.6	41.1	10.8	10.3	2.2	10.8	13.5	8.6	13.8	17.7
		n	高齢者の働く場の確保	趣味や地域活動などができる場の提供	最新の介護や医療の情報提供	「終活」についての相談や支援	認知機能を維持するための支援	同居する家族への支援	その他	特にない	無回答	
全体		2255	4.8	5.9	14.7	5.5	9.7	17.1	0.7	4.9	4.4	
圏域	東山手生活圏域	542	4.8	6.5	16.2	5.5	10.3	16.6	1.1	4.8	5.7	
	西山手生活圏域	442	5.2	5.9	15.6	3.8	10.2	14.9	0.2	5.0	2.9	
	精道生活圏域	596	4.2	5.4	15.1	5.2	9.2	19.5	0.7	4.5	4.0	
	潮見生活圏域	242	3.7	7.9	14.5	7.4	10.3	14.9	0.8	4.5	4.5	
	打出浜生活圏域	406	5.9	4.7	11.8	6.2	8.4	18.7	0.7	5.7	3.9	

問12 自由意見

◆最後に、ご意見・ご要望等がありましたら、遠慮なくお聞かせください

自由記述設問では、580人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「③ 地域での暮らしについて」(112件)で、住み慣れた地域での暮らしを継続するために必要な支援・環境整備などに関するご意見が寄せられました。「④ 社会参加について」(98件)では、社会参加を進めるために必要な外出支援や、集いの場や交流の場、趣味活動の場の充実等へのご意見がありました。

なお、「特になし」といった意見については省略し、一つの回答に複数のカテゴリーに属する意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見内容は、主なものを抜粋してまとめています。

① 権利擁護について	27件
成年後見制度は、費用負担が大きく、専門職に十分な信頼を持ってないため利用しにくい。	
終活を少しずつ進めているが、家財や本、日用品の処分方法や引き取り先が分からず困っている。	
一人暮らしのため、安否確認を誰にどのように頼めばよいか不安である。	
子どもがいない、身寄りが少ないため、入院時の保証人、葬儀、死後事務、財産管理をどうするか心配である。	
認知機能の低下や病気になった時に、生活や金銭管理がどうなるか不安である。	
終活について何をどう進めればよいか分からず、分かりやすい説明や相談先がほしい。	
身寄りのない人や単身高齢者を支えるため、市など公的機関が関与する仕組みを整えてほしい。	
家族に迷惑をかけず、できるだけ最後まで自分のことは自分で行いたい。	
終活は始めたばかりであり、荷物の整理や今後の介護への備えなど、身近なところから少しずつ進めている。	
② 相談支援について	42件
介護認定までに時間がかかり、支援が必要な時に相談やサービス利用が間に合わない。	
ケアマネジャーや相談機関には、状況に応じた具体的で分かりやすい助言をお願いしたい。	
相談窓口がどこにあるのか、どこへ相談すればよいか分かりにくい。	
相談窓口が遠い、行きにくいなど、利用しづらさがある。	
介護する家族の負担が大きく、家族自身に対する相談支援や精神的な支えも必要。	
高齢者生活支援センターに相談しても、必要な支援に十分つながらないことがあった。	
高齢者生活支援センターが窓口となって支援先や流れを案内してくれることは心強く、今後の備えとして安心感につながっている。	
相談窓口の職員と顔の見える関係ができていたり、個別に寄り添った対応を受けられたことが、地域で暮らし続ける支えになっている。	

③ 地域での暮らしについて	112 件
できる限り住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたい、そのために必要な支援を受けながら在宅生活を続けたい。	
一人暮らしや高齢夫婦のみの生活では、将来の急病、転倒、認知症、介護の必要性が高まった時に、地域で暮らし続けられるか不安が大きい。	
坂道、段差、狭い歩道、ベンチの不足、バスの不便さなど、外出しにくい生活環境が、地域での暮らしに負担となっている。	
通院、買い物、外出、見守りなど、日常生活を支える身近な支援があれば、今の地域での暮らしを続けやすい。	
認知症になっても、あるいは認知症の家族がいても、地域の中で安心して暮らし続けられる環境や理解が必要である。	
リハビリや介護予防、体力維持への支援が充実すれば、自立した生活を長く続けやすくなる。	
配食、掃除、訪問系サービス、短期入所、訪問医療など、在宅生活を支える支援やサービスの充実が地域での安心につながる。	
高齢者向け住宅や住み替え先、保証人の問題など、住まいを含めた暮らしの基盤への不安がある。	
地域の支援やヘルパー、リハビリ、見守り、相談窓口に助けられており、地域で暮らし続ける支えになっている。	
今はまだ元気に暮らせているが、この先に備えて、地域で安心して暮らし続けられる仕組みが必要である。	
介護や支援が必要になっても、できるだけ人に頼りすぎず、自分でできることを続けながら暮らしたい。	
④ 社会参加について	98 件
バスの減便や本数の少なさ、停留所までの距離、坂道の多さなどにより、外出や通院、地域活動への参加がしにくくなっている。	
外出しやすい交通環境は社会参加の基盤であり、バス路線の充実、乗合タクシー、タクシー助成、ベンチの設置などが必要。	
認知症カフェや高齢者生活支援センター、各種教室・講座などの存在や内容が十分に知られておらず、もっと分かりやすい周知が必要である。	
歩いて行ける範囲に、気軽に立ち寄れる集いの場や交流の場、趣味活動の場がほしい。	
高齢者だけの集まりに限らず、若い世代を含めた多世代の交流の場があることで、外出や参加の意欲が高まり、生きがいにもつながる。	
認知症になっても、あるいは認知症の家族がいても、地域の中で安心して参加できる場所や、気軽に立ち寄れる居場所が必要。	
地域の教室やサークル、カレッジ、体操、麻雀、食事会、仕事などを通じて、現在もいきいきと社会参加を続けており、それが生活の張り合いになっている。	
高齢になっても、できる限り自分で動き、人と関わり、学びや趣味、仕事を通じて社会との接点を持ち続けたいという思いが強い。	
⑤ 専門支援機関について	13 件
介護職の待遇を改善し、人材を増やしていかないと、今後の介護を支える人が足りなくなる。	

介護施設の不足や入所のしにくさへの不安が大きい。必要な時に入りやすい施設や、費用負担の少ない施設の充実が必要。	
ショートステイを利用して介護者が休養したくても、施設がいっぱい利用しにくく、家族の負担軽減につながりにくい。	
老老介護や在宅介護が続く中で、家族だけに負担が偏らないよう、専門機関による支援やアドバイスが必要である。	
⑥ 地域づくりについて	49 件
近隣同士の助け合いや声かけが続いている地域では、安心して暮らせており、民生委員を含めた見守りも心強い支えになっている。	
近隣とのつながりが薄れ、あいさつや日常的な関わり、地域の道路掃除なども減っており、地域で支え合う力が弱まっている。	
地域活動やボランティアに参加したい気持ちはあっても、既にできているグループに入りにくく、最初の一步を踏み出しにくい。	
防災面では、高齢者を想定した避難訓練や夜間訓練、防災士会の活性化など、実際の暮らしに即した地域防災の強化が求められている。	
高齢者向けの福祉サービスや施設、制度、相談先などの情報が分かりにくく、紙も含めて正確で届きやすい情報提供が必要。	
デジタル化が進む中で、スマートフォンやパソコンを使えない人が情報から取り残されないよう、分かりやすい伝え方や教えてもらえる仕組みが必要である。	
高齢者の経験や知恵、仕事で培った力を、地域を支える側として生かせるような仕組みがあるとよい。	
⑦ アンケートについて	70 件
設問数が多く、質問文も長いため、答える負担が大きい。	
スマートフォンやパソコンを使わない、または使いにくい人にも配慮し、アナログ対応や紙での分かりやすい案内を残してほしい。	
Web 回答では、ID・パスワード入力や二次元コードの読み取りがうまくいかず、紙で回答せざるを得なかった。	
回答した結果がどのように活かされるのか、結果をどう公表し、施策にどう反映したのかを知りたい。	
ページ後半の案内やサービス一覧は参考になり、手元に残したい、もっと周知してほしい。	
アンケートに答えることで、自分の老後や介護、終活について改めて考えるきっかけになった。	
高齢者本人だけでなく、家族が代筆する場合や、視力・手の不自由さがある場合への配慮も必要である。	
⑧ 市への要望	37 件
高齢者が暮らしやすい芦屋であってほしい、高齢者にもやさしいまちづくりを進めてほしい。	
タクシーなどの交通費助成や移動支援をもっと充実してほしい。	
介護保険料、健康保険料、住民税、物価高などの負担が重い。	
高齢者向け住宅や入りやすい施設、公営の住まい、市営の葬儀場など、老後の暮らしを支える基盤をもっと整えてほしい。	
子ども施策だけでなく高齢者施策にも目を向け、高齢者にとっての今の暮らしや近い将来も大切にしてい	

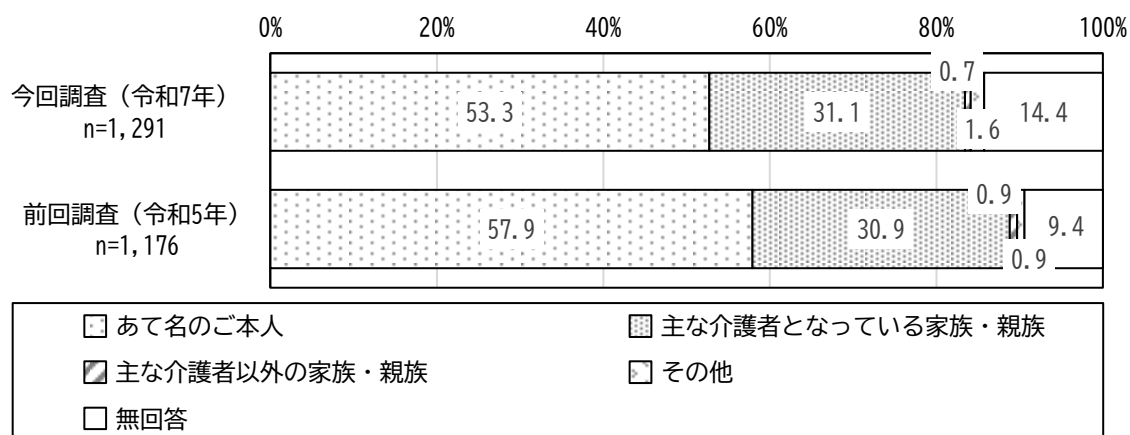
しい。	
あしや温泉、公園の遊具、駅ピアノ、配食サービスなど、健康づくりや日常の楽しみにつながる事業は継続・充実してほしい。	
⑨ 介護保険制度（保険料・サービス等）について	31 件
介護保険料や健康保険料の負担が重く、毎年かなりの金額を払っていても、どのような恩恵があるのか分かりにくい。	
安価な施設や、年金生活者・低所得者でも入所しやすい特養や高齢者施設がもっとあるとよい。	
要介護認定までに時間がかかり、突然介護が必要になった時に支援が間に合わない。	
認定の結果や更新のあり方に納得しにくい面がある。	
デイサービス、訪問介護、訪問リハビリ、ショートステイなどを利用して助かっているが、回数や使い勝手の面でもっと柔軟に使えるようにしてほしい。	
在宅で暮らし続けたいが、将来は家族だけでは支えきれなくなるため、入所先や介護体制を早めに確保しておきたい。	
⑩ その他	74 件
今は何とか元気に生活できており、家族や周囲の支えに感謝している。	
老い、病気、介護、孤独、終末の迎え方など、将来について漠然とした不安がある。	
経済面の負担が重く、老後の暮らしへの不安につながっている。	
食事、買い物、日々の生活、相談の受け方など、制度の枠には収まりにくい細かな困りごとも多い。	
芦屋は自然や景観、住環境が良く、これからも住みやすく温かいまちであってほしいと願っている。	

Ⅲ 在宅介護実態調査の結果

調査対象者の基本属性

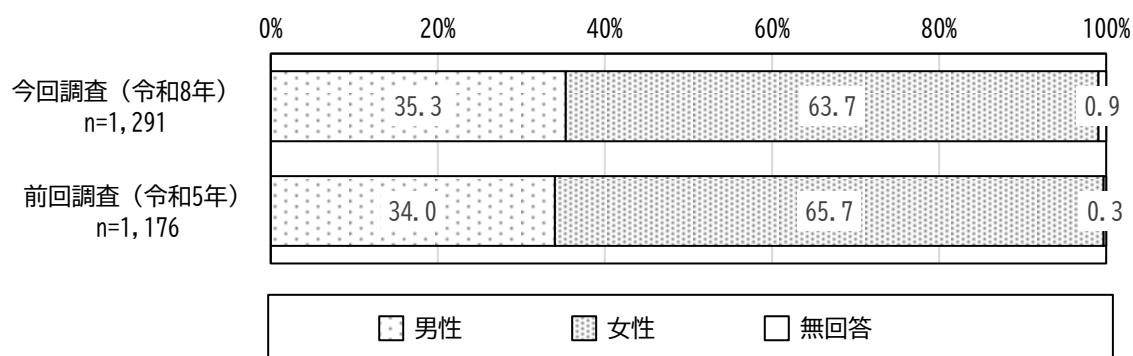
(1) 調査票の記入者

調査票の記入者については、「あて名のご本人」が53.3%、「主な介護者となっている家族・親族」が31.1%、「主な介護者以外の家族・親族」が0.9%となっています。



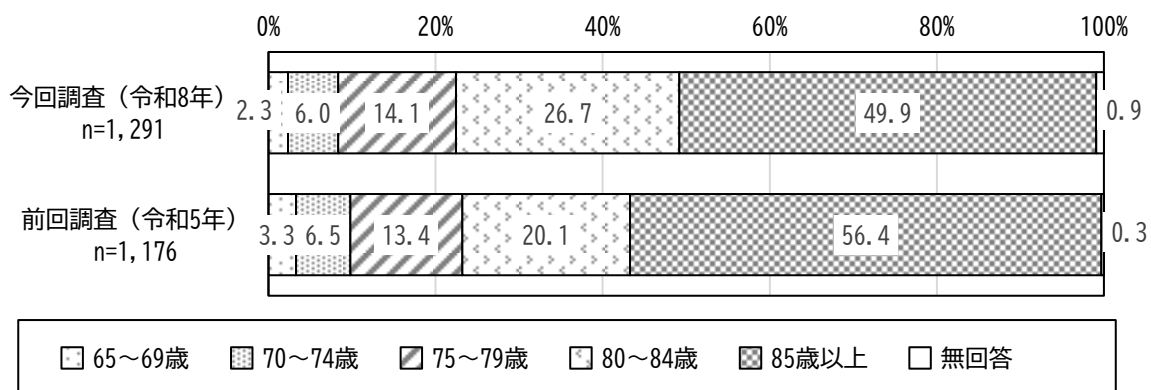
(2) 調査対象者の性別

性別は、「男性」が35.3%、「女性」が63.7%となっています。



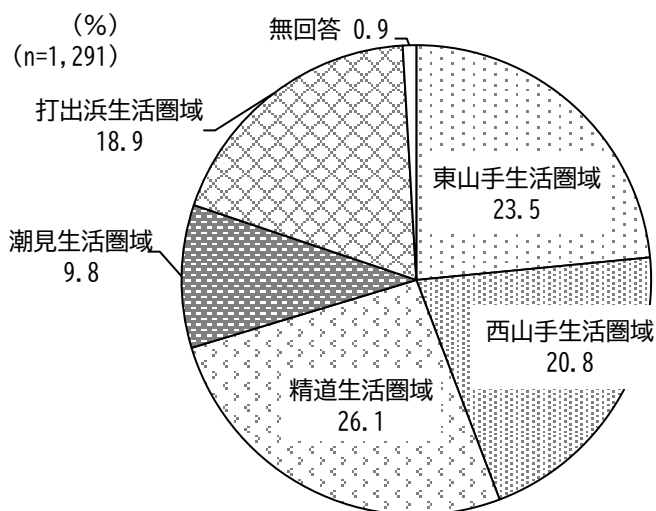
(3) 調査対象者の年齢

年齢は、「85歳以上」が49.9%と最も多く、次いで、「80～84歳」が26.7%、「75～79歳」が14.1%となっています。前回調査に比べて「85歳以上」が6.5ポイント増加し、「80～84歳」が6.6ポイント増加しています。



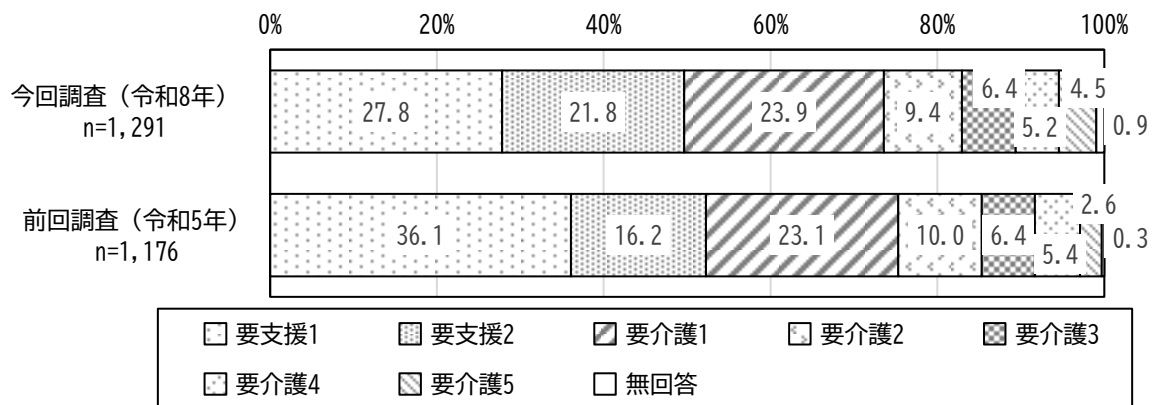
(4) 調査対象者の居住地域

「精道生活圏域」が26.1%と最も多く、次いで、「東山手生活圏域」が23.5%、「西山手生活圏域」が20.8%、「打出浜生活圏域」が18.9%、「潮見生活圏域」が9.8%となっています。



(5) 調査対象者の要介護度

「要支援1」が27.8%と最も多く、次いで、「要介護1」が23.9%、「要支援2」が21.8%となっています。



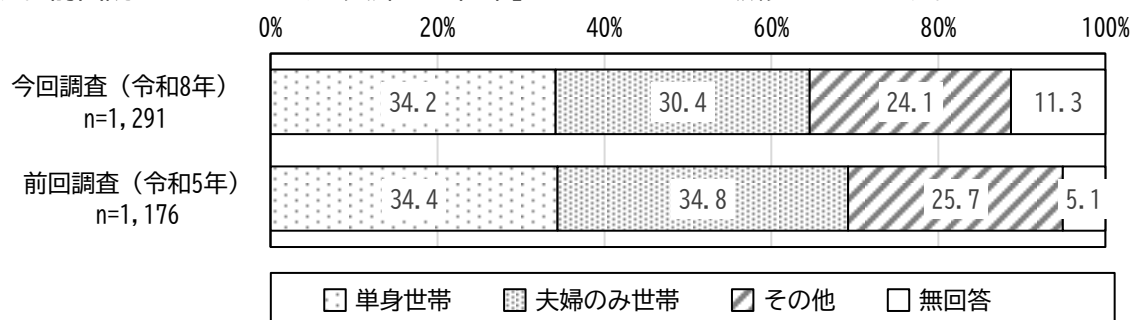
A票 あて名のご本人について、おうかがいします

1) 世帯類型

A票 問1 世帯類型について、ご回答ください（1つに○）

【全体】

世帯類型は、「単身世帯」が34.2%と最も多く、次いで、「夫婦のみ世帯」が30.4%となっています。前回調査と比べると、「夫婦のみ世帯」が4.4ポイント減少しています。



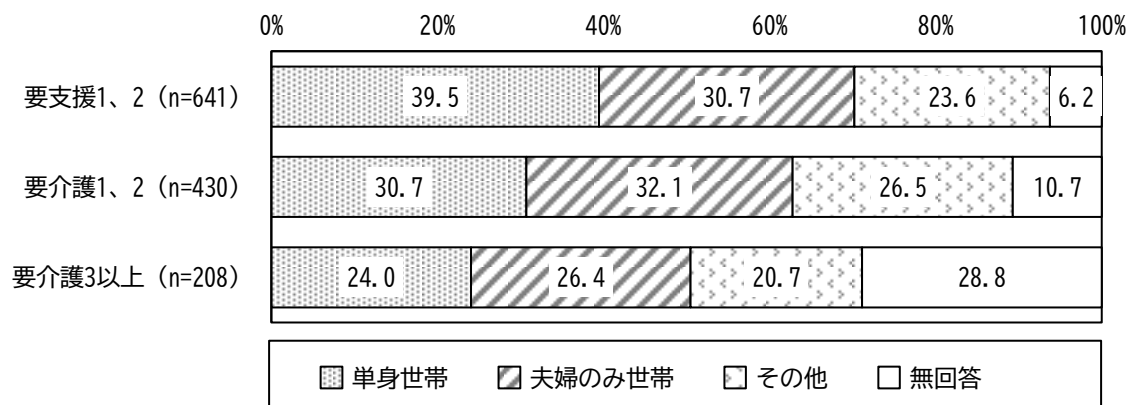
◇世帯類型「その他」の主な回答

内容		
子どもと同居	夫婦と子ども	子ども夫婦と同居
孫を含む同居	兄弟姉妹・親族との同居	子ども・孫を含む多世代同居

など

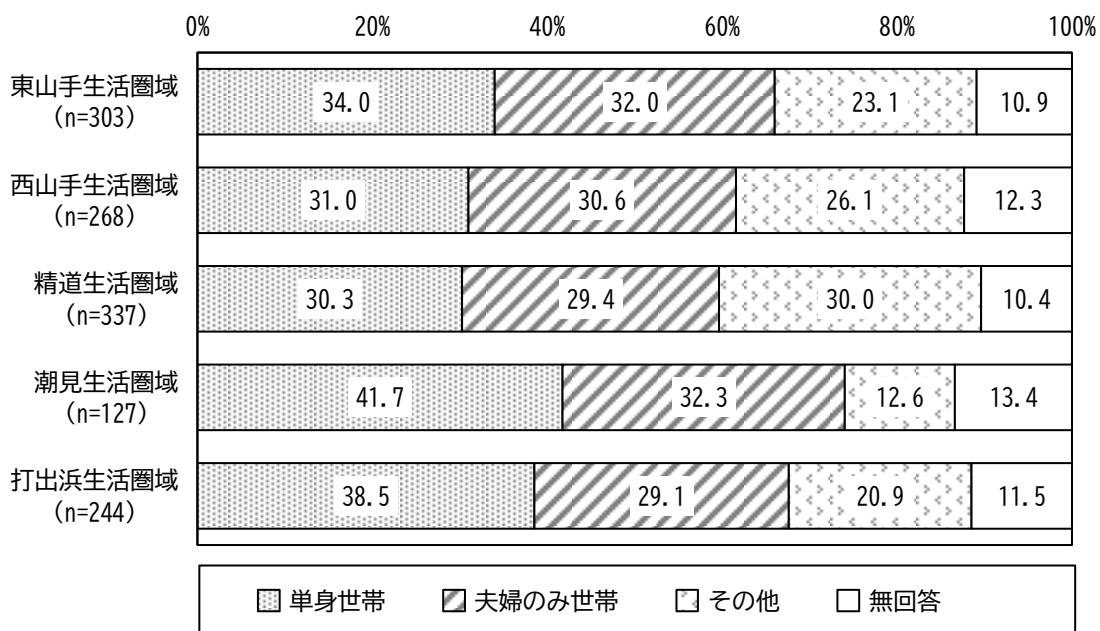
【認定状況別】

認定状況別にみると、「単身世帯」が要支援1、2で39.5%と多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、「単身世帯」が潮見生活圏域で41.7%と多くなっています。

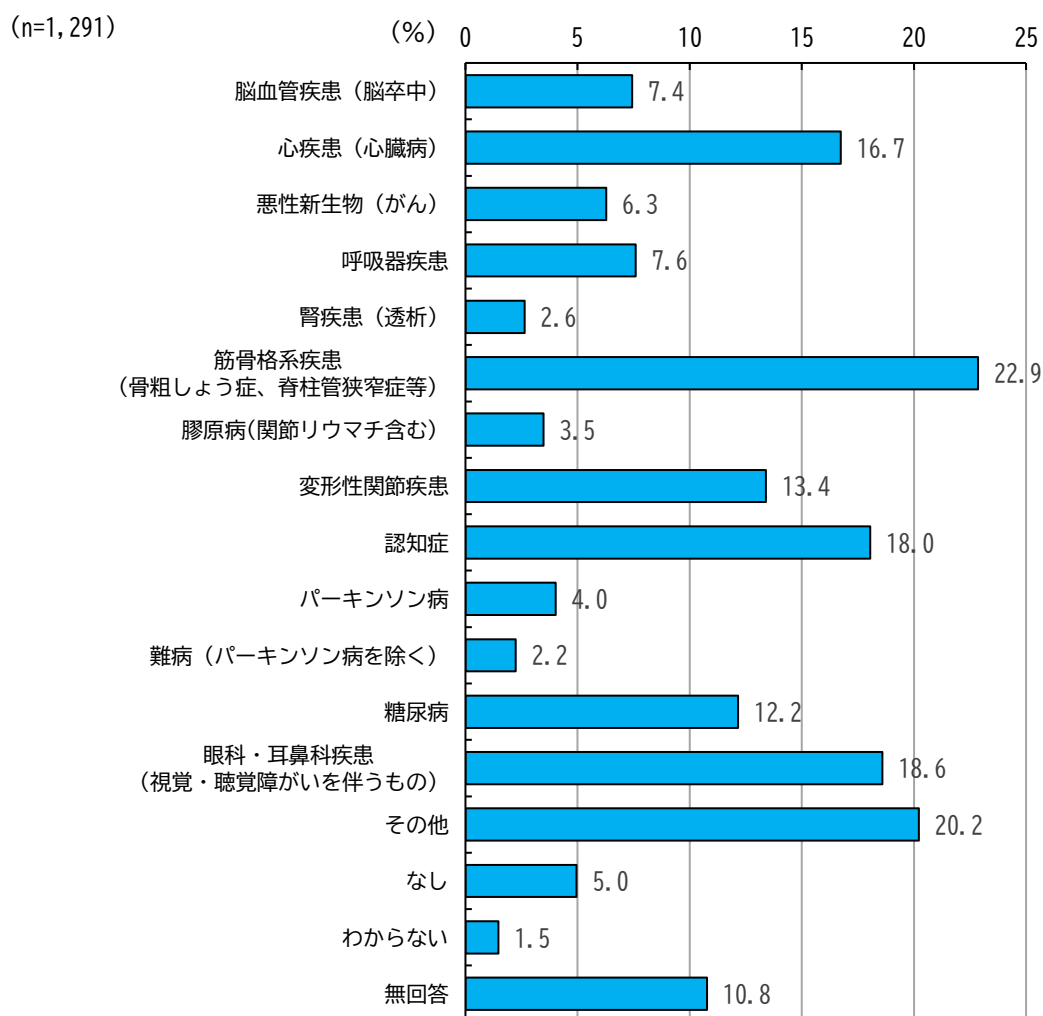


2) 治療中・後遺症のある病気

A票 問2 あなた（認定調査対象者）が現在抱えている傷病について、ご回答ください
 (○はいくつでも)

【全体】

現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が22.9%と最も多く、次いで、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障がいを伴うもの）」が18.6%、「認知症」が18.0%、「心疾患（心臓病）」が16.7%となっています。



◇現在抱えている傷病「その他」の主な回答

内容	
高血圧	骨折・歩行困難、腰痛などの運動器症状
前立腺疾患	甲状腺疾患
うつ病	

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、要介護1～5では「認知症」がそれぞれ最も多くなっています。

		n	脳血管疾患（脳卒中）	心疾患（心臓病）	悪性新生物（がん）	呼吸器疾患	腎疾患（透析）	筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	膠原病（関節リウマチ含む）	変形性関節疾患	認知症
全体		1291	7.4	16.7	6.3	7.6	2.6	22.9	3.5	13.4	18.0
認定状況	要支援1、2	641	7.0	18.4	7.5	8.6	2.7	29.0	4.5	19.2	5.3
	要介護1、2	430	6.3	16.0	5.8	6.3	2.1	17.2	3.3	8.6	32.8
	要介護3以上	208	10.6	13.5	3.4	7.2	3.8	14.9	1.0	5.3	26.9
		n	パーキンソン病	難病（パーキンソン病を除く）	糖尿病	（眼科・耳鼻科疾患 （視覚・聴覚障がいを伴うもの）	その他	なし	わからない	無回答	
全体		1291	4.0	2.2	12.2	18.6	20.2	5.0	1.5	10.8	
認定状況	要支援1、2	641	3.0	2.2	13.9	23.4	21.5	6.4	1.4	5.8	
	要介護1、2	430	3.5	1.6	11.4	15.3	19.5	4.2	1.6	10.7	
	要介護3以上	208	8.2	3.8	8.2	10.6	16.8	2.4	1.4	26.9	

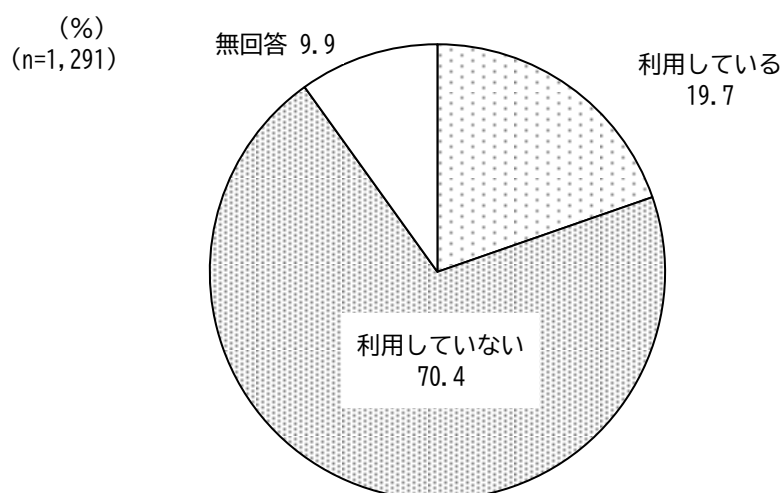
3) 訪問診療利用状況

A票 問3 あなたは、現在、訪問診療を利用していますか

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません

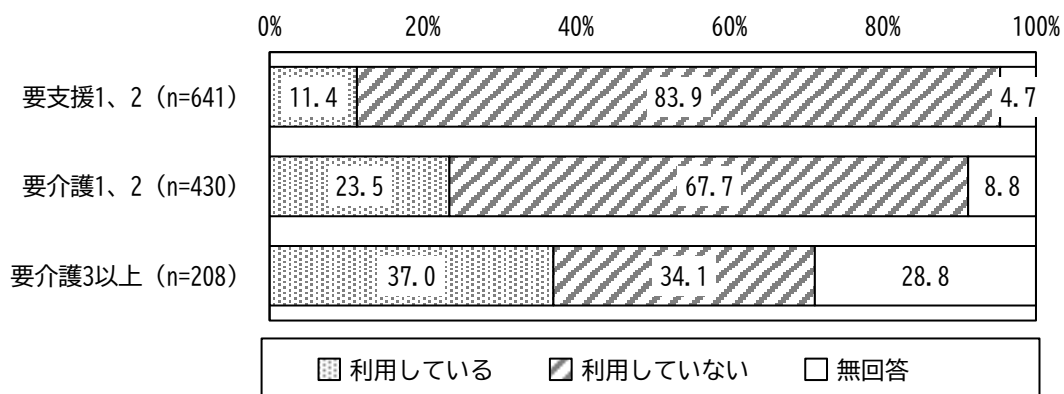
【全体】

訪問診療を「利用している」は19.7%、「利用していない」は70.4%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、訪問診療を「利用している」は要介護3以上で37.0%と多くなっています。



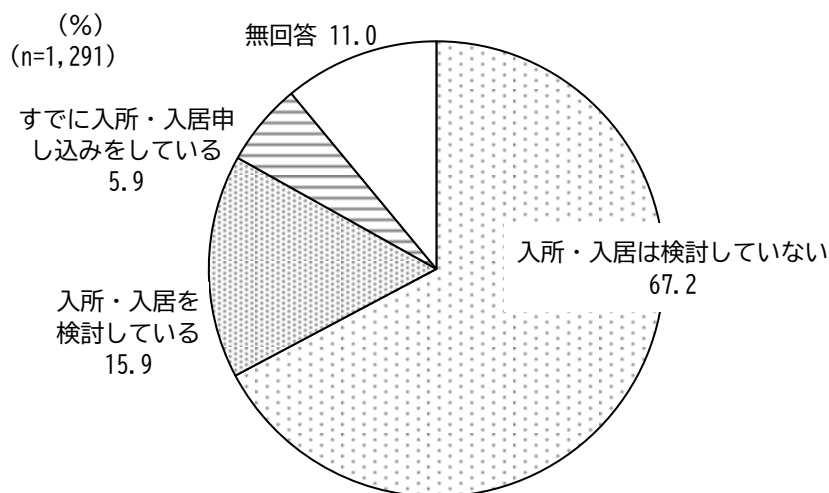
4) 訪問診療利用状況

A票 問4 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つに○）

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します

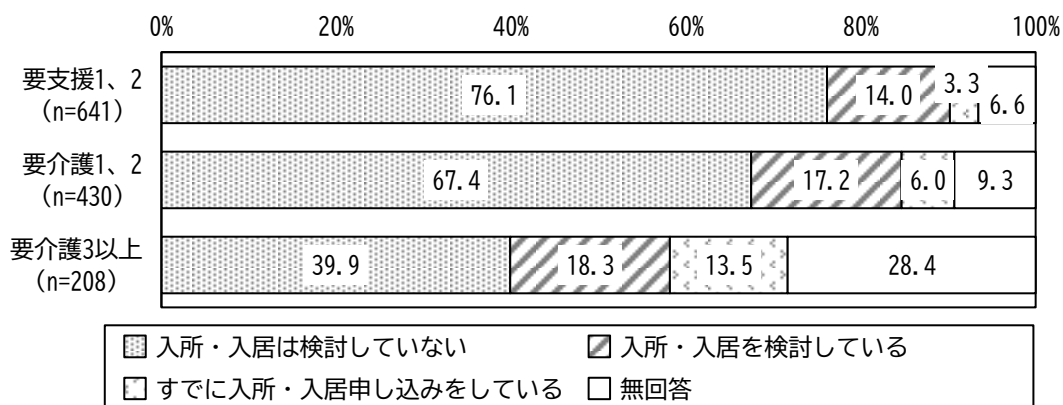
【全体】

施設等への「入所・入居を検討している」は15.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は5.9%で、入所・入居の意向がある人は合計21.8%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、入所・入居の意向がある人は要支援1、2で17.3%、要介護1、2で23.2%、要介護3以上では31.8%となっています。

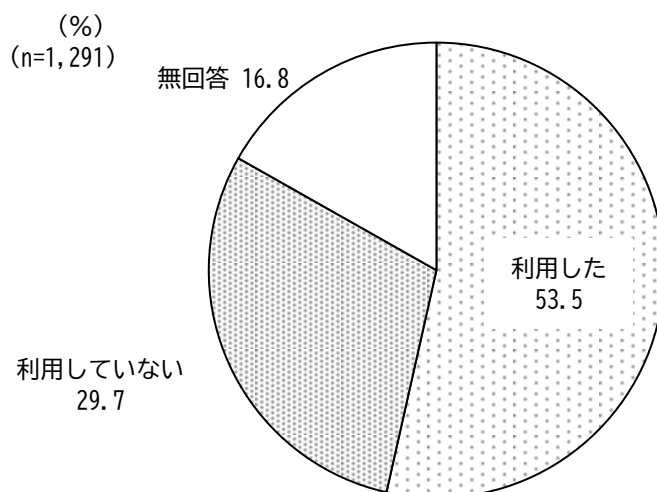


5) 介護保険サービスの利用状況

A票 問5 令和7年12月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用しましたか

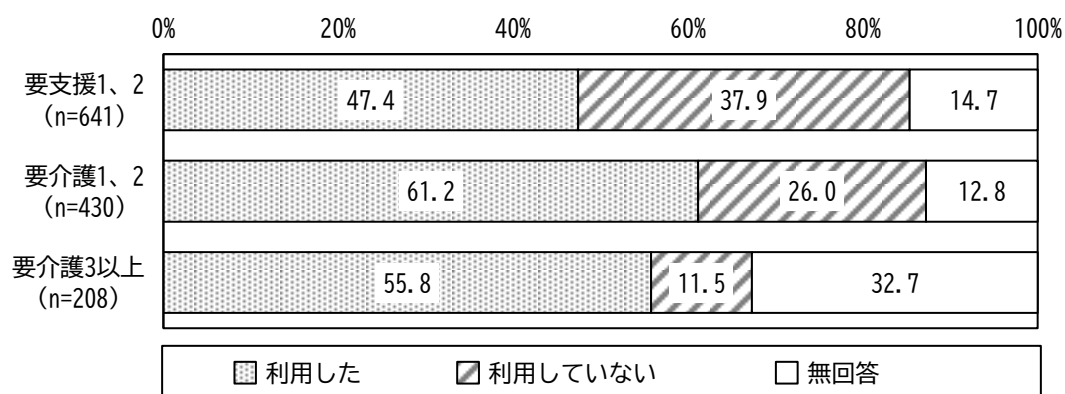
【全体】

令和7年12月の1か月の間の、介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が53.5%、「利用していない」が29.7%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、「利用した」は要支援1、2で47.4%、要介護1、2で61.2%、要介護3以上で55.8%となっています。

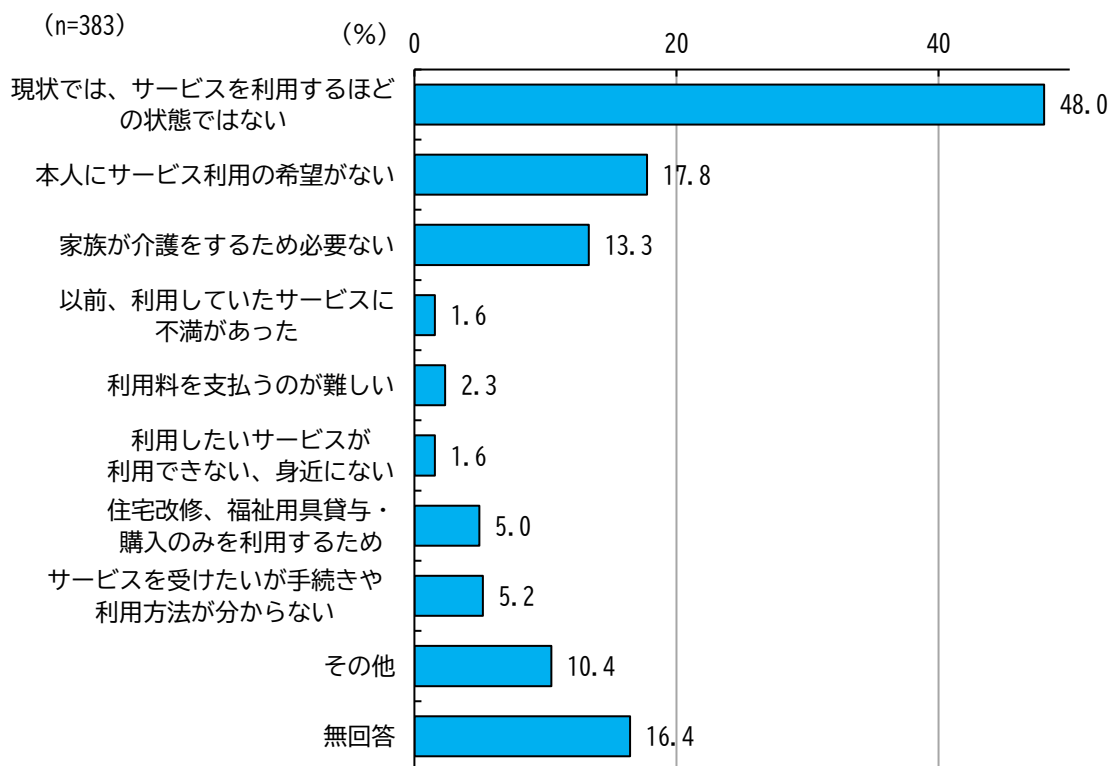


A票 問5で「2. 利用していない」を選択した方

介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（〇はいくつでも）

【全体】

介護保険サービス未利用の理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.0%と最も多く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が17.8%、「家族が介護をするため必要ない」が13.3%となっています。



◇介護保険サービス未利用の理由「その他」の主な回答

内容	
入院中のため利用していない	リハビリや通所利用を予定している
これから利用を検討している	使えるサービス内容が分からない
自立して生活したいため利用していない	

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1～要介護2までは「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多くなっていますが、要介護3以上では「家族が介護をするため必要ない」が41.7%と多くなっています。

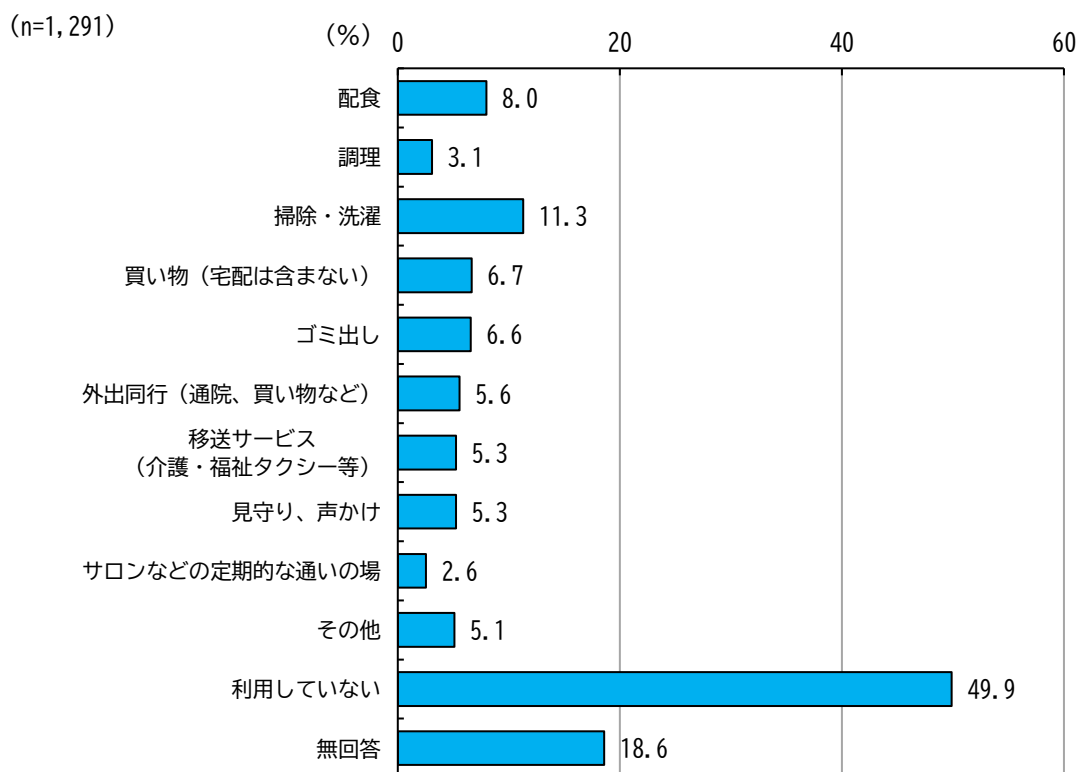
	n	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があつた	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	・住宅改修、福祉用具貸与のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きが分からない	その他	無回答
全体	383	48.0	17.8	13.3	1.6	2.3	1.6	5.0	5.2	10.4	16.4
認定状況	要支援1、2	243	52.3	15.2	9.5	2.1	2.1	5.3	3.7	9.5	16.0
	要介護1、2	112	42.9	25.0	16.1	0.9	1.8	0.9	2.7	7.1	10.7
	要介護3以上	24	25.0	12.5	41.7	0.0	8.3	0.0	12.5	12.5	20.8

6) 介護保険外の支援・サービスについて

A票 問6 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（〇はいくつでも）

【全体】

介護保険外の支援・サービスについては、「利用していない」が49.9%を占めており、次いで「掃除・洗濯」が11.3%、「配食」が8.0%となっています。



◇介護保険外の支援・サービス「その他」の主な回答

内 容	
リハビリ・訪問リハビリ	訪問介護・ヘルパー・訪問看護
介護ベッド・車いす等の福祉用具	入浴支援
デイサービス	

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、「利用していない」を除いて、要支援1、2と要介護1、2では「掃除・洗濯」、要介護3以上では「配食」が最も多くなっています。

	n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答	
全体	1291	8.0	3.1	11.3	6.7	6.6	5.6	5.3	5.3	2.6	5.1	49.9	18.6	
認定状況	要支援1、2	641	6.2	1.6	12.6	5.9	5.5	3.7	4.4	3.7	2.5	5.3	52.1	15.3
	要介護1、2	430	9.8	4.9	11.6	8.6	8.1	8.8	5.1	7.4	3.0	5.3	51.6	16.0
	要介護3以上	208	10.1	4.3	5.3	3.8	6.3	4.8	8.2	5.3	1.0	4.3	39.4	34.6

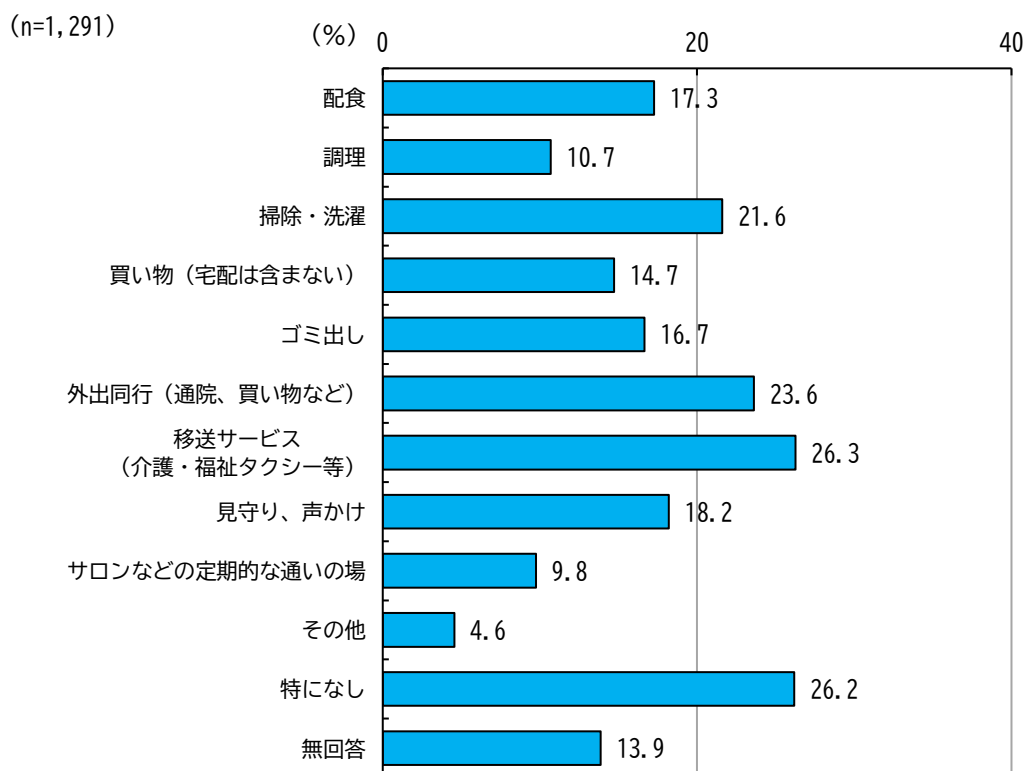
7) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

A票 問7 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（〇はいくつでも）

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

【全体】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.3%と最も多く、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」が23.6%、「掃除・洗濯」が21.6%となっており、「特になし」が26.2%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「特になし」、要介護認定者では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多くなっています。

		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全体		1291	17.3	10.7	21.6	14.7	16.7	23.6	26.3	18.2	9.8	4.6	26.2	13.9
認定状況	要支援1、2	641	15.4	9.7	23.1	14.4	17.3	22.2	25.0	15.8	8.7	3.9	30.9	8.4
	要介護1、2	430	19.3	12.1	22.8	17.2	16.7	26.3	28.4	22.1	13.0	5.3	22.8	13.5
	要介護3以上	208	18.3	10.1	12.5	8.7	12.5	22.1	25.5	16.3	5.3	4.8	18.3	32.2

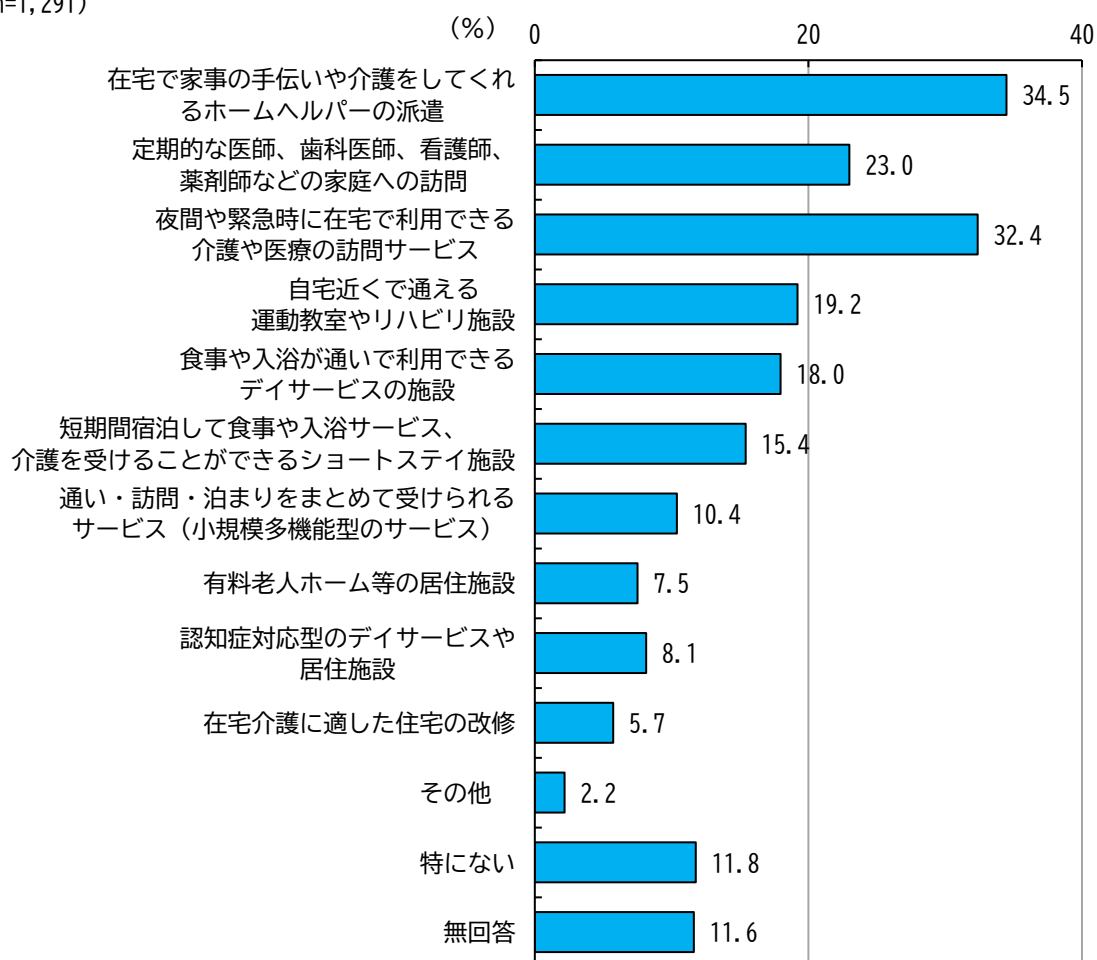
8) 住み慣れた地域で暮らし続けるために望まれる施設やサービス

A票 問8 住み慣れた地域で暮らし続けるために、介護や医療について、どのような施設やサービスを望みますか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

住み慣れた地域で暮らし続けるために望まれる施設やサービスについては、「在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣」が34.5%と最も多く、次いで、「夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス」が32.4%、「定期的な医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの家庭への訪問」が23.0%となっています。

(n=1,291)



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2、要介護1、2では「在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣」、要介護3以上では「夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス」が最も多くなっています。

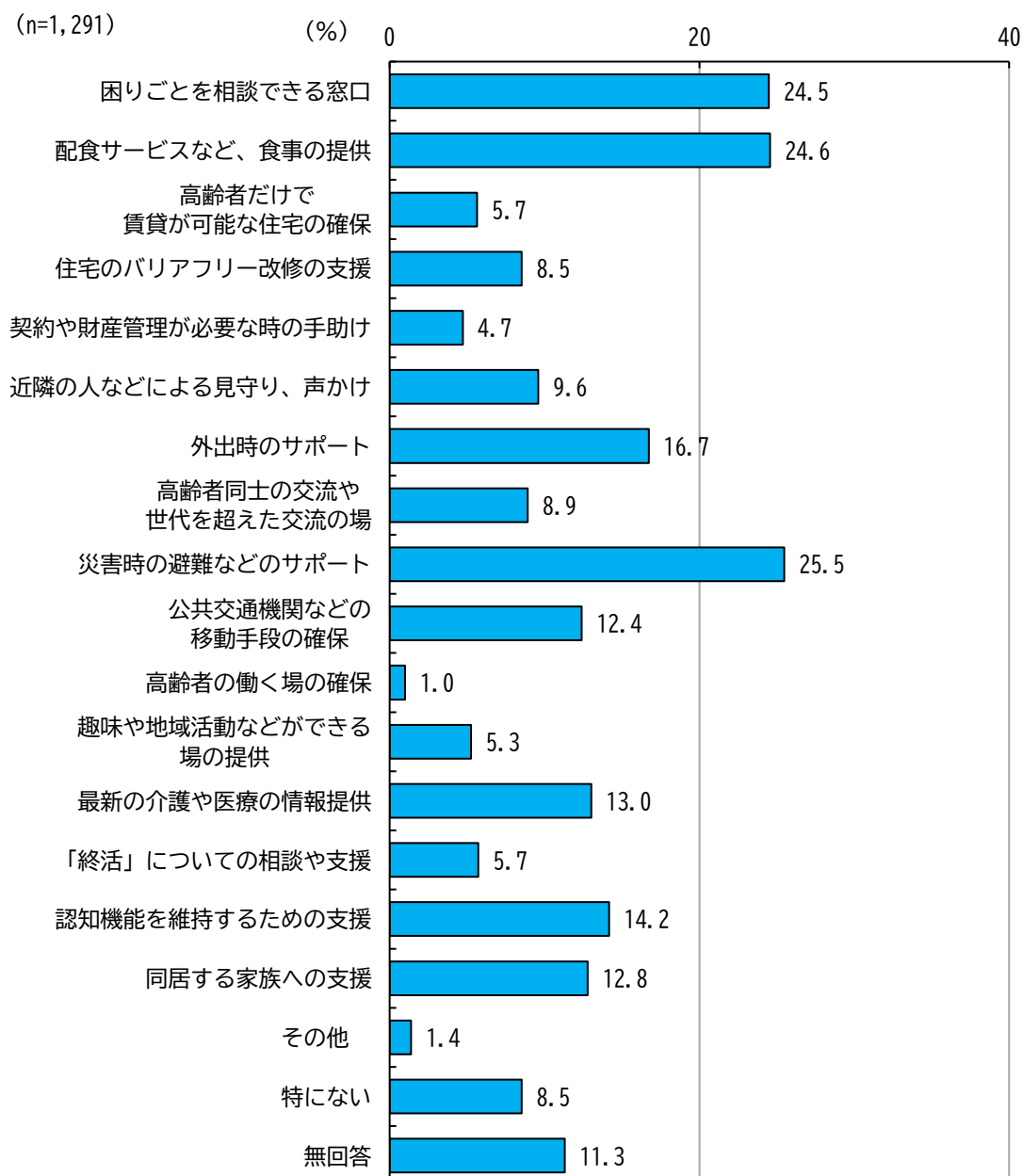
	n	在宅で家事の手伝いや介護をしてくれるホームヘルパーの派遣	定期的な医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの家庭への訪問	夜間や緊急時に在宅で利用できる介護や医療の訪問サービス	自宅近くで通える運動教室やリハビリ施設	食事や入浴が通いで利用できるデイサービスの施設	短期間宿泊して食事や入浴サービス、介護を受けることができるショートステイ施設	通い・訪問・泊まりをまとめて受けられるサービス（小規模多機能型のサービス）	有料老人ホーム等の居住施設	認知症対応型のデイサービスや居住施設	在宅介護に適した住宅の改修	その他	特にない	無回答	
全体	1291	34.5	23.0	32.4	19.2	18.0	15.4	10.4	7.5	8.1	5.7	2.2	11.8	11.6	
認定状況	要支援1、2	641	38.5	20.1	33.2	23.2	16.5	12.8	8.1	10.8	3.1	5.8	2.2	14.8	6.7
	要介護1、2	430	32.3	25.3	31.6	17.2	20.2	19.1	12.8	4.9	14.7	5.8	1.6	10.5	9.8
	要介護3以上	208	25.0	26.9	30.3	10.6	18.3	16.8	12.5	2.9	9.6	5.3	2.9	4.8	30.8

9) 在宅生活に望ましい支援

A票 問9 在宅で安心して暮らすために、あると助かる支援はどれですか (〇は主なもの3つまで)

【全体】

在宅生活に望ましい支援としては、「災害時の避難などのサポート」が25.5%、「配食サービスなど、食事の提供」が24.6%、「困りごとを相談できる窓口」が24.5%とそれぞれニーズが高くなっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「困りごとを相談できる窓口」、要介護1以上では「災害時の避難などのサポート」が最も多くなっています。

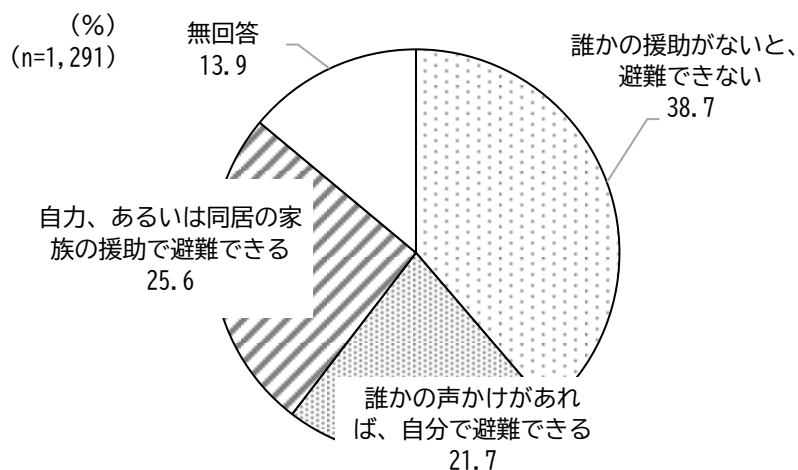
	n	困りごとを相談できる窓口	配食サービスなど、食事の提供	高齢者だけで賃貸が可能な住宅の確保	住宅のバリアフリー改修の支援	契約や財産管理が必要な時の手助け	近隣の人などによる見守り、声かけ	外出時のサポート	高齢者同士の交流や世代を超えた交流の場	災害時の避難などのサポート	公共交通機関などの移動手段の確保	
全体	1291	24.5	24.6	5.7	8.5	4.7	9.6	16.7	8.9	25.5	12.4	
認定状況	要支援1、2	641	27.3	25.6	5.3	8.3	5.0	10.5	17.9	9.7	25.3	15.1
	要介護1、2	430	23.7	25.1	4.7	7.4	5.8	8.6	17.9	10.2	25.6	11.2
	要介護3以上	208	17.3	19.7	8.7	12.0	1.0	9.1	10.6	3.4	26.4	6.7
	n	高齢者の働く場の確保	趣味や地域活動などができる場の提供	最新の介護や医療の情報提供	「終活」についての相談や支援	認知機能を維持するため	同居する家族への支援	その他	特になし	無回答		
全体	1291	1.0	5.3	13.0	5.7	14.2	12.8	1.4	8.5	11.3		
認定状況	要支援1、2	641	0.9	6.2	15.6	7.3	9.7	10.1	1.6	9.8	6.7	
	要介護1、2	430	1.2	5.3	10.9	4.9	21.4	14.2	1.2	8.1	9.3	
	要介護3以上	208	1.0	1.9	10.1	1.4	13.0	17.8	1.4	4.8	30.3	

10) 緊急時・災害時の避難の可否

A票 問10 あなたは、災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか（1つに○）

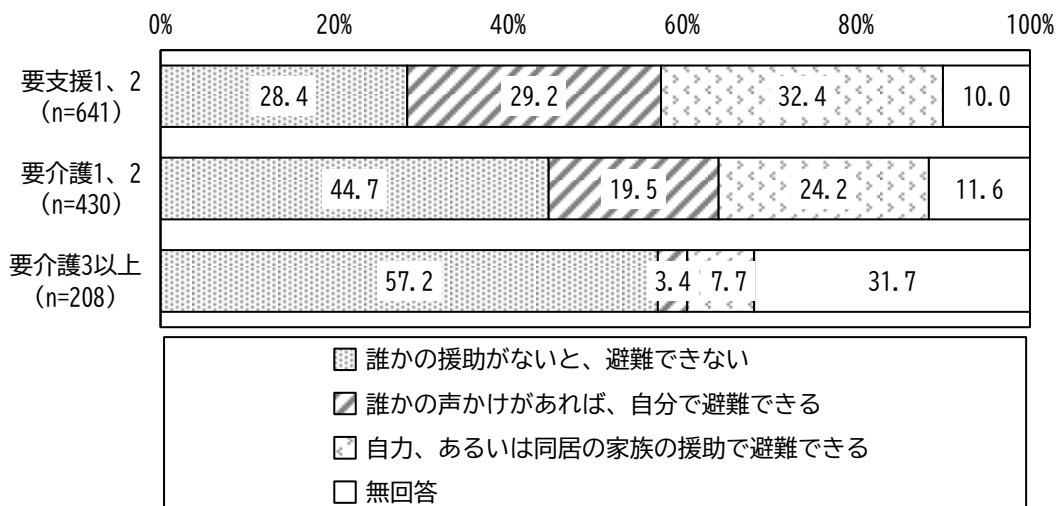
【全体】

緊急時・災害時の避難の可否について、「誰かの援助がないと、避難できない」が38.7%と最も多く、次いで、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が25.7%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が21.7%となっています。



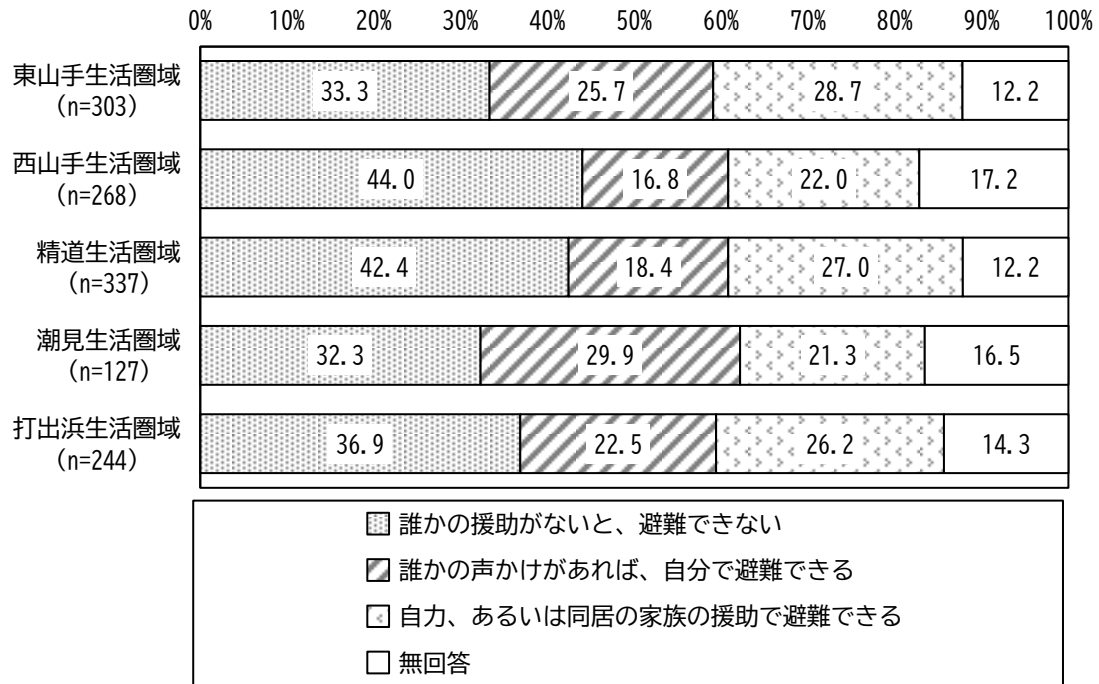
【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護3以上では、「誰かの援助がないと、避難できない」が57.2%と、他の区分に比べて多く、半数以上となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域、精道生活圏域では、「誰かの援助がないと、避難できない」が4割を超えて、他の生活圏域に比べて多くなっています。

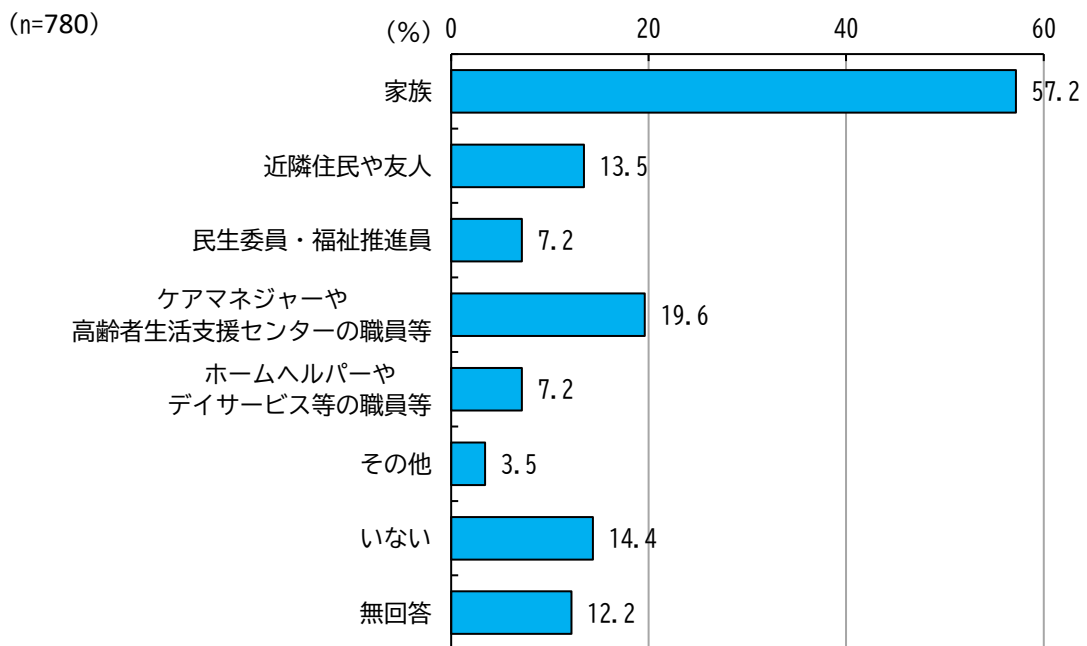


A票 問10で「1. 誰かの援助がないと、避難できない」または「2. 誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」を選択した方

災害時の避難の支援について相談している人はいますか (○は主なもの3つまで)

【全体】

災害時の避難の支援について相談している人は、「家族」が 57.2%と最も多く、次いで、「ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等」が 19.6%となっています。一方、「いない」が 14.4%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護認定者で「家族」の割合が6割を超え、要介護3以上では「ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等」が28.6%と他の区分に比べて多くなっています。また、要支援1、2では「いない」が18.2%と比較的多くなっていますが、「近隣住民や友人」、「民生委員・福祉推進員」の割合が要介護認定者に比べてやや多くなっています。

		n	家族	近隣住民や友人	民生委員・福祉推進員	ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等	ホームヘルパー等の職員等	その他	いない	無回答
全体		780	57.2	13.5	7.2	19.6	7.2	3.5	14.4	12.2
認定状況	要支援1、2	369	47.2	16.5	10.0	17.6	5.4	4.6	18.2	14.9
	要介護1、2	276	66.3	12.0	4.0	18.5	9.4	1.4	10.9	10.9
	要介護3以上	126	66.7	8.7	6.3	28.6	6.3	4.8	11.1	7.1

【居住地域別】

居住地域別にみると、精道生活圏域で「家族」、潮見生活圏域で「ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等」「ホームヘルパーやデイサービス等の職員等」、打出浜生活圏域で「近隣住民や友人」が他の生活圏域に比べて多くなっています。

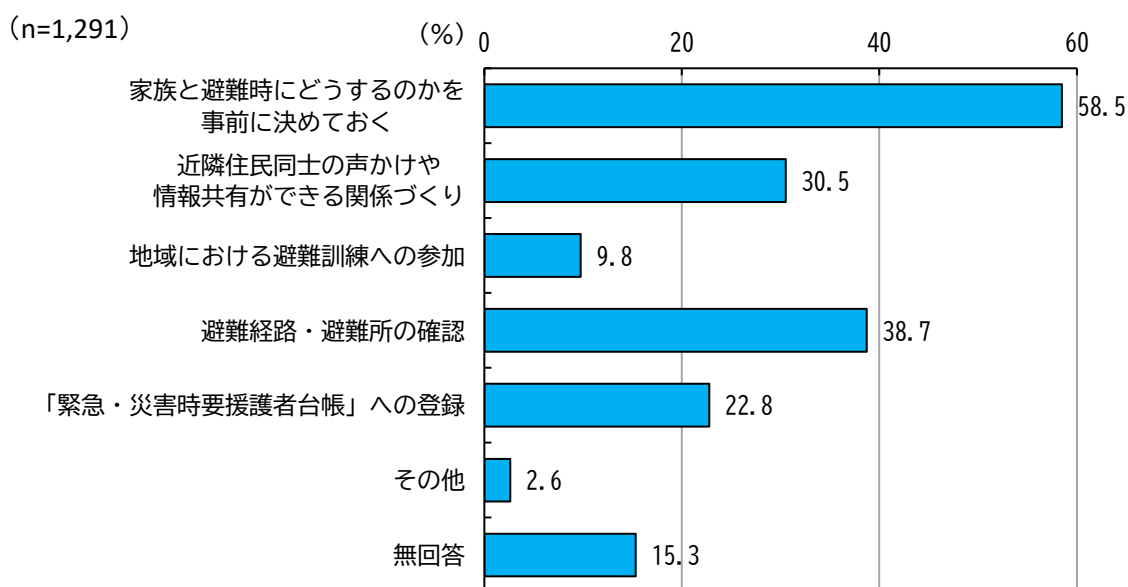
		n	家族	近隣住民や友人	民生委員・福祉推進員	ケアマネジャーや高齢者生活支援センターの職員等	ホームヘルパー等の職員等	その他	いない	無回答
全体		780	57.2	13.5	7.2	19.6	7.2	3.5	14.4	12.2
圏域	東山手生活圏域	179	53.1	15.1	6.1	16.2	5.0	2.8	16.8	14.0
	西山手生活圏域	163	58.3	10.4	8.0	19.0	7.4	4.3	16.6	12.3
	精道生活圏域	205	63.9	11.2	9.3	20.5	5.9	2.9	12.2	8.3
	潮見生活圏域	79	50.6	11.4	1.3	29.1	12.7	5.1	19.0	12.7
	打出浜生活圏域	145	55.2	20.0	8.3	18.6	7.6	3.4	9.7	15.2

1 1) 緊急時・災害時に必要な備え

A票 問11 あなたの災害時の避難について、事前に必要だと思う備えは何ですか（○は主なもの3つまで）

【全体】

災害時に必要な備えについては、「家族と避難時にどうするのかを事前に決めておく」が 58.5%と最も多く、次いで、「避難経路・避難所の確認」が 38.7%、「近隣住民同士の声かけや情報共有ができる関係づくり」が 30.5%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2で回答割合が高い項目が多い一方、要介護3以上では無回答が多くなっています。

	n	家族と避難時にどうするのかを事前に決めておく	近隣住民同士の声かけや情報共有ができる関係づくり	地域における避難訓練への参加	避難経路・避難所の確認	「緊急・災害時要援護者台帳」への登録	その他	無回答
全体	1291	58.5	30.5	9.8	38.7	22.8	2.6	15.3
認定状況								
要支援1、2	641	58.2	34.3	12.8	43.8	22.3	2.8	10.5
要介護1、2	430	63.3	27.4	8.6	37.9	23.5	2.3	14.0
要介護3以上	208	50.0	24.5	2.4	26.0	22.1	2.9	33.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域で「近隣住民や友人」が他の生活圏域に比べてやや少なくなっています。

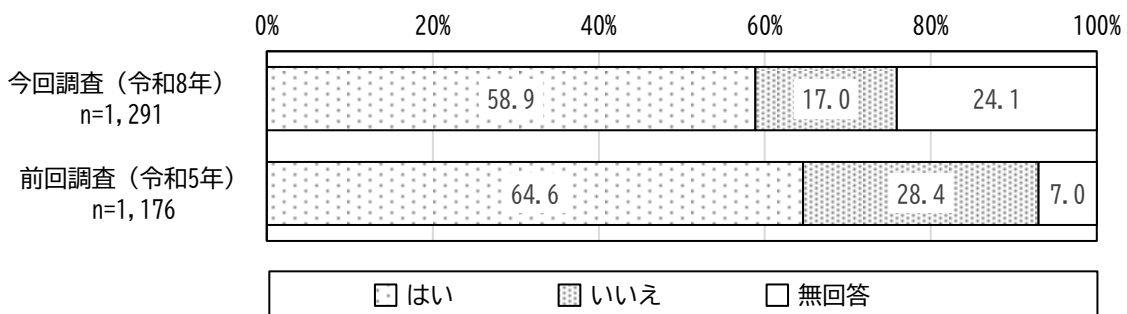
		n	家族と避難時にどうするのかを事前に決めておく	近隣住民の声をかけたり情報共有ができる関係づくり	地域における避難訓練への参加	避難経路・避難所の確認	「緊急・災害時要援護者台帳」への登録	その他	無回答
全体		1291	58.5	30.5	9.8	38.7	22.8	2.6	15.3
圏域	東山手生活圏域	303	61.7	30.4	9.2	32.7	17.2	2.6	13.2
	西山手生活圏域	268	57.1	26.1	8.2	38.8	26.5	2.2	16.4
	精道生活圏域	337	61.1	30.0	10.1	42.7	23.1	3.3	14.2
	潮見生活圏域	127	47.2	29.9	11.8	41.7	26.0	4.7	21.3
	打出浜生活圏域	244	58.6	36.1	10.2	40.2	23.0	1.2	15.6

1 2) 高齢者生活支援センターについて

A票 問1 2 あなたのお住いのエリアを担当する「高齢者生活支援センター」を知っていますか

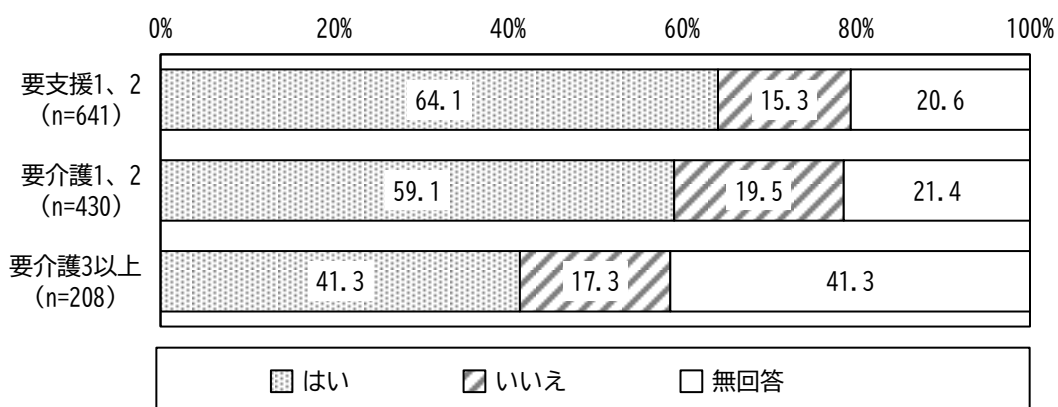
【全体】

高齢者生活支援センターの認知度については、「はい」(知っている)が58.9%、「いいえ」(知らない)が17.0%となっています。前回調査に比べて、「はい」(知っている)が5.7ポイント減少しています。



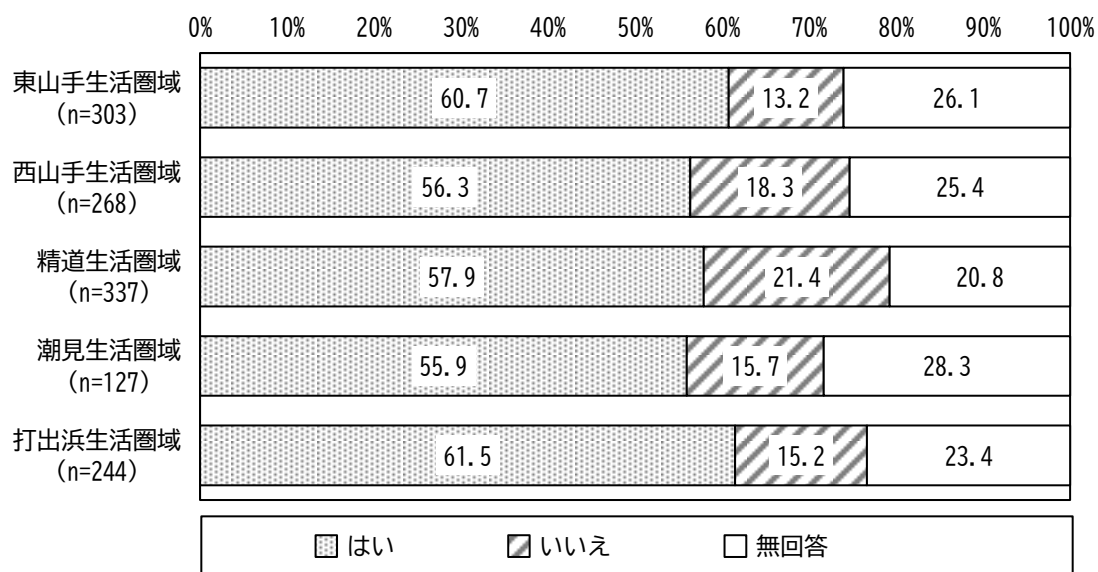
【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」(知っている)は要支援1、2で64.1%と多く、要介護1、2で6割弱、要介護3以上では4割強となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、精道生活圏域で「いいえ」(知らない)が2割を超えて、他の生活圏域に比べて少なくなっています。

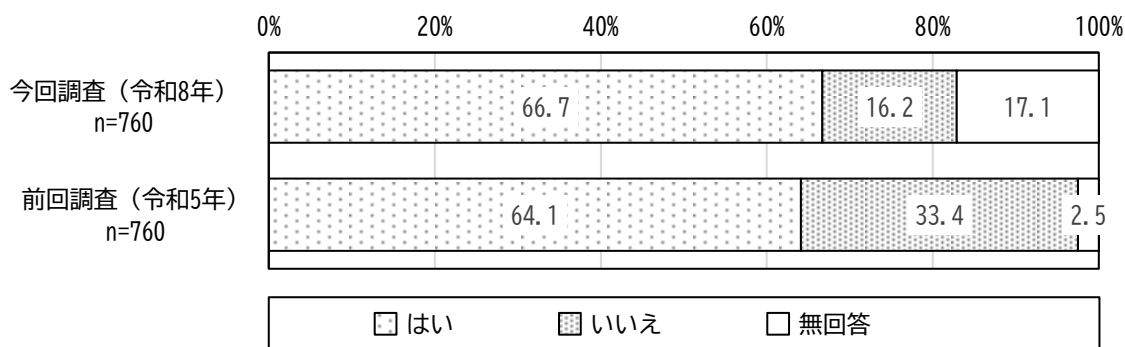


A票 問12で「1. はい」を選択した方

あなたやご家族は、高齢者生活支援センターを利用したことがありますか

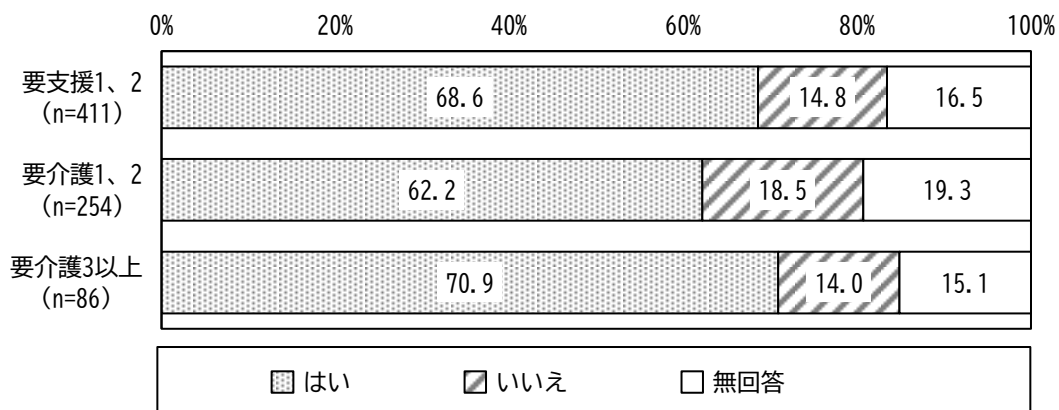
【全体】

高齢者生活支援センターの利用については、「はい」（利用したことがある）が66.7%、「いいえ」（利用したことがない）が16.2%となっています。前回調査に比べて、「はい」（利用したことがある）が2.6ポイント増加しています。



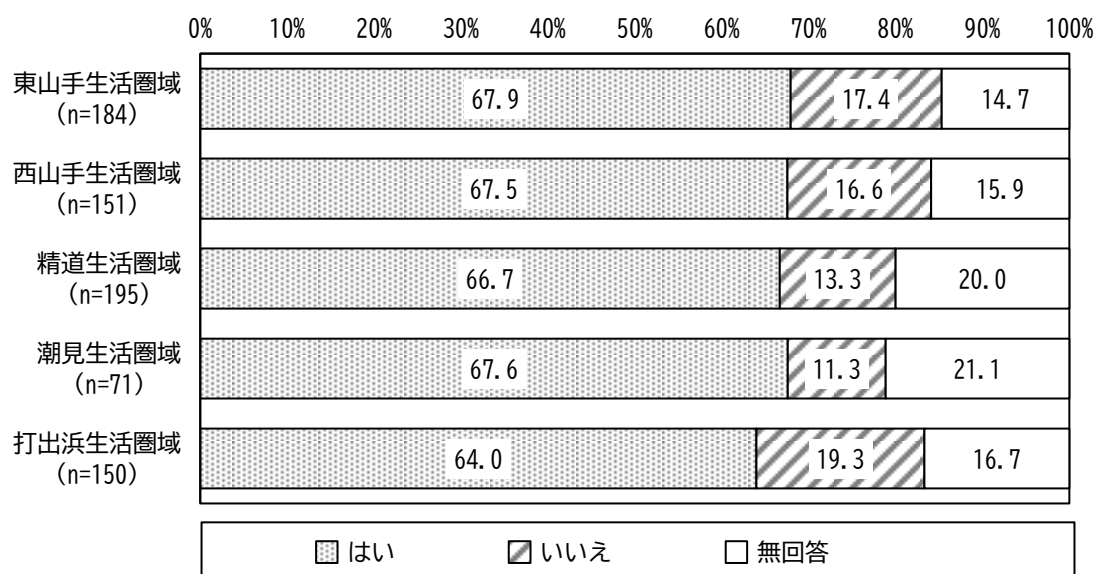
【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」（利用したことがある）はすべての区分で6割を超え、要介護3以上では7割を超えています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、「はい」(利用したことがある)はすべての生活圏域で6割台となっています。

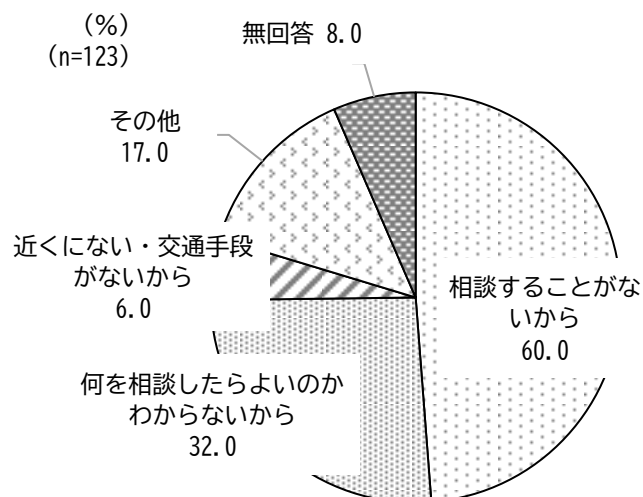


上の問で「2. いいえ」を選択した方

利用していない理由は何ですか (主なもの1つに○)

【全体】

高齢者生活支援センター未利用の理由については、「相談することがないから」が60.0%と最も多く、次いで、「何を相談したらよいのかわからないから」が32.0%となっています。



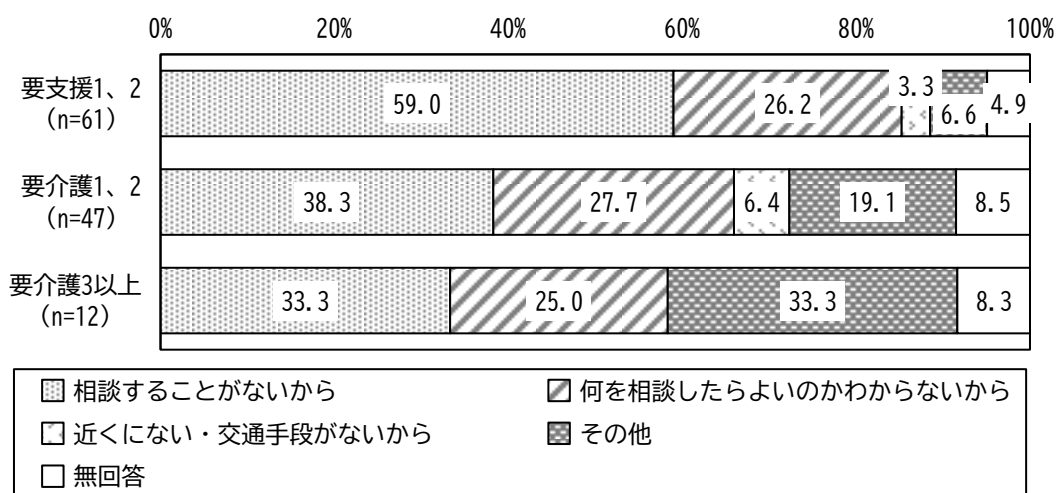
◇高齢者生活支援センター未利用の理由「その他」の主な回答

内 容	
ケアマネジャーに相談しているから	すでに他のサービスを利用しているから
センターの存在や場所を知らないから	利用方法がわからないから
まだ必要ないと感じているから	一人では行けない、本人が行きたがらないから

など

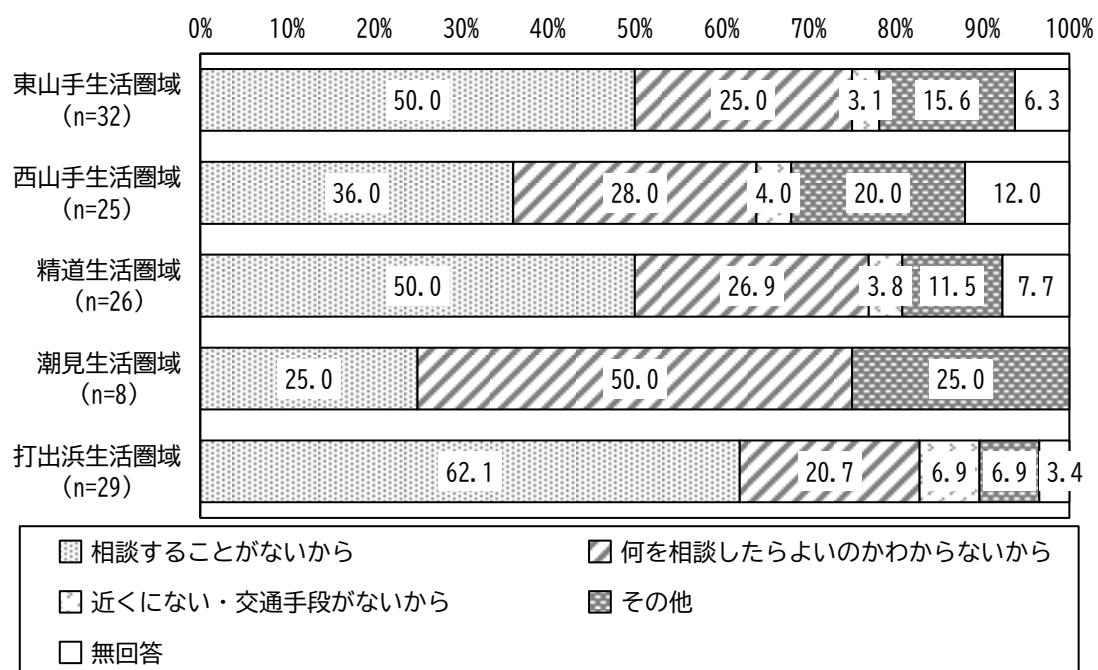
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「相談することがないから」が61.0%と特に多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、母数が少なくなっていますが、潮見生活圏域では「何を相談したらよいかわからないから」が多くなっています。

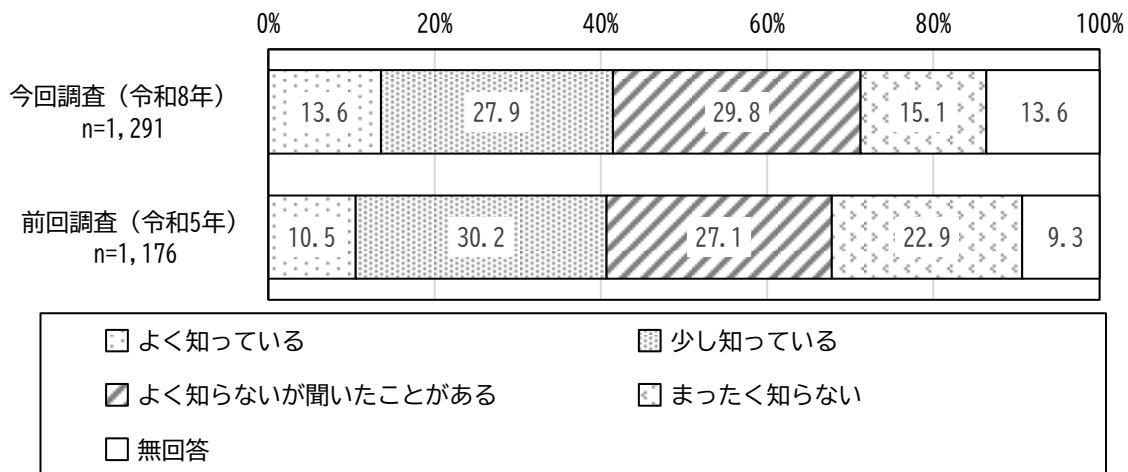


13) 成年後見制度について

A票 問13 あなたは「成年後見制度」について知っていますか（1つに○）

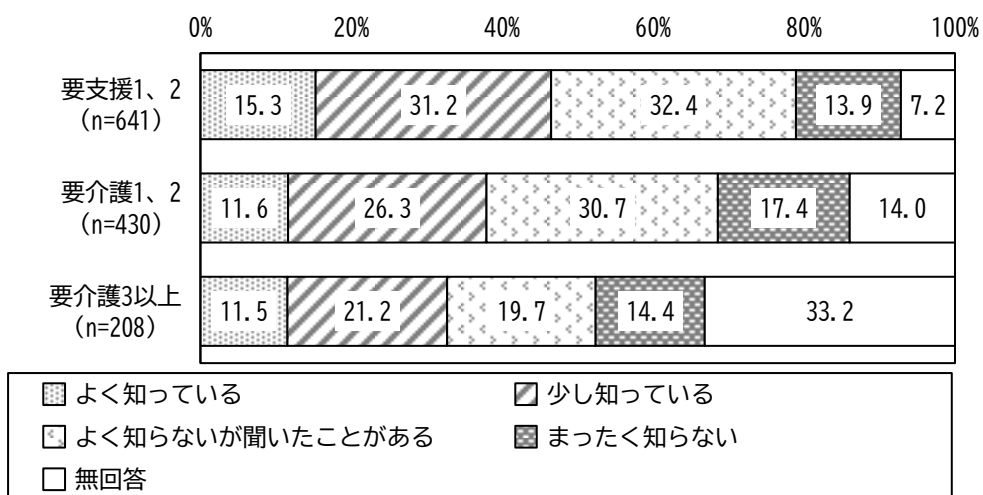
【全体】

成年後見制度の認知度については、「よく知らないが聞いたことがある」が29.8%と最も多く、次いで「少し知っている」が27.9%、「まったく知らない」が15.1%、「よく知っている」が13.6%で、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は41.5%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、『知っている』は要支援1、2で46.5%、要介護1、2で37.9%、要介護3以上で32.7%となっています。

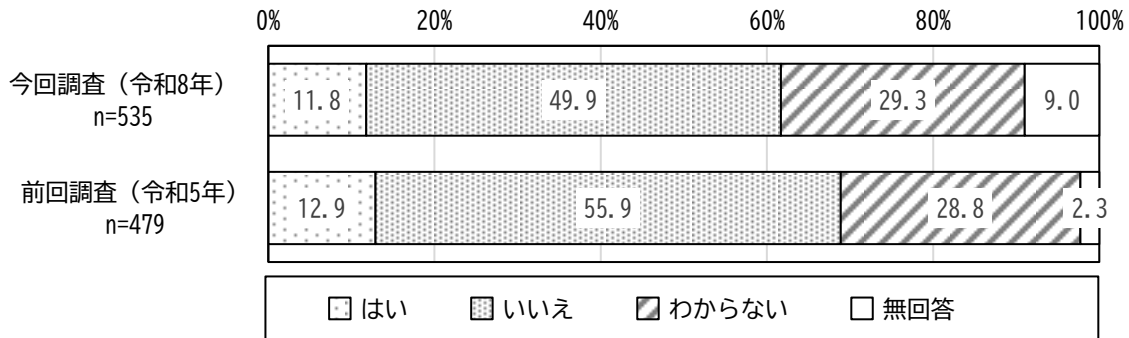


A票 問13で「1. よく知っている」または「2. 少し知っている」を選択した方

今後、成年後見制度を利用したいですか（1つに○）

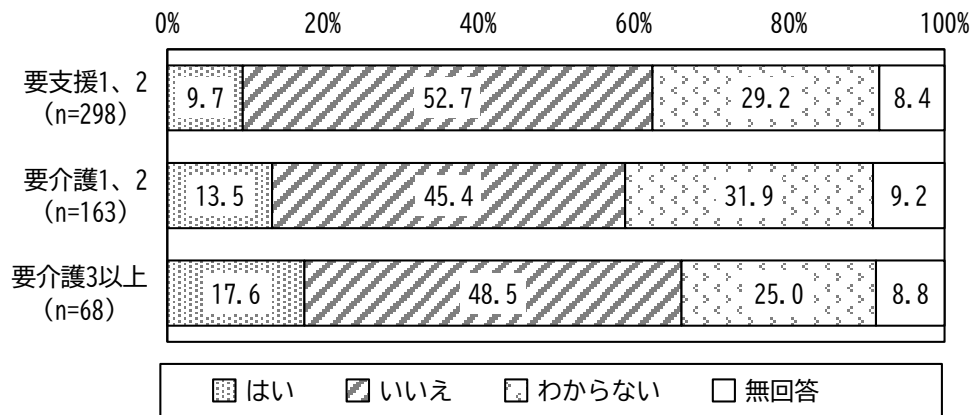
【全体】

成年後見制度の利用意向については、「はい」（利用したい）が11.8%、「いいえ」（利用したくない）が49.9%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護3以上で「はい」（利用したい）が17.6%と、他の区分に比べて多くなっています。

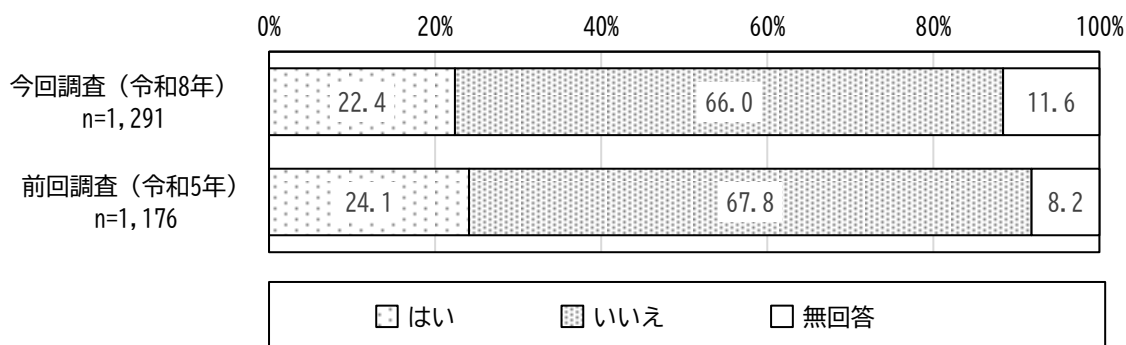


1 4) 認知症状の有無

A票 問14 あなたやご家族の中に認知症の症状がある人いますか

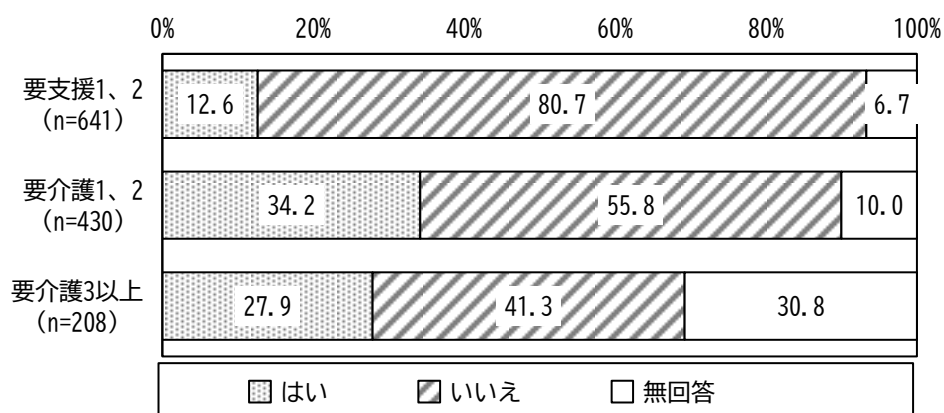
【全体】

ご本人やご家族の中に認知症の症状がある人があるかについては、「はい」(いる)が22.4%、「いいえ」(いない)が66.0%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」(いる)は要支援1、2では12.6%と少なく、要介護1、2では3割を超えています。

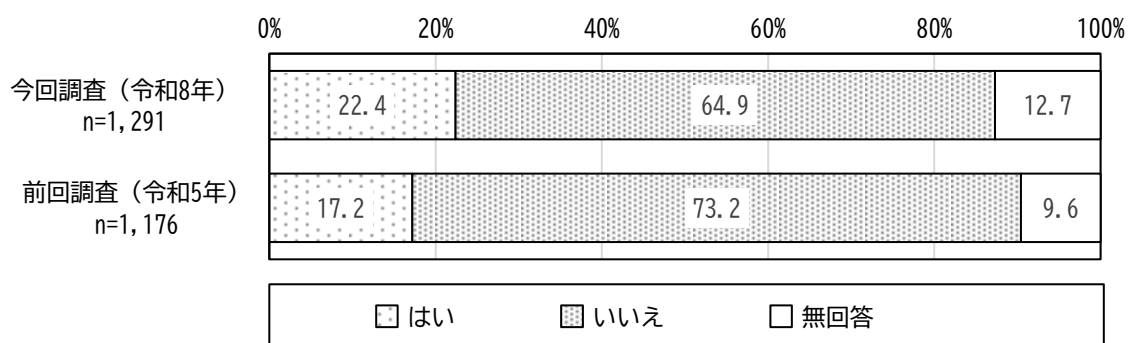


15) 相談窓口の認知

A票 問15 あなたは認知症に関する相談窓口を知っていますか

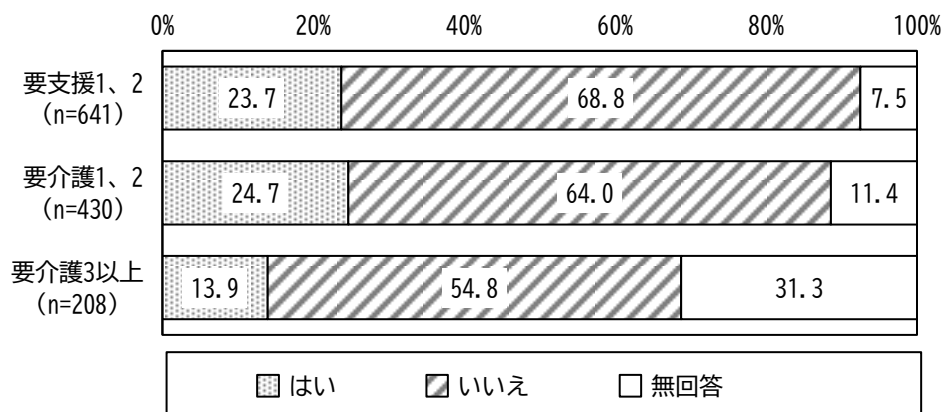
【全体】

認知症の相談窓口の認知については、「はい」(知っている)が22.4%、「いいえ」(知らない)が64.9%となっています。前回調査と比べて、「はい」(知っている)が5.2ポイント増加しています。



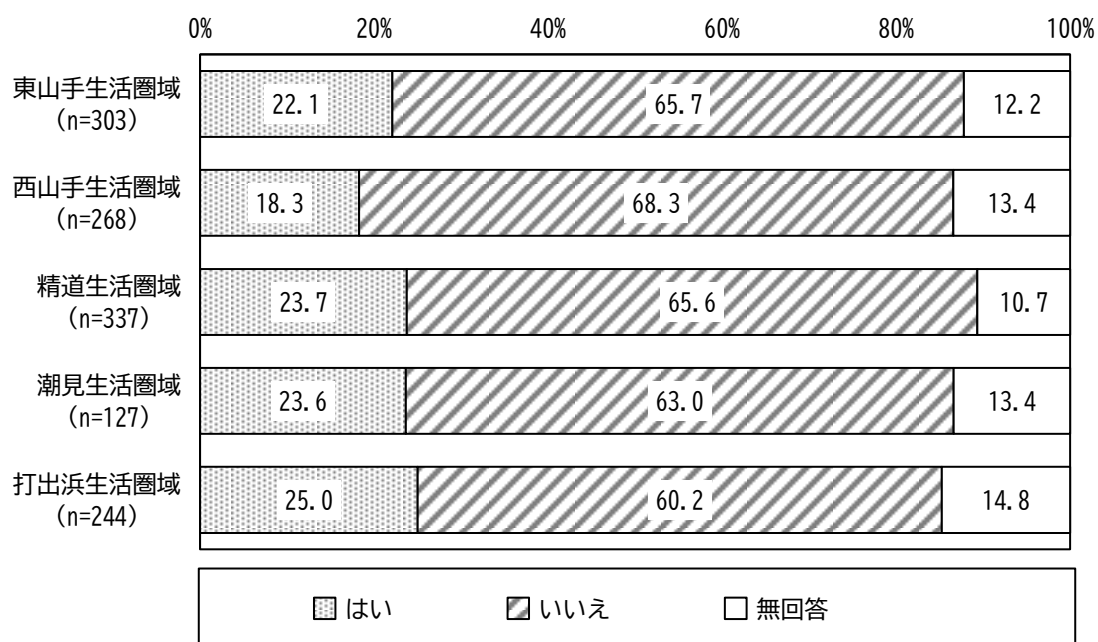
【認定状況別】

認定状況別にみると、「はい」(知っている)は要支援1、2、要介護1、2では2割を超えています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域で「はい」（知っている）が2割を下回り、他の生活圏域と比べてやや少なくなっています。

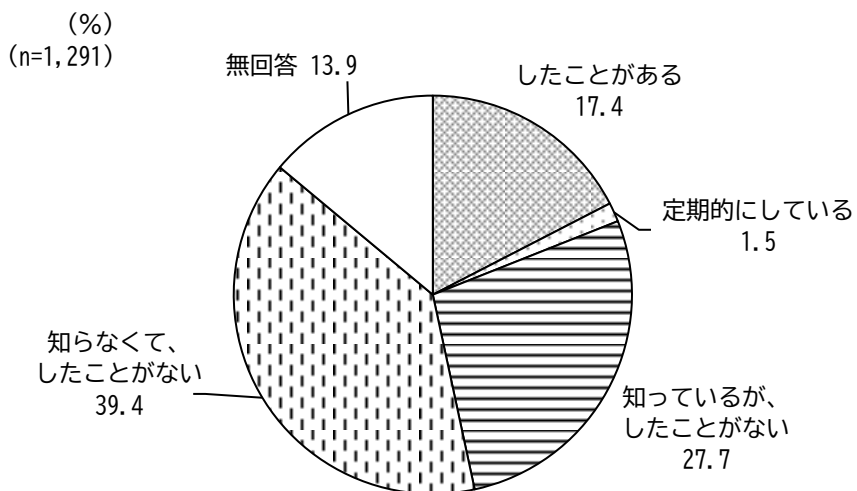


16) 認知症セルフチェックについて

A票 問16 あなたまたはご家族の方が、あなたのための認知症セルフチェックをしたことがありますか（1つに○）

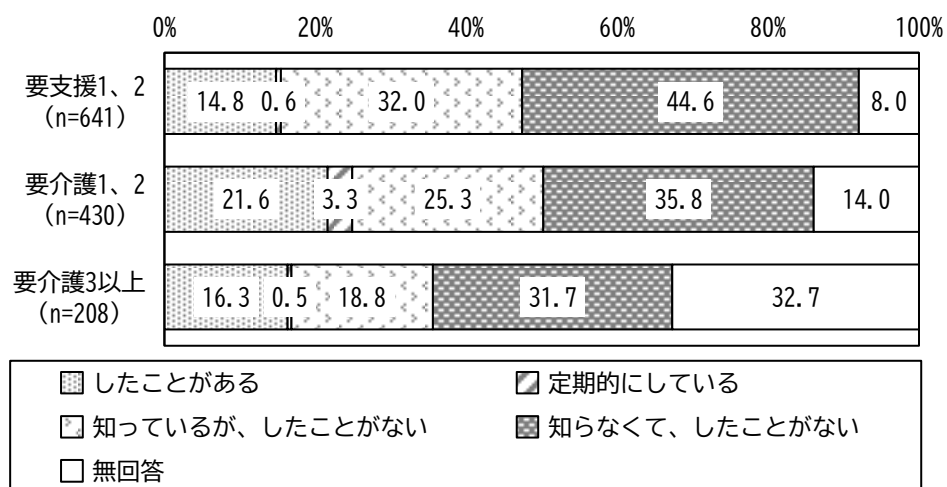
【全体】

認知症セルフチェックを「したことがある」は17.4%、「定期的に行っている」は1.5%で、「したことがある」と「定期的に行っている」を合わせた『したことがある』は合計18.9%となっています。



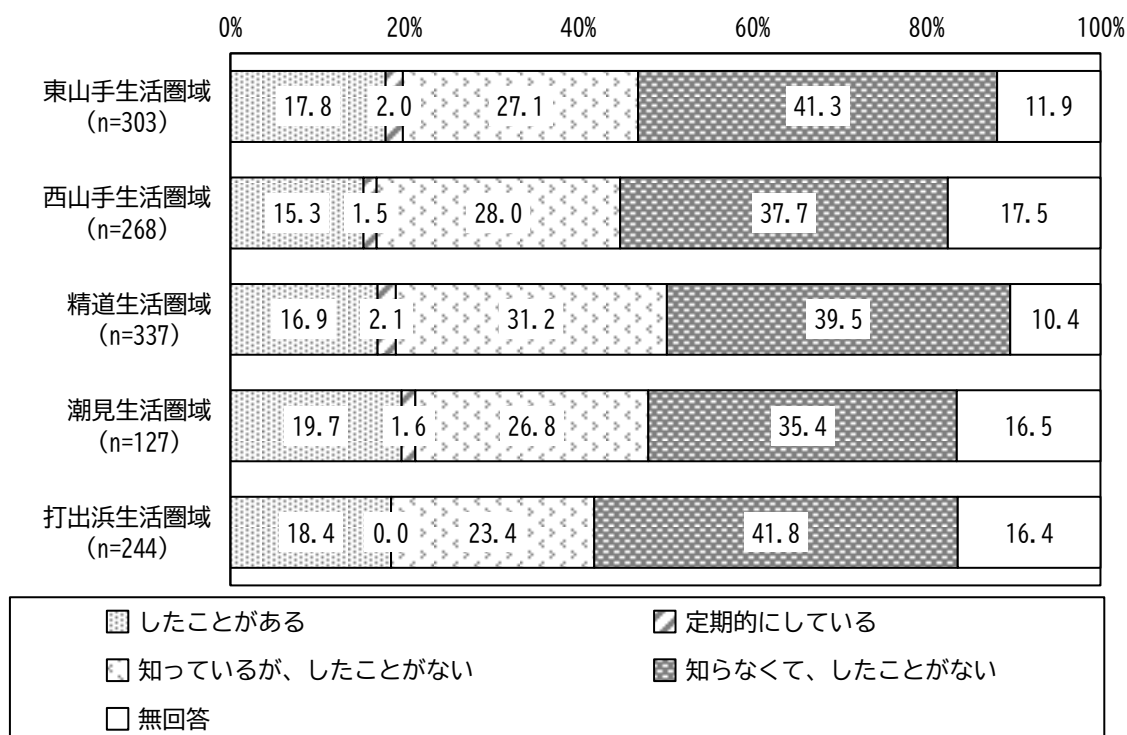
【認定状況別】

認定状況別にみると、『したことがある』は要介護1、2で24.9%と、他の区分に比べて多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると精道生活圏域では「知っているが、したことがない」が3割を超えています。

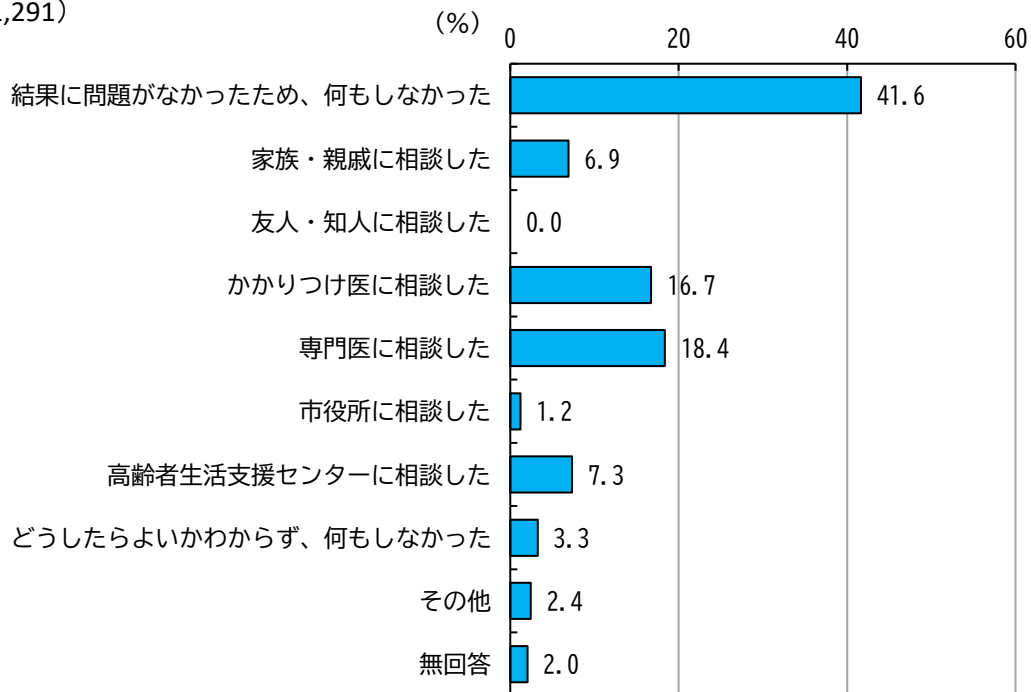


A票 問16で「1. したことがある」または「2. 定期的に行っている」を選択した方
 認知症セルフチェックをした後、どのような行動をとりましたか（主なもの1つに○）

【全体】

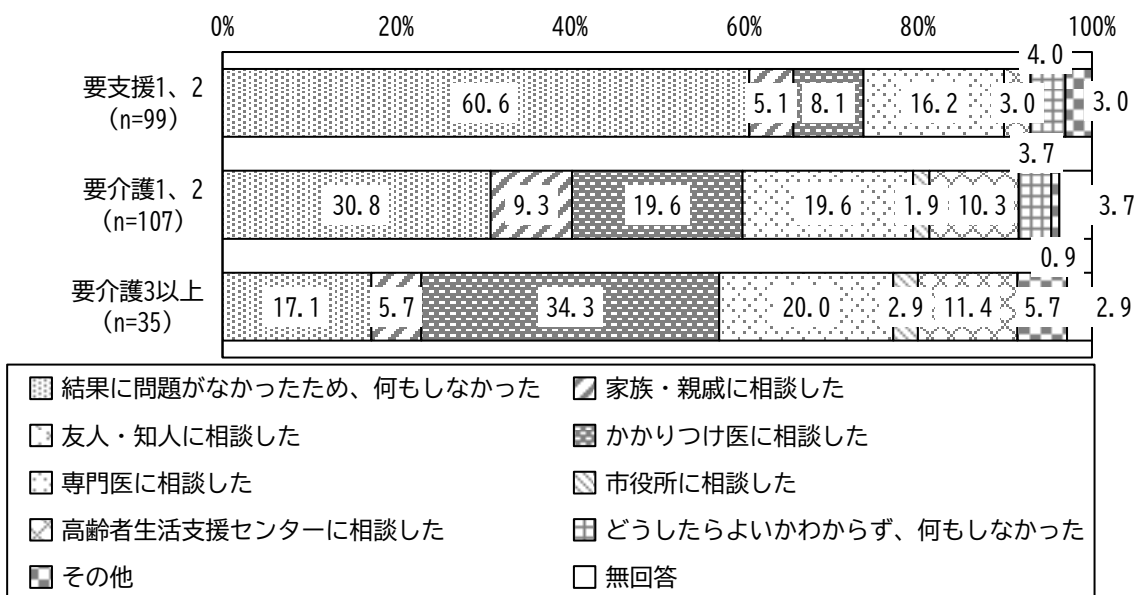
認知症セルフチェック後の行動としては、「結果に問題がなかったため、何もしなかった」が41.6%と最も多く、次いで「専門医に相談した」が18.4%、「かかりつけ医に相談した」が16.7%となっています。

(n=1,291)



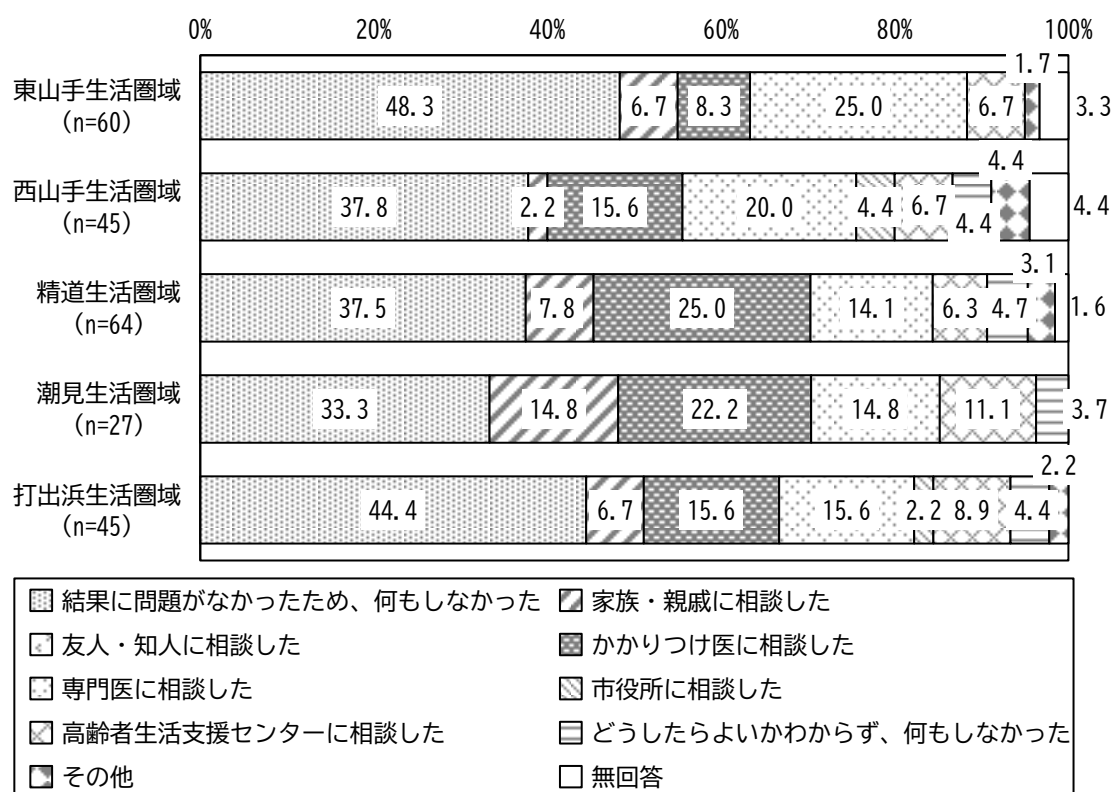
【認定状況別】

認定状況別にみると、「かかりつけ医に相談した」は要介護が上がるほど増加し、要介護3以上では34.3%となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域では「高齢者生活支援センターに相談した」、精道生活圏域、潮見生活圏域では「かかりつけ医に相談した」が、他の生活圏域と比べて多くなっています。

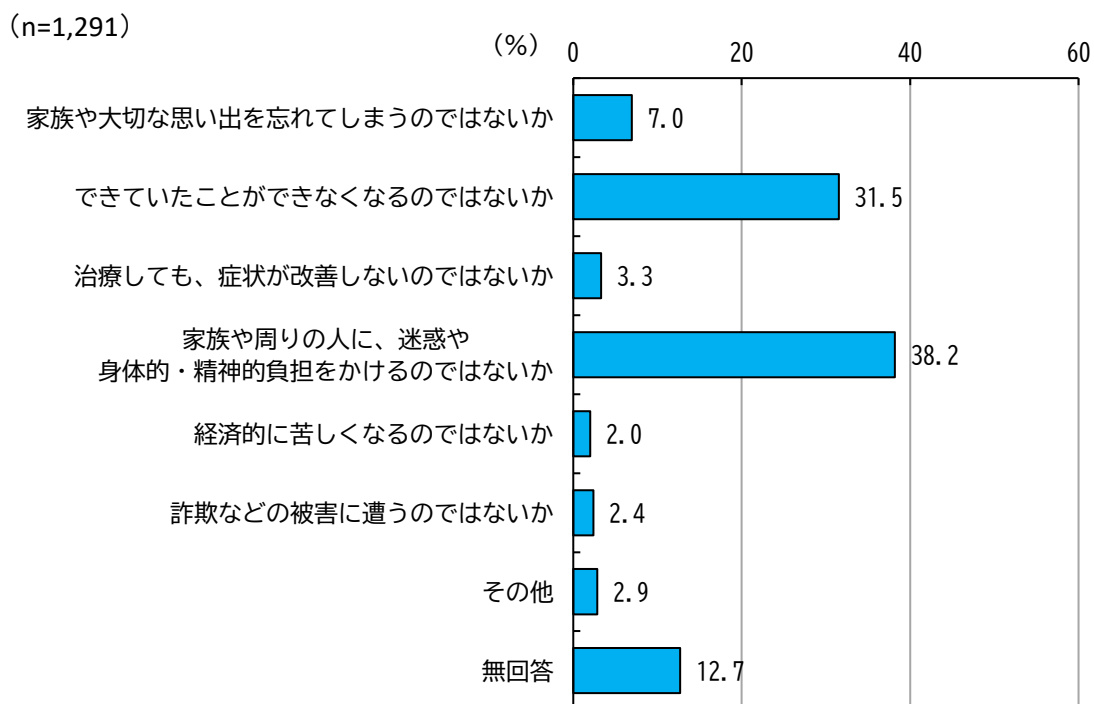


17) 不安に感じること

A票 問17 あなたが認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか(あるいは現在どのようなことに不安を感じていますか) (主なもの1つに○)

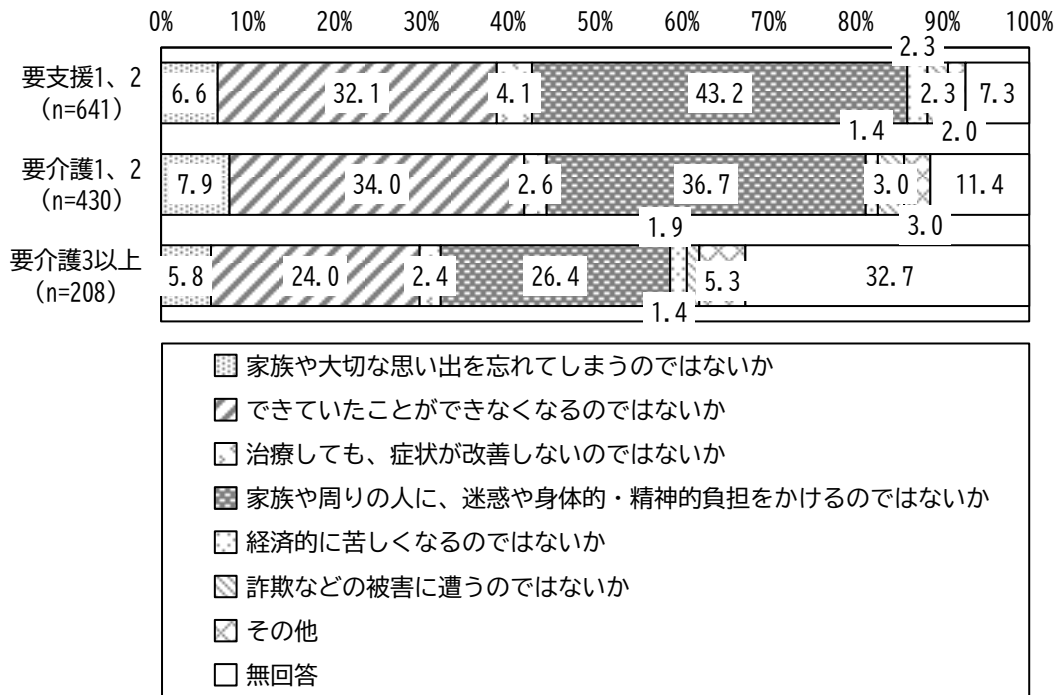
【全体】

認知症になったら不安を感じることについては、「家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないかと」が38.2%と最も多く、次いで、「できていたことができなくなるのではないかと」が31.5%となっています。



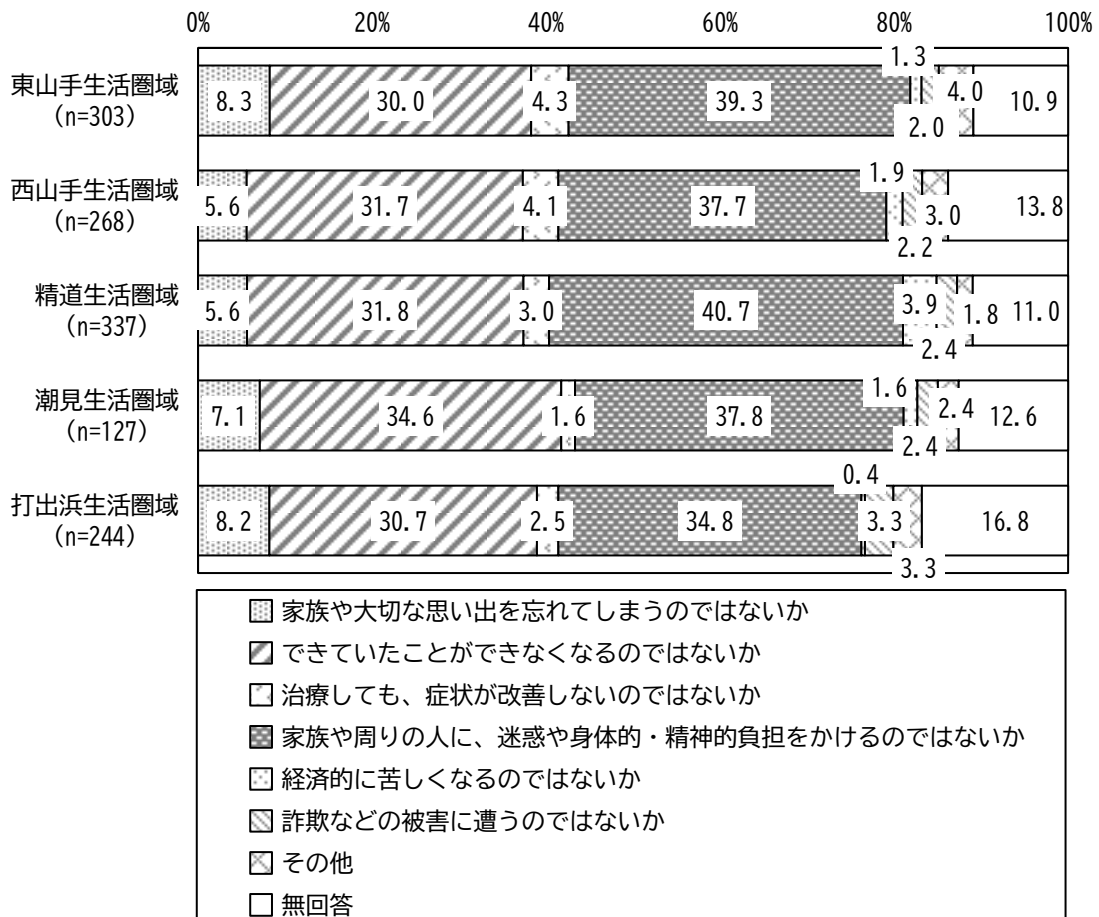
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2で「家族や周りの人に、迷惑や身体的・精神的負担をかけるのではないかと」が43.2%と最も多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通りとなっています。



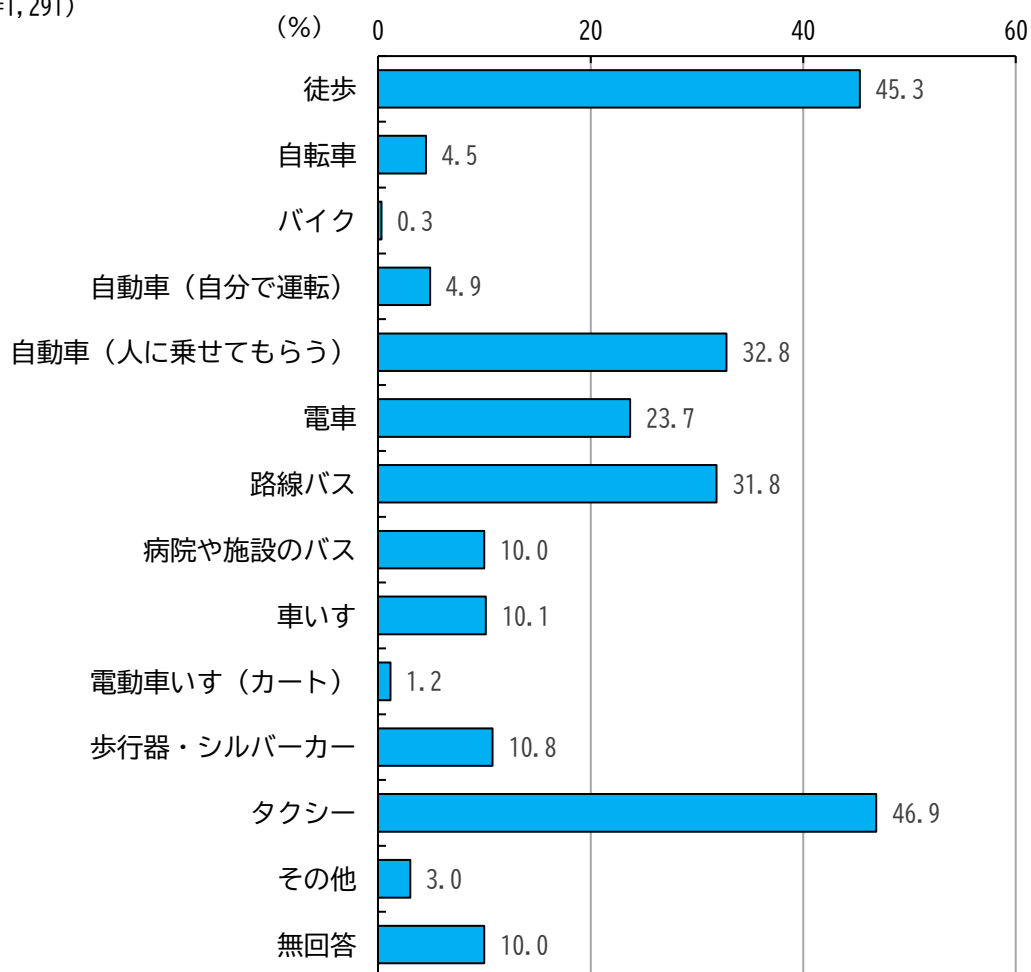
18) 外出時の移動手段

A票 問18 外出する際の移動手段は何ですか（〇はいくつでも）

【全体】

外出時の移動手段については、「タクシー」が46.9%と最も多く、次いで、「徒歩」が45.3%、「自動車（人に乗せてもらう）」が32.8%、「路線バス」が31.8%となっています。

(n=1,291)



【認定状況別】

要介護度別にみると、要支援1、2、要介護1、2では「徒歩」、要介護3以上では「車いす」がそれぞれ最も多くなっています。「タクシー」はすべての区分で2番目に多くなっています。また、「路線バス」は要介護度が低いほど多く、要支援1、2では44.6%となっています。

	n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	1291	45.3	4.5	0.3	4.9	32.8	23.7	31.8	10.0	10.1	1.2	10.8	46.9	3.0	10.0
認定状況	要支援1、2	641	56.5	6.4	0.3	7.3	31.5	33.1	44.6	12.0	3.7	11.9	55.4	2.0	4.1
	要介護1、2	430	43.5	3.0	0.2	2.8	38.4	18.8	26.3	8.6	10.2	10.7	42.6	2.8	9.5
	要介護3以上	208	13.9	1.4	0.0	1.9	24.5	5.3	4.3	7.2	30.3	1.0	7.2	29.3	6.3

【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域では「路線バス」が最も多く、44.9%となっています。

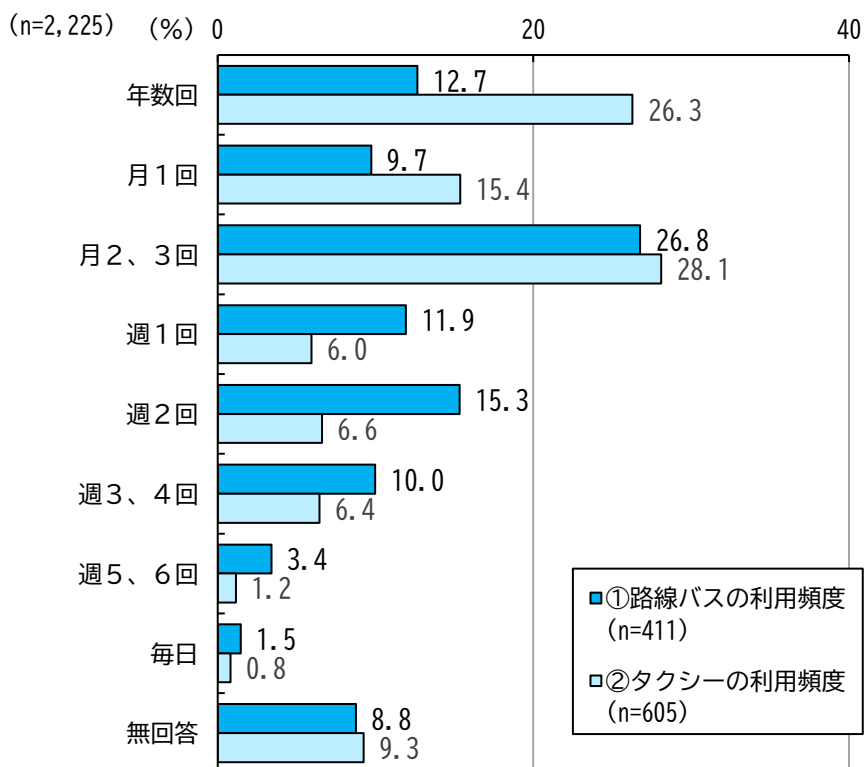
	n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答	
全体	1291	45.3	4.5	0.3	4.9	32.8	23.7	31.8	10.0	10.1	1.2	10.8	46.9	3.0	10.0	
圏域	東山手生活圏域	303	40.3	3.0	0.7	6.3	31.7	22.4	39.9	7.9	5.6	0.7	7.6	49.2	4.3	8.9
	西山手生活圏域	268	41.8	1.5	0.0	5.6	38.8	24.3	26.9	10.1	13.8	0.7	9.3	50.4	2.2	10.1
	精道生活圏域	337	49.6	5.9	0.0	5.0	32.3	26.7	23.1	10.4	11.6	1.8	15.4	47.2	2.7	8.6
	潮見生活圏域	127	41.7	2.4	0.0	2.4	29.9	28.3	44.9	17.3	8.7	0.8	6.3	42.5	3.9	11.0
	打出浜生活圏域	244	50.8	8.6	0.4	3.7	29.1	18.4	32.8	8.6	11.1	1.2	11.9	41.8	2.0	13.1

A票 問18で「7. 路線バス」または「12. タクシー」を選択した方

どれくらいの頻度で利用しますか（1つに○）

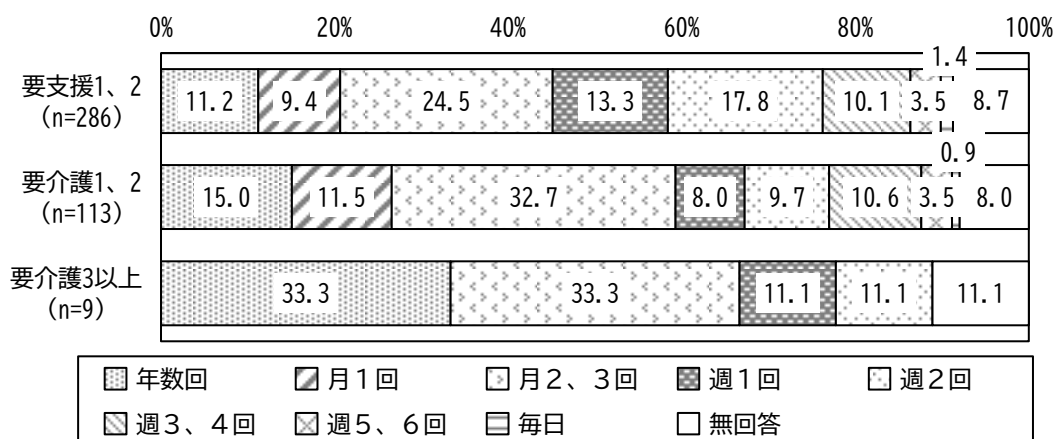
【全体】

①路線バスまたは②タクシーの利用頻度については、ともに「月2、3回」が3割弱で最も多くなっています。



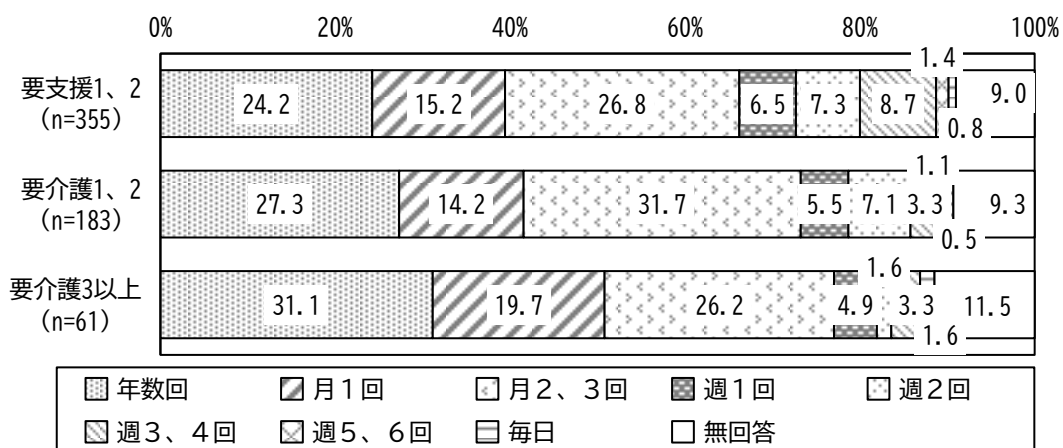
【①路線バスの利用頻度・認定状況別】

年齢別にみると、要介護度が上がるにつれて利用頻度が減少する傾向がみられます。



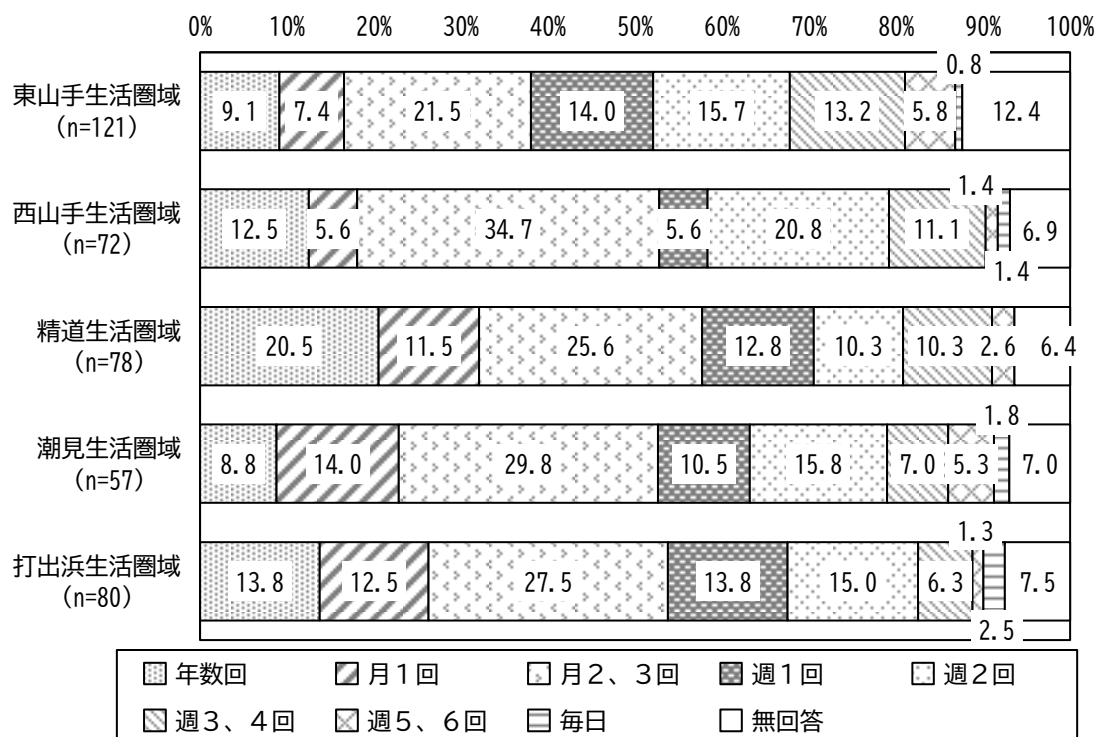
【②タクシーの利用頻度・認定状況別】

認定状況別にみると、要介護度が上がるにつれて利用頻度が減少する傾向がみられます。



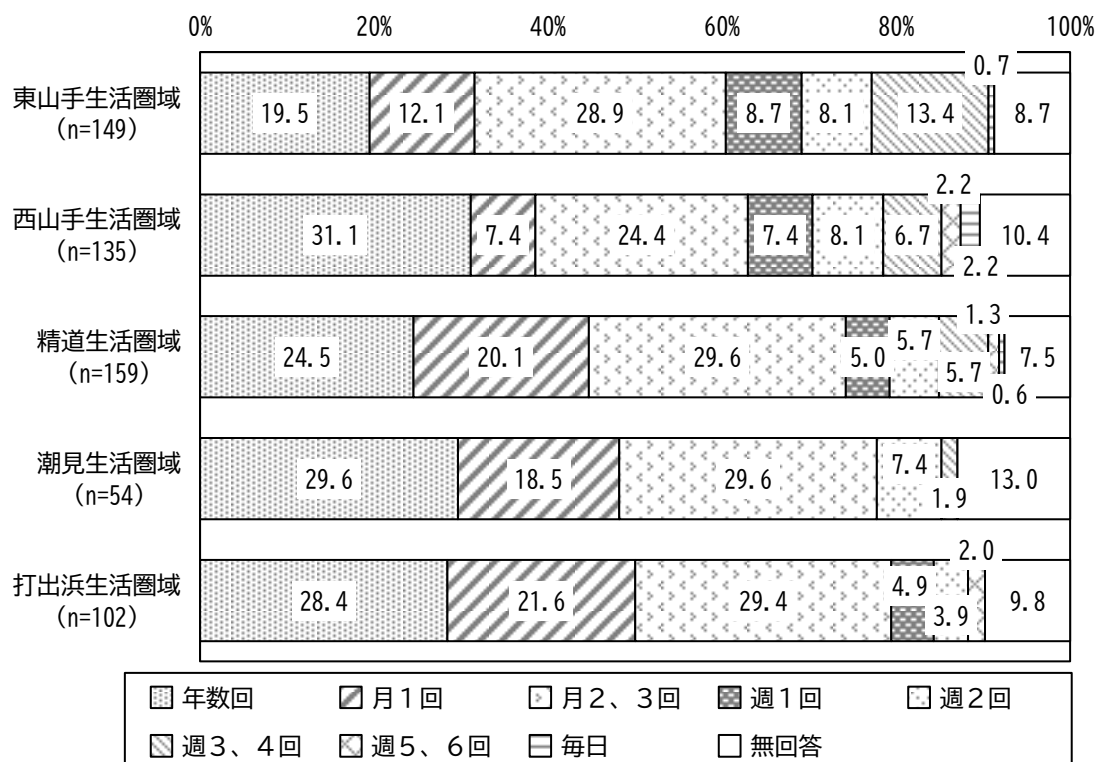
【①路線バスの利用頻度・居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域では週1回以上の利用が約半数となっています。



【②タクシーの利用頻度・居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域では週1回以上の利用が他の生活圏域と比べてやや多くなっています。



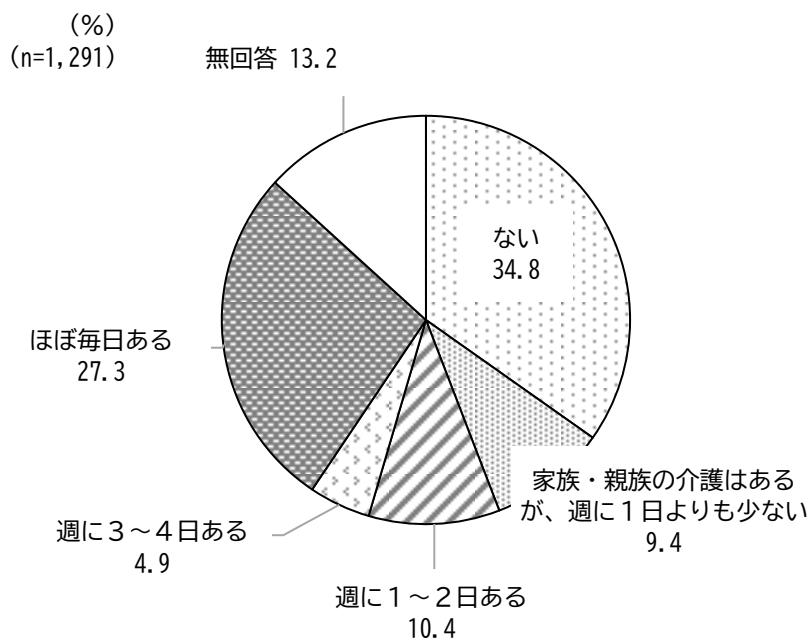
19) 家族・親族による介護の頻度

A票 問19 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（1つに○）

※同居していない子どもや親族等からの介護を含む。

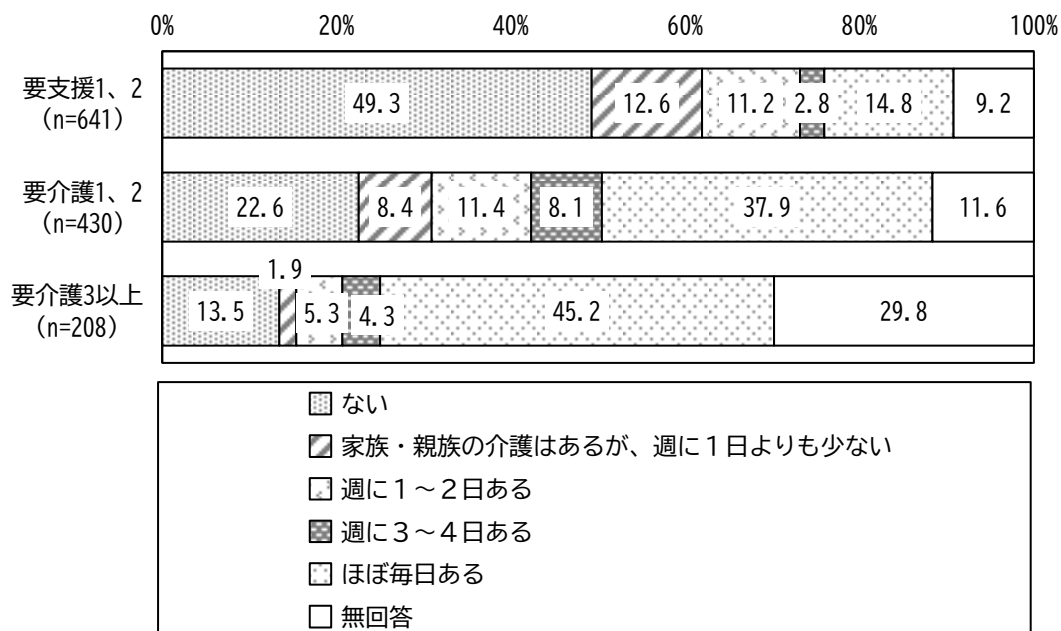
【全体】

家族・親族による介護の頻度は、「ない」が34.8%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日ある」が27.3%で、家族から介護を『受けている』（「ない」以外の合計）は52.0%となっています。



【認定区分別】

要介護度別にみると、要支援1、2では「ない」が49.3%で最も多く、要介護1、2では『受けている』が65.8%、要介護3以上では56.7%となっています。



◆ご意見・ご要望等がありましたら、遠慮なくお聞かせください

自由記述設問では、164人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「④ 社会参加について」(44件)で、外出しやすい環境整備の必要性や、外出機会の確保が要介護者の生きがいや日々の楽しみにつながっていることなどについてご意見が寄せられました。「⑨ 介護保険制度(保険料・サービス等)について」(19件)では、要介護認定や必要なサービスの充実、将来的に施設入所を検討する際の不安などに関するご意見がありました。

なお、「特になし」といった意見については省略し、一つの回答に複数のカテゴリーに属する意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見内容は、主なものを抜粋してまとめています。

① 権利擁護について	2件
財産管理について、芦屋市役所の窓口があれば教えてほしい。	
② 相談支援について	10件
もの忘れや認知症への不安が出てきており、今のうちに今後の暮らし方や支援の受け方について相談しておきたい。	
家族がいない、または頼れる人が限られているため、財産管理や今後の手続をどこに相談すればよいのか分からず不安である。	
ケアマネジャーの勤務日が限られており、困りごとが起きるたびにすぐ相談できない不便さがある。	
家族が支援していても高齢であり、いつまで支えられるか分からないため、他に頼れる相談先がほしい。	
痛みや体調悪化が続かなかで、これからどうしたらよいのか分からず、相談先や助言が必要。	
介護する家族がいても、それぞれの生活があり、実際には介護を頼れないことも多い。	
③ 地域での暮らしについて	36件
ヘルパー、訪問介護、訪問看護、通所リハビリ、デイサービス、福祉用具のレンタルなどに助けられ、自宅での生活を続けられていることに感謝している。	
今は地域で暮らせていても、この先病気や認知症が進んだ時に今の生活を続けられるのか、不安が大きい。	
通院や買い物、ゴミ出し、食事づくり、階段の上り下りなど、日常生活のちょっとしたことがだんだん難しくなっている。	
一人暮らしや高齢夫婦のみの生活では、体調不良や発熱、転倒など、いざという時に誰に頼ればよいか不安がある。	
在宅生活を続けるには、往診、見守り、入浴、配食、通院支援など、暮らしに密着した支援がもっと使いやすいことが望まれている。	
住まいの構造も暮らしやすさに大きく影響しており、階段しかないマンション、玄関や道路の段差、電動カートの置き場がないことなどが負担になっている。	
近くの支援機関や地域の福祉、自治会、民生委員、リハビリ教室などに支えられており、住み慣れた地域で暮らす安心感につながっている。	
認知症になった場合でも入りやすい施設や、費用面も含めて無理なく利用できる受け皿が必要。	

④ 社会参加について	44 件
バスの本数減少、停留所の遠さ、タクシー代の負担などにより、通院や買い物、外出そのものがしにくくなっている。	
散歩の途中で休める椅子やベンチ、歩きやすい道路、危険の少ないバス停など、外出しやすい環境整備が求められている。	
外出の機会を保つことが、買い物や通院だけでなく、気分転換や意欲の維持、生きがいにもつながっている。	
デイサービス、カフェ、体操、コーラス、囲碁会、食事会など、人と会って過ごせる場があることが日々の楽しみになっている。	
一人暮らしや高齢夫婦のみの暮らしでは、外出の機会が減ることで孤立しやすく、人との交流の場を求めている。	
家族の送迎や付き添い、近くに住む子どもの支えがあることで、病院受診や外出が成り立っている。	
今は何とか外出できていても、免許返納後や症状の進行後に移動手段が確保できるか不安が大きい。	
⑤ 専門支援機関について	2 件
介護ヘルパーの人手不足は承知しているが、何とか確保してほしい。	
介護ヘルパーの派遣日数を増やしてほしい。	
⑥ 地域づくりについて	14 件
近所の高齢化や空き家が進み、話し相手や見守りの関係が弱くなっていることに不安がある。	
市や県、保健所などから届く資料や情報が多く、内容を理解しきれないことがある。	
ゴミ出しについて、足腰の弱い高齢者でも無理なく出せる仕組みや、家の前での回収など柔軟な対応を求めている。	
一人暮らしや高齢者のみの世帯では、救急時や迷い出た時、災害時などに地域の中でどう支え合うかが大きな不安になっている。	
災害時の避難場所や、放送・案内の聞き取りにくさなど、防災面で高齢者に配慮した備えが必要である。	
空き巣被害や高齢者を狙った犯罪への不安が強く、警察も含めて高齢者への犯罪にもっと目を向けてほしい。	
人と顔を合わせて話す機会が減ることへの不安があり、介護そのものだけでなく、会話やつながりも暮らしを支える大切な要素になっている。	
高齢者向けサービスの情報が少なく、こちらから動かないと分からないため、地域の中で分かりやすく知らせてほしい。	
⑦ アンケートについて	7 件
設問の聞き方や答え方が分かりにくく、高齢者には回答しづらい。	
介護を受ける高齢者の状態は多様であり、ひとくくりの設問では実態に合いにくい。	
子どもが別居している場合は、子どもの休みの時でないと対応できず、回答にも支障がある。	
⑧ 市への要望	6 件
公園などからの防災放送は内容が聞き取りにくく、緊急通達の方法を改善してほしい。	
足腰の悪い高齢者でも無理なく暮らせるよう、家の前でのゴミ収集など、生活実態に応じた柔軟な対応を	

してほしい。	
将来施設入所が必要になった場合に、市役所で施設紹介を受けられるのかなど、行政の関わり方を分かりやすく示してほしい。	
デイサービスの廃業や倒産が増えないよう、介護事業所への公的支援を強化してほしい。	
⑨ 介護保険制度（保険料・サービス等）について	19件
将来入所が必要になった時に備えて、公営で安価な施設や、年金生活者でも入れる施設を増やしてほしい。	
在宅で暮らし続けたい気持ちは強く、介護サービスの質を高めながら、住み慣れた地域で安心して暮らせるようにしてほしい。	
認知症対応型のデイサービスやショートステイ、入浴に特化したサービスなど、状態に合った介護保険サービスの受け皿が不足している。	
要支援・要介護認定の調査や判定については、公平公正であってほしい。	
介護認定を受けにくい、または身体の不自由さがあっても認定やサービス利用につながりにくい。	
土日や夜間も含め、必要な時に切れ目なく介護サービスを受けられる体制がほしい。	
デイサービスや訪問介護を利用して助かっており、親切な対応や体・心のチェックに感謝している。	
⑩ その他	27件
家族や子ども、妹、お手伝いの人などに支えられて生活しており、そのことへの感謝が大きい。	
今は何とか暮らせていても、これから先にどのようにお世話になるのか分からず、不安を抱えている。	
食事内容や日常生活の細かな困りごとなど、制度の枠に収まりにくい生活上の悩みも抱えている。	
できることは自分で行い、なるべく人に迷惑をかけずに暮らしたい。	

B票 主な介護者の方について、おうかがいします

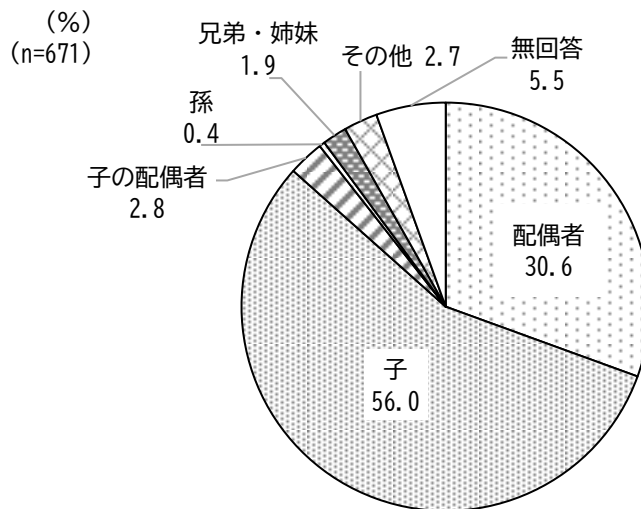
【A票 問19で「2.」～「5.」(家族や親族の介護を受けている)を選択された方のみ】

1) 介護者と調査対象との関係

B票 問1 主な介護者の方は、どなたですか (1つに○)

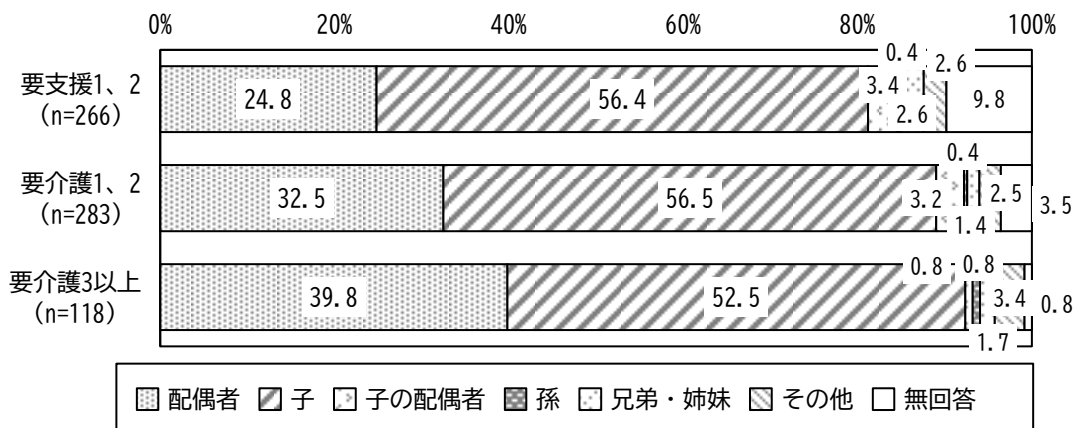
【全体】

主な介護者は「子」が56.0%と最も多く、次いで、「配偶者」が30.6%、「子の配偶者」が2.8%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護度があがるにつれて「配偶者」の割合が多くなる傾向がみられます。

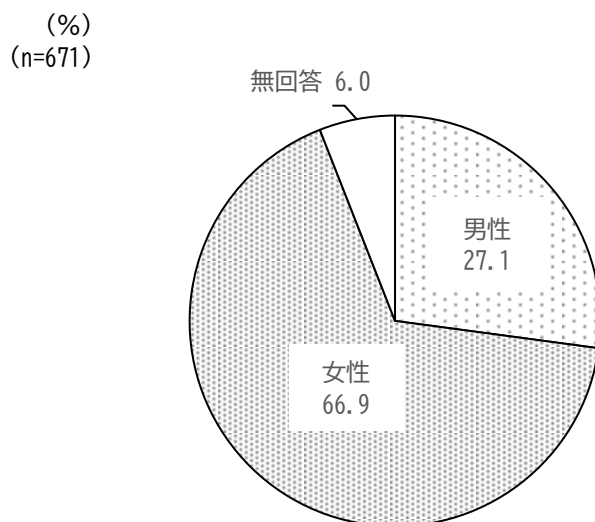


2) 主な介護者の性別

B票 問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つに○）

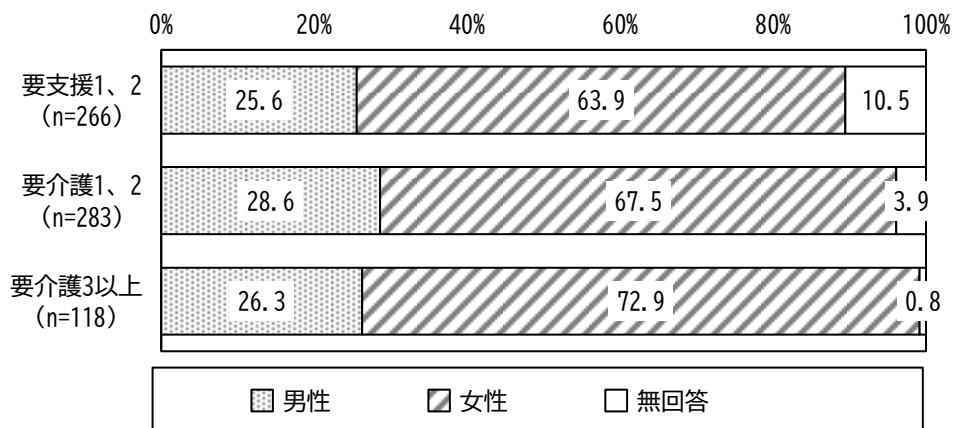
【全体】

主な介護者の性別は、「女性」が66.9%、「男性」が27.1%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護度があがるにつれて「女性」の割合が多くなる傾向がみられます。

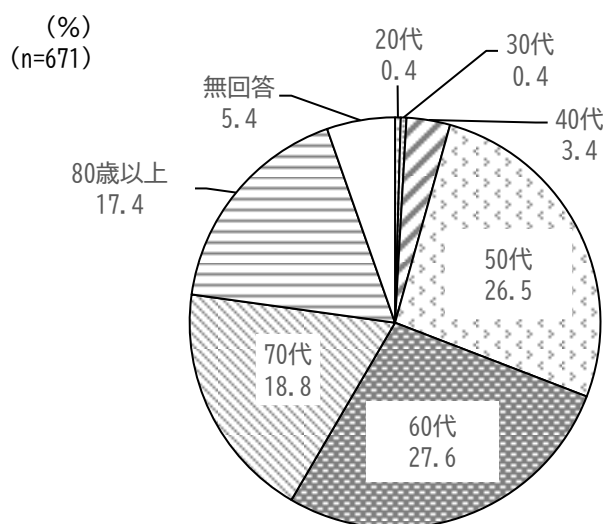


3) 主な介護者の年齢

B票 問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つに○）

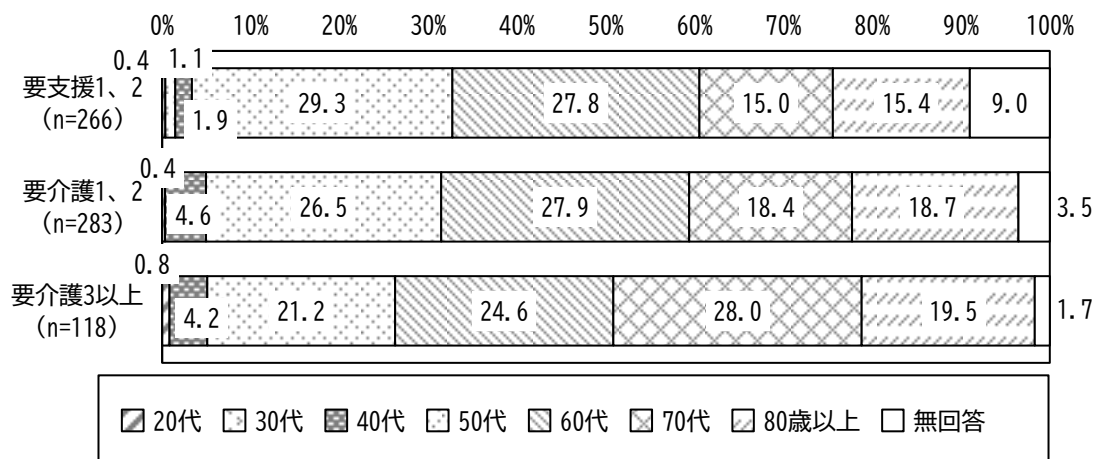
【全体】

主な介護者の年齢は、「60代」が27.6%と最も多く、次いで、「50代」が26.5%となっています。60代以上による介護が合計63.8%と半数以上を占め、「80歳以上」も17.4%みられます。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護3では「70代」が28.0%と多くなっています。



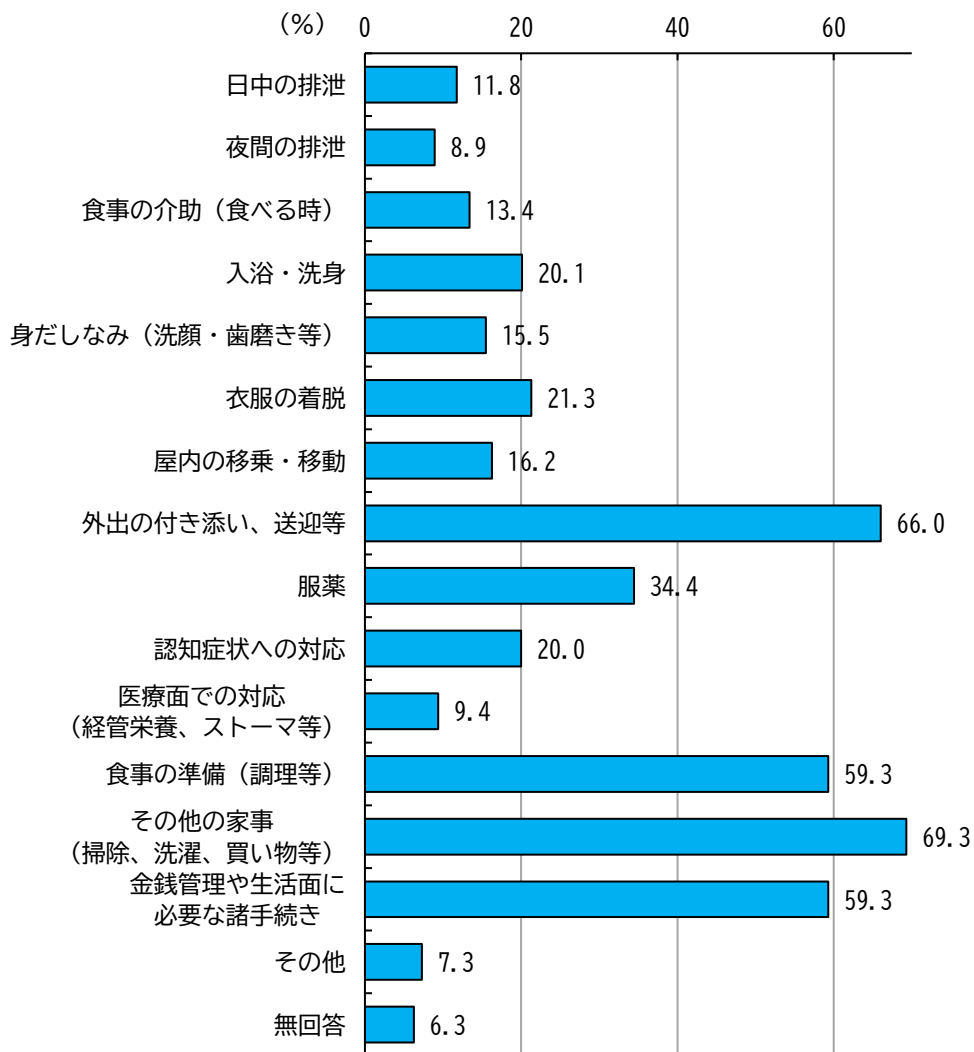
4) 主な介護者が行っている介護

B票 問4 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（〇はいくつでも）

【全体】

主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.3%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が71.6%、「食事の準備（調理等）」が63.8%となっています。

(n=671)



◇主な介護者が行っている介護「その他」の主な回答

内 容	
通院の付き添い・送迎	見守り・安否確認
話し相手・相談相手	医療・介護サービス利用の調整

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、すべての区分で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も多く、要介護3以上は「食事の準備（調理等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」も7割を超えて多くなっています。

		n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬
全体		671	11.8	8.9	13.4	20.1	15.5	21.3	16.2	66.0	34.4
認定状況	要支援1、2	266	1.5	1.1	2.3	9.0	3.0	6.4	5.3	60.5	11.3
	要介護1、2	283	7.4	5.7	11.3	26.1	15.5	22.3	15.9	70.0	45.2
	要介護3以上	118	44.9	33.9	43.2	30.5	43.2	52.5	40.7	69.5	61.0
		n	認知症状への対応	（医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	（その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	手続き 金銭管理や生活面に必要な諸	その他	わからない	無回答	
全体		671	20.0	9.4	59.3	69.3	59.3	7.3	0.0	6.3	
認定状況	要支援1、2	266	5.6	7.1	46.2	61.3	41.7	8.3	0.0	10.5	
	要介護1、2	283	29.3	8.5	65.0	71.7	68.6	7.1	0.0	4.2	
	要介護3以上	118	28.8	15.3	76.3	80.5	76.3	5.9	0.0	1.7	

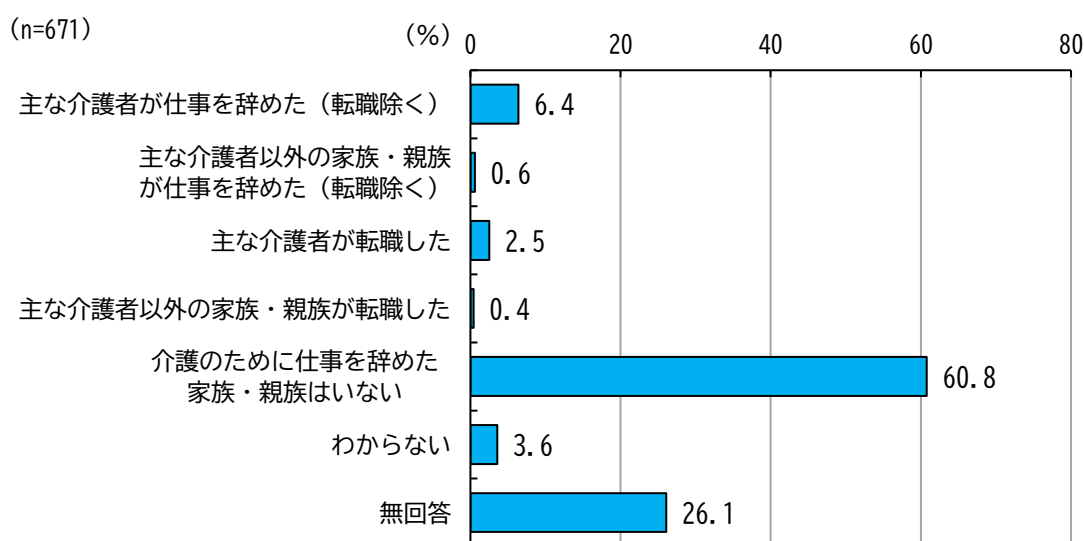
5) 介護のための離職の有無

B票 問5 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（○はいくつでも）

※現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。また、自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

【全体】

介護のための離職については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が60.8%と最も多くなっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は要介護が上がるほど多くなっており、要介護3以上では12.7%となっています。

	n	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体	671	6.4	0.6	2.5	0.4	60.8	3.6	26.1
認定状況								
要支援1、2	266	3.8	1.1	0.8	0.0	57.5	4.9	32.0
要介護1、2	283	6.4	0.4	3.5	1.1	61.1	2.8	25.4
要介護3以上	118	12.7	0.0	3.4	0.0	67.8	2.5	14.4

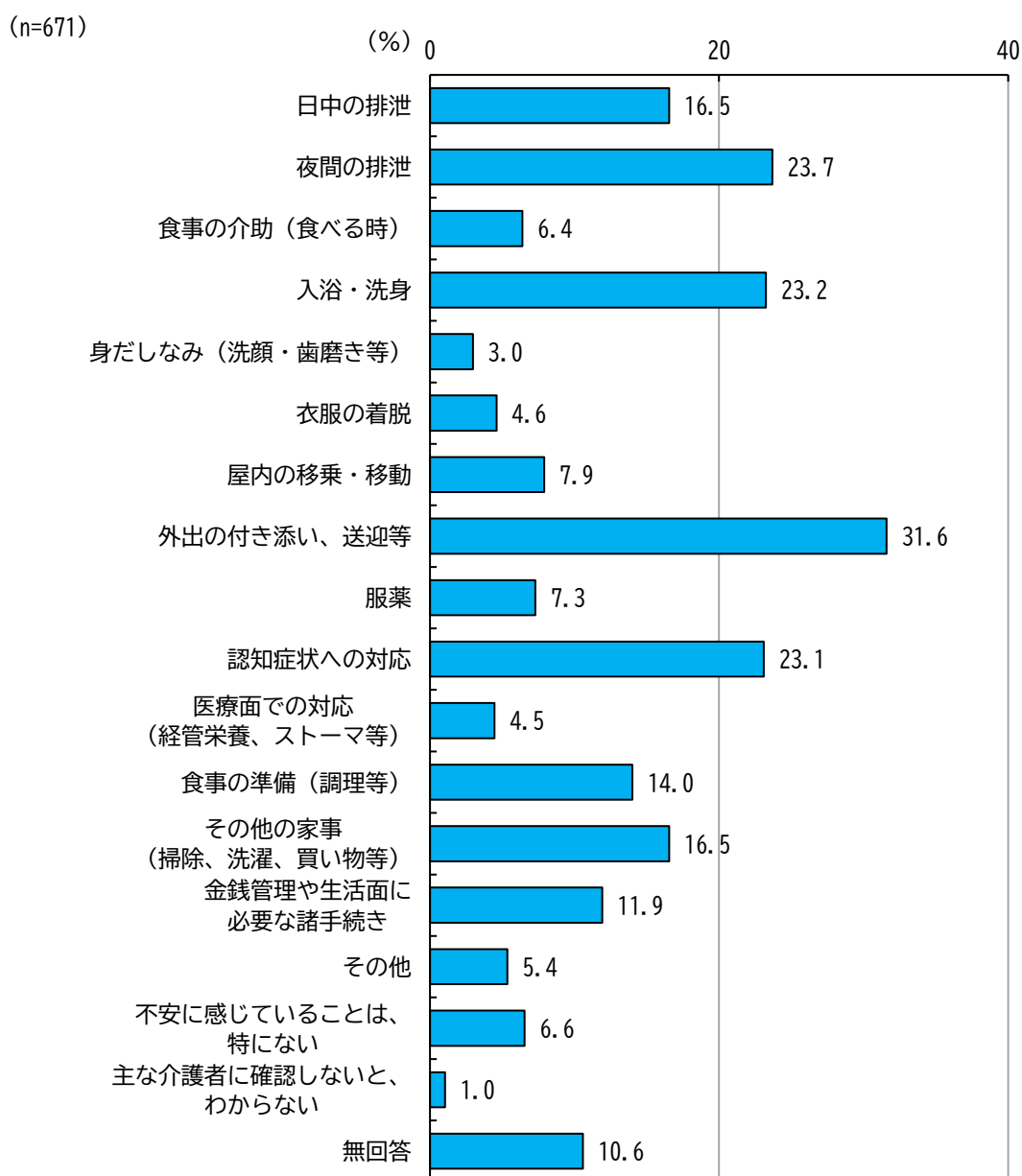
6) 主な介護者が不安に感じる介護

B票 問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、
ご回答ください（主なもの3つまでに○）

※現状で行っているか否かは問いません。

【全体】

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」が31.6%と最も多く、次いで、「夜間の排泄」が23.7%、「入浴・洗身」が23.2%、「認知症状への対応」が23.1%となっています。



◇主な介護者が不安に感じる介護「その他」の主な回答

内 容	
急病・けが・夜間等の緊急時対応	本人・介護者の健康や体力面への不安
転倒やふらつきなど事故への心配	介護者が支えることが難しくなった場合への不安
一人暮らしや遠距離介護による不安	経済面や施設利用に関する不安
先の見通しが立たないこと	

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「外出の付き添い、送迎等」、要介護1、2では「認知症状への対応」、要介護3以上では「夜間の排泄」がそれぞれ最も多くなっています。

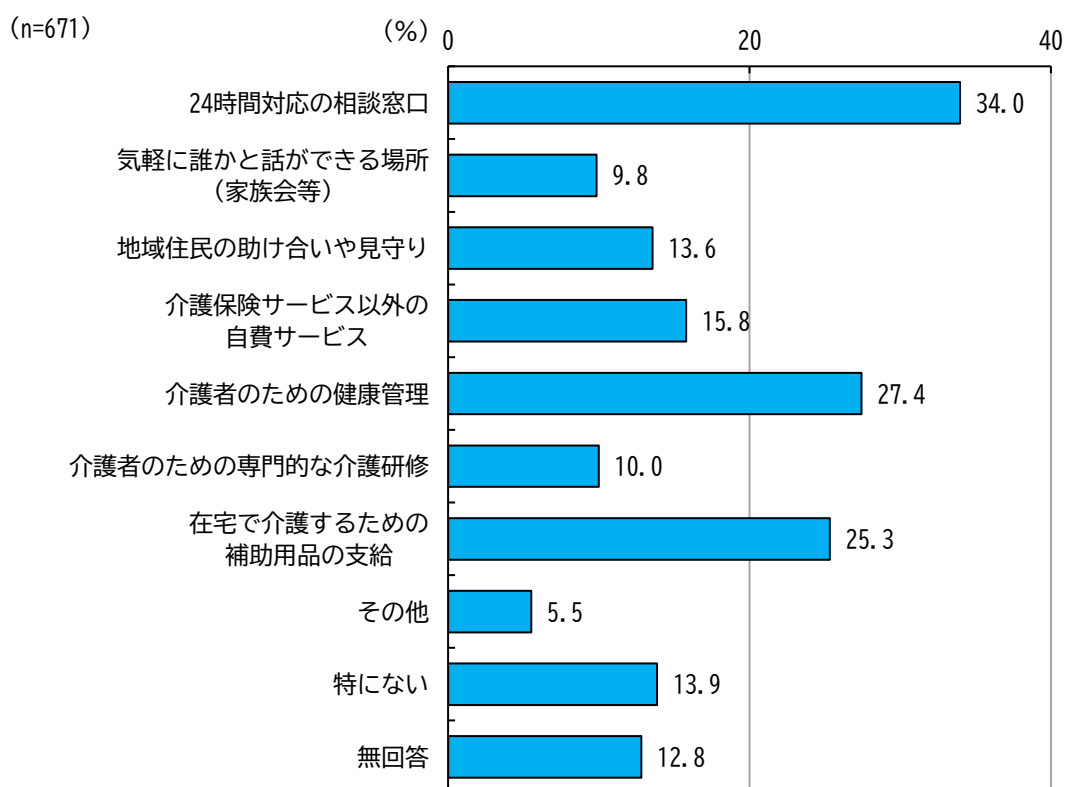
		n	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	
全体		671	16.5	23.7	6.4	23.2	3.0	4.6	7.9	31.6	7.3	
認定状況	要支援1、2	266	9.0	15.0	1.9	22.6	1.1	4.5	6.0	38.3	3.8	
	要介護1、2	283	17.7	24.4	6.7	23.0	4.9	5.7	9.9	30.0	9.9	
	要介護3以上	118	30.5	41.5	15.3	25.4	2.5	2.5	7.6	19.5	9.3	
		n	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	諸金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	特に不安に感じていることは、	わからない	主な介護者に確認しないと、	無回答
全体		671	23.1	4.5	14.0	16.5	11.9	5.4	6.6	1.0	10.6	
認定状況	要支援1、2	266	13.9	4.9	15.0	21.8	10.9	6.8	6.4	0.8	15.0	
	要介護1、2	283	31.1	4.2	12.7	14.8	13.8	4.2	7.1	1.4	6.7	
	要介護3以上	118	24.6	4.2	14.4	9.3	10.2	5.1	5.1	0.8	10.2	

7) 在宅生活の継続に向けて必要な支援

B票 問7 現在の生活を継続するために、主な介護者の方が必要だと感じる支援は何ですか
(〇は主なもの3つまで)

【全体】

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が必要と感じる支援は、「24時間対応の相談窓口」が34.0%と最も多く、次いで、「介護者のための健康管理」が27.4%、「在宅で介護するための補助用品の支給」が25.3%となっています。



◇主な介護者が必要と感じる支援「その他」の主な回答

内 容	
経済的支援	交通費・移動支援
ヘルパーや介護サービスの充実	見守りや緊急時対応
在宅生活を支える支援 (訪問医、配食等)	介護者の負担軽減・レスパイト支援

など

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2と要介護1、2では「24時間対応の相談窓口」が最も多く、要介護3以上では「在宅で介護するための補助用品の支給」がそれぞれ最も多くなっています。

	n	24時間対応の相談窓口	気軽に誰かと話ができる場所 (家族会等)	地域住民の助け合いや見守り	介護保険サービス以外の 自費サービス	介護者のための健康管理	研修 介護者のための専門的な介護	在宅で介護するための 補助用品の支給	その他	特にない	無回答	
全体	671	34.0	9.8	13.6	15.8	27.4	10.0	25.3	5.5	13.9	12.8	
認定状況	要支援1、2	266	27.1	9.8	12.4	17.3	20.7	6.0	19.9	4.5	18.0	16.2
	要介護1、2	283	39.2	8.1	14.1	14.8	30.7	13.4	24.4	6.0	13.4	10.2
	要介護3以上	118	36.4	14.4	15.3	13.6	33.1	10.2	39.0	6.8	5.9	11.9

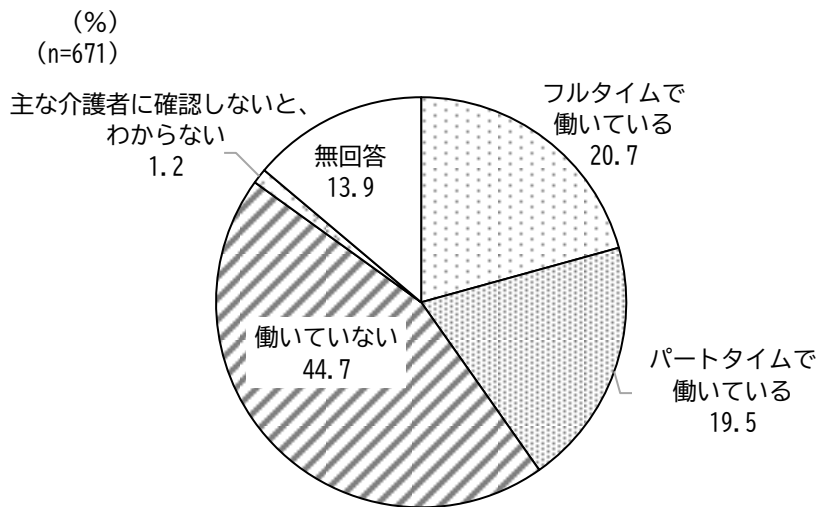
8) 主な介護者の就労について

B票 問8 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つに○）

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

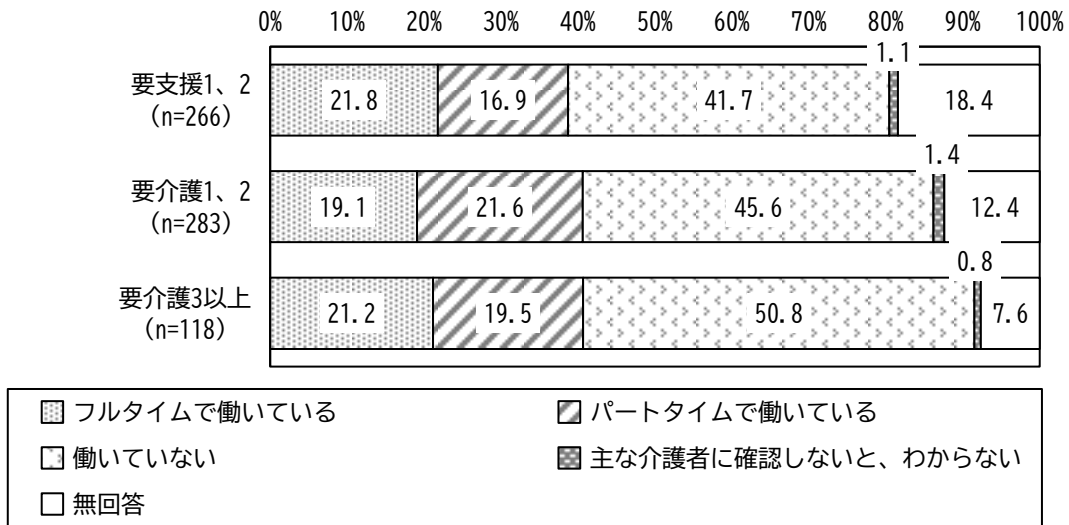
【全体】

介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた、『働いている』は合計40.2%となっています。



【認定状況別】

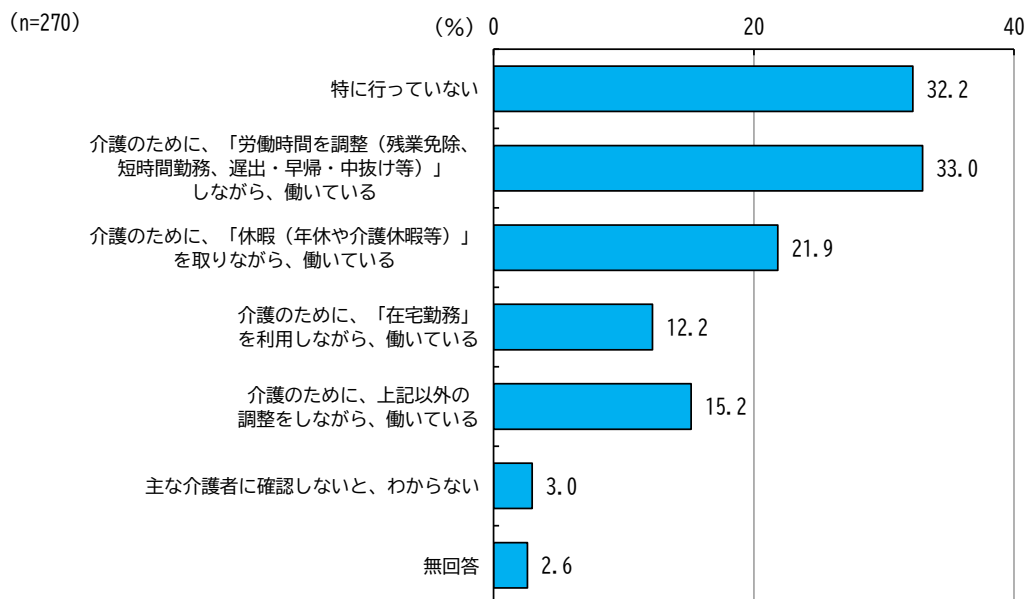
認定状況別にみると、「働いていない」は要介護が上がるほど増加する傾向がみられます。



B票 問8で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」を選択した方
 B票 問8-1 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていま
 すか (〇はいくつでも)

【全体】

主な介護者の方の働き方については、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が33.0%と最も多く、次いで「特に行っていない」が32.2%となっています。



【認定状況別】

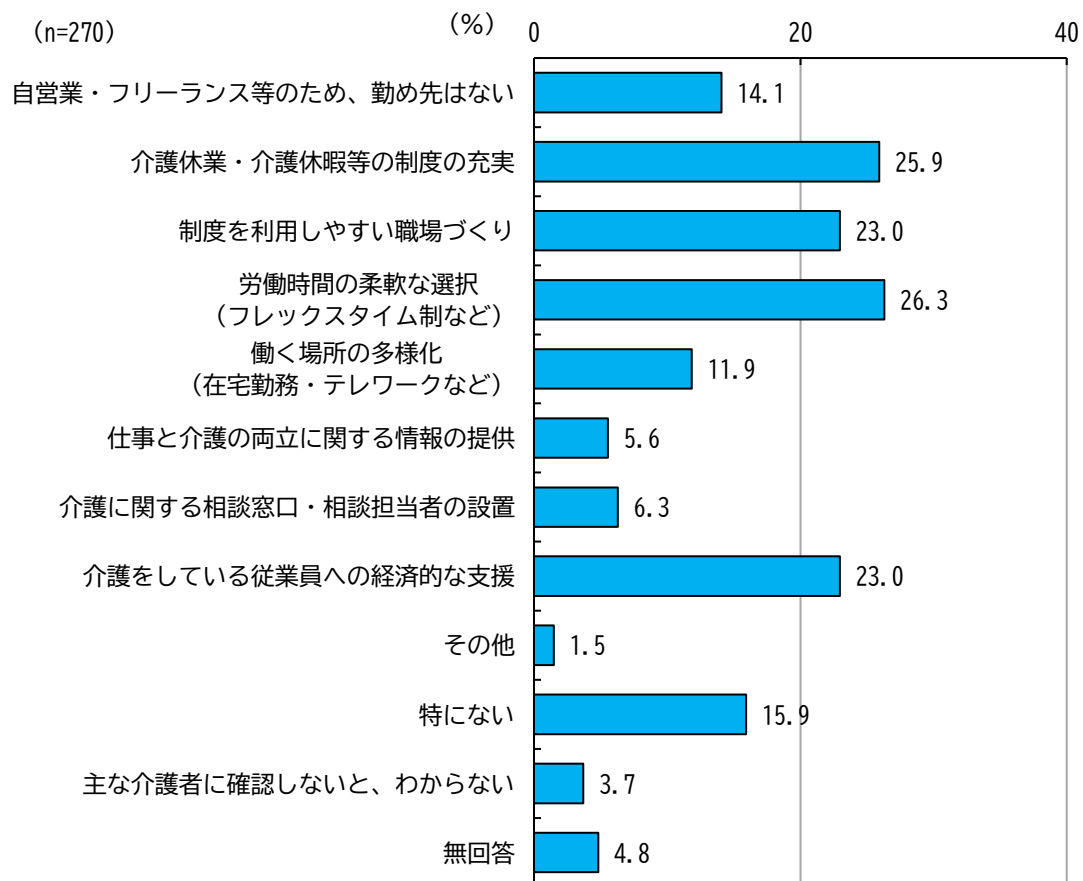
認定状況別にみると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」は、要介護1、2で39.1%、要介護3以上で33.3%と最も多くなっています。

	n	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、左記以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答	
全体	270	32.2	33.0	21.9	12.2	15.2	3.0	2.6	
認定状況	要支援1、2	103	37.9	26.2	18.4	8.7	9.7	2.9	5.8
	要介護1、2	115	30.4	39.1	22.6	9.6	17.4	4.3	0.0
	要介護3以上	48	22.9	33.3	27.1	27.1	20.8	0.0	2.1

B票 問8で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」を選択した方
 B票 問8-2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（主なもの3つまでに○）

【全体】

就労の継続のために必要な支援については、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が26.3%と最も多く、次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.9%となっています。



【認定状況別】

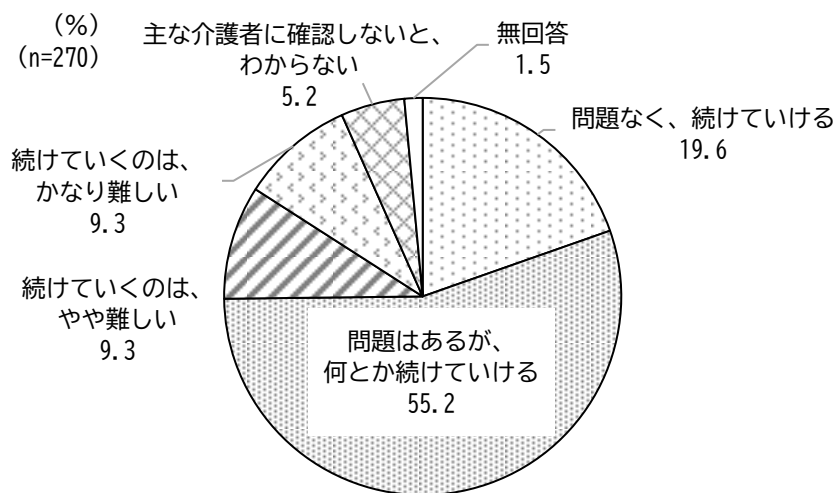
認定状況別にみると、要支援1、2、要介護3以上では「制度を利用しやすい職場づくり」、要介護1、2では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」がそれぞれ最も多くなっています。

	n	勤め先は、自営業・フリーランス等のため、	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	270	14.1	25.9	23.0	26.3	11.9	5.6	6.3	23.0	1.5	15.9	3.7	4.8
認定状況													
要支援1、2	103	15.5	19.4	20.4	17.5	11.7	5.8	5.8	19.4	1.9	14.6	7.8	5.8
要介護1、2	115	12.2	31.3	20.9	33.0	10.4	5.2	7.8	23.5	0.9	19.1	1.7	5.2
要介護3以上	48	16.7	27.1	35.4	31.3	14.6	6.3	2.1	29.2	2.1	10.4	0.0	2.1

B票 問8で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」を選択した方
 B票 問8-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つに○）

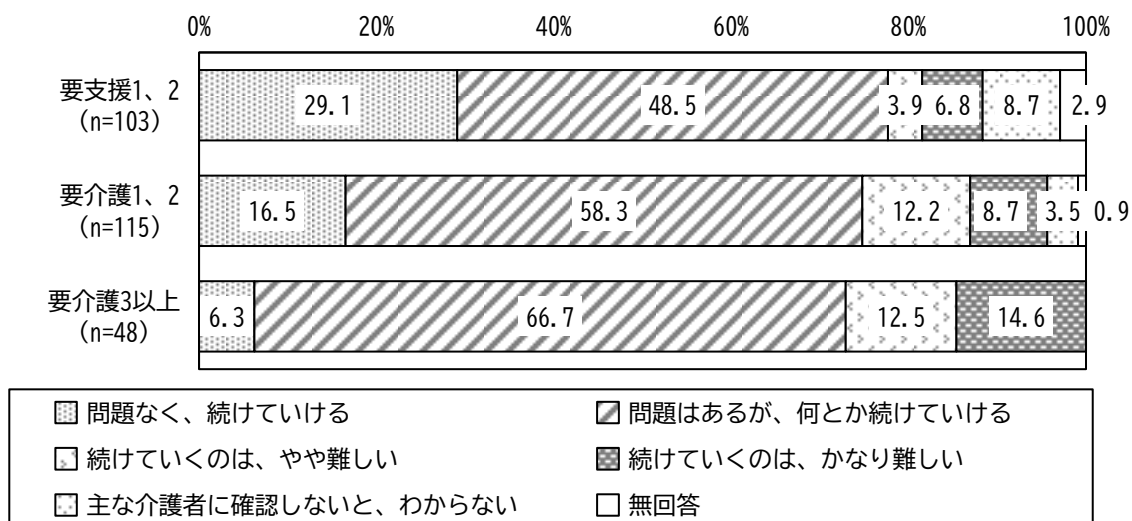
【全体】

主な介護者の就労継続の可否について、「問題なく、続けていける」と「問題あるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』は合計74.8%となっていますが、「問題はある」と回答している人が55.2%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「問題なく続けていける」が29.1%と、他の区分に比べて多く、要介護3以上では「続けていくのは、かなり難しい」が14.6%と他の区分に比べて多くなっています。また、要介護3以上では「問題あるが、何とか続けていける」が66.7%と多くなっています。



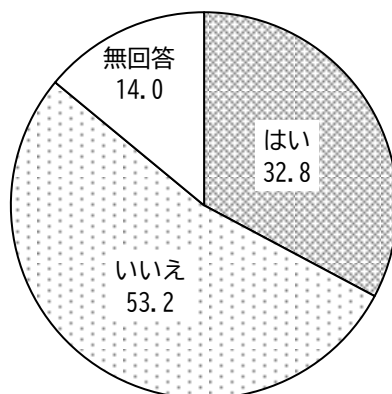
9) 相談窓口の認知

B票 問9 主な介護者の方は認知症に関する相談窓口を知っていますか

【全体】

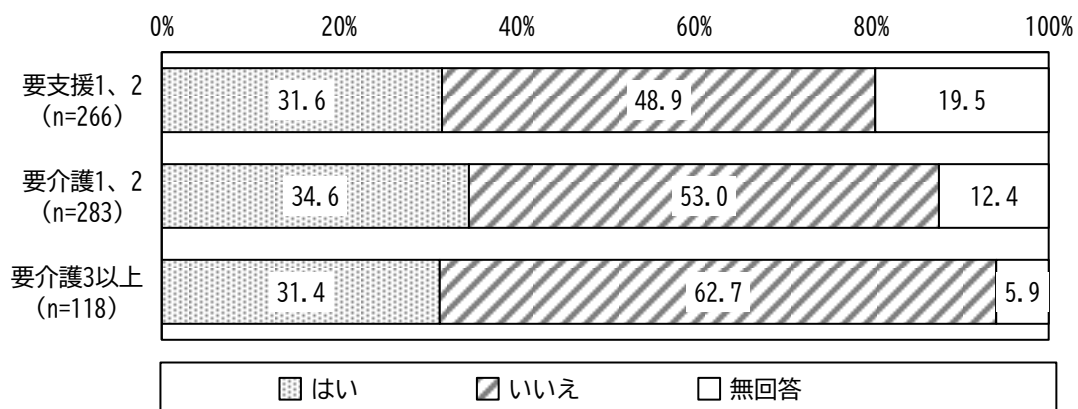
認知症の相談窓口の認知については、「はい」(知っている)が32.8%、「いいえ」(知らない)が53.2%となっています。

(%)
(n=671)



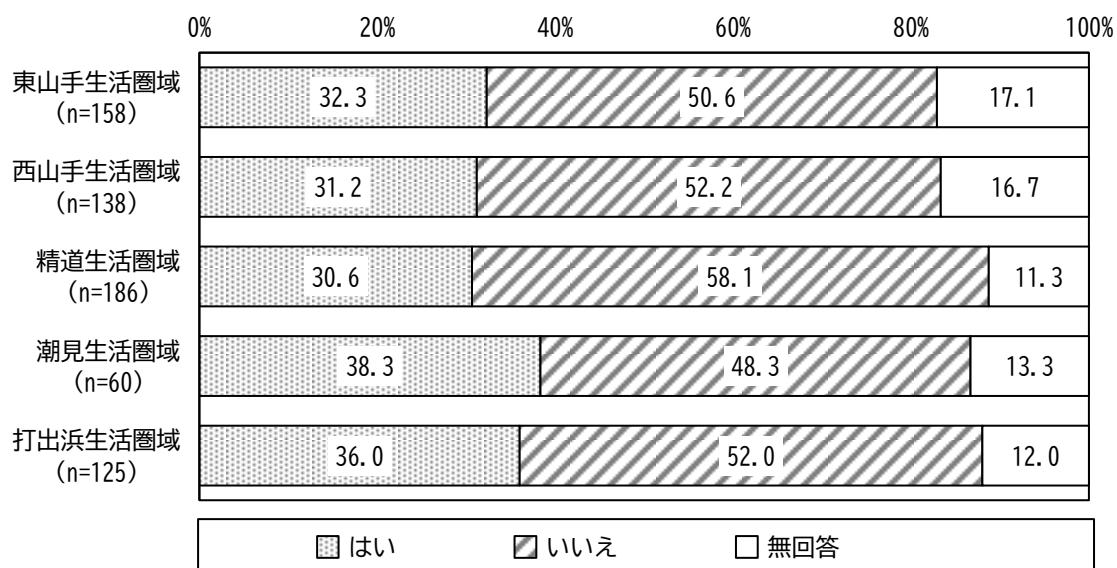
【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護度が上がるほど「いいえ」(知らない)が増加しています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、精道生活圏域で「いいえ」（知らない）が58.1%と、他の生活圏域と比べてやや少なくなっています。

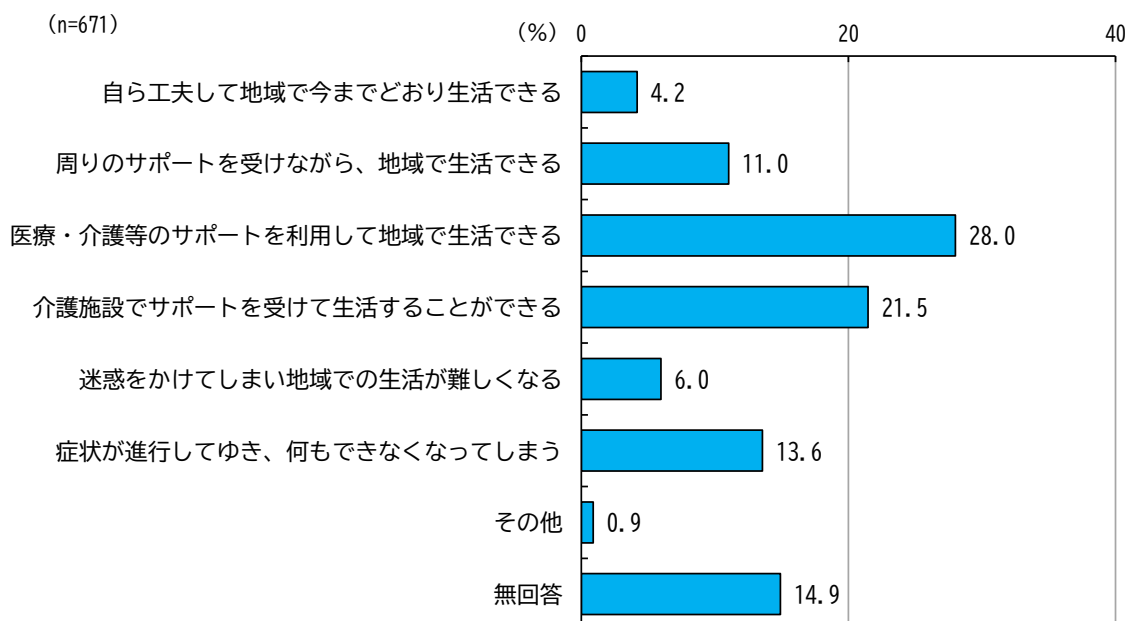


10) 認知症に関する理解

B 票 問 10 主な介護者の方は認知症についてどのようなイメージをもっていますか
(主なもの1つに○)

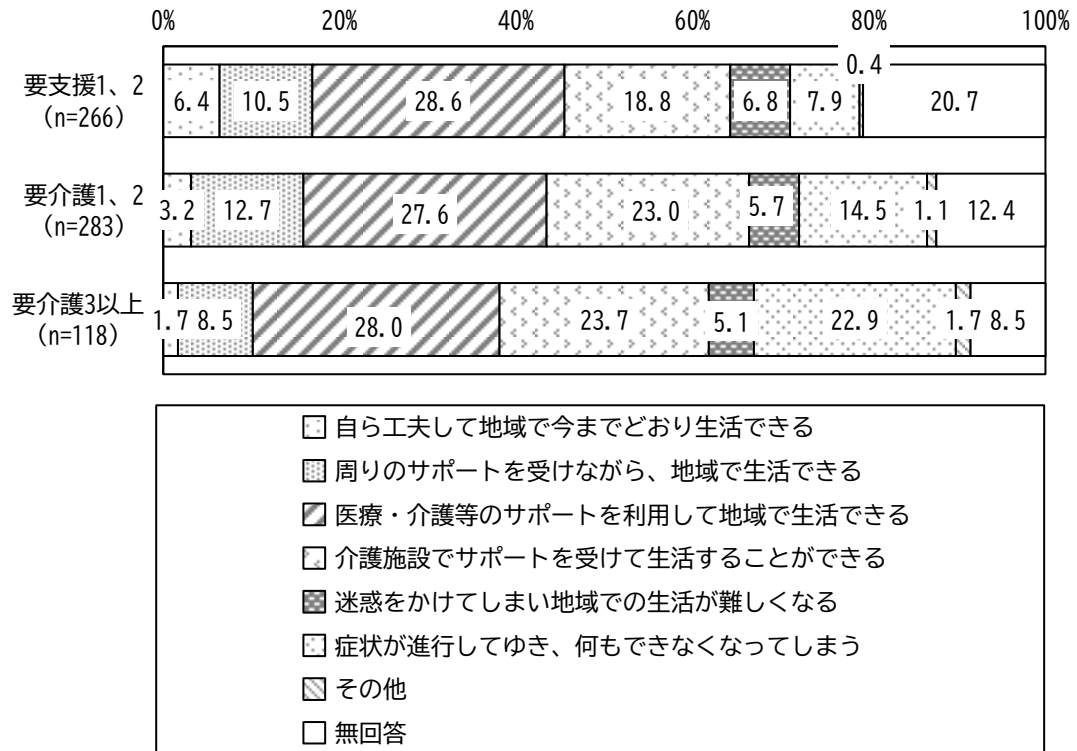
【全体】

主な介護者の認知症に対するイメージについては、「医療・介護等のサポートを利用して地域で生活できる」が28.0%と最も多く、次いで、「介護施設でサポートを受けて生活することができる」が21.5%、「周りのサポートを受けながら、地域で生活できる」が13.6%となっています。



【認定状況別】

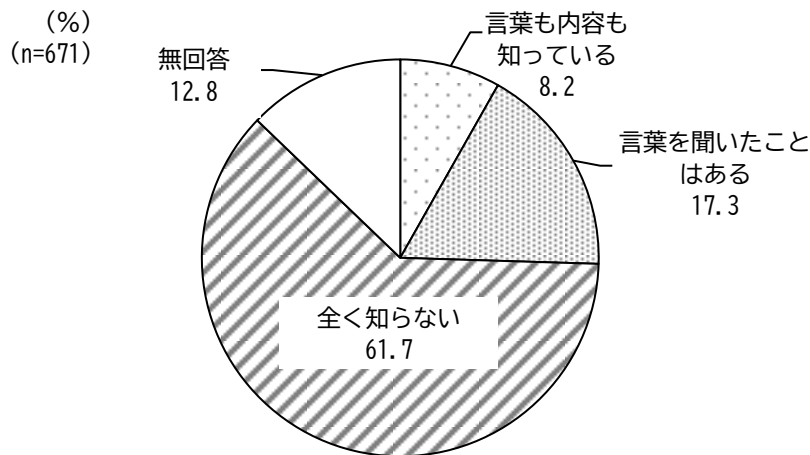
認定状況別にみると、要介護度が上がるほど「症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう」が増加し、要介護3以上では22.9%となっています。



B票 問11 認知症基本法（2024年施行）で示された「新しい認知症観」という言葉を知っていますか（1つに○）

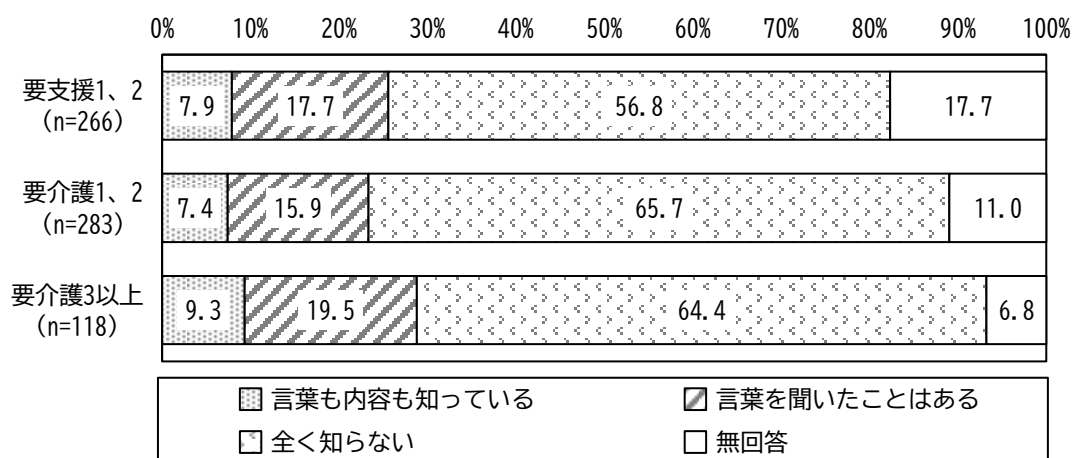
【全体】

「新しい認知症観」の認知度については、「言葉も内容も知っている」が8.2%、「言葉は聞いたことはある」が17.3%となっています。一方、「全く知らない」は61.7%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護3以上で「言葉も内容も知っている」が他の区分に比べてわずかに多くなっています。



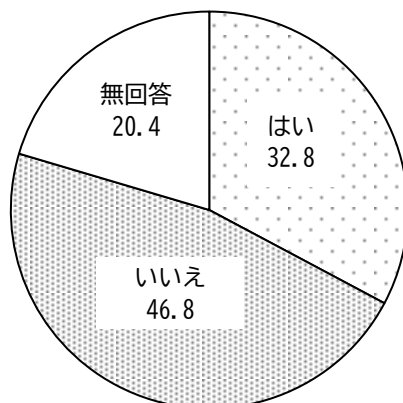
1 1) 認知症状の有無

B票 問12 介護の対象者（認定調査対象者）あるいは家族に認知症の症状がありますか

【全体】

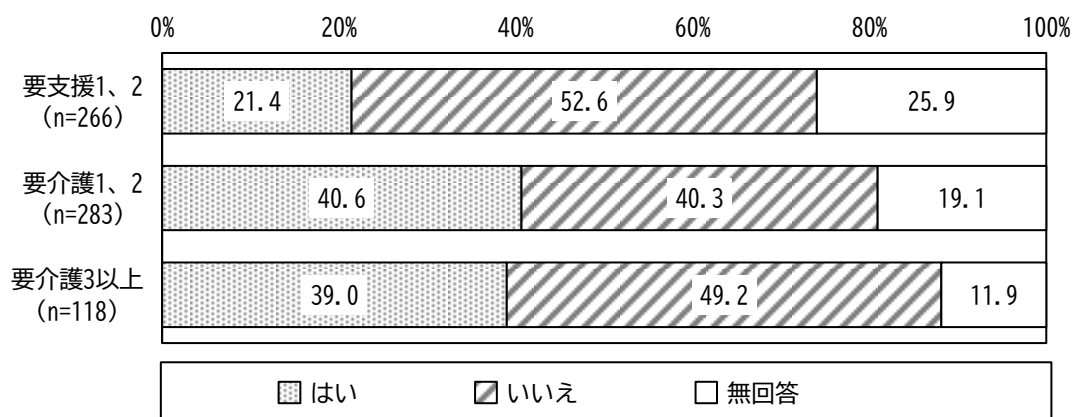
自身や家族の認知症の症状の有無については、「はい」(ある)が32.8%、「いいえ」(ない)が46.8%となっています。

(%)
(n=671)



【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護1、2では「はい」(ある)が40.6%で、「いいえ」(ない)を上回っています。

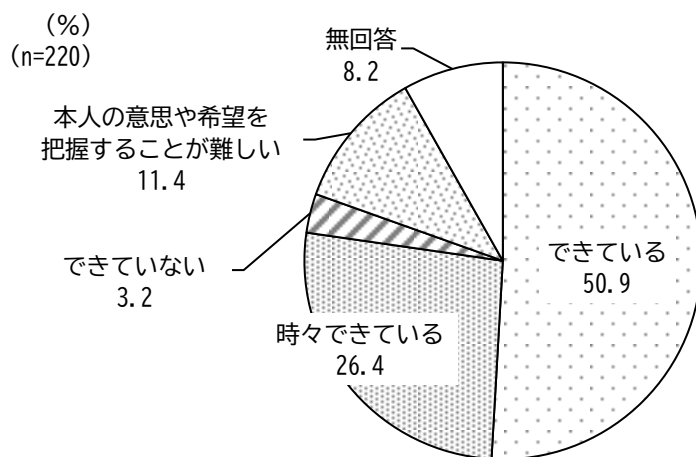


B票 問12で「1. はい」を選択した方

認知症の方の暮らし方や活動などについて、ご本人の意思や希望を尊重することができますか
(1つに○)

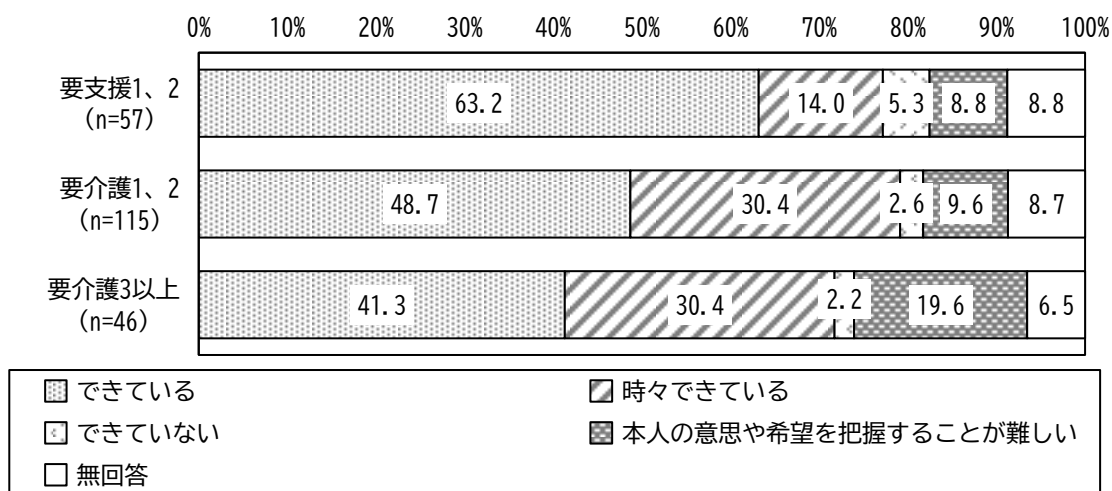
【全体】

認知症の方ご本人の意思や希望の尊重については、「できている」が50.9%と最も多く、次いで「時々できている」が26.4%となっています。一方で「できていない」は3.2%、「本人の意思や希望を把握することが難しい」が11.2%となっています。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援1、2では「できている」63.2%と多くなっていますが、要介護3以上では「本人の意思や希望を把握することが難しい」が2割弱と他の区分に比べて多くなっています。



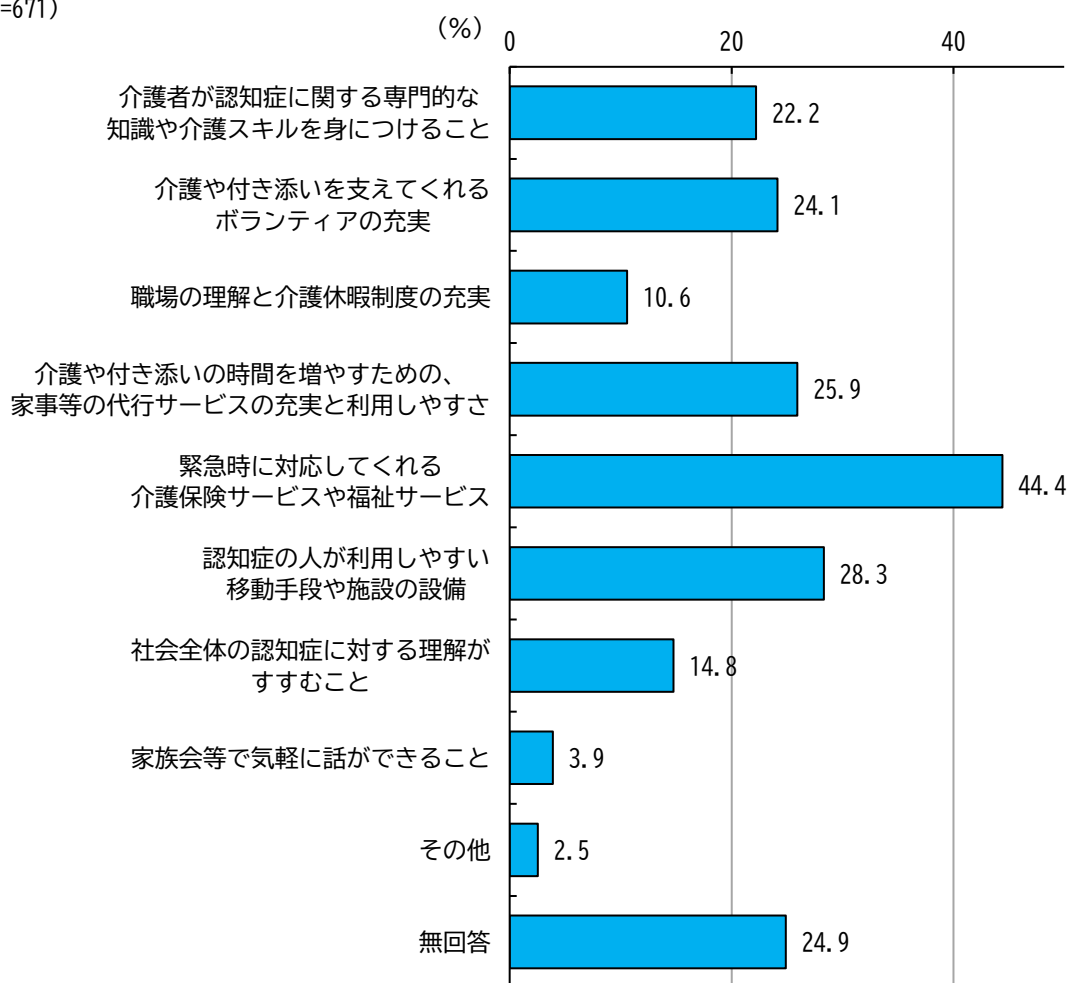
1 2) 認知症の方の介護者が望む支援

B票 問13 認知症の方を介護する人は、どんな支援を望みますか（○は主なもの3つまで）

【全体】

認知症の方の介護者が望む支援については、「緊急時に対応してくれる介護保険サービスや福祉サービス」が44.4%で最も多く、次いで、「認知症の人が利用しやすい移動手段や施設の設備」が28.3%、「介護や付き添いの時間を増やすための、家事等の代行サービスの充実と利用しやすさ」が25.9%となっています。

(n=671)



【認定状況別】

認定状況別にみると、すべての区分で「緊急時に対応してくれる介護保険サービスや福祉サービス」が最も多くなっています。また、要介護3以上では「介護や付き添いの時間を増やすための、家事等の代行サービスの充実と利用しやすさ」が4割弱と他の区分に比べて多くなっています。

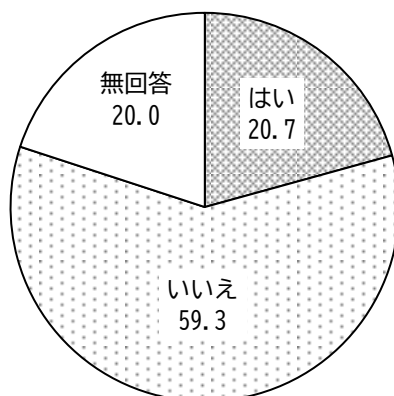
	n	介護者が認知症に関する専門的な知識や介護スキルを身につけること	介護や付き添いを支えてくれるボランティアの充実	職場の理解と介護休暇制度の充実	介護や付き添いの時間を増やすための、家事等の代行サービスの充実と利用しやすさ	緊急時に対応してくれる介護保険サービスや福祉サービス	認知症の人が利用しやすい移動手段や施設の設備	社会全体の認知症に対する理解がすすむこと	家族会等で気軽に話ができること	その他	無回答	
全体	671	22.2	24.1	10.6	25.9	44.4	28.3	14.8	3.9	2.5	24.9	
認定状況	要支援1、2	266	19.5	19.5	9.8	21.4	38.3	24.1	16.2	4.1	2.3	34.6
	要介護1、2	283	24.0	27.9	12.7	25.1	47.7	30.4	14.1	3.5	2.8	20.1
	要介護3以上	118	23.7	23.7	7.6	37.3	49.2	33.1	11.9	4.2	2.5	15.3

B票 問14 主な介護者の方は、芦屋市で開催されている「認知症カフェ」を知っていますか

【全体】

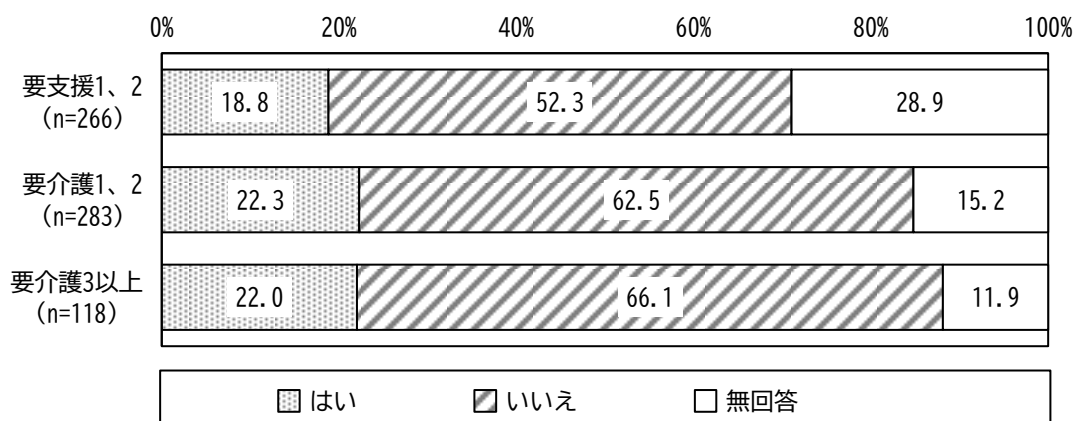
認知症カフェの認知度については、「はい」(知っている)が20.7%、「いいえ」(知らない)が59.3%となっています。

(%)
(n=671)



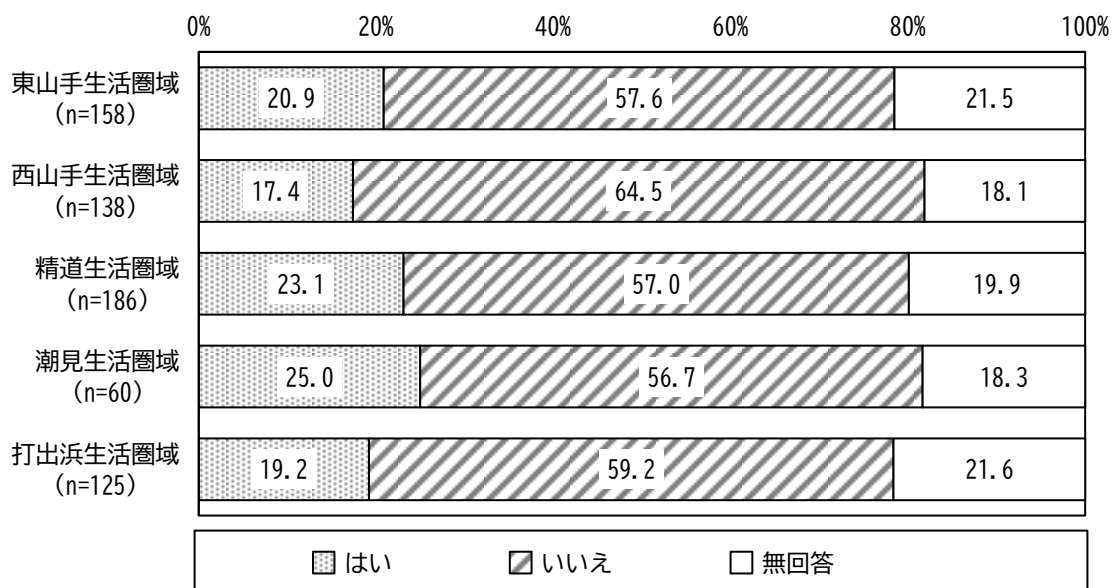
【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護認定者では「はい」(知っている)が2割を超えています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域で「はい」(知っている)が25.0%と、他の生活圏域と比べてやや多くなっています。

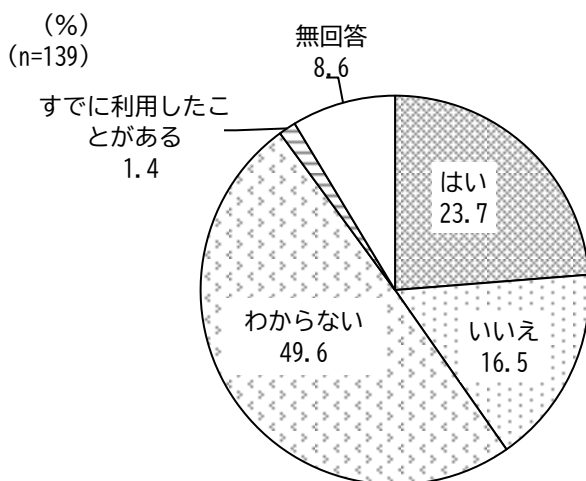


B票 問14で「1. はい」を選択した方

介護の対象者が認知症になったとき、「認知症カフェ」を利用したいですか（1つに○）

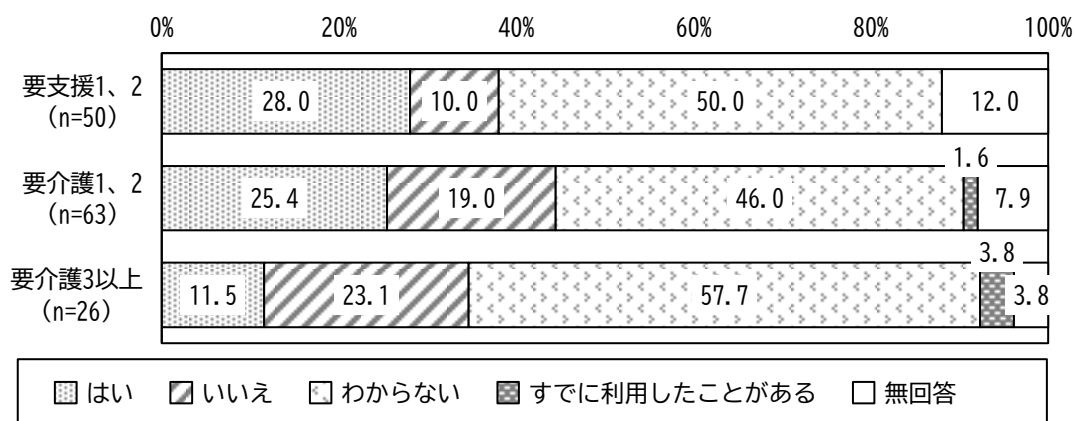
【全体】

介護の対象者が認知症になったときの「認知症カフェ」の利用意向については、「はい」（利用したい）が23.7%、「いいえ」（利用したくない）が16.5%、「わからない」が49.6%となっています。



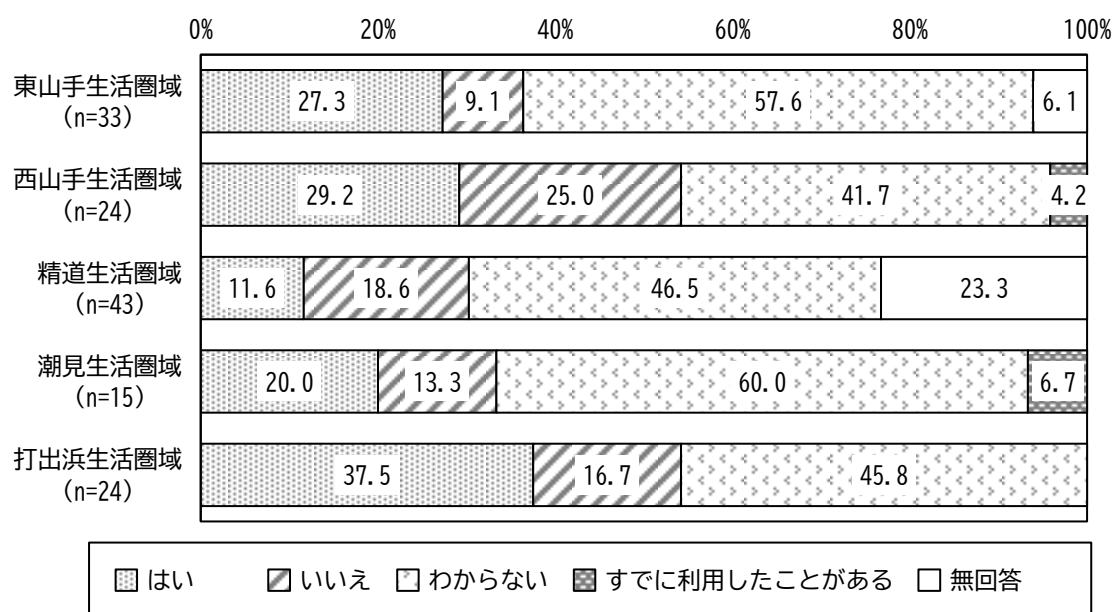
【認定状況別】

認定状況別にみると、要介護3以上で「はい」（利用したい）が11.5%と他の区分に比べて少なく、「いいえ」（利用したくない）、「わからない」がやや多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、母数が少ないものの、打出浜生活圏域で「はい」(利用したい)が37.5%と、他の生活圏域と比べて多くなっています。



◆主な介護者の方のご意見・ご要望等がありましたら、遠慮なくお聞かせください

自由記述設問では、149人から回答がありました。内容を分類した結果は下表のとおりです。最も多かったのが「② 相談支援について」(53件)で、緊急時や将来的な相談体制への不安や、介護者自身の相談や交流の場へのニーズがみられました。「③ 地域での暮らしについて」(29件)では、在宅生活を続けるために必要な支援や課題についてのご意見がありました。

なお、「特になし」といった意見については省略し、一つの回答に複数のカテゴリーに属する意見が書かれている場合は、それぞれに計上しているため、回答数と各意見の合計数は一致しません。また、意見内容は、主なものを抜粋してまとめています。

① 権利擁護について	5件
一人暮らしで弁護士もおらず、何かあった時にどう対応すればよいか分からず、先が見えない不安がある。	
高齢者や認知症者を対象とした訪問や電話による犯罪、また勧誘などによる金銭や貴金属の搾取から守るには、地域のつながりだけでは限界があり、行政による施策が必要。	
成年後見制度があっても、通販で購入したものは本人しかキャンセルできない場合があるなど、制度だけでは十分に守られない現状がある。	
認知症の本人の気持ちを尊重し、尊厳を大切にしながら生活できるように支援することが大切であり、そのような社会であってほしい。	
介護を続ける中で精神的な負担が大きく、介護者へのメンタル面の支援や、介護職の人材不足・処遇改善なども含めた支援体制の充実が必要だと感じます。	

② 相談支援について	53 件
<p>休日や夜間など緊急時にどこへ相談すればよいのか分からず、不安を感じており、いつでも相談できる体制が必要。</p>	
<p>今は何とか対応できているが、将来的に対応できなくなった場合に、誰に相談すればよいのか分からず不安がある。</p>	
<p>ケアマネジャーには助けられている一方で、忙しさを気にして気軽に相談しづらく、もっと相談しやすい窓口や場が必要だと感じる。</p>	
<p>制度やサービスの情報が十分に分からず、どこに相談すればよいのか、どのような支援があるのか把握しにくい。</p>	
<p>相談支援機関に相談しても十分に役立たなかったと感じる経験があり、実効性のある支援や対応を望む。</p>	
<p>将来に向けて施設入所や生活の変化について相談できる窓口や支援体制が必要。</p>	
<p>介護と仕事の両立の中で時間的余裕がなく、必要なときに相談に行けない、あるいは相談の機会自体が持ちにくい。</p>	
<p>介護者自身が体調を崩した場合や対応できない時に、すぐに相談・支援につながる仕組みがなく不安である。</p>	
<p>本人がサービス利用や他者の介入を拒否する場合に、どのように相談・対応すればよいか分からない</p>	
<p>介護者同士で話せる場や、気軽に悩みを共有できるような場（集い・交流）も必要。</p>	
<p>遠距離介護や家族が少ない状況の中で、相談できる人が限られており、一人で抱え込んでしまっている。</p>	
③ 地域での暮らしについて	29 件
<p>家族が遠方に住んでおり頻繁に帰省できないため、ヘルパーやケアマネ、医療関係者など地域の支援を受けながら在宅生活を続けたい。</p>	
<p>高齢の夫婦での老老介護となっており、自分が介護できなくなった場合にどうするか、施設入所も含めて将来に不安がある。</p>	
<p>仕事と介護の両立が難しく、在宅生活を続けるか施設入所にするか悩んでいるが、費用面で施設入所が困難であり、できれば在宅生活を続けたい。</p>	
<p>本人がサービス利用を望まなかったり、認知症等の影響で意思疎通が難しい場合があり、在宅生活を続けるうえでの課題となっている。</p>	
<p>家族の不在時や出張時など、一時的に見守りや支援が必要になる場面があり、安心して任せられる支援体制が求められる。</p>	
<p>できる限り自宅で生活を続けたいが、認知症の進行などにより将来的には施設入所も考えざるを得ない。</p>	
<p>支援があれば自宅でできることも多く、掃除や洗濯、料理など日常生活を支える多様なサービスを利用しながら暮らしたい。</p>	
<p>在宅での見守りや付き添いについて、短時間でも対応してもらえる支援や、長時間安心して任せられる在宅サービスの充実が必要。</p>	
④ 社会参加について	14 件
<p>バスの減便や本数の少なさ、運賃負担、タクシー代の高さなどにより、通院や買い物、活動への参加がしにくくなっている。</p>	

高齢になると外出の回数が減り、家にこもりがちになるため、気軽に出かけられる移動手段や休める場所が必要である。	
体操教室、講座、サークル、趣味活動など、近くで参加できる場があることが、外出のきっかけや生活の張り合いにつながっている。	
参加したい活動があっても平日中心で参加しにくい、近くにない、入りにくいなど、参加機会の持ちにくさがある。	
認知症カフェやつどいの場、カフェのように気軽に立ち寄れる場所があれば、人との関わりや外出の機会が広がる。	
仕事、シルバー人材センター、教室、サークル、食事会などに参加できていることが、健康の維持や日々の充実感につながっている。	
認知症の人や介護中の家族も、孤立せずに参加できる場や、安心して関われる地域の仕組みが求められている。	
⑤ 専門支援機関について	6件
高齢者生活支援センターには、認知症の初期段階から本人や介護者に寄り添って支えられる知識と対応力が求められる。	
介護施設や介護職員のケアの内容に不安を感じることがあり、介助の質の向上や職員教育が必要。	
介護に詳しい医師に、本人や介護者が相談できる体制がほしい。	
介護職やヘルパーの人材不足が大きく、処遇改善を進めて支える人を増やしてほしい。	
デイサービスやショートステイなどは、人手不足のため必要な時に使えないことがあり、家族介護を支えるためにも安定して利用できる体制が必要である。	
⑥ 地域づくりについて	13件
認知症になっても住み慣れた地域でつながりを持ちながら暮らし続けられるよう、地域全体の理解を深め、精神面・生活面の両方から支える地域づくりが必要。	
高齢者や認知症の人を狙った詐欺や勧誘、金銭・貴金属の搾取などから守るため、地域の見守りだけでは足りず、行政も含めた防犯の仕組みを強めてほしい。	
耳が聞こえにくい、近所づきあいが少ない、一人暮らしであるといった状況では、災害時や緊急時に地域の中で孤立しやすく、不安が大きい。	
芦屋市には支援やサービスが多くあっても、種類が多すぎて全体像がつかみにくく、地域の中で分かりやすく整理して伝えてほしい。	
火災時の不安や放送の聞こえにくさなど、防災面で高齢者に配慮した地域の備えが必要である。	
高齢者や介護者が必要な情報を早めに知り、地域の中で無理なく備えられるよう、分かりやすい周知や啓発が大切である。	
元気なうちから認知症や介護について学び、地域の中で支え合えるような土台をつくっていく必要がある。	
⑦ アンケートについて	5件
本人が答えられない状態では、設問に答えにくく、アンケートの趣旨がつかみにくい。	
高齢者にとっては設問内容が分かりにくく、回答そのものが大きな負担になっている。	
認知症カフェなど、アンケートの中で初めて知った支援もあり、情報提供の面では参考になる部分もある。	

⑧ 市への要望	3件
高齢者や介護者を大切にする市政へ転換し、高齢者比率の高いまちに見合った姿勢を示してほしい。	
オムツを含む排便・排尿に関する支援や手助けがあると助かる。	
⑨ 介護保険制度（保険料・サービス等）について	17件
老老介護の中で暮らしており、今後どこまで支え合って生活できるのか不安が大きく、必要な時に入りやすい施設や制度の充実が求められる。	
車椅子利用時の通院付き添いや、病院内での援助など、介護保険の中で使いやすい外出・通院支援がほしい。	
認知症対応型のデイサービスやショートステイが芦屋では少なく、状態に合ったサービスを選べるだけの受け皿が不足している。	
介護認定までに時間がかかり、その間に必要な支援が受けられないことや、介護者がいても利用に制限がかかることへの不満がある。	
ケアマネジャーが密接に対応してくれて助かっており、介護保険制度そのものはありがたいと感じているが、デイサービスやショートステイは人手不足や満員のため、必要な時に利用できないことがあり、不安や負担につながっている。	
年金で入れる施設が少なく、民間施設は高額で、特養等の施設によっては空き待ちが長いなど、施設利用のしにくさが大きな不安になっている。	
⑩ その他	20件
夫婦ともに要介護である、あるいは家族の介護と自分の生活が重なっており、日々の暮らしそのものが大変である。	
年金収入は変わらないのに医療費負担が増え、家計への影響が大きい。	
支援を受けて自宅で生活できていることや、周囲の手助け、高齢介護課の対応に感謝している。	
介護の量がこれ以上増えないでほしい、今の状態がこれ以上重くならないでほしい。	
認知症がなくても入れる安価な施設や、本人の年金で入れる施設があると助かる。	